

○「県政モニター制度」とは

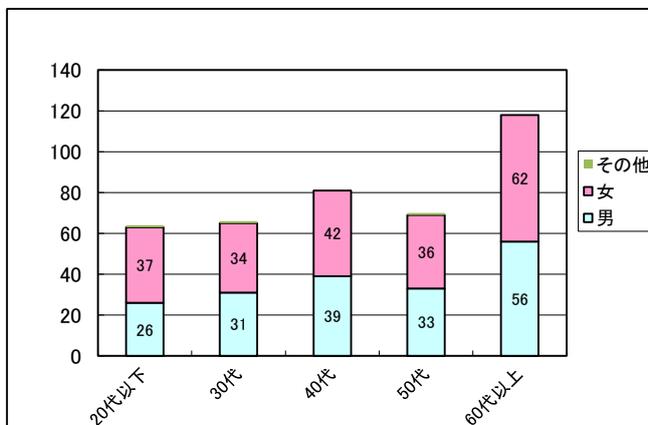
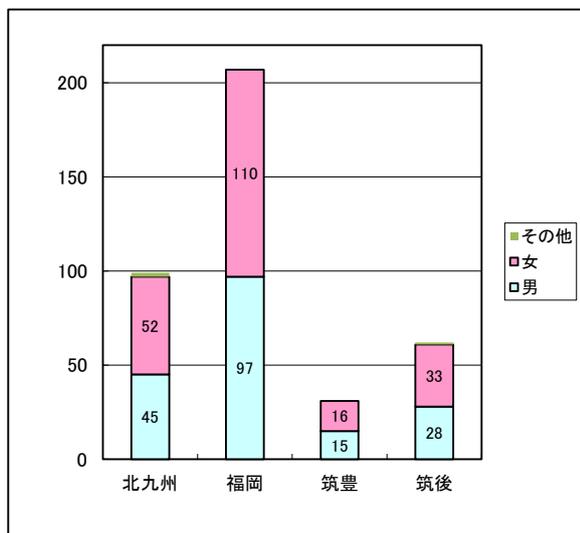
県政に対する県民の意見・要望等を組織的かつ継続的に把握し、県政に活かすことを目的として、県内にお住まいの18歳以上の方から、県政に関心をお持ちの方400名を公募により選定し、約1年間県政モニターとして活動していただくものです。

県政モニターとして選定された方には、年に数回実施される「モニターアンケート」への回答や、県の施策や事業に関して自由に意見等を提出する「モニター提案」を通じて、活動を行っていただきます。

【令和7年度県政モニターの内訳（第1～3回）】

県内各地区から幅広く御意見等をいただくため、国勢調査結果による県内の人口構成を基礎に、特定の性別、年代、地域に偏らないよう、モニターを選定しています。

地区	北九州				福岡				筑豊				筑後				合計				
	男性	女性	その他	計	男性	女性	その他	計	男性	女性	その他	計	男性	女性	その他	計	男性	女性	その他	計	
	45	52	2	99	97	110	0	207	15	16	0	31	28	33	1	62	185	211	3	399	
年代別	18～29歳	3	9	1	13	16	19	0	35	2	3	0	5	5	6	0	11	26	37	1	64
	30～39歳	9	8	0	17	16	18	0	34	2	3	0	5	4	5	1	10	31	34	1	66
	40～49歳	10	11	0	21	20	22	0	42	3	3	0	6	6	6	0	12	39	42	0	81
	50～59歳	8	9	1	18	17	19	0	36	3	2	0	5	5	6	0	11	33	36	1	70
	60歳～	15	15	0	30	28	32	0	60	5	5	0	10	8	10	0	18	56	62	0	118



○「県政モニター制度」とは

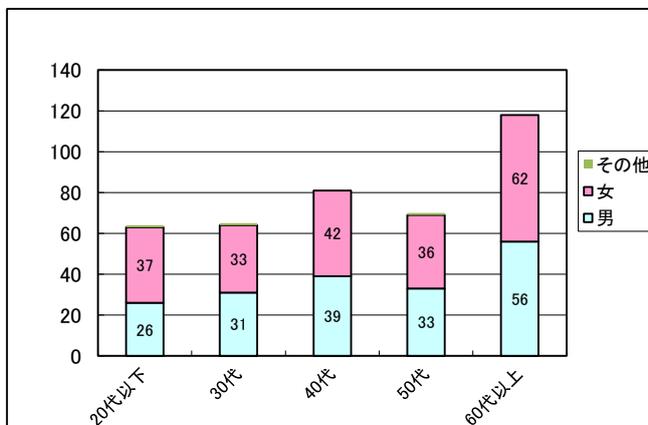
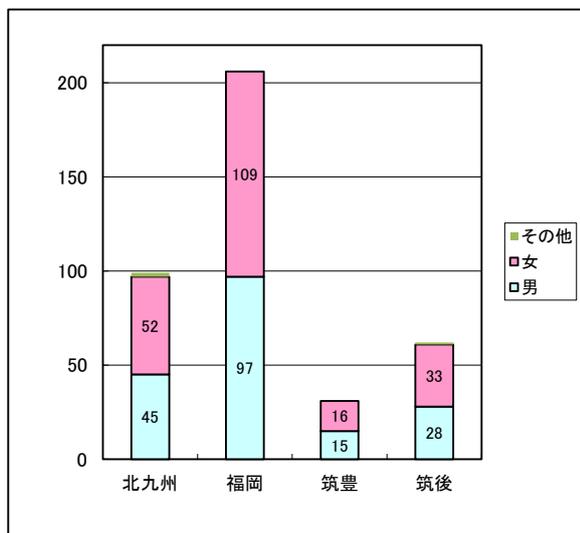
県政に対する県民の意見・要望等を組織的かつ継続的に把握し、県政に活かすことを目的として、県内にお住まいの18歳以上の方から、県政に関心をお持ちの方400名を公募により選定し、約1年間県政モニターとして活動していただくものです。

県政モニターとして選定された方には、年に数回実施される「モニターアンケート」への回答や、県の施策や事業に関して自由に意見等を提出する「モニター提案」を通じて、活動を行っていただきます。

【令和7年度県政モニターの内訳（第4～6回）】

県内各地区から幅広く御意見等をいただくため、国勢調査結果による県内の人口構成を基礎に、特定の性別、年代、地域に偏らないよう、モニターを選定しています。

地区	北九州				福岡				筑豊				筑後				合計				
	男性	女性	その他	計	男性	女性	その他	計	男性	女性	その他	計	男性	女性	その他	計	男性	女性	その他	計	
	45	52	2	99	97	109	0	206	15	16	0	31	28	33	1	62	185	210	3	398	
年代別	18～29歳	3	9	1	13	16	19	0	35	2	3	0	5	5	6	0	11	26	37	1	64
	30～39歳	9	8	0	17	16	17	0	33	2	3	0	5	4	5	1	10	31	33	1	65
	40～49歳	10	11	0	21	20	22	0	42	3	3	0	6	6	6	0	12	39	42	0	81
	50～59歳	8	9	1	18	17	19	0	36	3	2	0	5	5	6	0	11	33	36	1	70
	60歳～	15	15	0	30	28	32	0	60	5	5	0	10	8	10	0	18	56	62	0	118



令和7年度第1回県政モニターアンケート

(回答者構成)

項目		計		北九州	福岡	筑豊	筑後
		人数(人)	構成比				
総数	人数	372		91	193	30	58
	構成比		100.0%	24.5%	51.9%	8.1%	15.6%
性別	女性	197	53.0%	49	102	15	31
	男性	172	46.2%	40	91	15	26
	その他	3	0.8%	2	0	0	1
年代別	20代以下	58	15.6%	12	32	5	9
	30代	63	16.9%	17	31	5	10
	40代	76	20.4%	17	41	6	12
	50代	63	16.9%	17	32	4	10
	60代	74	19.9%	20	33	8	13
	70代以上	38	10.2%	8	24	2	4

モニター数 399人

回答数 372人

回収率 93.23%

実施期間 R7.7.11~R7.7.31

【回答結果の注意点】

- ・ 集計は小数点以下第2位を四捨五入しているため、回答比率の合計は、必ずしも100%にならない場合がある。
- ・ 2以上の回答（複数回答）を要する設問の場合、その回答比率の合計は、100%を超える場合がある。

令和7年度 県政モニターアンケート調査結果

テーマ：県の広報活動について

福岡県 総務部 県民情報広報課

1. 調査目的

県では、本県の魅力や県政に関する情報を分かりやすく県民の皆さまにお届けするために、さまざまな広報媒体を使って情報発信をしています。

本アンケートにおいて、県民の皆さまのニーズを把握し、今後の広報活動の参考にさせていただくため、県の広報の現状について調査を行いました。

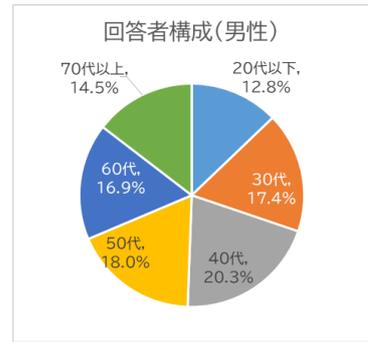
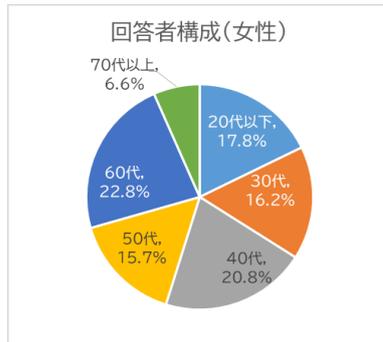
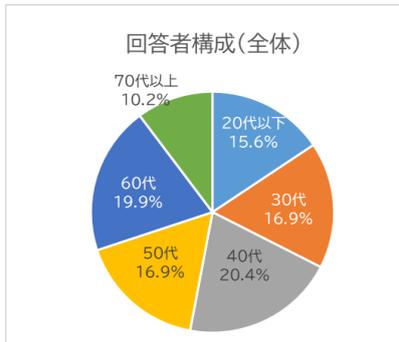
2. 活用状況

県民の皆さまのニーズを把握することにより、県の主要施策に係る広報について、より効果的なアプローチと内容の充実を図ることに活用します。

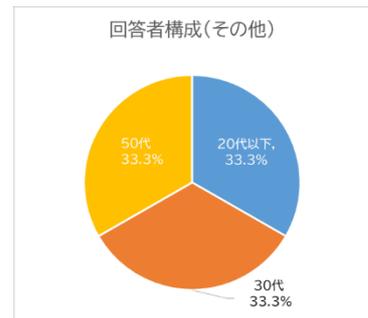
3. 調査時期

令和7年7月11日～7月31日(第1回)

4. 回答者の構成



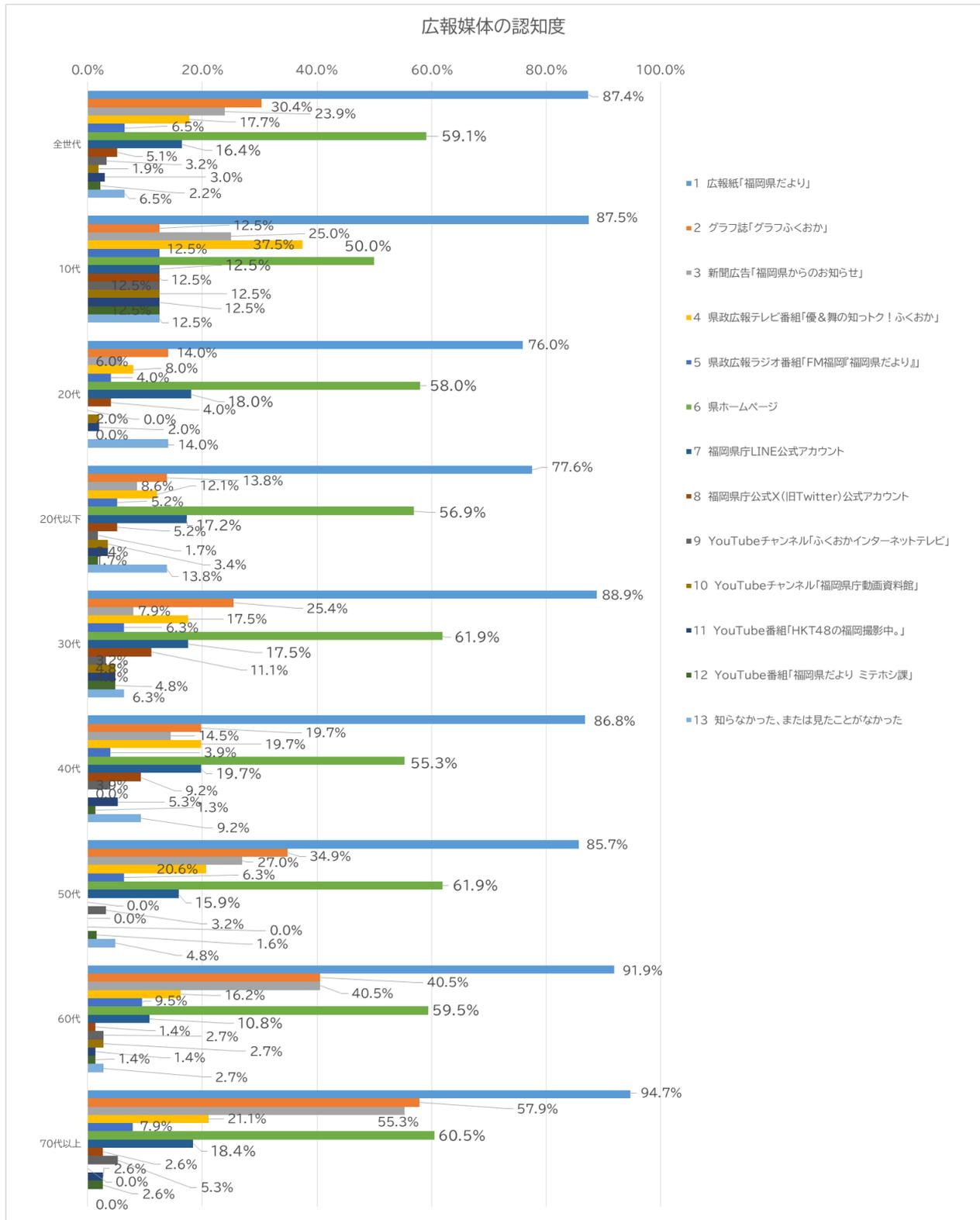
項目	計		北九州	福岡	筑後	筑豊	
	人数(人)	構成比					
総数	人数	372	91	193	58	30	
	構成比		24.5%	51.9%	15.6%	8.1%	
性別	女性	197	49	102	31	15	
	男性	172	40	91	26	15	
	その他	3	0.8%	2	0	1	0
年代別	20代以下	58	15.6%	12	32	9	5
	30代	63	16.9%	17	31	10	5
	40代	76	20.4%	17	41	12	6
	50代	63	16.9%	17	32	10	4
	60代	74	19.9%	20	33	13	8
	70代以上	38	10.2%	8	24	4	2



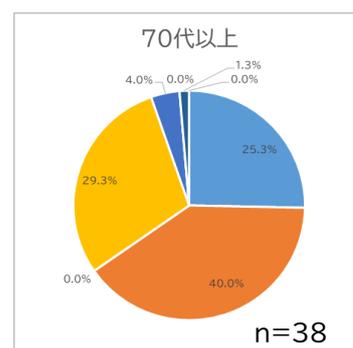
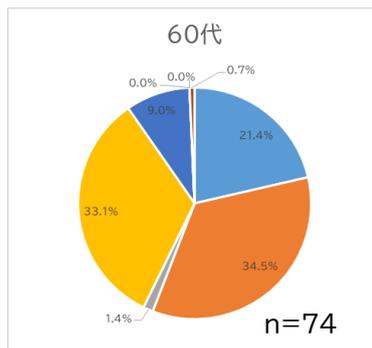
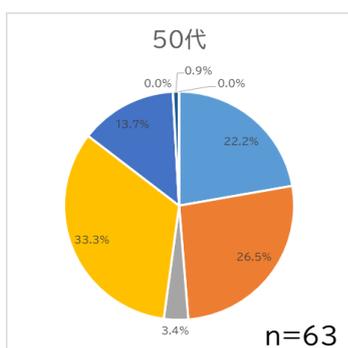
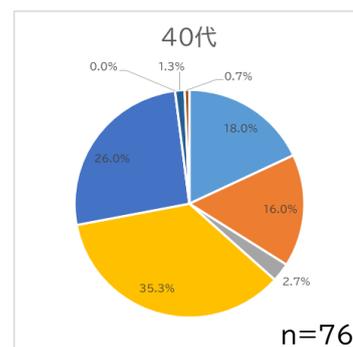
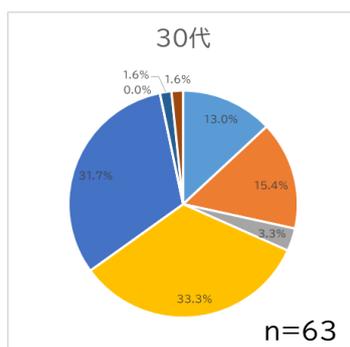
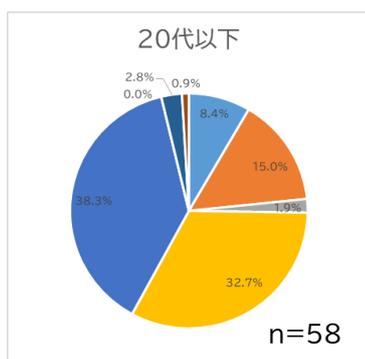
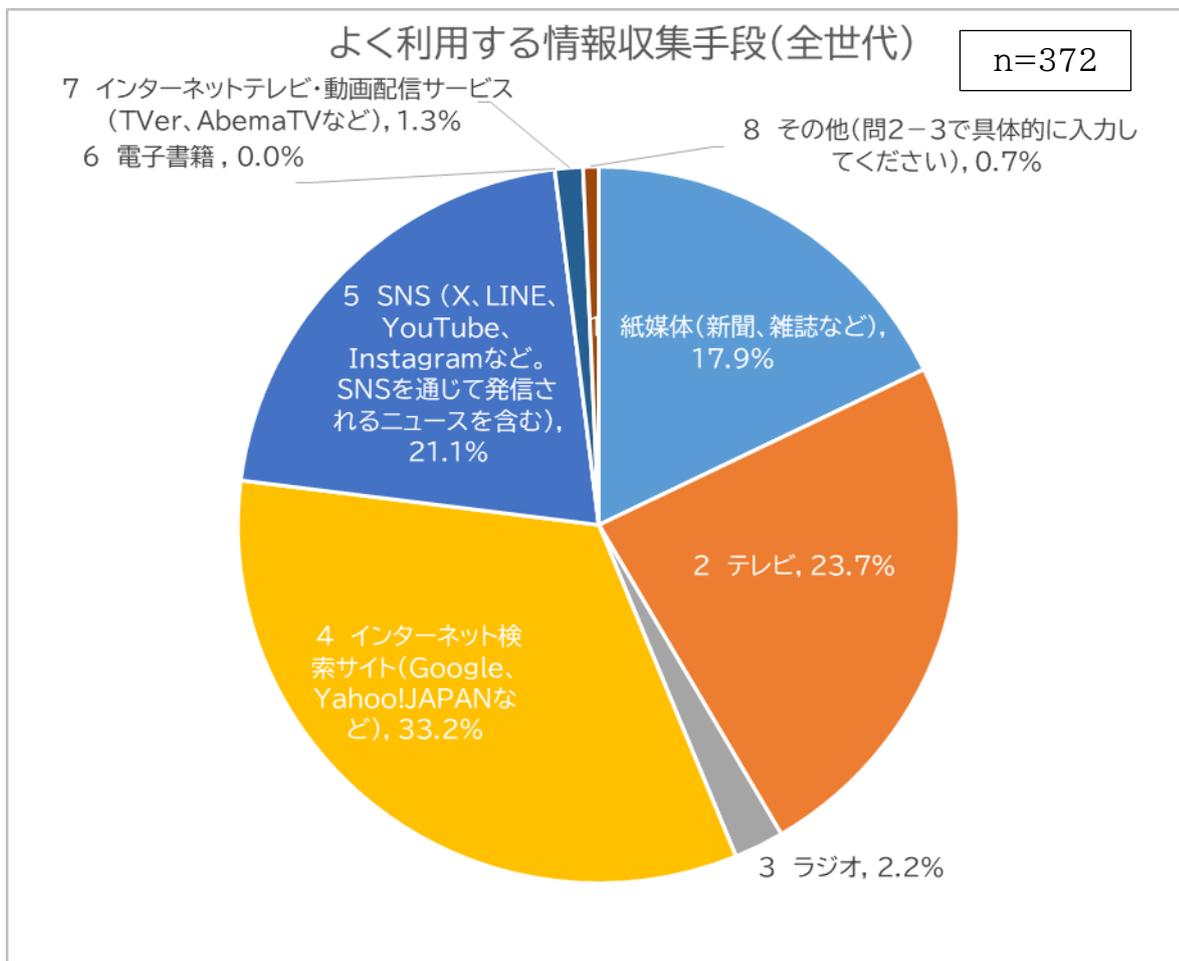
モニター数	399人
回答数	372人
回収率	93.2%

5. 回答結果

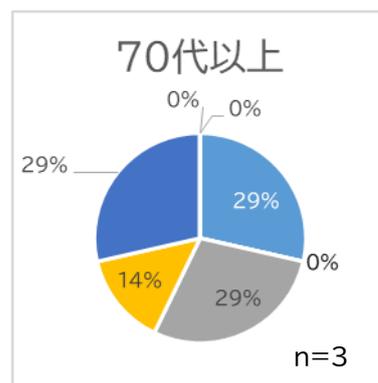
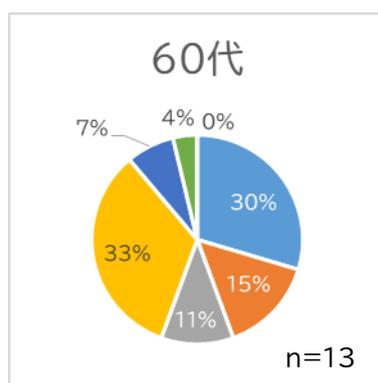
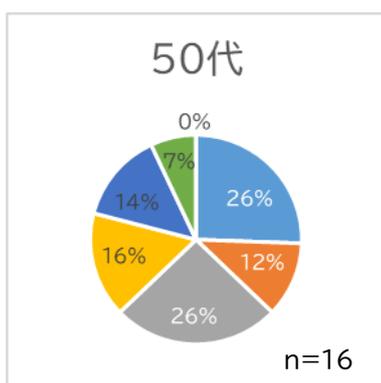
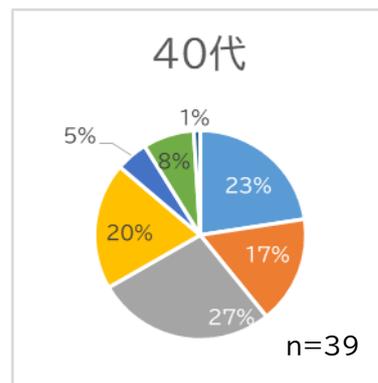
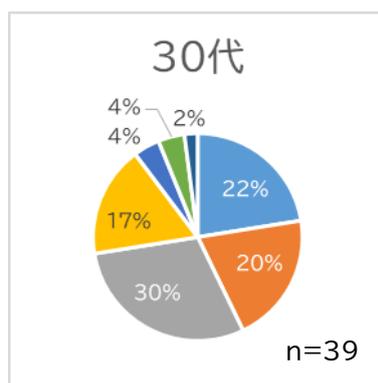
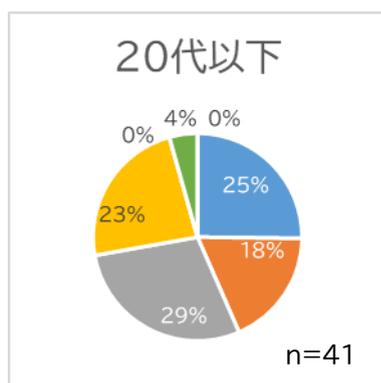
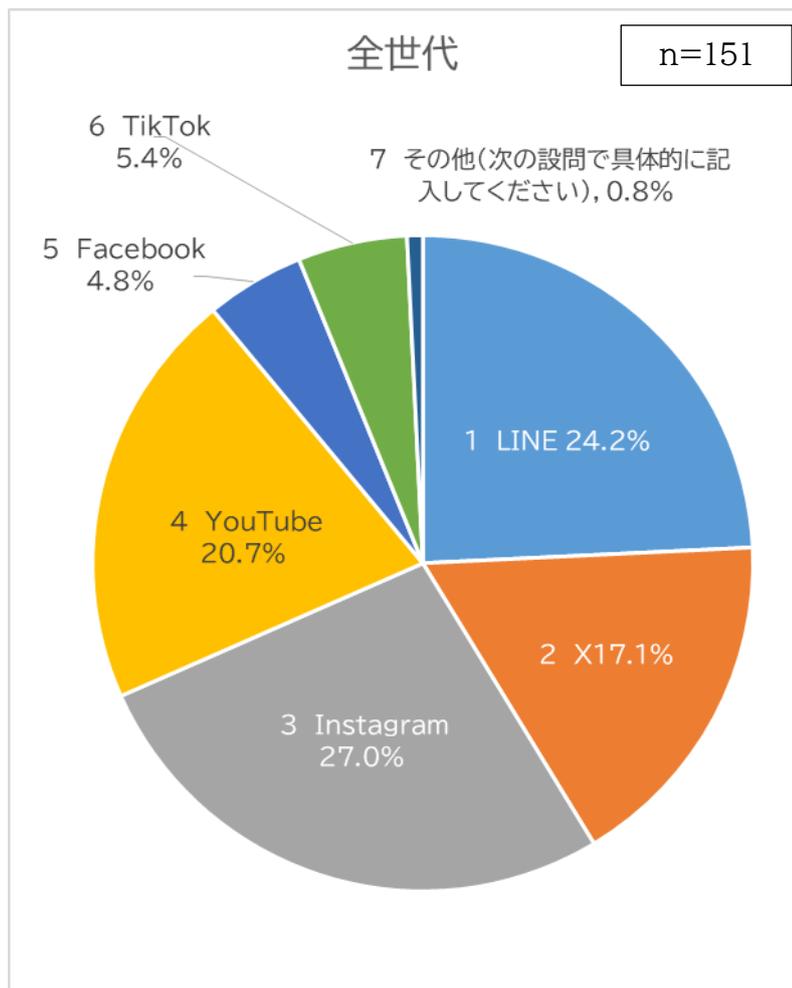
問1 県の広報媒体(※1～※12)について、あなたが、県政モニターに応募される以前から知っていた、または見たことがあるものについて、次の中から【全て】選んでください。



問2 あなたは、普段どのような手段で情報を入手していますか。県政に関する情報に限らず、一般的によく利用する情報収集手段についてご回答ください。
次の中から最も利用するものを【2つまで】選んでください。



問2-2 問2で「5」を選択された方にお尋ねします。
 あなたが、最も利用する SNS の種類を【3つまで】選んでください。



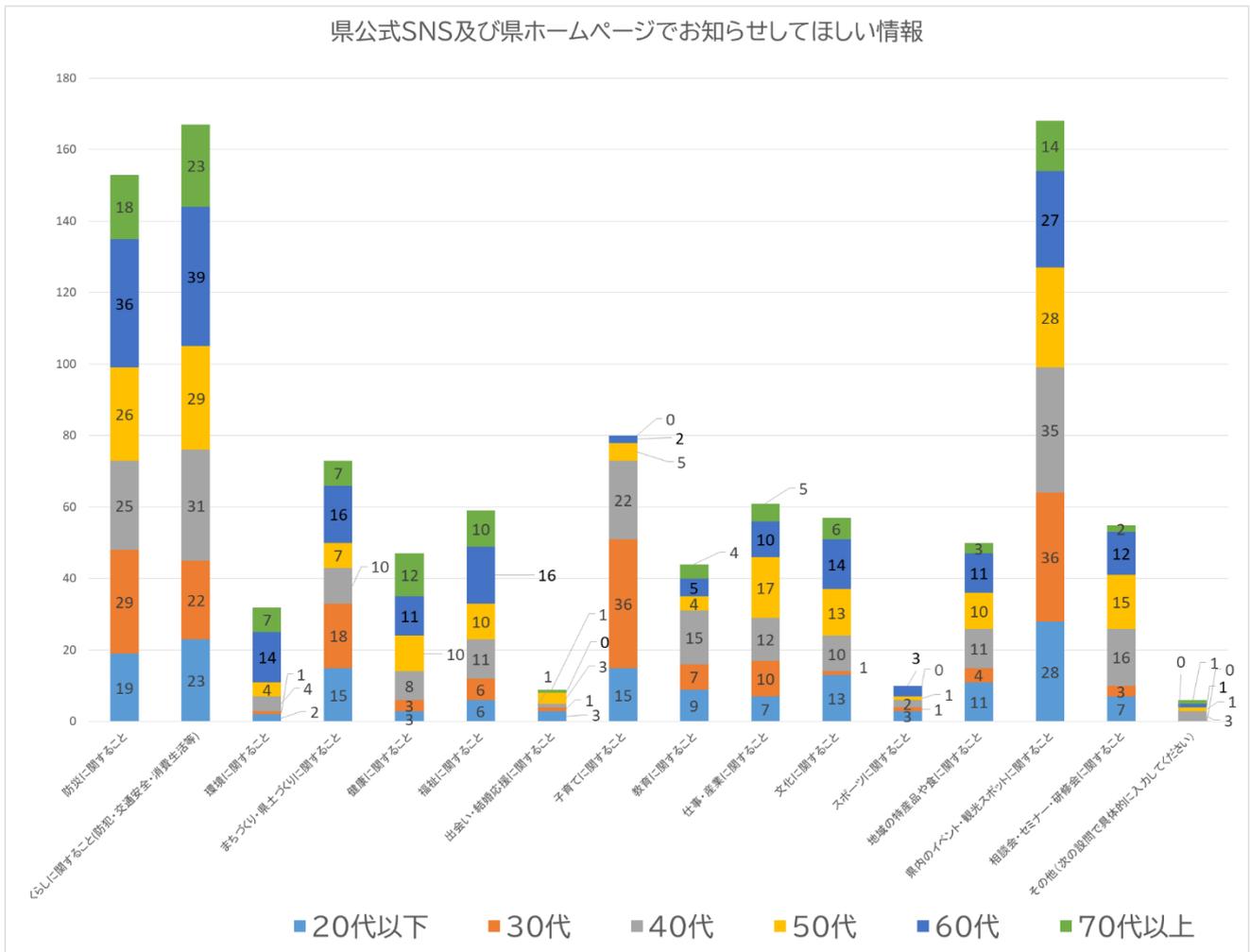
問2-2-2 問2-2で「7」を選んだ場合は、その内容を具体的に入力してください。

1	Threads
---	---------

問2-3 問2で「8」を選んだ場合は、その内容を具体的に入力してください。

1	普段の情報収集には、主に AI を活用しています。関心のあるテーマやニュースを AI に質問し、要点を短時間で把握するようにしています。新聞やテレビ、SNS も補助的に利用しますが、信頼性や最新性を重視して AI を活用することが多いです。
2	対話型生成 AI を活用しています。
3	所属しているコミュニティで話しています。
4	仕事の取引先や、同じ業界の仕事をしている人から聞いたりもしています。
5	AI で問い合わせをする(Gemini)を活用しています。調べるべきサイトなども AI に問い合わせます。

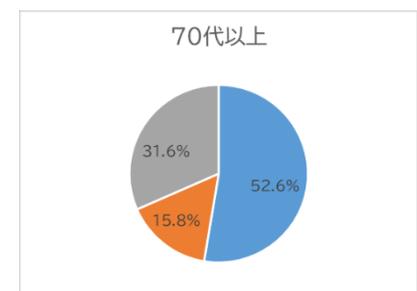
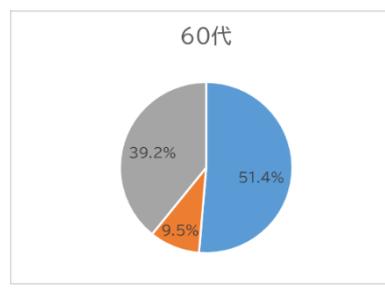
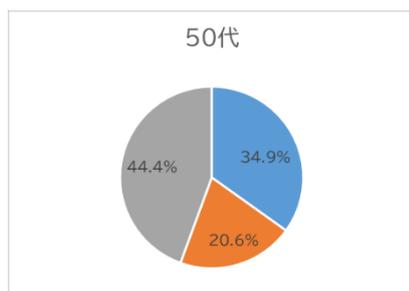
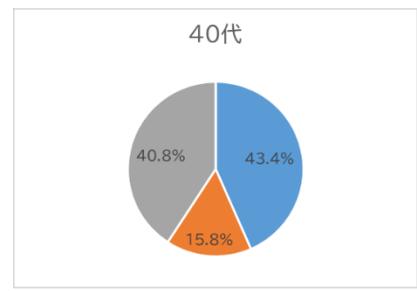
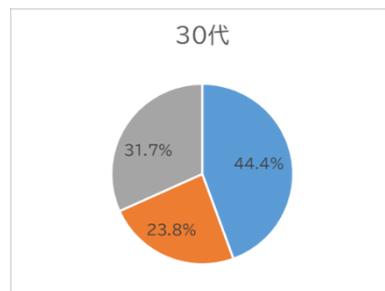
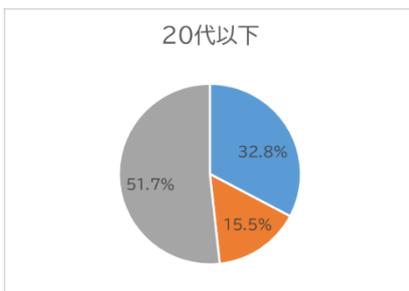
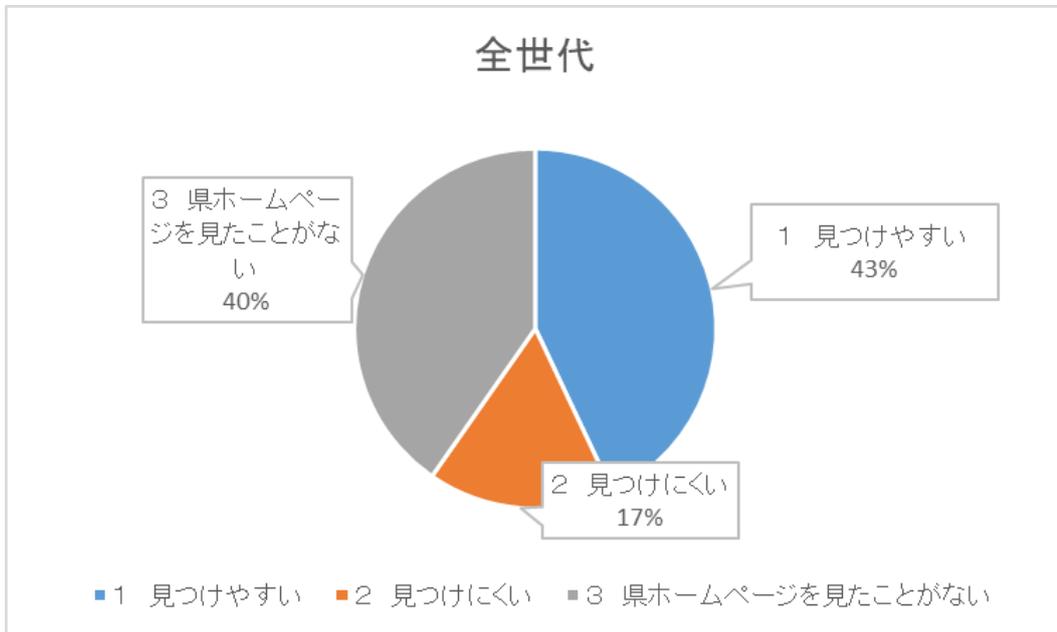
問3 県公式 SNS 及び県ホームページでどのような情報をお知らせしてほしいと思いますか。次の中から【3つまで】選んでください。



問3-2 問3で「16」を選択された方は、具体的に入力してください。

1	渇水の際は、ダム貯水率を毎日発表するが、そうでない時でもいつでも貯水率が分かるように発表してほしいです。
2	フリーマーケット情報を掲載してほしいです。
3	県民一人ひとりに関心や必要な情報が異なるため、SNS やホームページ上でも個人の関心に合わせて情報を受け取れる仕組み(選択式通知や AIレコメンド機能など)があるとより便利だと思います。
4	高齢者の生活維持、年金、助成、各種税金に関する情報を掲載してほしいです。
5	投資教育を掲載してほしいです。
6	給付等の公的制度を掲載してほしいです。たくさんあるので、チャートや表になっていた方が年齢問わずに分かりやすいと思います。

問4 県ホームページで、あなたが知りたい情報は見つけやすいですか。
次の中から【1つだけ】選んでください。



問4-2 問4で「1」又は「2」を選んだ場合は、その理由を具体的に入力してください。

番号	「1」を選んだ方の回答
1	カテゴリー別に情報が整理されていると思うから。
2	ガス補助について分からなかった際に、HP 確認すると政策が載っていたから。
3	検索機能がついているから。
4	レイアウトが非常に見やすい
5	検索機能があるため、カテゴリー別で見つけにくくても検索すれば見つけることができるから。
6	SNS を見て、気になる情報には直接リンクで閲覧するため、見たいページにとぶ。なので、見つけやすい。
7	カテゴリーごとに分かれていて検索しやすい。
8	熱中症対策や交通安全運動など、工作上必要不可欠な情報もあるため、社内共有また家族との共有にも役立てられている。
9	ページを開くとすぐに感染症が目につくので、感染症を知りたいときはわかりやすい。
10	右上の三本線のメニューからテーマや目的ごとに探したり、キーワード検索ができたりするので、知りたい情報が必ず見つかるかは別として、検索はしやすいと思います。
11	特に不満はありません。情報量がやや多すぎるのかも???
12	わかりやすい文章で綺麗な写真等子どもでも、読みやすく工夫がしてあるから。
13	誰が見ても理解しやすくまた誘導されるので。
14	パスポートの更新方法を検索した際にすぐに見つかり、問題なく更新できました。また、PC 用とスマホ用に分けられて作られているので見やすかったです。
15	シンプルで見やすいです！
16	色使いや項目わけがしっかりされていて見やすいと思いました。 LINE や X のバナーはもっと大きいほうがわかりやすいかな、と思います。
17	例えば、Google 検索などで、「福岡県 出産手当」と検索した際に、該当ページが出てくるのは良い。 福岡県 HP から同ページにたどりつくまでも、福岡県 HP に検索欄があるので、そこに入力してから探せるのも良い。
18	知りたい情報がテーマ別等で整理されているので見つけやすい。 PC 版とスマートフォン版共にテキストや WEB デザインが見やすいので良いと思う。 よくあるワード等が表示されている為、HOT な情報が知りやすい。
19	トップページに関しては比較的色彩豊かで言語も砕けた雰囲気があり、また検索やテーマ別のページなどもありみやすく感じました。
20	いつもトップページの検索使っています。
21	文字も見やすいので目的のものを探しやすい。
22	カテゴリー別の検索項目があり、またチャットでやり取りできるシステムも導入されているためスマートフォンやパソコン操作が可能な人であれば便利で見つけやすいと感じる。
23	各種情報や組織等見易くまた分かり易い内容になっており知りたいことがすぐに調べられて便利です。
24	文字が大きくカラフルで見やすい。
25	検索して調べやすい。
26	イベントについて調べようとした際、上部の「目的から探す」項目から進んだので、すぐに見つかった。
27	以前は調べたいことがあっても、どこが担当なのか、バナーも探しにくかったが、最近はチャットボットに質問を入力することで情報にたどりやすくなったから。 ただチャットボットの活用がなければ、わかりにくい。 HP トップに赤く防災ホームページが目立って良い。
28	とても見つけやすい。内容が準備、系統だって整理されているので便利です。

29	グローバルメニューでカテゴリごとに分けてありますし、検索もあるので。
30	最初の画面にテーマ、目的、組織、特集からというようにわかりやすく分けられているし、字も大きいので高齢者の方でも使いやすいホームページになっていると思います。
31	これまで、探していたページにアクセスできているから。
32	調べたいことが、分類されてるので、そこから入るとすぐに見つけることができる。
33	おすすめ記事は最初に掲載してありますし、画像も大きく分かりやすいです。
34	新型コロナウイルスに関する情報:感染者数など知りたい情報が見つけやすかった。 県立高校入試に関する情報:過去問や入試選抜方法、高校別の志望倍率など知りたい情報が見つけやすかった。
35	知りたいことがテーマや目的や組織などから探せるので、便利だと思う。
36	調べやすく、シンプルで良かったです。
37	キーワードに沿っていくと、知りたい情報にたどり着くから。
38	文字が大きくてカラフルで見やすいです。 目的別にページが分かれていますし探しやすいです。
39	「見つけにくくはない」という、消極的な理由での「見つけやすい」です。
40	絵や写真付きで簡潔にまとめられており、見やすいと思う。行政のホームページを見慣れている人であれば、どの年齢層の方でも分かりやすい仕様になっていると思う。多言語機能も上部に表記されているため、外国人にも分かりやすく良いと思う。
41	本の目次のように検索し易い。
42	検索したいワードを入力すれば知りたい情報に辿り着ける為。
43	一番気になる防災関係、医療関係情報がすぐに検索可能なところ。 よくあるワードが良い役割を果たしている。 新着情報がタイムリーに掲載されているところ。
44	検索しやすいと思います。
45	まず担当部局を探すから、情報に行き着く。
46	詳細に記載されている。
47	知りたい情報があったときに県のホームページを検索することがないのであまり確かなことは言えませんが、知りたい情報は検索すればすぐ出てくるので1を回答しました。 例えば、「福岡県 高校入試」と検索するとすぐ入試の情報のページがヒットします。
48	情報がよく整理されている。
49	調べたいことへのアプローチ方法が色々あり、探しやすい検索しやすかった。また私が調べたかったことが「よくあるワード」にあり、検索がとてもスムーズにできたので良かった。
50	欲しい情報にたどり着けている。
51	良く整理されており、目的の情報を探し出すツールとして重宝しています。
52	検索があるから調べやすい。
53	検索後ページにたどり着き、必要な情報他参考になるものも知れるから。
54	トップページに検索機能があるため。またよくあるワードも記載されているため見つけやすい。
55	検索エンジンがあるので検索しやすい。
56	トップページでカテゴリ分けされているので。
57	特に困ったことはないから。
58	検索エンジン、チャットボットがある。
59	内臓疾患による赤十字マークが欲しいと思った時に、県ホームページを開きました。持参すべき物や交付場所等、流れがわかりました。
60	気になる事を検索機能で絞って調べられる。開いたページでリンクを使ってさらにいろいろ知ることができる。見やすいレイアウトだと思う。
61	上の方に検索する場所があったり、よくあるワードがあるから
62	分類(カテゴリー分け)が分かりやすい。トピックスもタイムリーで良い。

63	HP のトップページのカテゴリ「テーマ・目的・組織」から知りたい情報へたどり着くまでが容易であること。
64	初めのページに検索があるので使いやすいです
65	ホームページ内でもテーマ・目的別に情報を探しやすい、情報の階層化がわかりやすくなされている印象でした。ウェブ検索でも県ホームページの情報に行きつきやすく感じています。
66	内容が分かりやすく表現されています。
67	項目が大きく表示され、カラーでわかりやすく、ありがたいです。
68	テーマ、目的、組織などサイトマップが分かり易く整理されている。
69	テーマや目的別に検索できるだけでなく、フリーワードでも入力できるところがいいと思います。
70	たまにしか検索しないし、担当課が分かっている情報を検索しているから。
71	よくあるワードであったり、カテゴリがされているので、見たいページにたどり着くことができるから。
72	検索の仕方が、テーマ別、目的別などに分けられており、検索もしやすいと思います。また、最近の情報によりよくあるワードという項目からの検索もしやすいなど感じました。文字のサイズ変更や音声読み上げ機能もあり、障がいのある方や高齢の方のための配慮もしっかりとしてあります。文字だけではなく、写真やイラストがたくさん使われていてパッと見て分かりやすいし明るい印象を受けました。
73	偶に見るだけには不便は感じません。
74	検索サイトで「福岡県」と「調べたいこと」を含めるとだいたい目的の案件を見つけられるから。
75	トップページでテーマから、目的から、組織から、特集からと探しやすい振り分けられていて、さらにそこから細かく進んでいくことができ望む情報にたどり着きやすいと思います。
76	右上のアイコンを開いたらテーマから探すことができるから。
77	検索機能があるので、見つける事ができる。文字が多いので、イラストなどでわかりやすい提示ができると親しみやすくなると思う。
78	テーマ、目的ごとにカテゴリ化されているため探しやすい。
79	トップページから知りたい情報を探しやすい。 色合いを変えてもらえると、より探しやすいと感じる。
80	探すテーマが3つあり、様々な角度やキーワードから探せるようになっているから。
81	引越、妊娠出産、子育て関連で利用したが特に問題なくほしい情報を得ることができた。
82	文体も大きめで見やすい。アクセスしやすい。見たいものがすぐ探せる。
83	Google 等の検索結果から最初に飛んできたページに探している内容が書いてある事が多いので、ホームページ内を行き来する事はあまりありません。
84	健康や福祉に関する検索をしたときにすぐに目的のものを探せた。
85	興味ある事だけではなく、先ず HP 全体をチェックし、更に興味を持つ事案を更に読み取ります。
86	シンプルで分かりやすいと思います。 探せる項目がトップにあるのも使いやすいです。
87	テーマや目的に合わせた検索が可能なので見つけやすいと感じました。
88	県のホームページから直接検索したわけではなく、検索事項を入力した際に最適なページが直ぐ見つかった為。 確か、コロナ流行の最初の頃に福岡県のホームページで確認したい事項が直ぐ確認出来た記憶がありましたので大変助かりました。
89	防災をトップにして、相談窓口から入りやすい設定になっているのが入りやすい！
90	カテゴリー分けて検索出来るのと、必要な情報は新着にて告知されているから。

91	項目が細かく分かれているので、探しているページに行きやすい。
92	比較的目的のものは見つけやすいのだが、目的外のものもついでに見ようとした時、私 の場合は新着情報一覧を新しい順に見るケースが多い。その際、日付とタイトルが羅列さ される形式になっているが、ここをカテゴリー毎に見つけやすくすると尚良いと思う。例え ば、カテゴリー毎に色分けとか。
93	項目も大きく、初見でも見やすいから。
94	インターネットで検索した内容のページがヒットするので見つけやすいと感じる。
95	特にない。
96	サイト内は見やすく整理されており、ただテキスト量が多くスマホだとスクロール量が多く なります。ただ観光情報など目的がはっきりしていれば探しやすいです。
97	項目ごとに色分けされていたり、見出しがわかりやすい。
98	ページ内でキーワード検索や、チャットで調べやすい。
99	検索欄やよくあるワードがページのトップにあるため、知りたい情報をすぐに検索しやす い。
100	ジャンルがはっきりしているため。
101	情報をまとめて検索しやすい配置になっている。
102	福岡の事を検索した時災害の事など、検索欄の1番上に出てきますので見つけやすいで す。
103	一回の検索では情報に到達できないこともあるが、ほとんどのケースでは、一回の検索 で到達可能であるから。
104	以前地域振興券を検索したらすぐに探せた。
105	目標をもって検索する場合に限らず、すぐに目にすることができます。
106	以前、ダムの貯水量が気になって見てみたが、すぐに検索できて、過去の年度のデータと ともに見ることができた。
107	レイアウトと配色が良い。
108	ページ内がシンプルで見やすく、知りたい情報がすぐに出てくるから
109	検索サイトでヒットするため。
110	情報が探しやすい整理されています。 検索もしやすかったと思います。
111	テーマが細かく分類化されていて探しやすい。
112	福岡県のホームページで関心がある内容を検索したので、検索しやすかった。
113	記事検索しやすいですし文字が大きくて見やすいです。
114	県ホームページを開くと「検索」する場所がすぐ見えるので、ここで探せば良いのだと分 かりやすい。
115	見やすいデザインで内容も豊富です。 カラーが使われて色も鮮やかで目に馴染みます。
116	探しやすい目次がある。検索できるし知らなかったら見てみようと思う大きな見出しもホ ーム画面にある。
117	検索すれば出てくるから。
118	あまり県のHPを利用することは少ないが、不便を感じたことはない。
119	バナーが大きく表示されている。検索したらある程度見つかる。
120	トップページに「くらし・環境」「健康・福祉」「子育て・教育」「しごと・産業」など、利用者の 目的に応じたカテゴリ分けがされており、自分に関係する情報をすぐに選択できます。
121	求める情報に辿りつきやすいと思います。
122	分野別のページがあり、また検索バーから検索もできるから。
123	項目ごとに別れており探しやすいから。
124	県のホームページには、検索欄があり、見たいところを調べればすぐ情報が出てくるか ら。
125	カテゴリー別、新着別に分かれている点などわかりやすい。

126	広報誌などや、県の施設に情報の冊子などが置いてあり、そこからしることができる。
127	何度か見た事がある程度ですが特段、そういうふうに思った事がない。 大抵、思った所に思ったものがあると感じた。
128	知りたい情報は検索機能を使って調べるため、あまり苦勞をしない。また、知りたい情報は LINE など発信されることが多いので、わざわざホームページを閲覧することがないから。
129	シンプルなデザインで検索しやすい。
130	調べたい事柄について、組織からやサイト内検索で誘導してくれるので。
131	特に見つけにくいとは思わない。
132	項目がわかりやすく分類されており、特に必要な情報が目につくようになっているため。
133	トップに知りたい情報が集約されていて見つけやすいです。
134	県ホームページを開く場合、知りたい内容を検索サイトで調べてから開くため、該当ページをすぐに見つけることができるので。 ホームページから一つずつ開いて該当ページを開いたことはない。
135	「見つけやすい」としたが、どこの自治体も似通った HP だという印象です。HP を開いてすぐ「知事室へ」のバナーがございますが、HP を見にいっちゃった県民の方々は、おそらくあまり関心がないかと思われます。
136	「福岡県だより」を読むと掲載されている。
137	知りたい内容の検索ワードを入力すると、だいたい知りたい内容の情報がでてくるから。
138	知りたい項目が探しやすく整理されていると感じた。
139	検索ができるので探したいものがすぐ見つかる。
140	どこを見たらほしい情報にたどり着けるか、視覚的にわかりやすい。
141	ほしい情報がいつでも入手できる。24 時間検索できる。キーワードで探せる。
142	カテゴリや目的ごとに分類されている点や、検索されているワードなどもでてくるため。
143	検索すればヒットする。
144	見やすい。
145	必要な情報が無駄なく掲載されており、検索もしやすいです。
146	興味深い記事は、載っているので探しやすい。
147	項目ごとにわかれているので、検索しやすい
148	トップページに「くらし・教育」「健康・福祉」「産業・しごと」「県政情報」など、利用者目線のカテゴリで整理されており、自分が探したい情報にすぐにアクセスできるため。 また、スマホ画面でも、メニューや検索窓が固定されているため、情報検索がしやすい。
149	目的、テーマ等順にクリックすれば、たどり着くのが良い。
150	いつも新しい情報がわかりやすく入手できる。

番号	「2」を選んだ方の回答
1	文字が多くてわかりづらい。
2	知りたい情報について管理している部局が複雑に分かれている。
3	私は高校大学県庁から奨学金を借りました。大学高校は奈良だったので就職先を決める頃にもっと良い情報が県庁から得られたら良かったと後悔しています。福岡県民の為に職場の活躍を提示すれば将来も明るいと思います。
4	知りたい情報がどこにあるのかわかりにくい。
5	1 文字量が多く硬い。インクルーシブな設計のため、わかりやすい言葉遣いや図解の導入が必要。2 表ページが特に読みづらく、文字のジャンプ率や色使いや構成の再考が必要。3 検索結果がわかりづらく、クリック先の内容が想像できない。4 情報が PDF でしか提供されないものは高齢者など多くの人の障壁になる。5 情報階層が複雑で、どこを押すと目的の情報に辿り着くのか不明。6 全体的に文字の大きさや、間隔など UX 改善が必須。

6	項目の意味するところが広すぎて自分の知りたい情報が果たして「今進んでいるところで正しいのか」把握しにくい。
7	自分が調べたいワードが何処に該当しているのか、わからない為、Yahoo で直接【福岡ワード】で直接リンクに飛べるようにいつも検索しています。
8	テーマや目的ごとに情報を探しやすい構成で、カテゴリーの分類も分かりやすく整理されていると感じました。 ただし、掲載されている情報量がやや多く、目的の内容にたどり着くまでに少し時間がかかる印象です。 また、UI がやや分かりにくく、特にスマートフォンで閲覧した際に画面が少しごちゃついて見える点が気になりました。
9	なかなかその探したいところに行き着かない
10	・求めるページまで検索でいくのでアクセスは気にならない。 ・不要な情報が多い(一覧名簿や各自治体ごとになど) 仕方ないと思うので改善は求めません。
11	イベントの名前が変わっていた時に検索しにくかった。
12	探している情報が複雑なため。
13	県のホームページ見ても分からないので、代表電話へ担当課へ繋いでほしいと依頼しても、電話受付者が理解しておらず適当に電話をまわす。たとえ担当課へ繋がったとしても担当者不在ですで終わろうとするか、うちの課でないと言って他の課へ電話をまわす。
14	項目がトップページ(開いてすぐ)にないので、目的のページまでどうやって到達したらいいのか考えてしまうからです。
15	言葉だけなので、絵などがあるとイメージが湧く。
16	情報量が少ない。 期待したようにアプリが動かない。
17	なかなか知りたい情報にたどり着けないから。
18	補助金について調べた時になかなか行き当たらず、困ったことがありました。
19	検索エンジンでヒットしにくいため。
20	お知らせ情報の掲載が順次アップされているものの、情報量が多いため関心ある情報の有無が確認しづらい。
21	項目の名前だけみて内容がわかりにくい。
22	知りたい情報がどこにあるのかわかりにくい。たとえば、新着情報をカテゴリー別にするといいと思う。例として、[子育て]7月31日から〇〇が始まります。など。
23	直感的な操作性が悪いように感じる。特に「福岡県からのお知らせ」の部分。個々の項目が彩りは良いが、探しにくい。
24	トップページのハンバーガーメニューのことを知らない方の救済処置として、ちゃんと読めば検索の案内があり、テーマ等から知りたい情報にアクセスが可能。 だが、ネットの検索に慣れていない方、高齢者は面くらうかも。 上記の方向けの県庁案内のサイトページもあれば、ネットへの抵抗も緩和でき、円滑に情報収集可能となると同時に、ネットで情報収集の手引き書になれば、情弱を避けられるかも。
25	なんかごちゃごちゃしている感じがします。
26	分野が細かく設定されているから、知りたい情報に行き着くまでに、時間がかかる。
27	福岡県よりも、福岡市がよく出てくる。また、サイトの作りが複雑で、見たいものにすぐ行けない。EC サイトのように、人間の直感や行動原理に基づいたサイト製作が必要。
28	その情報にたどり着くまでが簡単ではない。 入力内容がちょっとでも違えばやり直しが多いような気がします。
29	情報が多いのはありがたいが、細分化されすぎて、知りたい内容によっては情報に辿り着くまでに HP 内迷子になることがある。

30	HPを開いたときに、自分の見たいカテゴリーの表記が無かったような気がするので、カテゴリー(キーワード)がいくつか分かりやすく表記されていると検索しやすいのかな?と思いました。
31	それぞれのテーマについてHPのどこから入れば良いのかわかり易くない。
32	ホームページ上の文章の言葉が難しく、リンクが見つげにくいと感じます。
33	広報誌しか知らないから
34	県知事選前にワンヘルスの定義を知りたくホームページを見たが、人獣共通感染症の防止をなぜワンヘルスなどと呼ぶのかわからなかった。今もよくわからない。
35	情報が多く、並列的に並べられているため。
36	似通った項目が多くあるから
37	トップページの広告類が多すぎてまるで、企業の宣伝のようです。新着情報の場所も、画像に挟まれて見逃しそうになります。もっと簡略化してほしい。
38	部署等で細かく分かれており、必要な情報までたどりつくことができない、諦めてしまう。
39	分類カテゴリーがわからず先に進めなかった経験がある。
40	最初の大項目が大き過ぎて、最初にどこを選択して良いのか分からないことがあるからです。
41	情報が多すぎるから。
42	自分が探している情報をどのようで見ればすぐ出てくるかわかりにくい。
43	トップページに、市町村にて行われるイベントなどを掲載してほしい。KBCふるさとWishのような地元の魅力発信に対してもバナーがあってもよいのではないかな。
44	レイアウトをもう少しわかりやすく、見やすくしてほしい。
45	福岡県のホームページは時々拝見します。トップページから自分のみたい情報への移動が難しい気がします。もっとダイナミックでわかりやすいページにしていただけるとありがたいです。
46	探したい情報のページまで、なかなかたどり着けない。
47	検索しても欲しい情報へたどり着けない。
48	検索するところのプルダウンに出てくるカテゴリーの種類が少なく、ざっくりした言葉を検索欄に入ると膨大な結果が出て来てしまい、探すのに時間がかかる。
49	担当の課が何を担当しているかわからないので必要な情報にたどり着くまでに時間がかかってしまう。
50	ホームページ上部の検索boxでキーワード検索をかけたら結果が多過ぎたので、その中から自分が知りたい情報を絞り込むのが大変だと感じたから。
51	どこから入っていけばいいかわからない時がある。
52	普段あまり見ないので 見つけにくいから見ないのかなと感じた。
53	キーワード検索などが不可な場合がある。また、こちらで認識している内容と、県行政が表現している言葉に差異があることもある。
54	祭りでの出店の際の保健所関係の内容を調べる際に、調べにくかった。
55	県ホームページは手続き等を確認するために訪れますが、イベント等の情報をあまり期待していない気がします。
56	ホーム画面はカラフルで楽しそうではありますが、少し色が多く、ユニバーサルカラーになっているか心配です。
57	人口調査のデータを探す機会があったが、紙資料をPDF化したものにしか辿り付かなかった。 該当ページまでスクロールをたびたび繰り返す必要があり、面倒だった。
58	お知らせや新着情報などのカテゴリがあるのはいいと思うが、それぞれのカテゴリの中に県からの政治的な情報発信のみ(県の会議内容等)と実際に県民が応募できたり、参加できるイベントの案内(助成金の受付終了やイベントリリース)など色々混ざってて見にくかった。 お知らせと新着情報とどちらを見ればいいのか分からなかった。

59	分かりにくい表現でも検索できるようにしてはどうでしょうか。聞き手の意思を推察するAIのように。
60	一つの画面にいろんな情報が多すぎると思います。

問5 その他、県ホームページで不便に感じることや改善してほしいことがあれば具体的に入力してください。

番号	内容
1	目的のページにたどり着くまでに時間がかかる。
2	県に限らず市区町村すべてに当てはまることであるが、発信が一般の SNS ツールより遅い。
3	私は以前福岡に戻り県庁を訪れ、県庁の良さや郷土土産の展示を味わいました。ホームページにも分かりやすく提示をお願いします。
4	私は北九州市在住なので、県 HP で情報収集しても「政令市は除く」となっていることがよくあるので、結局どこの情報をみたらいいの?となることがあります。それぞれのリンクを貼ってくださっているのですが必要な情報にアクセスはできますが…。そのため県 HP より市 HP の方が閲覧機会が多いです。
5	情報の系統がもっと分かりやすく探せるように、項目を具体的に示してほしい。
6	北九州市から、なかなか千代までいけないのが、残念である。
7	今のところ不便に感じたことはありません。
8	不便とまではいかないかもしれませんが、県ホームページトップに戻れない箇所があります。再度、検索をかけたとき、ホームトップに戻れるようになるといいと思います。具体的に気が付いたところでは、オープンデータの箇所から県ホームページに戻れませんでした。
9	政治に対する色々と騒がれている昨今なので、福岡県議会などのサイトのバナーなどがあると助かります。
10	記事にデータや説明を表示する時は、文や数字だけではなく簡単なグラフや図が欲しい
11	このアンケートを受けてはじめて福岡県のホームページを見ました。地方自治体のホームページとしては可もなく不可もなくといった比較的ベーシックな作りだと思いました。視覚障害のある方や体の不自由な方でもホームページを利用できるような仕組みがあればもっと多くの方が活用できるのではないかと思います。
12	上記の通り、トップページは見やすいのですが、ページを進んでいくにつれバナーや色彩が減っていき堅いイメージとなるので、気分がちよっと下がってしまう感覚があります。行政であるキチンとした雰囲気も残しつつ、バランスが必要かと思いました。
13	フローチャート式がいいのではないかと個人的には思います。
14	県民にとって有益な情報をもっと分かりやすくしてほしい。案内のチラシを入れてほしい。
15	ホームページを開いた時、最初の画面にあれこれ出てくるとごちゃついて見えてしまう印象がある。例えば、この回答をしている時期であれば、選挙へ行こう!の画面が最初に出てきたが、モデルの人がたくさん掲載されているため見る気がなくなってしまう印象を持った。検索がしやすいホームページだと思うので開いた時のごちゃごちゃした印象がもっとスッキリ見える印象へ変わるとより良いと感じた。
16	今まで住んだら町のホームページはよくチェックしていたが、県のホームページは見たことがありませんでした。県政モニターに選ばれたので、今後はチェックしていきたいです。
17	いろいろな地域の情報をもっと発信してほしい。
18	右上に 三 ←でテーマから探すとなっていますが、三 を押さずともトップページにテーマから探すが出てくると有難いです。下にスクロールしてしまうので結局 1 番上の右端にある、テーマ別に探す、を見落としてしまう方は多いと思います。

19	今まで、県のホームページを見る必要がなかったので、みることがなかった。具体的にはよくわからない。
20	ホームページはとても整理されていて見やすいと思う。サイト内の検索ボックスも設置されているため、過去の情報にもアクセスしやすく特に不便さを感じることは無い。
21	目的がないと見に行かないため、県のホームページに見に行く必要を感じていない。
22	県政の相談窓口が分かりにくい「県民の声」等の形でインターネットを使って受け付けてもらえるようにしてほしい。
23	新着情報も3項目に分けて検索できるので、沢山の情報から探せるので良い。
24	高齢になり出かけることが少ないので、文化的なイベント情報などを広く掲載してほしい。
25	やさしい日本語にしたときに、ちょっとレイアウトが崩れている気がします。
26	県ホームページを拝見したことがなかったが、これを機会に拝見したいと思う。
27	もっと、知事部局の問い合わせについて各部門をさらにわかりやすくして欲しい。そして、課ごとではなく、係ごとにメールアドレスを表示して貰いたい。
28	情報提供の量や内容は充実していると感じました。一方で、分類や検索機能が行政側の視点に基づいて構成されているため、利用者にとっては目的の情報にたどり着きにくい印象があります。チャットボットの案内やスマートフォンでの閲覧性にも改善の余地があり、今後は生活者目線での構成が望まれます。
29	緊急的なことが、開くまでわからない。時間遅れに公表されるのでリアルタイムに見れたら良いです。
30	市のホームページは直接関係があるので見ますが、県のホームページを見る機会がほとんどありません。
31	情報の欲しい部分のみ、キープできるとありがたいです。
32	できれば、担当部署の電話番号とFAX番号の欄に、メールアドレスがあると良いと思う。その場合は返信の要否等の確認欄も設け、職員の負担にならない仕様にする必要はあると思う。
33	もっとわかりやすくしてほしい。字を大きく、バナー絵も入れて
34	・公開日や更新日をなるべく記載して欲しい。 (特に申請書のページや公募など期限があるものに関して) 例 第26回福岡デザインアワードを開催しました 令和7年第26回福岡デザインアワードを開催しました
35	毎月配布される市の広報誌の中に、「福岡県だより」があるので読んでいます。だいたいこのことはわかります。
36	スマートフォンやパソコンをすんなりと使いこなせないような方でも知りたい情報にアクセス出来るようなシンプルで、わかりやすい平易なことばを使った簡易版のような機能があれば良いかと思います。
37	・イベント情報に関する告知内容のワクを広げてほしい。 各地で開催される祭り、花火等
38	県民が得を感じる事や常に見て楽しめる事を載せて欲しいです。
39	検索されがちなワードをトップに載せるよりも、項目ごとに分けてもらうほうがわかりやすいのではないかと思います。
40	電子申請、オープンデータ、DX、電子調達といった行政手続き情報が点在し、どの部署が担当しているのか分かりづらい
41	県内の交通機関についての情報(Websiteへのリンク)があると便利です。
42	ざっと見たところ、項目立てとしては理解しやすかった。具体的なことは市が窓口になるものも多いと推察され、情報はあがるが有用であるかどうかはいまひとつ評価しにくい。
43	子育てなどで調べるが、言葉が専門的な言葉で書いている事が多いため、言い換えたりしてわかりやすくして欲しい。

44	今まで県のホームページを意識的に見ようと思ったことがないが、最近、県のプレミアム商品券の発売状況をチェックするので、もしかしたらあれが県のホームページなのかもしれないと今更ながら気付いた。
45	もう少し動画があってもいいような気がした。
46	このアンケートの内容で、初めて福岡県のホームページを見ました。 見たところ、内容も良さそうに感じました。 今後、利用させていただきます。 どの程度 県民が利用しているかわかりませんが少し PR 不足が足りないのではと感じました 便利さが、わかれば利用する人が増えると思います。
47	記憶が定かではないが、数回は閲覧した事があると思う。 市区ホームページで事足りている現状…
48	特に不便ということはないが、イベント情報に県内のその季節の魅力的なスポット紹介とかを入れて欲しい。
49	目的から探すをトップページに持ってきたほうが分かりやすいと感じます。テーマからだ自分の探していることがどのカテゴリーに属するかやや分かりにくいです。
50	高齢者の方でもみやすいように文字が大きかったり検索しやすいとなお良い。
51	知りたい情報がピンポイントで探せない、AI を駆使して「もしかして〇〇ですか？」という結果が出るように、誘導してほしい。
52	文字が多く堅苦しいイメージなのでアイコンなどで分かりやすくカテゴリ分けしてほしい。
53	トップページの情報量が多く、カテゴリも偏りがありアクセスしようという気持ちにならない。
54	福岡市民なので、暮らしの大半は福岡市役所ホームページを見ることが多いように感じます。県政モニターになったのをきっかけに、見てみようと思っています。
55	仕事、高齢者の登録やアルバイト、パートが特集してあると興味深いです。研修、セミナー、訓練も受けられたら嬉しい。幅広いジャンルで社会参加の機会を作って欲しい。
56	福岡県子どもまんなかポータルサイトは、子育て中の自分にとって関心が高く、内容に共感できるため、つい読み進めてしまいました。一方で、他の分野も同じように親しみやすく整理されていると、もっと利用しやすくなると感じます。
57	目的や条件を書いた文章でも相談できると嬉しい。(生成 AI の活用?)
58	現在の HP で特に不便や改善点はありません。
59	全体に堅い感じなので柔らかくしてほしいです。
60	内容はわかりやすいです。 しかし、できればもう少し内容を増やしてほしいと思います。
61	伝統的工芸品の紹介ページがありますが、過去に外部委託で作成されたようなサイトもあれば、アクロス福岡での紹介ページなど、同じ福岡県内の工芸品の紹介で、複数の文面があるので、時々困惑します。
62	外国語の対応は便利だと思います。日本人の私にとっては、ひとつひとつの政策の意味だったり、漢字の読み方だったり、難しいです。該当する言葉を別に Google なので調べないと理解できないです。
63	現状のままで十分だと思います。
64	障がいのある方へ、県政のしおりなど点字の物も現在あるかもしれませんが、もしなければ、それもあって良いかなと思います。
65	県が提供する情報量の多さを、出来る限りスムーズに伝えられるように例えば、年代別に提供する情報のあり方など。
66	チャットボットが役にたちませんでした。全く噛み合わない回答でした。漢字も変でした。
67	少し固いイメージを受けた。イラストなどでカラフルでわかりやすくしてはどうか。
68	有益なデータが取得されてはいるが、どのようなデータが存在しているのか利用者が把握しきれないと感じる。

	どのようなデータが存在し、その見方使い方を紹介するような特集ページがあればいいと感じる。
69	テーマから探す、目的から探す の違いが分かりにくい。 目的から～の方は、情報が必要なシーンをより具体的に記載してほしい。
70	必要な情報を探す際に、選択肢や目的をもっと細かく項目設定してほしいと感じました。
71	これまであまり積極的に見ていないためわかりません。福岡市のホームページの方を見てまいります。県としてももっとPR された方がいいと感じます。
72	テーマから探すのところに、〔申請関係〕を加えてほしい。正直、県のホームページをみるときは、なにかの申し込みや手続きをしたくてみる人が多いので、担当部署を横断して、申請関係をまとめてくれるとありがたい。
73	全体的に見やすいですが、強いて言うなら文字が少し多い。目が疲れるのももう少し少なくていいかもしれません。
74	福岡県からのお知らせ、新着情報、イベント情報といった大括りの文字が小さいのではないかと見にくい。 また、広報情報をもっと上部に持ってきてほしい。そこから各々に進んでいけば良いのではないかと。
75	知りたい情報のキーワードを入力し、検索結果が表示され、知りたい情報にたどり着けるようにしてほしい。
76	今のものわかりやすいが、色や字体が少し堅い感じがするので、もう少しポップな色調や字体にしても良いのでは。
77	市政に比べると県政に関しては身近ではなかったのだからからは身近に関連するものだと認識していきたい。
78	入力内容の幅を簡素化してほしい。
79	今後、しっかりチェックして改善点等の意見をまとめたい。
80	同時に細かく分かれすぎていることもある。少しシンプルにしてほしい。
81	まだ活用していないので今回のモニター活動を通して見てみたいと思います。
82	検索ワードでは目的のページが見つかりにくく、リンクをたどっても同じ場所をぐるぐる回るばかりで、結局見つけられないことがよくあります。そのため、どこをクリックすればよいのか電話で問い合わせたことも何度もあります。
83	外来語や近代語の意味を但し書きにして欲しい
84	当月内のイベント等を、もっと大々的にアピールして欲しい。
85	市毎に分かりやすく、広報誌になればと思います。
86	新しい言葉を使う際はその定義をまず周知してほしい。
87	県と市の行政仕分けがよくわからない。
88	県のホームページで分かりにくいところは、学校ごとに行事ごとで分けて欲しいです。 小学校や中学校や高校などで、分けて見やすくして欲しいです。
89	そもそも県ホームページを見て得られるメリットが不明瞭なため、アクセスすることがないです。県民にとっては、市区町村と県の棲み分け自体もわかりづらいため、まずそこをはっきりとしたうえで、その違いがわかるようなホームページにすべきと思慮します。
90	イベント情報を検索し気がついたこと。1、＜目的から探す＞の項目からイベント情報を検索できるが、他の項目内容が違いすぎ、イベント情報は、ホームページ最初のページに目立つよう単体で設けた方が良く思う。(福岡県をアピールできる)
91	県ホームページを閲覧したことがなく、SNSなどで情報収集をしているのでわからない。
92	ようこそ知事室へは日常で必要なコンテンツではないのでトップに置かないでもいい。
93	組織から検索は、組織を理解していないとなかなか検索できないと感じた。
94	目的の場所まで、クリック数が多すぎます。山口県のようなスタイルのほうが、見やすいと感じます。
95	最近の異常気象に対応したリンクを張り付けてほしい。大雨、河川の氾濫、雪、そして交通機関の運航状況など。

96	分野が広いので内容によっては解らない内容があり、電話等で問い合わせたことがある。
97	補助金・助成金の情報をもう少し早く知りたいです。以前、ばたばたして申請したことがあります。
98	これまで福岡県のホームページがあることを知りませんでした。 これを機会にサイトをみて見たいと、この調査を通して思いました。 まだ詳細が分かっていないので、今後指摘できる機会があれば意見させていただければと思います。
99	音声で聞けるようなシステムも高齢者に優しいと思います
100	新しく福岡に住み始めた人でもわかるようなレイアウト及び解説ページがあるといいと思う。
101	お知らせは必要かと思いますが、自分に直結しない部分はなかなか選択しないし、必要などころを見つけやすくするために、大項目を最初のページに設置して、イラストなどを付けても良いのではないかと思います(アプリの様な感じで使いやすいイメージを持たせるために)今は左上のメニューを開いてから選択するので、面倒に思う人もいるかと感じました。
102	特に感じないがトップページの情報量は少なくともいいので見やすく大きくしておくことがストレスを感じなくていい。
103	災害情報やハザードマップはよりアクセスしやすい、階層の浅いところに表示してほしい。
104	県ホームページを見たことがないので現在ではわからない。
105	県ホームページを日常的に見ているという人にお会いしたことがありません。
106	県ホームページについて(例えば、オールドメディアを使って)もっと宣伝してほしい。
107	県のホームページをもっと見る様に市のホームページや TV で宣伝してほしい。
108	わかりやすくなっていると感じます。
109	メディアのニュースなどで見た情報が官憲担当課の最新情報にあがっていないケースがある。
110	探したい情報のページまで、なかなかたどり着けない。
111	県民が参加できる参加型情報が分かりにくい。 県民参加型情報という項目があれば良いと思う。
112	特に不便は感じていませんが、電子申請を以前行った時に少しわかりづらく感じたことがあります。
113	言葉に難しい表現がある場合には補足または参照とすぐ近くにわかりやすく説明を。
114	不便に感じることはございません。
115	目的の情報にたどり着きにくいことがあった。
116	ホームページがごちゃごちゃしているので、もう少しスッキリさせてほしい。
117	今まで、見たことがないので、書きようがない。
118	アクセスランキング等で県政への興味がわかると良いと思います。
119	検索 box の結果表示で表示される情報が多いので、もう少し調べやすいように改良してもらいたいと思った。
120	知りたい項目がハッキリしていない方でも行き先を見つけやすい様に漠然としたキーワードからも探せる様マップの様なモノが有ったらより良く成ると思っています。
121	TOP ページはごちゃごちゃ詰め込まないで、ぱっと見でわかるようなページにしてほしい。
122	時に、言葉が堅くて難しい。
123	これまで見る機会が無かったので、テレビや sns でホームページを見たいようになるように誘導する仕掛けが必要だと思う。
124	せっかく福岡の魅力を発信するページがあるが、わざわざタブを押してみる人は少ないと思う。 最近是比较的いちページにまとめることが主流になっているため、ホーム画面の下の方に表示すると誰でもみやすいと思う。
125	まず、即時性として更新の速度、適性など改善する余地があるのではないか。不便とまでは言わないが、最先である県の広報の場が残念に感じる時がある。
126	そうした内容のもので仕方ないのですが、文字ばかりの印象です。

127	地域が片寄っている事があり、自分に関係ない記事はスルーしてしまいがちになる。
128	イベントをもれなく詳しくのせてほしい
129	もし改善できるのならば、県から伝えたいこと(見てもらうだけの内容)と助成金や手続きのお知らせやイベントの開催のお知らせ等、県民の生活に直接関わりそうなカテゴリとをまず分けてそのカテゴリの中で新着情報を表示してもらえたら見やすくなると思う。
130	カタカナでわかりにくい表記はやめてほしい。
131	福岡県からののお知らせは、色々な内容が混在しており整理して表示できないのか。
132	うきは市のホームページはよく見るのですが、県の方は見たことがありません。市のホームページからでも県の方を見ることができると良いと思います。
133	できるだけシンプルにして目的の項目がわかりやすくなれば良いです。
134	改善と言う前にホームページを見る機会がなかった。

問6 県の広報活動について、これまでの設問以外に意見はありますか。ある場合は、その内容を具体的に入力してください。

番号	内容
1	これまでグラフ誌「グラフふくおか」を見る機会は図書館しかない。もっとグラフふくおかを読む機会が増えるとうれしい。
2	インターネットを使えない高齢者や施設入所者に対する情報の周知徹底が必要と思います。
3	広報誌「福岡県だより」はページ数も限られており内容があまり無い。費用対価の面で再考願いたい。
4	県としての SNS 活動がまだ弱いと感じる。 ここは市区町村の方が強い。 例えば宗像市だと世界遺産のアピールや特産品の PR 活動をしていたり、岡垣町だと観光協会が積極的な PR 活動をしているように感じる。 県として、各市区町村をコラボレーションさせる企画を行っても面白いように思う。 例として、行橋市の特産品であるイチジクを使って、北九州市八幡東区の酒造メーカーと掛け合わせてイチジク酒をコラボレーション商品として売り出すなど。 県だからこそ掛け合わせて何かを成し遂げるのも魅力を作る一つかと感じます。
5	私は高校大学県庁から奨学金お借りしました。お蔭で寮学校でも慣れてからは大活躍しました。二十代病気療養や結婚後出産で停止したにも拘らずその後元気に働き返金し県に貢献出来有り難い限りです。今高校は無償化ですが、以前県知事と高校生の福岡県の発展や教育の活躍の記事で目にし羨ましい限りでした。私の子供の世代が無償化になります。親としての負担は減りますが、感謝と各世代の高校の有難みを感じるのには奨学金を借りた方の高校当時の活躍の座談会が現役高校生、県知事記事で共にあれば良い刺激になると思います。
6	一般的な県民が見る項目と、関係者が必要とする項目を分かりやすく整理してほしい。
7	私の住んでいる土地柄から北九州市の市政だより等は良く拝見しますが、県公報につきましては、今一つ生活との距離間を感じております。県の取り扱う情報の視点が市の情報より一歩高くなるので当然と言えば当然ですが、もっと生活との距離感を縮める内容(話題や表現)であれば拝見する頻度や読み方も変わるのではないかと思います。
8	もっと福岡県をアピールして良いと思う。意外と控え目な県だと思う。
9	様々な広報活動を行っていてもなかなかみんなに伝わっていないという事が実情だと思います。 もっとみんなに知れ渡るような活動が出来たらよいなあとと思います。
10	県政の取り組みについての広報活動改善への提言 ◆ ワンヘルス政策について ワンヘルスの理念は非常に意義深い考え方であり、全国に先駆けて取り組まれている点について、高く評価いたします。一方で、以下のような懸念の声が県民間に存在することも事実です。

	<p>1. 予算規模の妥当性に対する疑問 ワンヘルスセンター整備やイベント実施等にかかる累計予算は、債券発行分も含めると100億円を超える規模とも言われております。感染症対策や環境保全は確かに重要ですが、その支出が「最も必要な優先順位の高い政策」なのか、疑問の声が一部にあります。</p> <p>2. 見えづらい成果と説明責任の不足 抽象的な理念に対して、どのような具体的成果が出ているのか、県民にとって可視化されているとは言いがたい状況です。「教育現場に教材を導入した」ことは聞こえてきても、その効果測定や現場の声があまり共有されていません。</p> <p>3. 政治と業界の利害関係への懸念 一部で公共予算を活用した事業が特定業者や団体に集中していないか、制度設計の透明性は担保されているか、などを疑問視する声もあります。「企業献金や癒着ではないか」との疑念すら、SNSなどで見受けられました。事実無根であれば、それを明確に否定・説明することが県政への信頼回復に繋がると考えます。</p> <p>◆ 一人一花運動について 地域の景観美化と住民の心の健康に資する素晴らしい活動です。しかしながら、以下のような課題も指摘されております。</p> <p>1. 維持管理の負担 花を植えるだけでなく、その後の水やり・手入れにかなりの労力が必要です。特に高齢化の進む地域で、担い手の確保の困難さがあります。</p> <p>2. 景観美化と心の健康への効果について 主目的である景観美化・心の癒しといった効果について、政策効果の「見える化」を進めていただきたいです。ハード指標(花壇の数・企業の参加数等)だけではなく、ソフト指標(市民の主観的満足度や癒しの実感)も評価軸に取り入れていただきたい。</p> <p>◆ 提言 上記を踏まえ、以下の対応をお願い申し上げます。 広報ページにおいて、ワンヘルス・一人一花両制度について、「予算の使途」「成果指標」「参加者の声」「利害関係者の情報」などを一層明確に、県民へ説明・公開してください。 また、成果が見えにくい事業については、一度立ち止まって再評価する機会を設けていただきたいです。</p>
11	<p>広報誌「福岡県だより」の手話イラストを楽しみにしています。 コンパクトだけど、県の行事や取り組みがわかりやすいと思います。 ホームページは「見たことがない」と回答しましたが、LINEの福岡県庁から無意識にボタンを押していたようです。特に、LINEでは、黄砂・PM2.5の情報が役に立っております。 啓発をしていただけるのなら、犬のフンの持ち帰りの仕方をぜひ掲載してほしい。 散歩はさせるけれども、私有地に入って、フンをして、そのまま帰っている人がいます。 実は、フンの処理の仕方を知らないのかと思いますので、こちらがワンヘルスの一環として採用されるのであればいいと考えました。</p>
12	<p>県議などの存在意義がよくわかりません。 国会議員であつたらくなら県議などはいらだけ税金の無駄じゃないですか？ そうおもわれぬように知事以外の幹部や県議なども表に出る活動や広報を行うべきだと思います。</p>
13	<p>主に福岡県内のイベントや飲食などは、テレビ・SNSから情報収集しています。 ですが、福岡市周辺の情報に偏りが多いため、県内全体の情報をもっと知れたら嬉しい。</p>
14	<p>福岡県庁のX公式アカウントを確認していますが 投稿する内容がバラバラなので、複数の公式アカウントを作り投稿して欲しい。 例えば↓ 福岡県庁 県政情報のみ投稿 福岡県庁 観光部 福岡県の観光情報やイベントについてのみ投稿</p>

	福岡県庁 地域活性部 地元のお店や開店情報やイベント情報を投稿 ご検討お願いします
15	災害時など多くの県民がリアルタイムかつピンポイントな情報を複数の媒体を活用して広報 できるシステムが構築できれば良いと思う。 また、災害時などでは SNS 等でデマ情報が拡散されるケースが考えられるため正確な情 報を確実に伝える方策も検討して欲しい。 日常においては少数の方しか必要でない行政サービスなどや分かりにくいシステムなどを活 用したい場合に電話対応はもちろんチャットやメール、SNS などでの対応もツールに加えて もらえると相談しやすくなるのではないかと思う。
16	県の顔である知事さんのメディア露出の具合も丁度良い具合だなあと常々思っています。 また、自分の県のこととなると、県民はほぼ受け身となることがほとんどではないかと思うの で、必要な情報や有益な情報を漏れなく伝える工夫は必要かと思えます。
17	事務的な報告ではなく、読む側に興味を持たせるような工夫(見出しとか)が欲しい。
18	若い人も見て楽しいような広報を作してほしい。遊びに行く場所や政策を分かりやすくピッ クアップしてほしい。
19	私自身、久留米市(生まれ育ち、20 歳頃)・八女市(専門学校の 4 年間の通学のみ)・小郡 市(20 歳から 23 歳頃)福岡市(独身の 7 年間くらい)・北九州市(結婚後)過ごしたことが あるが、 どの街も住みやすく他の都道府県に住んだことはないが福岡県の良さを常に実感すること が多くあった。 そのため県民への広報活動というよりは他の都道府県から福岡県への移住 PR をメインに おいた広報活動に力を入れるのも良いのではないかと思う。 おそらくテレビなどでも福岡県が住みやすいということが報じられていてそのような印象は 強くあると思うが、具体的に福岡県の良さを PR することでさらに移住率が上がりひいては 全国平均 2 位をほこる出生率の高さを維持・向上し、福岡県の成長・繁栄につながるのでは ないかと思った。 きっとすでに私が答えた内容は実践されていることだと思いますが、生まれてこのかた福岡 県民としてずっと住んでいて住みよい県だと思っているので今以上の PR をしてもいいので はないでしょうか？
20	インターネットや SNS でわざわざ県の情報を検索することはありませんでした。検索せずに 目に入るよう、紙媒体やテレビ CM、番組で取り上げた方が目に入る人が多いと思います。 SNS もしていますが、福岡についての情報が入ったことはないです。
21	今回のモニター依頼の送付物の中に、福岡県だより、グラフふくおか、が入っていた。 なかなかおもしろかった。初めて見たが、いったいどこに置いてあるのだろうと思った。 福岡県出身の芸能人が多く、そこを通しての宣伝や、そもそも食や観光地などの情報をテレ ビでよく取り上げられているので、全国的には、よく知られているところだと思う。県の広 報活動で、ピンとくるのは県産米の宣伝しかない。県として、県民への広報活動なのか、全国 に向けてなのか、何を広報するのか、どこを目指しているのかよくわからない。
22	地域振興券の販売が始まっている自治体が増えてきているが、これらの告知が意外に少な く感じている。知っている人は知っているけど、時間の無い人なんかはそういう情報に行き 当たらないのかも。 情報格差は個人の責任なのかもしれないけど、情報へのアクセスへの手がかりはもう少し増 えるような手立てが無いものかなあと感じている。
23	福岡県の中で田舎の町役場紹介等は良く見るが、福岡市での街づくり、北九州市でのまち づくり等業績が取り組んだ内容について、もっと知りたい。
24	年齢的にどうしても紙媒体で情報をとることが多いが、広報紙はデザインもよく読みやすい が、ページの関係もあり、情報量的には少ないと思う。時代はネットの時代なので仕方ない と思うが、アナログ媒体も充実してもらいたい。
25	インバウンド向けマナーマンガの取り組みはとても良いと思う。 福岡県ゆかりの漫画家活用で活用でより親しみやすくわかりやすいメッセージ発信を進め

	てほしい。 高齢者や中高生向けにもマナーまんがなどにも活用してほしい。
26	政令市に住んでいると、県との接点は県政モニターをしている限り皆無です。もっと、政令市の北九州市民にも、県の動向がわかる広報活動をお願いします。
27	福岡県の魅力をもっと身近で紹介できるようにする。例えば今回の県政モニターから地元の魅力取材したりアピールすることも良いと思う。 県の職員の方々との接点を、ネットだけでなく実際に接して情報を共有することも良いと思う。
28	自治会に入会しているので紙面が届き内容を見ることが出来ますが、ネットだと他の情報も多いため見過ごすこともあると自分の生活上思います。
29	今回委嘱状と一緒に「グラフふくおか」を送付いただいたが、初めて目にした。 ホームページにもスクロールすると「グラフふくおか」の内容を見ることができ分かったが、もっと目立つところに配置するなど工夫すれば良いのにと感じた。
30	トップページで今日の催し、祭りなど、イベントなどの最新情報がすぐに分かるようなページがあると嬉しいです。
31	若年層へのリーチ SNSを通じた広報は、積極的に行わなくていいと思います。若者は、能動的に見なければいけない自治体のSNSなんて見ません。SNS投稿にお金を使うなら受動的なポスティングの方が有効です。 情報誌においても各団体の理事長の挨拶など基本的に不要です。 そのような無駄なものは紙面じゃなくてHPに記載すればいいと思います。
32	福岡県だよりでほしい把握できます。
33	テレビ番組での広報がもっと増えれば良いなと思います。広報紙や新聞広告での文字での情報よりも短い時間でも映像で見た時の得られる情報の方がわかりやすいと感じました。 県内テレビ局の各局で午前や昼間、夜といろいろな時間帯で流れれば多くの県民に伝わるのではないのでしょうか。
34	・情報発信の強化 メディアへの情報発信は紙媒体における発信は定期的に行われているが、その他の媒体を使った発信
35	県の広報活動をTV番組で週1回放映すると分かりやすいし、周知徹底となる。
36	在住している市町村が取り組んでいることは生活に身近で直結しているのでわかりやすいですが、県が何をしているのかは大卒なイメージでわかりにくいように感じます。県から市町村に降ろしている政策がどんなことなのか知りたいです。 福岡全体を統括している立場として、県全体として決まったこと(義務化されたことなど)をわかりやすく発信していただきたいです。
37	私は転勤族で、他県から来たので、福岡のことを全く知らない者にもわかりやすい内容だと思いいなと思う。福岡は転勤族も多い地域だと思うので、そういうニーズはあると思う。
38	県の広報誌について思うことがあります。正直、若い世代を中心に、あまり読まれていないのではないのでしょうか。届いてもパラパラと見てそのまま…という人が多いと思いますし、そもそも「めんどくさいから読まない」「そのまま置いておく」というのが実情ではないのでしょうか。 インターネットが当たり前になった今の時代、広報誌はそれほど必要ではないと思います。見たい人はネットで自分から調べて情報を得るでしょうし、紙での配布にこだわる必要はないのではないかと感じます。 もちろん、すべてをやめてしまうと「情報が届かない人が出てくる」という不公平もあると思うので、配布方法をもっと柔軟にするのが良いのではないのでしょうか。たとえば、役所や図書館などに置いておいて、必要な人が手に取れるようにする。そうすれば、無駄も減らせるし、平等性もある程度は保てると思います。 広報誌の制作や配布にも費用がかかっていると思います。今の時代に合った届け方や内容

	に見直していくことで、多くの人にとって「意味のある情報」が届くようになればいいなと思います。
39	そもそもどんな内容が載っているのかを認識していなかった。市でやることと県でやることの違いを理解していなかった。
40	東京のように0歳児から保育料を無料にして欲しい。
41	福岡市に住んでいるので、「市政だより」にはよく目を通すが、県からのお知らせについてはほとんど見聞きする機会がない。県庁にも行ったことがないし、福岡県民ながら「県」はあまり身近ではなかった気がする。ただ、最近は新聞にも県からのお知らせが掲載されているのに気付くようになり、意識的に目を留めている。
42	県民でありながら、改めて県についての情報を考えてみると、触れる機会が少なく、情報も主に福岡県だよりを見ることで得られるだけだな、と感じた。福岡市の情報のほうが印象に残っている気がする。
43	ふくおか市政だよりは、地域に密着しているせいかよく読んでいますが、福岡県だよりは、今まであまり読んでいません。 広域のたよりの冊子だから、あまり関係がなく感じています。 難しいと思いますが、県民共通の興味ある情報が沢山掲載されると嬉しいのですが。
44	もっとメディア、SNS等積極的に活用すべき。
45	イベント情報に県内のその季節の魅力的なスポット紹介とかを入れて欲しい。 紫陽花とか向日葵とかコスモスとかの見どころ紹介など。 観光情報も過去のものばかりなので、今後開催予定のイベントのお知らせをしてもらいたい。
46	我が家では主に福岡県だよりとLINEにて福岡県の情報を知っています。 たくさん情報の中から発信内容を取捨選択されるのは大変かと思いますが、ホームページ内で案内には掲載されなかった雇用やイベントなどの情報が知れると良いなと感じたことがあります
47	個人的にスポーツ観戦に興味があるので地域のスポーツチーム(福岡ソフトバンクホークス、アビスパ福岡、ライジング福岡など)に特化した項目があれば嬉しいです。
48	一旦、HPを全体的にリニューアルしてはいかがでしょうか？まずそこからが「他県との差別化」の一步だと思います。福岡はHPもおしゃれだし情報を探しやすいからどこどこに行きやすいとか、そういった声があれば福岡への印象はもっと良くなっていくんじゃないでしょうか。とにかく今のHPは昔ならではすぎて「古すぎ」です。ここにあまり予算割けないかもしれませんが、そんなに金額も高くないと思うので検討してみてください。
49	福岡市のホームページは暮らしの中でよく観る機会がありますが、県のホームページを観ることはありませんでした。広報活動として、独自のアプリやLINEなどで週報又は月次で取り組みやお知らせを発信して頂きたいです。
50	ふくおかサポートや電子図書館など、各行政の取り組みや無料で利用できる県民の制度について、改めて広くわかるような内容が欲しいです。
51	50代ですので、広報は紙媒体やテレビ、ラジオです。しかし、「知っトクふくおか」は見たことありませんでした。会社員がテレビをつける、平日の夜に再放送はいかがでしょうか？ また、福岡市のLINEは友達になっています。50代以上もLINEならやっている人は多いです。
52	県のLINEや、複数のYouTubeチャンネルがあることを初めて知った。知らなければアクセスすることもないので、どのような情報が得られるかも含め、広く周知してもよいのではないかな。
53	自然に耳に入ってくるのはFMラジオです。SNSは信用できない部分がある。テレビも情報番組はアサデスくらいしか見ないから。ラジオにチカラを入れてもらえると助かります。 美術館や博物館の企画、これからもっと面白いものを期待します。
54	知らない広報活動がたくさんありそうなので認知度が上がるといいなと思います。

55	県の広報活動は、情報量が豊富な一方で、自分にとって必要な情報を探し当てるのが難しいと感じることがあります。現在、私は AI を活用して情報収集することが多く、必要な内容を要約して得られることに利便性を感じています。県の広報も、関心分野やライフスタイルに応じた「情報の入り口」があると、より多くの人に届くと感じます。たとえば、「子育て世代向け」「防災情報に敏感な方」「高齢者やその家族向け」などのニーズ別に整理された発信や、SNS・LINE などを活用したパーソナライズ配信などがあると良いと思います。こどもまんなかポータルのように、共感しやすい切り口で発信されると自然に読み進めたくくなります。情報の質だけでなく「入りやすさ」や「自分ごと化しやすい構成」が今後さらに期待されます。
56	リアルタイムでの情報発信しているサービス(ネットのニュースサイト等)へのリンクを目立つところにおいて欲しい。但し、誤った情報の拡散を防ぐために、フェイクチェックが難しい SNS へのリンクは止めた方が良いでしょう。
57	今回、モニターとなり委嘱状とともにお送りいただいた「県政のしおり 2024」は初めて拝見しました。(私自身が知らなただけなのかもしれません) この冊子を通して福岡県民として知らないことが多いことに自分でも驚いています。この冊子の配布がもっと県民に幅広く行き渡ると県政に対する興味関心が高まるのではないのでしょうか。
58	県庁のフードマルシェはメニューを日替わりで安いのもっと広報活動をしたら良いと思います。
59	県知事をはじめ、関係部署の責任者にもっと意見、感想を増やしてほしいと思います。
60	成年後見人制度に注目してしまっていて、そのことについての記載がホームページには、ありませんでした。 親の介護が現実となりつつあるので、取り扱ってもらえると助かります。
61	福岡市在住ですが、北九州市等の県内他都市・他自治体のホームページを見るのがあまりありません。ある話題について、福岡市や北九州市のホームページへのリンクの充実や、市町村のハブ的なリンク一覧を掲出してもらえると、県民としては比較も可能だったり、便利な気がするがあります。市町村のホームページへのリンクがスムーズだと、「県内情報が一体となっている感じ」を感じられるのでは、と思います。
62	朝のローカル番組などで、繰り返し放送するのはどうでしょう。ホームページのトップの情報などアナウンサーの手元によく置かれている形で発信するとホームページに行く前に目に止まると思います。
63	県と住んでいる町、どちらも行政で一般町民にはやっていることの区別がつきにくい。ニュースなどで福岡市のことを市長が発信しているのを見て福岡市はいいなとか進んでいるなどは思うが、県のサービスを聞いたりすることが少ないので身近に感じる事がほとんどない。
64	各新聞の地方版にもある程度の情報を載せてほしい。 携帯電話、パソコンを使わない、使えない世代には SNS もホームページも役に立たないの
65	LINE は面白い。
66	私自身は新聞を読むのが好きで、紙媒体で配られるものにも必ず目を通します。しかし、内容も全体的に若者向けではなく、難しいと感じるものが多いかと思っています。難しいことかもしれませんが、もう少しポップな見た目にしたり、お子さんが興味を持つページを作ったり、今話題のものを特集したりという内容が盛り込まれても良いのではないかと考えております。
67	福岡県外と福岡県内への広報活動のあり方について。
68	福岡県だよりを見るたびにバランスのとれた素敵な県だなど感じています。 広報活動もこまやかで今後も期待しています
69	広報紙などは、とても楽しみにしています。県内のいろいろな地域の事が知れて良いと思う。YouTube も面白かった。
70	県政のしおりやクラブ福岡などの情報誌が主要な公共施設にしか置いていないので、商業施設などもっと身近な場所に置くことで、県の情報が多くの方に届きやすい。 また、自治体の公式ラインでも県の情報も積極的に発信することも重要と感じた。

71	県と市の提供する情報を一元化して税の有効活用につなげてほしい。
72	問5に重なりますが、福岡市政だよりはよく読むのに県政だよりはあまり読まない。なぜかと考えたときに市政だよりの大きさにもよるのかもしれないと思いました。紙質、カラーor 白黒など難しい面も多いでしょうが、紙面サイズを大きくする工夫があってもいいのではないのでしょうか。
73	紙媒体の広報誌は今後も続けて欲しい。ネットやsns だけだとたぶん見ない。あと、県民に対しては、ケア・トランポリン運動の汚職があったが、再発防止策や問題の根本解決に向けた取り組みもしっかり発信してほしい。
74	県だより等にプレゼントコーナーがあり有り難いが、ホームページ上にも閲覧などに対しポイントやプレゼントなどあればもっと目を通して貰える機会が増えるのではないかな？
75	福岡県のホームページは、文字情報ばかりで分かりにくい。画像や図表を入れてほしい。
76	福岡市在住ですが、市の活動と県の活動に違いがよく分からない。
77	福岡市と比べると、発信力が弱い。
78	福岡県だよりの記事や写真を見て県産のお野菜やフルーツに興味を持ち、お店でも手に取ったことがあります。フルーツの写真とか、おいしそうとか楽しそうとか一瞬見ただけで分かりやすい写真やショート動画は、頭に残りやすく話題にしやすいと思います。
79	広報に地域アイドルの HKT48 を活用されているが、それぞれの分野の専門家をもっと登場してもらっては。性別や年代幅広く活用して欲しい。
80	今後、しっかり拝見させていただきます。
81	福岡市に住んでいます。市政の方が自身の生活とより密接に関わるので、市政に関しては、市の LINE を登録したり福岡市政だよりを毎月隈なくチェックしていますが、県の広報活動についてはあまり能動的にチェックしていません。市政に加えて、県政がどのように自身の生活に関わるのかが十分に把握できていないので、県政への関心が薄いのではないかと感じています。
82	福岡は、旅行に来たいランキングでは上位に来てると思うが、主にグルメの特色が強い県だと思う。もっと隠れた観光地(嵐の宮地嶽神社とか)などを掘り起こして観光地を PR しても良いと思う。
83	YouTube チャンネルの存在を知りませんでした。従来の紙媒体だけでなく、ウェブサイト、SNS、オンラインイベントなど、多岐にわたる広報活動が必要だとは感じますが、そうした新しい取り組みそのものが、まだ多くの人に知られていない可能性があるのではないかと感じました。
84	あまり経費をかけずに発信する方向を検討してみたいかがでしょうか。
85	県ホームページの検索に関して不明点があり、ヘルプでは解決できなかったため、電話で問い合わせをさせていただきました。しかし、担当者の方(?)がやや冷たい態度で対応され、少し不快に感じました。その一方で、電話交換の担当者の方は非常に親切でした。
86	ポストに市報と一緒に投函される県だよりしか見たことがありませんでした。色々な媒体で発疹があると知ったので、今後は自分から情報をとりにいってみようとおもいます。
87	もっと、アプリなどわかりやすい情報配信などしていただけるとありがたい。緊急通報や災害など、県で案内する LINE などがあるといい。
88	子ども、高齢者、外国人にいたるまで、全住民が理解できるわかりやすい言葉を使ってほしい。
89	県の広報活動に SNS や動画配信の活用をもっと強化してほしいと思います。県の広報は、これまで紙媒体や県の公式ホームページ中心で行われてきた印象がありますが、若年層や働き世代にはなかなか届いていないと感じます。今後は、X(旧 Twitter)、Instagram、YouTube、LINE 公式アカウントなど、SNS や動画媒体をさらに活用し、「見やすく・分かりやすく・拡散されやすい」形で県政情報や生活に役立つ情報を発信してほしいです。

	特に短い動画(ショート動画)や図解など、視覚的に訴える工夫があると、より多くの県民に情報が届くと思います。
90	福岡県の LINE アカウントの視認性や周知頻度を上げていただきたい。 福岡市の LINE については、市政だよりも載っていることから早期に友達追加し、自動で送られてくる災害情報などをよく見えています。とてもシンプルながら、必要な情報に絞られており使いやすいです。 一方で福岡県の LINE アカウントはあまり周知されておらず、かつ情報も雑多になっているように見えます。例えばですが、用途によってアカウントを分けてしまうというのも手だと思います。子育て用のアカウント、観光用のアカウントなど別れていると、ユーザーとしては使い分けがしやすいです。
91	<問5に続く> 2, イベント情報”検索がないと表示される”。福岡市だけでも多くのイベントが主催されているはず、検索をしてもヒットしない。内容を充実させて広く告知できるようにした方が良い。 例 2: <相談窓口>を開いてみると、表が整っていないのが気になる。全体的に最初のページは見やすく、魅力的だが、各項目に入ると、表の見え目が良くないので、改善する必要があると思う。 <問 6> 毎月、県の広報活動の冊子が届くが、紙媒体で質の良い紙を使用し、カラー印刷での配布は必要ないと思う。(白黒で金額を抑えた方がよい)資料の割には、情報が乏しいのも気になる。それよりは、ホームページや SNS に力を入れ新たなニーズを手に入れやすくする。そして、各家庭に配布ではなく、公民館、学校、幼稚園、病院、交通機関、スーパーなどの住民が public で利用をする箇所にポスターサイズで掲載した方が財源を確保できるのではないかと思う。時代とともに、エコな面も考慮し、ネットにシフトし、公共の場所などをより活用していく方が良いと思われる。
92	一般的にカラー写真を多めに使うことで、広報効果が上がると思います。
93	必要な情報は、身近な市の HP で調べる事が多い。県は範囲が広いので、県民の関心を高かめる内容を考えて欲しい。
94	良い情報があってもそれが若い世代に届いていない印象があります。福岡県庁の公式ライン等も追加する機会があれば利用の促進があるのかなと思いました。
95	広報誌とグラフ誌は図書館で見た事があるが手に取って読む人はまずいない 税金で作成されており広報誌とグラフ誌は統合して欲しい
96	県の広報活動は、誰に向けてやっているのかによって変わってくる。県内なのか県外なのか。県内だと情報共有しやすく、県外だと県のアピールがあると思う。私自身あまりよく見たことがなかったので、その目線で今後見てみたいと思う。
97	広報紙「福岡県だより」と、グラフ誌「グラフふくおか」は、1つに集約してもよいと思います。
98	今までは、あまり身近に県の情報を感じておりませんでした。TV ニュースや CM などで触れる程度。今後はしっかりと情報収集して、意見をお伝え出来るように心懸けます。
99	グラフふくおかは目にしたことがないのですが、どこで配布されていますか。
100	意見ではありませんが、食の安全や環境に係る内容は福岡県からメールを定期的に提供してもらっているので助かっています。
101	今、ワンヘルスの取り組みを推進してほしいです。とりわけ、高齢者のためのペット共生は急務だと思います。
102	私は5月末にたまたま地元である福岡に転居してきたので興味がありましたが、そもそも県が広報活動をしていること自体があまり知られていないように見えました。 福岡はグルメ都市で観光客にも人気があるせいかもしれませんが、魅力を伝えきれていない部分も多い気がします。 福岡市や北九州市のような都市部だけでなく、山間部や郡部にも魅力ある場所が多いと思うので、まだまだポテンシャルを県としてアピールしていく余地があるのではないかと思います。

103	福岡県について興味のある人は、ホームページを見たりしますが、そうでない人は情報を目にする機会が少ないと思います。 街中の広告、大型ビジョン、新聞、テレビなどで情報を出すと人々の目に入ると思います。若い人はスマホを扱う時間が長いので、何らかの形でスマホ上に表示されると効果がありそうです。
104	広報活動は初めてで今のところ意見はありません。 これから何か思い出したり、詳しく感じていくことがあるかも知れない。
105	順番に各市町村の観光名所や物産館などを紹介するページ、その市町村で使えるクーポンがあったら外出時の参考にできるから良いと思う。
106	話題になるような広報大使を検討してほしい。 外からでも観光客が増えるように。
107	広報誌で、イベントや公園施設など、子どもが遊べる情報をより多く載せてほしい。
108	福岡県の政治状況が分かりにくい。もう少し一般県民が理解しやすい情報を流してほしい。
109	現時点では特に有りません。 今年度県モニターに選ばれたので、これからは県の広報活動に関心を持つように致します。
110	それぞれの地区の特色ある物産や観光をもっと、PRしたらよいと思います。
111	夕方のテレビ番組に人気なのがあり、観ている層が多い。 テレビ局次第にはなるがそこで広報を行う方が効率的では無いかな？と思う。
112	視覚的なイメージではないリアルな画像や動画を増やしてほしい。 また、県内各地域情報も充実させてもらいたい。
113	県政たよりは直方イオンで見つけました。どこに行けば、県から発行されるお知らせなどがあるか、県のホームページで知らせて頂ければと思います。
114	福岡県は日本の中でもとても魅力的な県だと思います。 もっと予算をかけて大々的に広報していただきたいです。
115	身近な情報が少ない。
116	広報誌をもっと多くの場所で手に入れられるようにしてもらいたいです。
117	ラインが入ってきてわかりやすく重宝しています。議会の冊子の内容は難しいものも。
118	市町村レベルは、生活に密着しており身近な印象だが、県レベルだと他地域情報も含まれ、住まいの情報がないケースもあるため、あまり市の広報誌に比べると格段に目を通す機会が薄い。 浅く広くなので仕方ないが、県の職務を市町村に分配して県は廃止してもよいと考える。
119	ペーパーでの福岡県だよりは可能であれば存続してほしい。 いちいち電子媒体から県政や地域の話などを閲覧する人は少ないと思う。 家に月に一度届く福岡県だよりを見ることくらいしか、自分の属する県と触れ合う機会づくりはないと感じる。
120	県内地域毎の特集を組んだ「福岡県だより」の季刊紙を発行して欲しい。
121	県のことは、あまり周知されていないように思います。 テレビの地元ニュースで知ることが多いです。それをネットで検索しています。 県南は県庁とは遠い存在。
122	今回から、考えてみようと思います。
123	広報活動については満足感があるので、特に記入するべき点は有りません。
124	パソコンやスマホを十分に使いこなせないの、紙ベースの広報誌はこれからも残してほしい。
125	市報は結構じっくり読むが、県民だよりはあまり読まない。市町村の取り組みは身近で具体的なイメージがある一方、県が行っている活動が身近でないため何をやっているかイマイチ分からないため。
126	YouTube など広報を頑張っていること自体をこれまで知らなかった。 発信を頑張っているのに、そもそもがあまり知られていないように思う。 もっとたくさんの人に知ってもらえるよう、それこそ SNS では企業アカウントでの交流

	や、エイプリルフールなどイベントでバズったりすることもあるし、学校にチラシの配布や、市役所のテレビで動画を流すなど、活動していること自体を知ってもらう工夫が必要だと思う。
127	ホームページや広報誌に、正式なものとして発信される前に、その他 SNS(地上波 TV も含む)等で、不確かな情報として流布される場合がある。もっと、県政として「適切な時期、適切な場」として情報発信してほしいと考える。公的な立場としての責任を果たしていただきたいと同時に、公的な「正しい」発信の機関として期待していきたい。
128	福岡市周辺だけではなく地域の情報なども載せて頂ければ幸いです。
129	県だよりもだんだん見やすくなってきましたね。ご尽力に感謝いたします。 インターネットを使えないご高齢者も多いので県だよりこそ、お年寄りもお子さまも手にとりたくなるような楽しい絵柄があるとよいですね。文章が並んでいて、少し堅苦しい感じもします。
130	私は県の広報活動として何をされているのか知らないところが多くあった。私のような人は少なくともいると思うので、県のホームページや県政だよりなどで広報活動の一覧を常に掲載してもらえたらいいなと思った。
131	もったいなかの YouTube はイントロスキップできると良いのではないかな。毎回、毎回のお決まりは続けて見るにはもったいない。
132	県のホームページに興味関心を持たせるために、内容についてテレビや SNS などでも知らせはどうでしょうか。(見たことがないですが、既にされているようでしたらすみません。)
133	まだまだ印刷の配布物が多いと思うので、少しずつ減らしてデジタルに移行すれば経費削減にもなって良いと思います。
134	若者には SNS で伝えていくほうが一番伝わりやすい。

地域公共交通について

【調査の目的】

路線バスやコミュニティバス（※1）などの地域公共交通は、地域住民の日常生活の移動手段として不可欠なものであり、地域公共交通の維持・確保を図ることは極めて重要なものであります。

しかしながら昨年4月からの運転手の時間外労働の規制強化、いわゆる「2024年問題」等の影響により、地域公共交通の担い手である運転手不足が深刻化しています。そのため、県では事業者と連携した運転手の確保に向けた取組を進めています。

また、そのほかに、地域公共交通の利便性向上のため、一人一人の移動ニーズに合わせて出発地から目的地までの移動を一つのサービスとして提供するMaaS（※2）を推進しています。MaaSアプリ（※3）の認知度向上や利用促進のため、交通チケットと飲食店等で使える特典クーポンをセットにしたデジタル企画乗車券を造成するとともに、県のMaaSの取組や企画乗車券をPRする広報事業に取り組んでいます。

地域公共交通について、皆さんの御意見をお聴かせいただき、今後の事業の参考とさせていただきます。

※1 コミュニティバス

ここでの定義は、市町村等が運行する乗合バス、乗合タクシー及びデマンド交通

※2 MaaS (Mobility as a Service)

バス、鉄道、タクシー、カーシェアなどの複数の交通手段を最適に組み合わせ、検索・予約・決済を一括で行うサービス

※3 MaaS アプリ

MaaSを提供するスマートフォンアプリ

(企画・地域振興部交通政策課)

問1 お住まいの地域の公共交通に関するお困りごとはありますか。
次の中から当てはまるものを【すべて】選んでください。

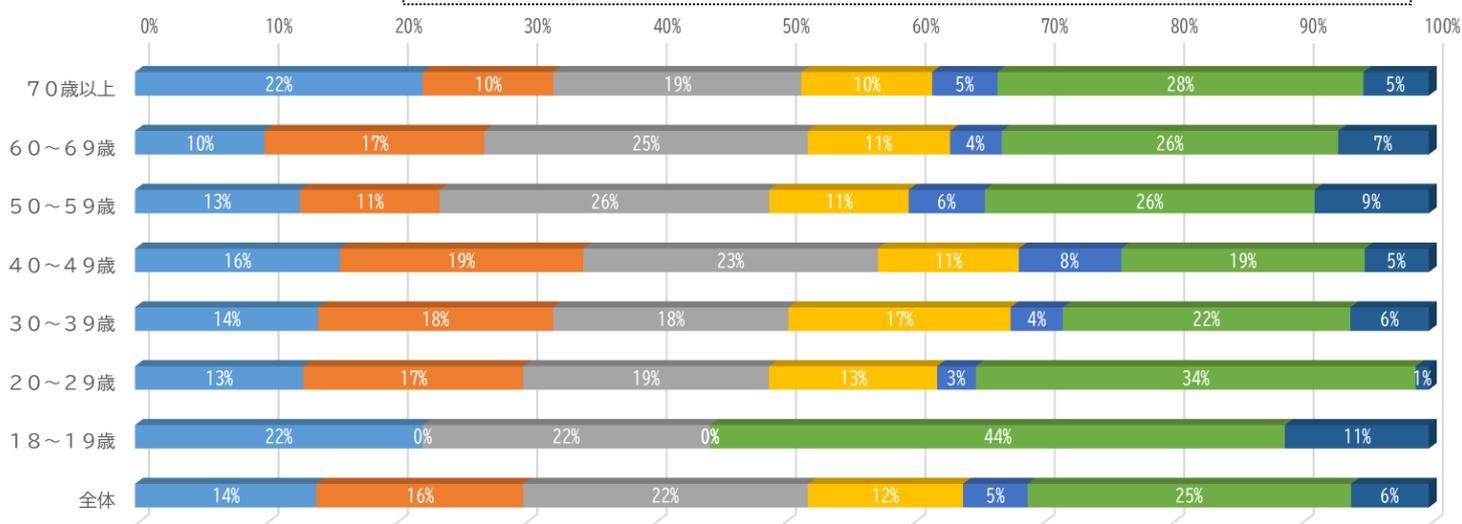
【回答内容】

全体では、「特に困っていない」という回答が3割あった一方で、約7割が何らかの公共交通に関する困りごとを抱えていることが分かる。特に「路線バス（コミュニティバス含む）が必要な時間帯に運行していない」、次いで「路線バスから鉄道他への交通機関への乗り継ぎが不便」という回答が多く、公共交通は存在しても、時間帯による交通空白が生じていることが推察される。

1 近隣市町村に行きたい施設（病院、商業施設など）があるが、コミュニティバスのみでの移動ができない	83
2 路線バス（コミュニティバス含む）から鉄道等他の交通機関への乗り継ぎが不便（乗り継ぎにかかる時間が概ね30分以上）	92
3 路線バス（コミュニティバス含む）が必要な時間帯に運行していない	131
4 バス停／駅が遠い（バス停まで500m以上又は駅まで1km以上）	70
5 タクシーを呼んでも概ね30分以内に配車されないことが多い	30
6 特に困っていない	149
7 その他（問1－2で具体的に入力してください。）	34

<年代別グラフ>

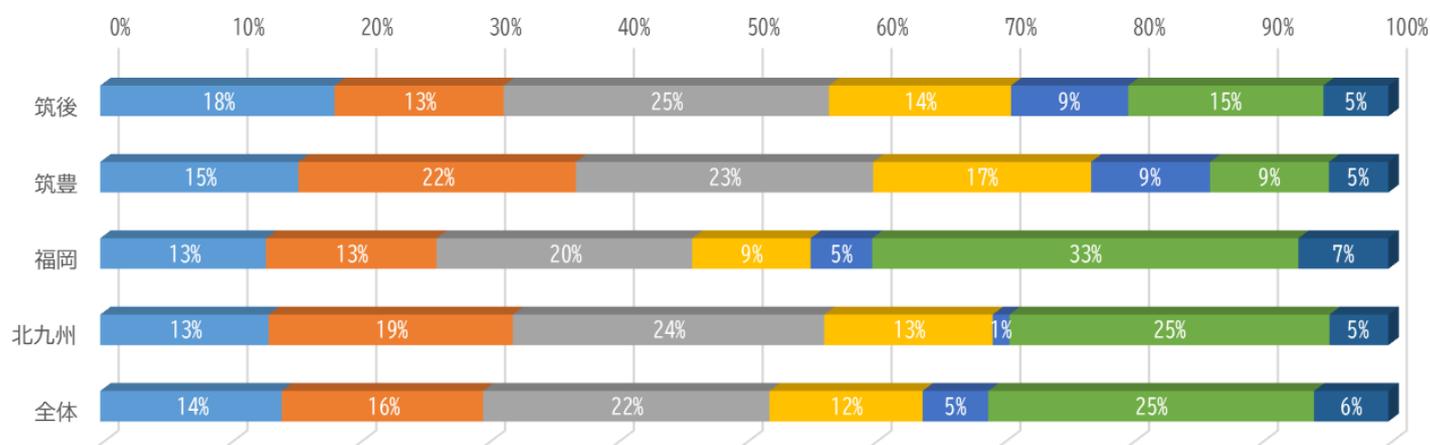
年代別では10代や70歳以上に「①行きたい施設にコミバスのみでの移動ができない」と回答した割合が高くコミバスでの移動需要に期待が持てる



- 1 近隣市町村に行きたい施設（病院、商業施設など）があるが、コミュニティバスのみでの移動ができない
- 2 路線バス（コミュニティバス含む）から鉄道等他の交通機関への乗り継ぎが不便（乗り継ぎにかかる時間が概ね30分以上）
- 3 路線バス（コミュニティバス含む）が必要な時間帯に運行していない
- 4 バス停／駅が遠い（バス停まで500m以上又は駅まで1km以上）
- 5 タクシーを呼んでも概ね30分以内に配車されないことが多い
- 6 特に困っていない
- 7 その他（問1－2で具体的に入力してください。）

<地域別グラフ>

地域別では「⑥特に困っていない」と回答した人の割合が福岡地域や北九州地域では高いが、筑後及び筑豊地域では低いなど、多少の地域差が伺える



- 1 近隣市町村に行きたい施設（病院、商業施設など）があるが、コミュニティバスのみでの移動ができない
- 2 路線バス（コミュニティバス含む）から鉄道等他の交通機関への乗り継ぎが不便（乗り継ぎにかかる時間が概ね30分以上）
- 3 路線バス（コミュニティバス含む）が必要な時間帯に運行していない
- 4 バス停／駅が遠い（バス停まで500m以上又は駅まで1km以上）
- 5 タクシーを呼んでも概ね30分以内に配車されないことが多い
- 6 特に困っていない
- 7 その他（問1-2で具体的に入力してください。）

問1-2 問1で「7」を選んだ場合は、その内容を具体的に入力してください。

【回答内容】

1. 電車、路線バスの本数やアクセスに関する意見

- ・ 目的地までバスで行こうとしても乗り換えなければいけないことが多く、乗り換えるためにバス停からバス停まで歩かなければいけなかったり本数が少なく待ち時間が長かったりして不便
- ・ 学区あたりのバスが少なくなったことで、生徒はタクシーや保護者の車を利用せざるを得ず、近隣住民はバスが利用できずに不便を感じている。また、学校前の車両量が増え、高齢歩行者にとって「危ない」と感じる状況になっている。
- ・ そもそもどういう経路、時間で運行されているのか分からない。
- ・ 1日の本数が少ない、電車の時間に微妙に合っていない（あと少し早ければ間に合う）
- ・ 行橋市に住んでいるのですが、北九州へ行く手段が電車しかなく、駅まで行くのも時間がかかる為、小倉方面へも出るバスが欲しいです。
- ・ 本数が少なく、行きたい時間帯に合わせられない。
- ・ 福岡県の市外で西鉄バスが廃止になった後にコミュニティバスが運行されていない地域が増えている。
- ・ 筑肥線の唐津行き本数が極端に少ない
- ・ バスはたくさん走っているが、全然時間通りに来ないので時刻表があてにならない。
- ・ 急行バスが多く、自宅近くのバス停には止まらないので朝は特に待ち時間が長い。暑いのにバス停に屋根もベンチもない。ここだけない。前後はある。ツライ。
- ・ 最寄りのバス停から都市高速経由天神行きのバスしか止まらなくなったので、もっと近くの香椎近郊に行く際とても不便になり、かかりつけの病院を変えました。
- ・ 西鉄バスの運行が、利用者の利便性に関係なく減便続きで不便になりがち。
- ・ 私の住んでいる所はあまり不便はありませんが、実家のある福岡市南区で那珂川市近くは、バスの本数も減り、どこに行くにも天神に行かなくてはならないので、目的地によっては乗り継ぎなど時間がとてもかかり不便を感じています。
- ・ 旧八女市内であるが、未だ自宅の近くにバスが通っていない。そのためバスの利用自体が難しい。近くにコンビニはあるが日常的な買い物ができず車がないと不便。

2. タクシーに関する意見

- ・ タクシーがつかまらない
- ・ 朝早いと予約を断られ、空港までいくのにとても不便に感じた
- ・ 23時以降に電車で帰宅するとタクシー会社に電話してもドライバーが少ないのか配車されない
- ・ 最近郊外に引っ越したのだが、タクシーの流しがないため急遽乗車したいとき、配車アプリを開くもエリアで配車不可であることが不便だ。
- ・ 夜中の遅い時間にタクシーが捕まらない

3. コミュニティバスに関する意見

- ・ コミュニティバスを利用したいが路線図がわからない
- ・ コミュニティバスの運行時間が短い。6時から24時くらいの運行時間があつたら助かる。
- ・ 大刀洗町の西原で高齢者に聞くと「免許返納したいが、コミュニティバスはどこをいつ走っているかわからない。タクシーは前日に予約しないと配車してくれない。」と聞きます。町のホームページやら、町の広報誌ではうまくいっていると書いてあり、ギャップがありすぎてびっくりする。もっと現地に密着した取材が必要。

4. 運賃・料金に関する意見

- ・ バス運賃の値上がり。区間によって割高になることもあり、算出基準が不明瞭。

5. サービス・利便性・安全に関する意見

- ・ (西鉄)バスの利用がベビーカーの幼児連れには非常に厳しい。
- ・ 子供の保育園が住まいから遠いため、当時2歳の子供をベビーカーに乗せて、バスを利用して保育園まで送迎をしていました。しかし朝夕のバスは渋滞もあり時間通りに来ない、また非常に混んでおりベビーカーを置くスペースは殆どなく周りの目が非常に気になり、またベビーカーをバスに乗せるには非常に労力を使うため、結局自転車を購入しました。
- ・ 西鉄電車通勤ですが、近年、急行や特急の停車駅が増え、電車遅延や体調不良者が続出しております。
- ・ 南福岡駅の相生踏切は、列車本数が多く、特に車両基地への入出庫や車両の入れ替えで踏切を塞ぐ時間が長いため不便
- ・ 西鉄の社員様には、朝ラッシュ時に私服で大牟田発の急行に乗車いただきたいです。
- ・ 学生さん達があまりの混み合い方に「命の危険を感じるよね」とおっしゃっております。

6. 補助金・制度に関する意見

- ・ 今は自家用車での移動ですので問題ありませんが、そろそろ免許返納を考えております。そうした時の路線バス等の補助等の対策の必要性を感じております。こうすることにより免許返納も増加し、高齢者による事故率低減にもつながるのではないのでしょうか。

7. 特に困りごとはない(将来や他者の心配ごと含む)

- ・ 今はまだ、車・地下鉄・JR等で移動できている為不自由さを感じてない
- ・ 現在、車を運転しているので自分自身は困っていないが、郡部のため、車を持っていない人は1～5、すべてに該当しているようである。
- ・ 現在は困っていないが、高齢になり免許証返納した時に、バス停まで歩いて行けず困ることになるのではと思っている。実際にご近所は独居の高齢者が多く、タクシーを呼ばれていたりするため、経費を抑えるためにもバスが近くを通っていれば助かると思う。

問2 「バス運転手」という職業にどのようなイメージがありますか。
次の中から【3つ】選んでください。

【回答内容】

全体では、「バス運転手」のという職業に対し、ポジティブなイメージと懸念されるネガティブなイメージが混在している。「運転技術が高い」という回答が最も多く、専門性の高い職業というイメージを持たれていることが分かる。一方で、「重要な仕事だと思うが、自分が職業を選択する際の優先度は低い」「社会貢献度の高い仕事である」「男性や高齢者が多い」「長時間労働・低賃金」といった、重要性を意識しつつも、労働条件等への固定観念が根強いことが伺える。

1 社会貢献度の高い仕事である	175
2 自分の好きなこと（運転）を仕事にできている	35
3 運転技術が高い	236
4 男性や高齢者が多い	147
5 長時間労働・低賃金	142
6 必要とする資格（大型2種免許）の取得が難しい	100
7 重要な仕事だと思うが、自分が職業を選択する際の優先度は低い	167
8 その他（問2-2で具体的に入力してください）	10

<性別グラフ>

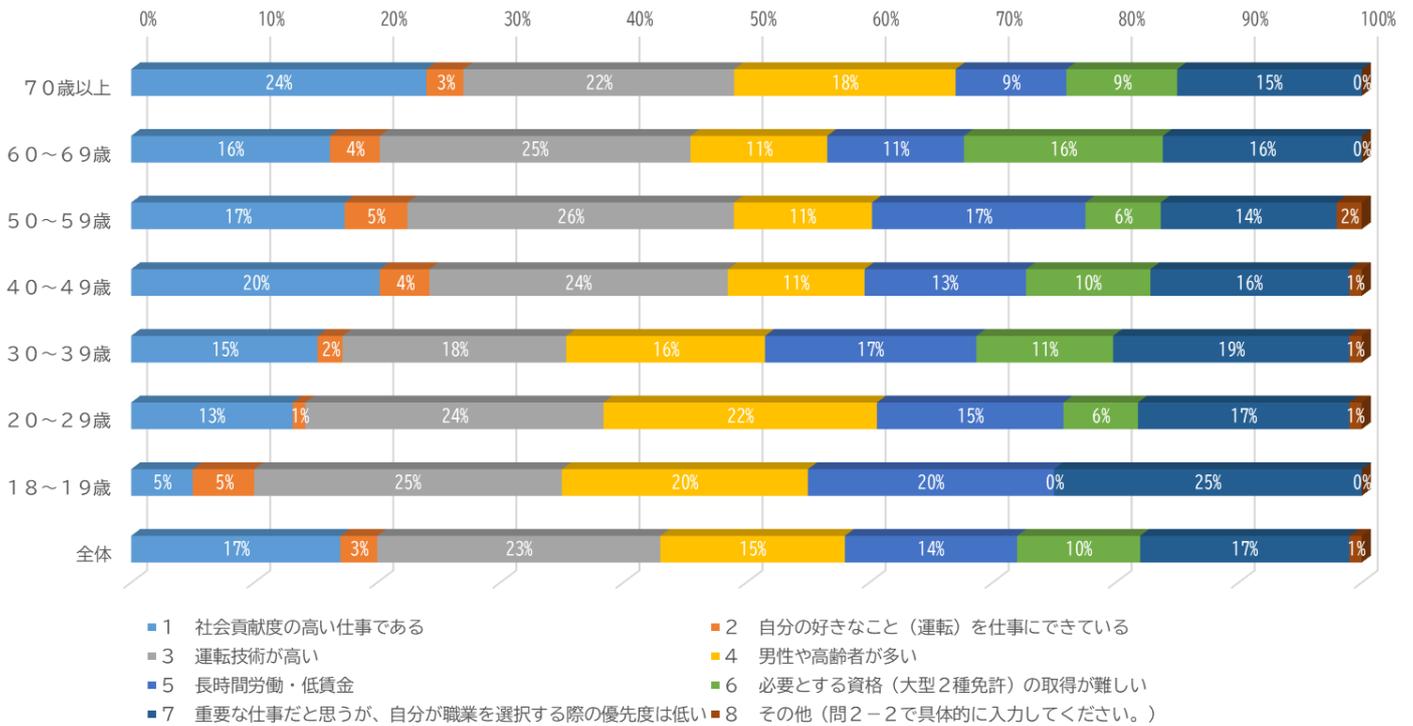
男女ともに「運転技術が高い」というイメージが強く、次いで「社会貢献度の高い仕事である」「重要な仕事だと思うが、自分が職業を選択する際の優先度は低い」というイメージが強い。



- 1 社会貢献度の高い仕事である
- 2 自分の好きなこと（運転）を仕事にできている
- 3 運転技術が高い
- 4 男性や高齢者が多い
- 5 長時間労働・低賃金
- 6 必要とする資格（大型2種免許）の取得が難しい
- 7 重要な仕事だと思うが、自分が職業を選択する際の優先度は低い
- 8 その他（問2-2で具体的に入力してください。）

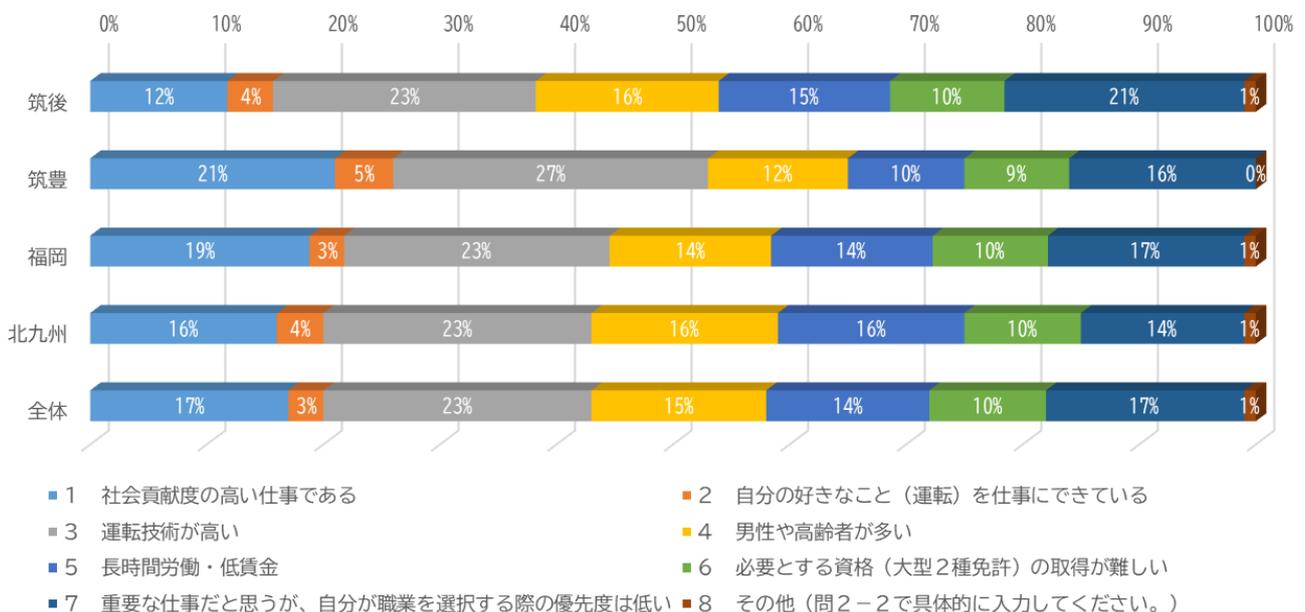
<年代別グラフ>

全ての年代で「運転技術が高い」というイメージが上位を占める。特に70歳以上で「社会貢献度の高い仕事である」という回答が24%と他の年代よりも高く、高齢層がバス運転手の社会的な役割を強く認識していることがわかる。
また、10代から20代では「重要な仕事だと思うが、自分が職業を選択する際の優先度は低い」の割合が高く、若年層は職業選択においてバス運転手を優先しない傾向があることが伺える。



<地域別グラフ>

各地域で「運転技術が高い」が最も多い回答となっている。
特に筑豊地域では「社会貢献度の高い仕事である」が他の地域より低い傾向にあり、地域によって社会貢献度への認識に差があることが伺える。



問2-2 問2で「8」を選んだ場合は、その内容を具体的に入力してください。

【回答内容】

1. 仕事の責任・プレッシャー

- ・大勢の人の命を預かっての運転なので、責任重大。
- ・責任が重い
- ・人の命を預かる大変な仕事。
- ・乗客の命を預かるだけでなく、道路上の歩行者を轢き殺さないように、また車体が他人の車や物に接触しないよう慎重な運転が求められつつ、さらに渋滞のある道路で定時運行まで求められ、プレッシャーが大きく責任の重い職業というイメージ

2. 接客・コミュニケーション

- ・子どもや高齢者など、地域の移動を支える「安心の象徴」というイメージがあります。
- ・乗客とのコミュニケーションや安全配慮など、単に運転するだけでなく「人と関わる接客職」としての側面も強いと思います。
- ・客対応や交通マナーの悪さに日々向き合いクレームもたくさん入れられると聞き頭が下がる思い。忍耐強くないとできないお仕事。
- ・運転もしつつ、手助けの必要な方の対応や、乗客対応(質問やクレーム)を並行して行わないといけないため、負担が大きいイメージを持っています。実際に、対応してくださっているおかげで、誰もが利用しやすさが維持できていると思いますが。

3. 労働条件・待遇

- ・冒頭に「2024年問題」等の影響により、地域公共交通の担い手である運転手不足が深刻化とありますが、県の認識ですか。原因は低賃金で労働に見合った給料に上げるか、いっその事県内の赤字路線バスを県営にして公務員の高い給料で募集すればすぐに解決すると思います。今は運転士さんの労働搾取によってバス路線が維持されていると思えてなりません。
- ・腰に負担がかかりそう

問3 MaaSという言葉を見聞きしたことはありますか。

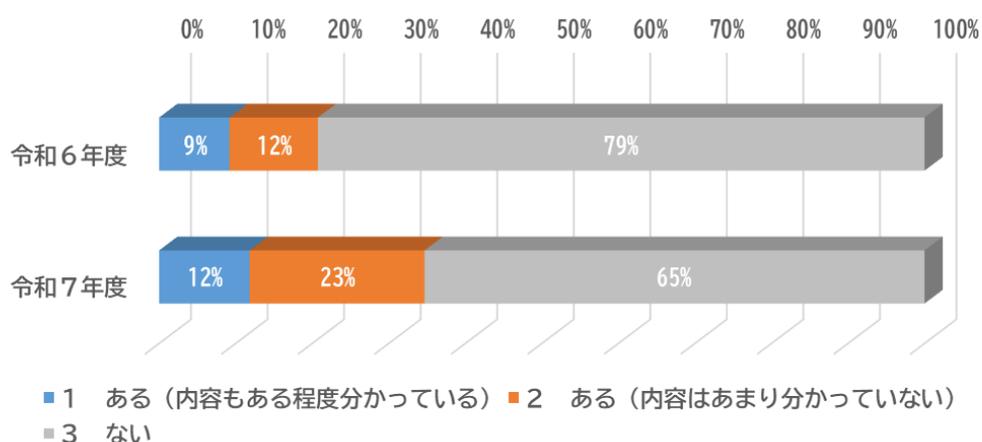
【回答内容】

全体では、35%が「ある（内容もある程度分かっている）」または「ある（内容はあまり分かっていない）」と回答しており、昨年度と比較すると、14%上昇している。

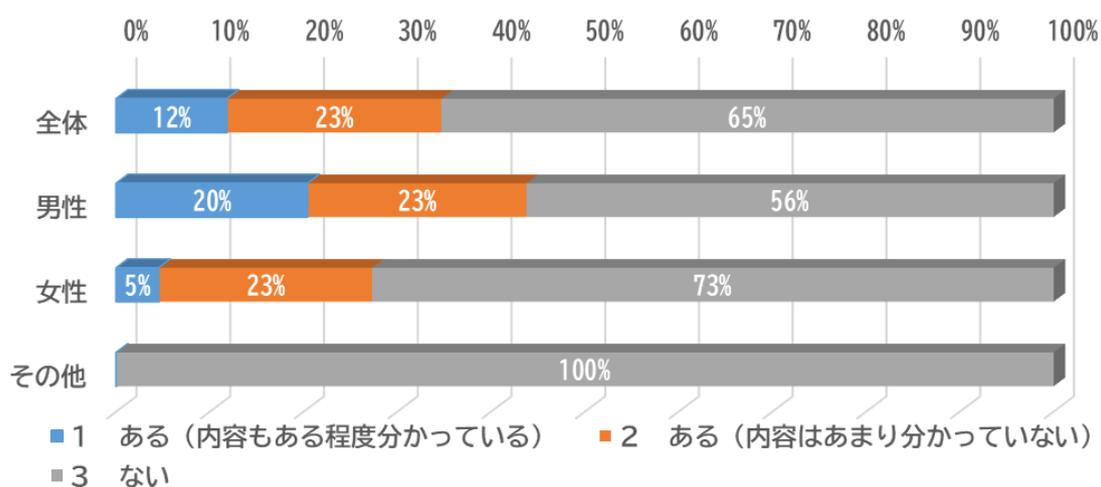
性別で見ると、女性と比較して男性の方が見聞きしたことがあるという回答が多く、年代別で見ると、30代において、見聞きしたことがあるという回答が最も多かった。

また、地域別で見ると、北九州地域・福岡地域では、見聞きしたという回答が比較的高い結果となった。

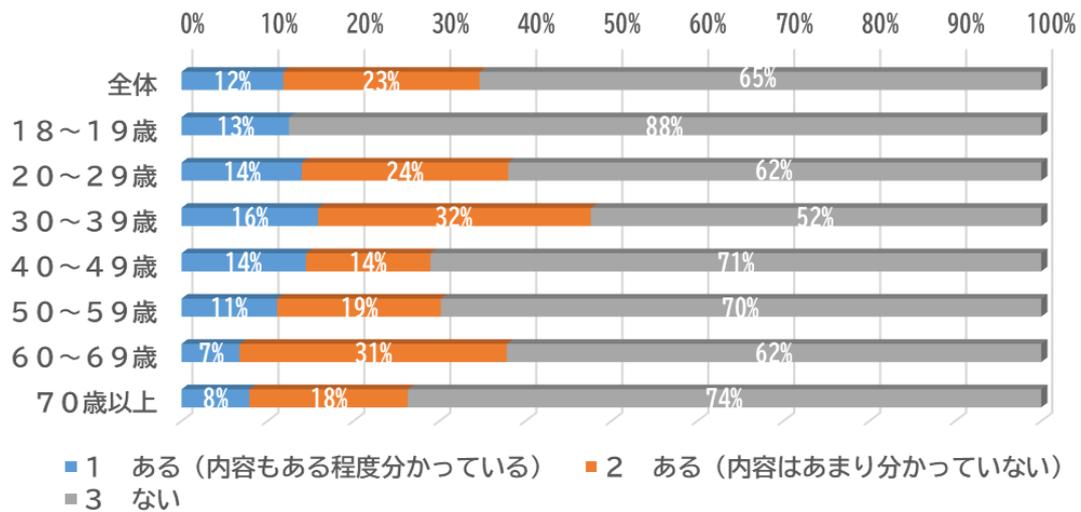
<令和6年度との比較>



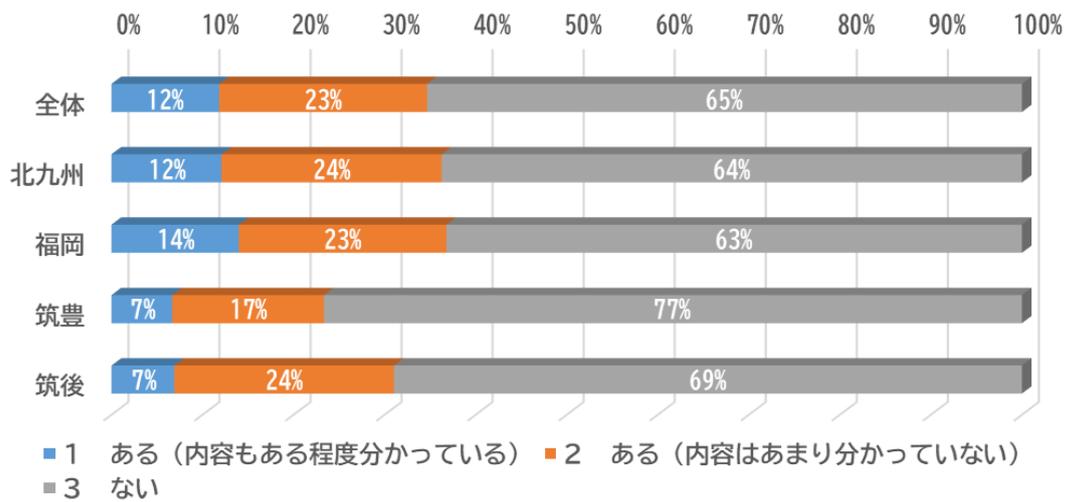
<性別グラフ>



<年代別グラフ>



<地域別グラフ>



問4 MaaSアプリ「my route」を知っていますか。また、ダウンロードや利用をしていますか。

【回答内容】

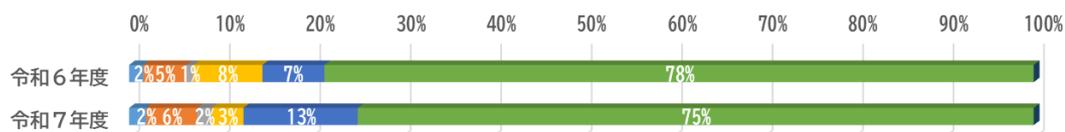
全体では、26%が知っているとしており、昨年度と比較すると、3%上昇している。

性別では、男性は、29%が知っているとしており、女性と比較するとやや認知度が高い。

年代別では、18～19歳、次いで50～59歳において、比較的知名度が高く、いずれも「知っているが、ダウンロードしていない」という割合が高くなっており、一定程度認知はされているものの、利用には至っていないことが分かった。

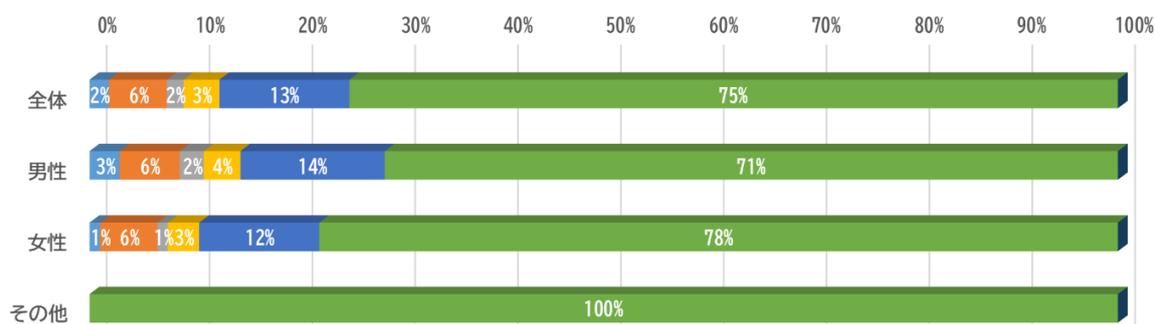
地域別では、福岡地域で29%が知っているとしており、「主にデジタルチケットの購入の際に使っている」という割合が高い。一方、筑後地域においては、知っているとして回答した割合は14%と、4地域の中で最も低い結果となった。

<令和6年度との比較>



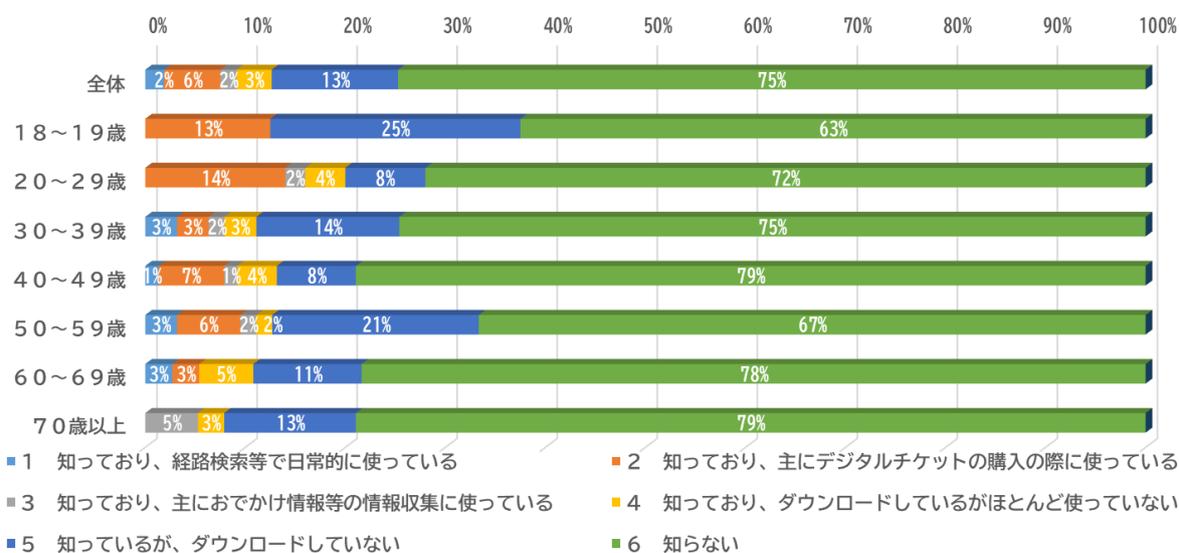
- 1 知っており、経路検索等で日常的に使っている
- 2 知っており、主にデジタルチケットの購入の際に使っている
- 3 知っており、主におでかけ情報等の情報収集に使っている
- 4 知っており、ダウンロードしているがほとんど使っていない
- 5 知っているが、ダウンロードしていない
- 6 知らない
- 7 その他

<性別グラフ>

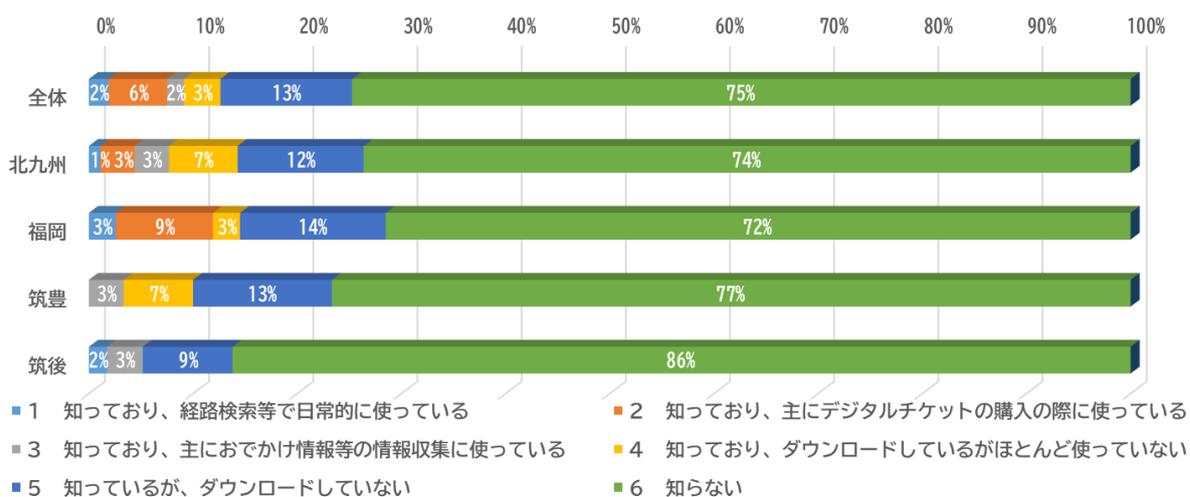


- 1 知っており、経路検索等で日常的に使っている
- 2 知っており、主にデジタルチケットの購入の際に使っている
- 3 知っており、主におでかけ情報等の情報収集に使っている
- 4 知っており、ダウンロードしているがほとんど使っていない
- 5 知っているが、ダウンロードしていない
- 6 知らない

<年代別グラフ>



<地域別グラフ>



問4-2 (問4で「4」又は「5」を選択した方にお尋ねします。)
ダウンロード、利用しない理由は何ですか。(1つ選択してください。)

【回答内容】

「my route」をダウンロードしない・利用しない理由については、「他の経路検索アプリの方が便利だから」という回答が最も多く、昨年度と傾向は大きく変わっていないことが分かる。

	令和7年度	令和6年度
1 他の経路検索アプリの方が便利だから	29	26
2 経路検索後、アプリ内で予約・決済が完結していないから	4	4
3 交通系 IC カードのようなタッチ決済ができないから	5	2
4 魅力的なチケットがないから	10	13
5 その他(問4-2-2で具体的に入力してください)	11	10

問4-2-2

問4-2で「5 その他」を選んだ場合は、その内容を具体的に入力してください。

【回答内容】

- ・以前は利用していたが、自家用車を買ってからバスや電車に乗る機会が減りアンインストールした。
- ・現在、交通定期券を利用しているため、利用していません。が、以前ルート検索をしてみると、ルートが適切ではない気がしました。
- ・こういったサービス内容を理解していないため。
- ・どんなアプリかあまり知らないから
- ・移動は自身の自家用車を使う事が多く、公共交通機関等を使う機会そのものが少ない。
- ・デジタルモバイルを持っていないから。
- ・アプリやスマホが必須になっており、かえって使いづらい。アプリやスマホに依存しない方を好むため。
- ・自家用車を持っているので、必要としていない。
- ・MaaS 提供エリアが住居周囲にないため
- ・配車するよりも結局自家用車が1番速いから。
- ・自家用車で移動がほとんどで、交通機関を使わない

問5 「my route」の利用を促進するためには、どのような改善が必要だと思いますか。
次の中から当てはまるものを【すべて】選んでください。

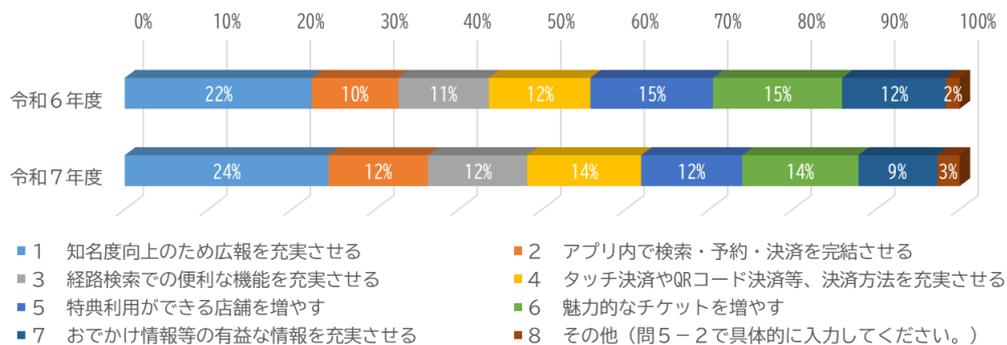
【回答内容】

全体では、「知名度向上のため広報を充実させる」という回答が最も多く、昨年度と傾向は大きく変わっていないことが分かる。

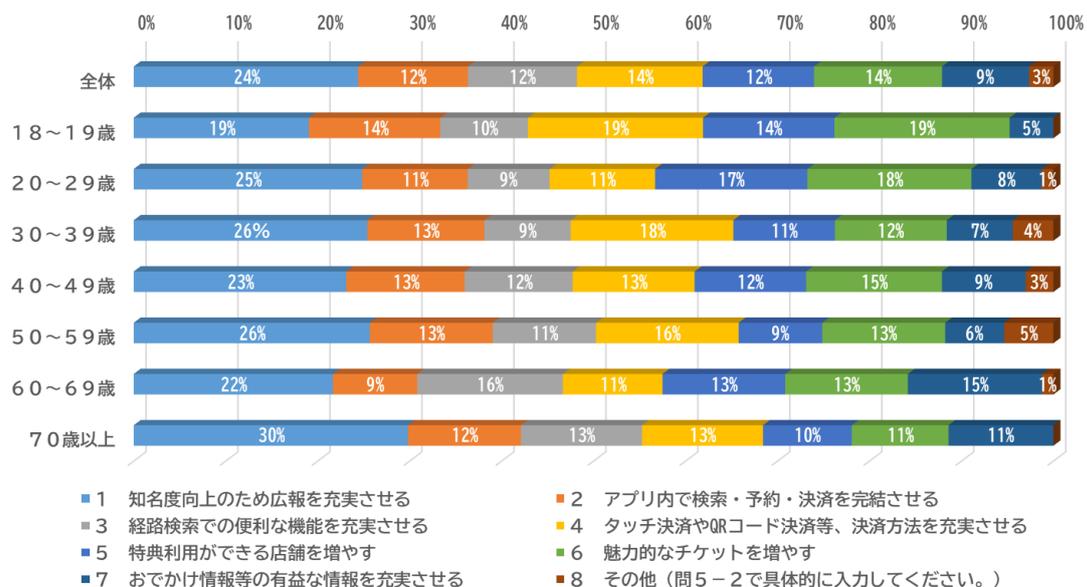
年代別では、20～29歳において、「特典利用ができる店舗を増やす」、「魅力的なチケットを増やす」といったお得さ等の「my route」を利用する動機付けとなる要素を重視する意見が多かった。

地域別に見ると、北九州・福岡地域は、「アプリ内で検索・予約・決済を完結させる」といったシームレスな移動を重視する意見が多かった。

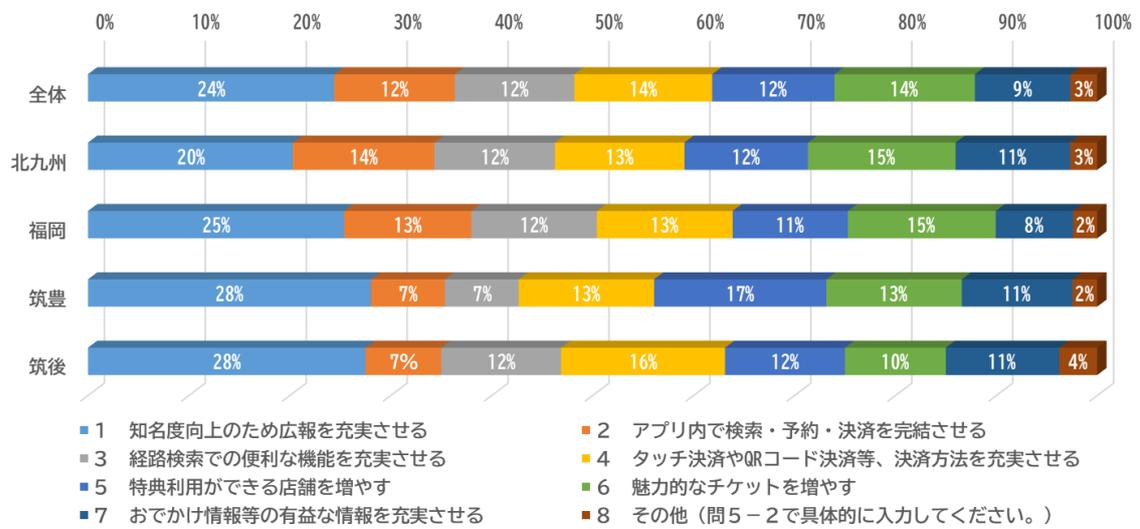
<令和6年度との比較>



<年代別グラフ>



<地域別グラフ>



問5-2 問5で「8 その他」を選んだ場合は、その内容を具体的に入力してください。

【回答内容】

- ・説明を市政だよりや公共機関、県広報で拝見したいです。
- ・多少改善した程度では利用促進は難しいと思います。
私はメインに google マップを使用しているが、便利すぎて他のアプリを使う気にならない。こんな人多いと思います。
- ・高齢者の方がスマホを持っていない場合、一つのスマホで同時に複数分を購入できるようにならないかな。と思っています。アプリを利用する場合、バージョンアップによりスマホの機種により利用できなくなることをないようにして欲しいです。
- ・使った事がない、聞いた事がないのでホームページや広報に載せてほしい。
- ・ご高齢の方々が使える仕組みを作る
- ・私自身を含め、TV をあまり見なく、情報収集は、SNS がメインのため、Tiktok や Instagram のショート動画で短く要約して説明して貰えると目に止まるし、わかりやすい。ロング動画はスキップしてしまう。
- ・そもそも交通便利の良いところに住んでいる為、ダウンロードする必要性を感じない。
- ・経路案内について MaaS というアプリがあることを初めて知りましたが普段は Google map や Navitime などを利用しているので MaaS だからこそその利点が今のところ分からないので一度試しに調べて利用するか検討してみようと思います。
- ・お年寄りでも利用方法が簡単に理解できるように。
- ・障がい者割引に対する対応が必要
- ・高齢者でもわかりやすいアプリにする。老眼でも見やすいわかりやすいアプリにする
- ・Google Map、WEB 上の検索で充分なので、あえて公が主導してやる意味がわかりません。
- ・バンバン SNS やローカルテレビで広告、宣伝してください。私も初めて知ったのでほぼ知名度はないと思います。
- ・サービスそのものの良さ
- ・子育て世代向けに「パパも使えるおむつ替えスペース」や「授乳室あり」などの情報、さらに「ベビーカーで通りやすいルート」表示があると助かります。地域の直売所やお祭りと連動したスタンプラリーやお得なチケットがあると、家族でのおでかけがもっと楽しくなり、地域活性にもつながると思います。
- ・アプリ名を日本語にする
- ・一度も聞いたことがなかったから、バス停やバス車内等もっと目に付く所に沢山貼らないと知名度は上がらないと思う
- ・アプリを実装したスマホを配布する。
- ・どこかに行く時には Google Map で交通機関などを検索している。バスが到着する時間帯や料金、どのルートが早いかなどもスムーズに比較できる。新たなアプリ開発に財源を使用する必要はない！また、アプリだらけで使用しにくく、魅力はない。
- ・問5の選択肢1に重複するが、広報やCMなどで知名度をあげないと知らない人の方が多数だと思う。
- ・登録の簡素化。個人情報漏洩への配慮。

- ・「my route」に依存しない方策を希望します。
- ・チケット購入の動線を分かりやすくする。チケット販売を最優先にして、経路検索やスポット情報提供などのノイズを減らす。
- ・SNS 広告に載せる
- ・「my route」を初めて聞きました。勉強不足で回答できませんでした。
- ・自家用車を利用するより公共交通機関の利用が便利で安いという状態が必要だと思います。
- ・聞いたこともないし県内でも地方だと使えないんじゃない意味がない
大牟田在住ですがタクシーのアプリなんかも一緒。大牟田では利用範囲外
- ・このコンテンツを知らないのも、そもそも改善案が思いつかない。
- ・MaaS を必要とする人に狙ったプロモーション(リスティング広告など)
県民だよりのほか、電車内や駅構内での広告であればあまり費用をかけずに PR 可能。
- ・今ひとつはっきりとしたイメージを持っていないが、やると決めたら一気にスピード感を持って取り組むべき。不具合が起きたら走りながら改善する、くらいの取り組みであるべき。

問6 地域公共交通について、これまでの設問以外に意見はありますか。

【回答内容】

○便数・路線・アクセスに関する意見

- ・ 鉄道やバスの便数が増えれば、もっと利用すると思う。
- ・ 地域によっては、自分たちが子供のころに比べて格段に利用可能本数が減少したため、利用手段としても選ばれなくなってきた。
- ・ 通勤通学以外は利用者が少ないのは理解できるが、せめて1時間に一本はバスを運行してほしい。
- ・ 北九州空港へもバスでしか行けないのはこの時代に合っていないと思う。鉄道もしくは新幹線が直通するようになってほしい。
- ・ 小型のバスが最近走っていて、以前より乗客が多い場合があり、いい考えだと思います。
- ・ コミュニティバスが町内を走っているが、町内循環のみで町外には行かないので、町外であるが近隣でよく利用する JR 駅やスーパーなどには行かず、不便である。近隣の市町村で協力して乗り継ぎの利便性を高めてほしい。

○運賃・料金に関する意見

- ・ 県内に住む人と観光の人との運賃に差をつけて観光する人によりお金を落としてもらいたいと思う。
- ・ 福岡県は、4 地域に分かれているが、エコルカードの金額が地域によって倍以上違う。学生の交通費負担の軽減も必要と感じる。
- ・ 高齢者の免許返納をしない理由としてバスや電車を使っての移動が大変ということがあると思うので、車より便利ではないとは思うけど、車よりもお得なことが多いといいと思う。(スーパーの割引や交通料金の補助など)

○設備・環境への意見

- ・ 最近、SNS で話題の韓国ソウルの『スマートバス停』(空調設備、空気清浄機、Wi-Fi など備えた透明なバス停)を日本も導入してほしい。高齢者の熱中症対策、夜間の防犯性向上につながる。
- ・ 各バス停にちょっとした日よけ、雨よけの屋根が設置されれば良いと思う。利用が多いバス停には設置されているが…高齢者や子供が炎天下の中、バスを待っている姿を見ると心配になる。
- ・ バスは特にベビーカーがあると狭いし段差があるので広げたままは乗れないし、でも赤ちゃんを抱っこしているとベビーカーの開閉や持ち上げも大変だし、乗ったところで置き場がなかったり座れるところもなく片手で抱っこ、片手でベビーカーをおさえて不安定だったり…とても大変でした。ベビーカー置き場があったり、乗せ降ろしがしやすい工夫があったりするといいなと思います。
- ・ 筑肥線の利用がしづらい駅があります。階段の数は多く、エレベーターはありません。駅のトイレも狭く、清潔感もあまりないので使用しづらいです。
- ・ 路線が複雑すぎて地元の間でも慣れないとよくわからない。路線毎に車体色を変えるなど目に見えるわかりやすさがないと、観光の人や子供には抵抗が強い乗り物だと思う。

○サービス・利便性に関する意見

- ・ バスの運転手さんは、運転のみならずコミュニケーション能力やあらゆる気配りを求められる職業であるため、ストレスが掛かりやすい仕事だな、と思っています。運転とサービスを切り離す事が出来たらもっとなり手が増えそうです。
- ・ 毎週の休日、子どもたちをどこに連れて行こうかいつも考えており、そうした家庭は多いと思います。地域公共交通を使った『子連れおでかけコース』や、『雨の日でも楽しめるスポット』『季節ごとの自然体験』などを、バスや電車とセットで提案してくれる仕組みがあると非常に助かります。特に、ベビーカーOKか、授乳室があるかなど、子育て世代が気になる情報もあわせて紹介されていると利用しやすくなります。
- ・ 自動車の普及→公共交通利用者減→公共交通の便数の減少→地域住民の不満という経緯を全国で繰り返しています。公共交通の利用促進を図るには、公共交通を利用してショッピングに来た人への買物割引などの特典を与える、駅からの同心円を描いて、この範囲では乗り継ぎをしても一定額とするなどの政策が必要だと考える。

○高齢者・免許返納に関する意見

- ・ 中山間地高齢者にとっては、『バスはあるが本数が少なく使いにくい』ことが最大の課題だと感じます。そこで、コミュニティバスと商業施設・医療機関とを連携させた送迎サービスの仕組みづくりを検討してはいかがでしょうか。その際、高齢者に限らず、未成年やその保護者など幅広い層も利用できるようにすることで、世代間の摩擦を防ぎ、利用者を増やすことで結果的に本数増加や利便性向上につながると考えます。

○タクシー・新しい交通サービスに関する意見

- ・ 外国では、バスの本数が少ないことが多いのですが、夜はタクシーがバスの代わりをしているようでした。(定期券のようなものを使っていたようです)この例のように、タクシーをバス代わりのように使えるといいのと思っています。
- ・ 地域公共交通機関による整備は財政的にも不可能なので、行政主導のライドシェアやカーシェアリングなどを活用し、個人個人のニーズに対応した交通手段を整えることが重要と考える。
- ・ チャリチャリを使っている人が多く、実際私もよく使っています。交通機関よりも便利なが多い。利用可能台数の偏りがあるため、補充や移動がより促進されればよいと思っています。

○運営と行政に関する意見

- ・ バス運転手の待遇、働き方(土日は交代で休み)、職場環境、カスハラ対応などが改善されれば職業としての選択肢として考える方はめっちゃくちゃ増えると思います(特に就職氷河期世代など)。そこを行政で支援してください。
- ・ 民間企業が公共交通を担うとどうしても収益の部分を考えないといけなくなり、採算が取れない路線の減便や廃線といったことが行なわれます。なので、もっと官民で連携協力をし、AIを活用し、効率的な路線バスの運行に努めてほしいと思います。そして、大型のバスだけでなくコミュニティバスのような大きさのバス、バンのようなタイプの車など地域や時間帯のニーズに応じた車種の活用をすれば良いのではないかと思います。

○アプリ利用に関する意見

- ・ アプリで検索、予約ができるのは便利だが、それを使いこなせる人は若い人や、若い世代が近くにいる(おしえてもらえる)親世代に限定されるのではないか。
- ・ 便の良いところに居るので時間内の公共の乗り物ではあまり不便は感じ無い。タクシー

の夜間利用ができなくて困ったことはある高齢でも安心してできるアプリが簡単に当たり前に使えるといい。運転免許の返納を考えているので、それを後押しする困らない利用があればと思う。まず MaaS アプリを知らなかったのが普及すると困らない人が増えるのかも知れない。

ジェンダー平等・男女共同参画の推進について

【調査の目的】

経済のグローバル化や少子高齢化、人口減少など、私たちを取り巻く環境が急速に変化していく中、誰もが、社会のあらゆる分野で自分に合った生き方を選択し、個人として持つ能力を発揮することができるジェンダー平等・男女共同参画社会の実現は、大変重要です。

福岡県では、「第5次福岡県男女共同参画計画」（計画期間：令和3年度～令和7年度）を策定し、「男女がともに個性と能力を発揮できる豊かで活力ある社会」等を目指し、様々な施策・事業を推進しているところです。また、DV（ドメスティック・バイオレンス）（※）をはじめとする女性に対する暴力は依然として深刻であり、社会的・経済的に厳しい状況にある困難な問題を抱える女性への支援も、ジェンダー平等・男女共同参画社会を実現していく上で重視すべき課題です。

また、令和3年6月には「政治分野における男女共同参画の推進に関する法律」が改正され、男女を問わず立候補や議員活動をしやすい環境整備等を行うため、啓発活動や性的な言動等に起因する問題への対応等さらなる取組が求められています。

こうしたことから、今後のジェンダー平等・男女共同参画を推進する施策を検討・企画する上での基礎資料とするため、県民の皆さんのジェンダー平等・男女共同参画に関する意識や実態を把握させていただき、また、DV被害者を含め、困難な問題を抱える女性への支援は、早期に相談されることが肝要であることから、その相談窓口の周知度等を把握させていただきたいので、御協力をお願いいたします。

※DV（ドメスティック・バイオレンス）とは

配偶者（事実婚を含む）や交際相手からの暴力をいいます。

【DVの事例】

身体的暴力	殴る、蹴る、物を投げつける など
精神的暴力	大声でどなる、無視する、外出・電話を制限する など
性的暴力	性行為の強要、避妊に協力しない など
経済的暴力	生活費を渡さない、借金をさせる など
子どもを利用した暴力	子どもに悪口を吹き込む など

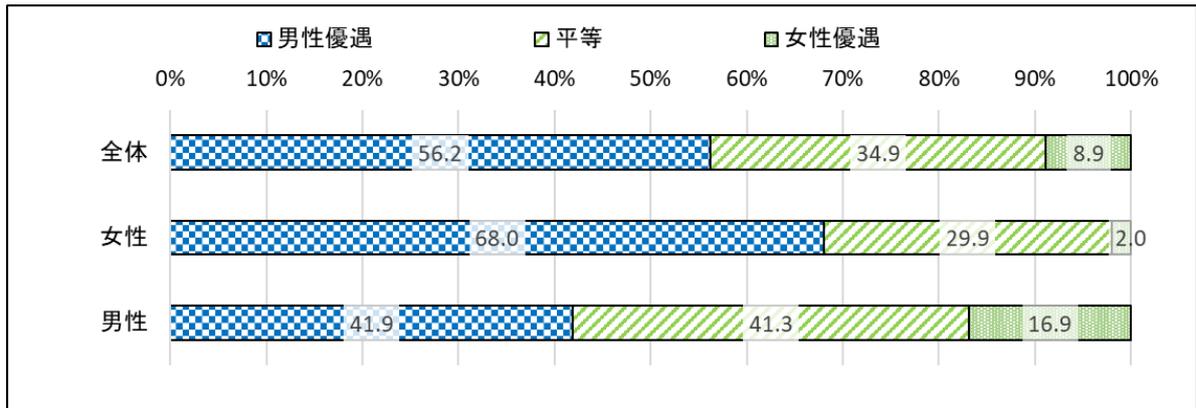
※県内 12 ヶ所の配偶者暴力相談支援センター、男性 DV 被害者のための相談ホットライン、LGBTQ の方の DV 被害者相談ホットラインで、相談を受け付けています。

（人づくり・県民生活部男女共同参画推進課）

問1 あなたは、普段の生活で男女の地位が平等だと感じますか。

【回答内容】

全体では、「男性優遇」と感じる人が 56.2%、「平等」と感じる人が 34.9%、「女性優遇」と感じる人が 8.9%となっている。一方で、男性において「男性優遇」と感じる人は約 4 割程だが、女性においては約 7 割を占めるなど、女性のほうがより強く「男性優遇」と感じていることがわかる。



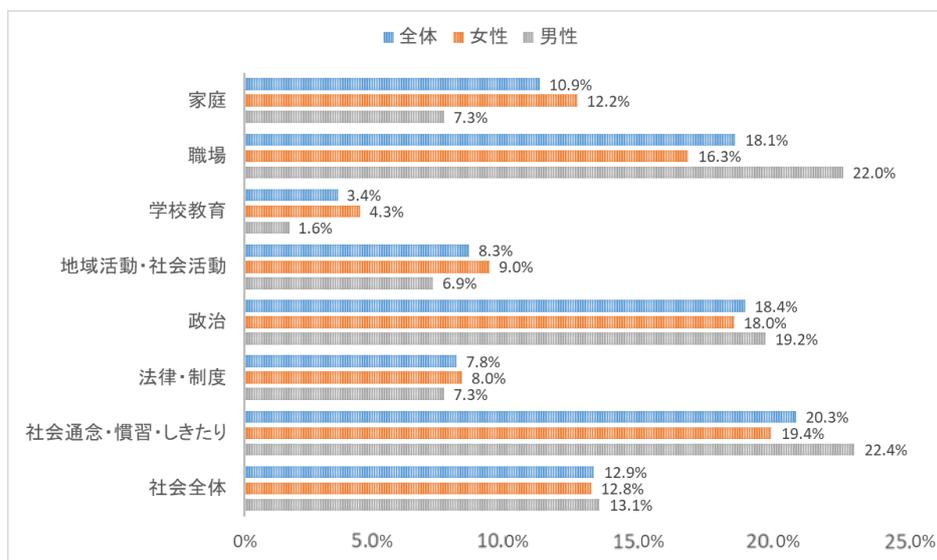
(回答者数：全体 372 人、女性 197 人、男性 172 人、その他 3 人)

問1-2 (問1で「1. 男性優遇」または「3. 女性優遇」と答えた人にお尋ねします。)
あなたは普段どの場面で男性優遇または女性優遇と感じますか。

【回答】

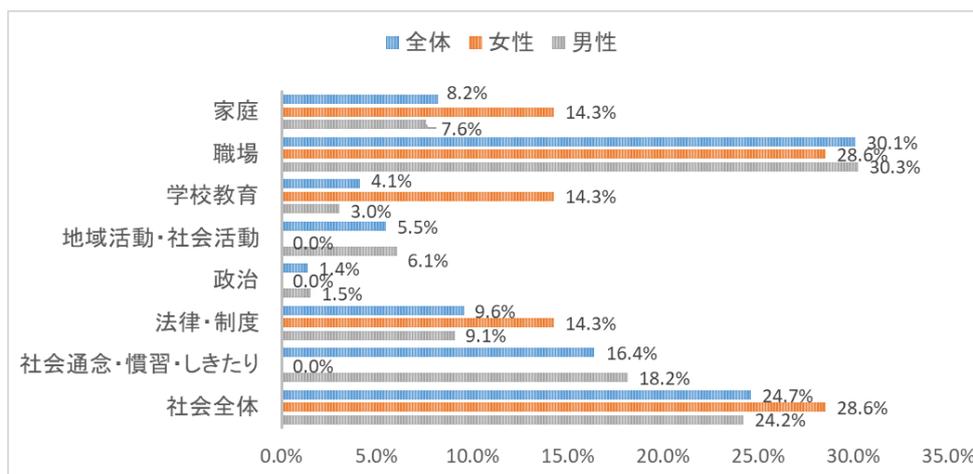
問1で「1. 男性優遇」と答えた人では順に、「社会通念・慣習・しきたり」、「政治」、「職場」を挙げた人の割合が多く、「3. 女性優遇」と答えた人では、「職場」を挙げた人の割合が最も多かった。また、「1. 男性優遇」と答えた人では回答における男女差が小さかったのに対し、「3. 女性優遇」と答えた人では、「学校教育」、「家庭」、「地域活動・社会活動」において男女の回答に大きな差がみられた。

「1. 男性優遇」と答えた人



(回答者数：全体 209 人、女性 134 人、男性 72 人、その他 3 人)

「2. 女性優遇」と答えた人

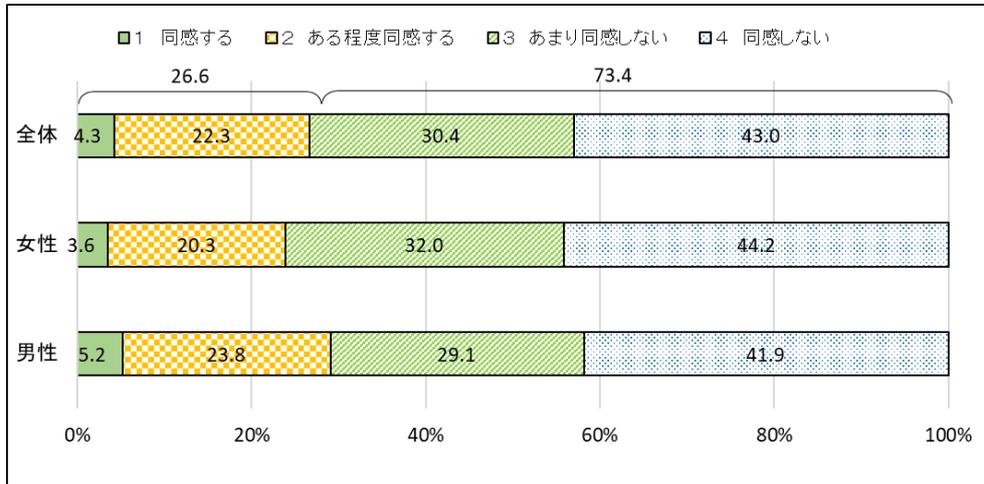


(回答者数：全体 33 人、女性 4 人、男性 29 人)

問2 あなたは、「男は仕事、女は家庭」という考え方についてどう思いますか。

【回答内容】

全体では、「同感する」「ある程度同感する」を合わせた「賛成派」が26.6%で、「同感しない」「あまり同感しない」を合わせた「反対派」が73.4%となっており、性別役割分担意識を容認しない人の割合が多くなっている。

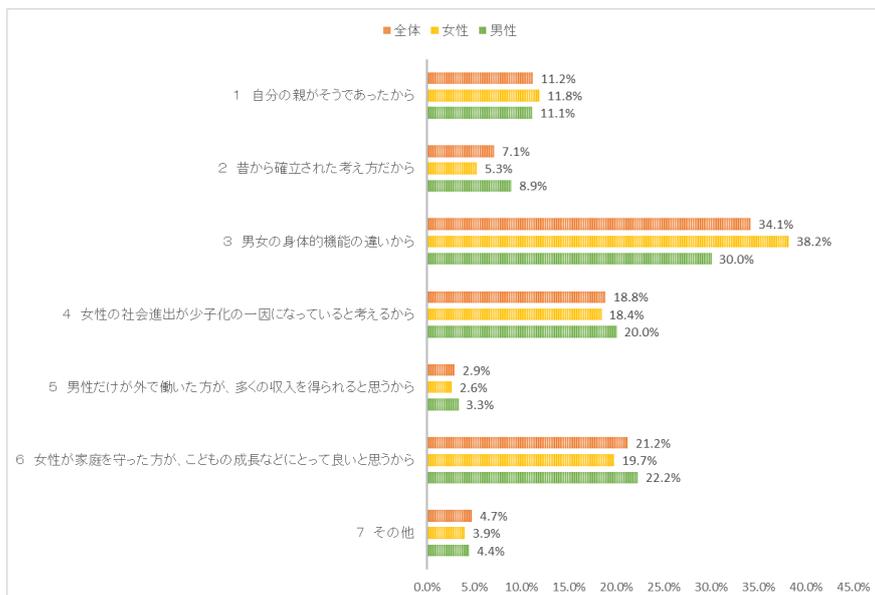


(回答者数：全体 372 人、女性 197 人、男性 172 人、その他 3 人)

問2-2 (問2で「1. 同感する」、「2. ある程度同感する」と答えた人にお尋ねします。) あなたが、「男は仕事、女は家庭」という考え方について、そのように考える理由は何ですか。(〇は2つまで)

【回答内容】

全体では、「男女の身体的機能の違い」を挙げる人(34.1%)の割合が最も多く、次いで、「女性が家庭を守った方が、子どもの成長などにとって良いと思うから」(21.2%)となっている。



(回答者数：全体 99 人、女性 47 人、男性 50 人、その他 2 人)

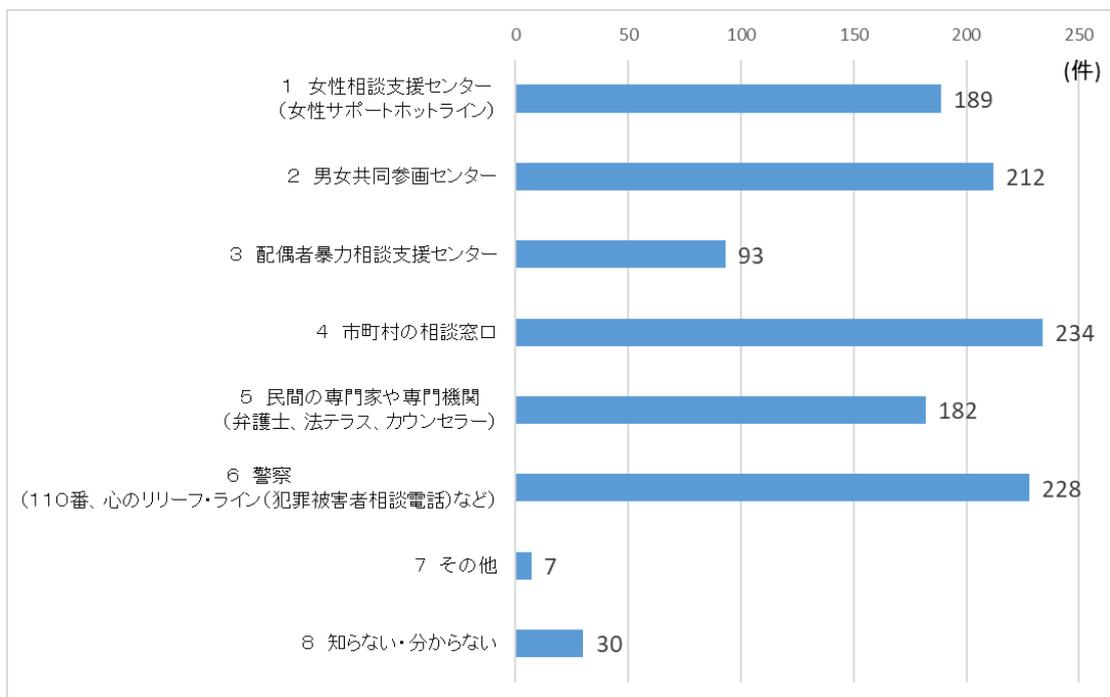
問3 あなたは、困難な問題を抱える女性が相談できる窓口があることを知っていますか。
(複数回答可)

※「困難な問題を抱える女性」とは

生活困窮、性暴力・性犯罪被害、予期せぬ妊娠、DVや虐待、孤立・孤独など、日常生活や社会生活を円滑に営む上で、困難な問題を抱えている方のこと。

【回答内容】

困難な問題を抱える女性が相談できる窓口のうち、最も認知度が高いのは、「市町村の相談窓口」(234件)で、次いで、「警察」(228件)。



(回答者数：全体 372 人、女性 197 人、男性 172 人、その他 3 人)

問3-2 (問3で「7. その他」と答えた人にお尋ねします。)
その内容を具体的に入力してください。

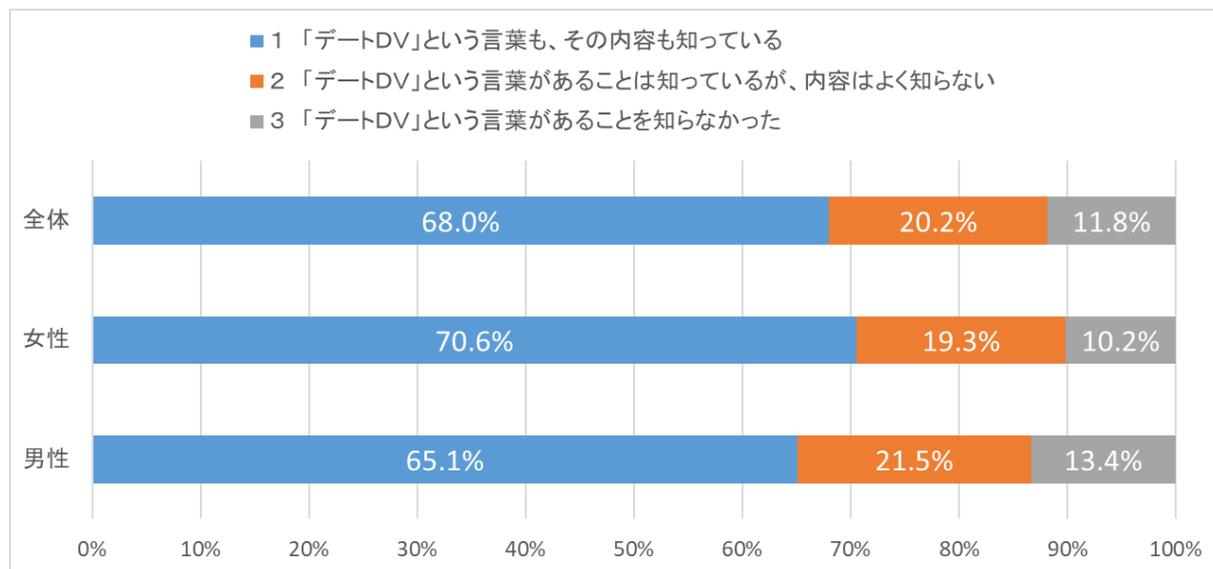
【回答内容 (抜粋)】

- ・NPO や地域の女性支援団体、宗教施設内の相談窓口、医療機関のソーシャルワーカー、LINE やチャットでの相談サービスなど。匿名性が高く気軽に相談できる窓口も重要だと思います。特に若い世代には有効です。
- ・民生委員さんなどやかかりつけの病院などでも良いかと思います。私が医療機関で勤務していることもあり、患者さんからよく相談を受けます。

問4 あなたは、「交際相手からの暴力」(いわゆる「デートDV」)について、知っていますか。

【回答内容】

全体では、「言葉も、その内容も知っている」が 68.0%、「言葉があることは知っているが、内容はよく知らない」が 20.2%、「言葉があることを知らなかった」が 11.8%となっている。

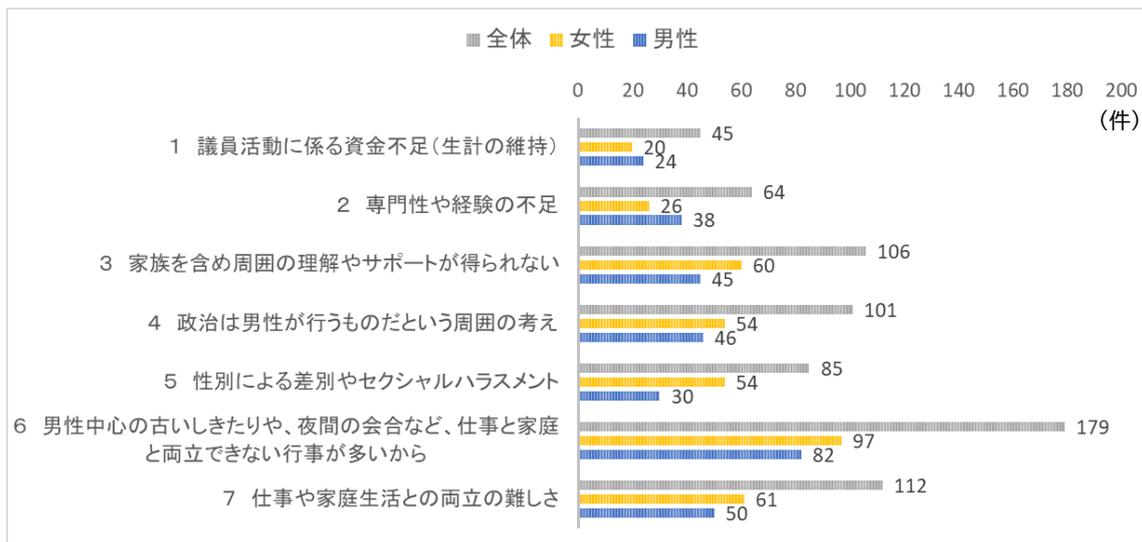


(回答者数：全体 372 人、女性 197 人、男性 172 人、その他 3 人)

問5 政治分野における男女共同参画の推進に向けて、女性が政治に参画する上で、何が課題となっていると思いますか。(〇は2つまで)

【回答内容】

男性、女性ともに「男性中心の古いしきたりや、夜間の会合など、仕事と家庭と両立できない行事が多いから」との回答が最も多く、次いで「仕事や家庭生活との両立の難しさ」との回答が多い。

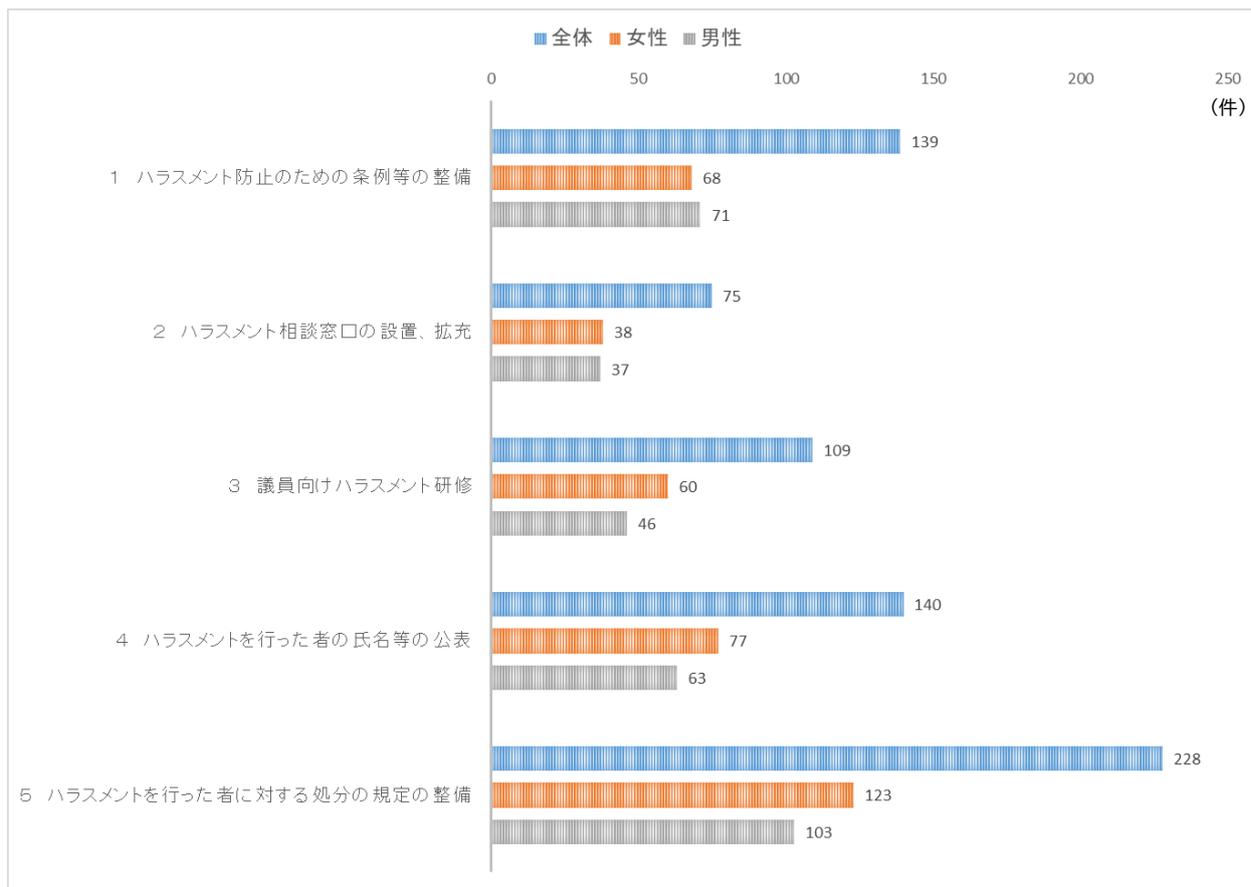


(回答者数：全体 372 人、女性 197 人、男性 172 人、その他 3 人)

問6 政治分野におけるハラスメントを根絶し、女性をはじめ誰もが政治に参画しやすい環境を整えるためには、どのような取組が有効だと思いますか。(〇は2つまで)

【回答内容】

男性、女性ともに「ハラスメントを行った者に対する処分の規定の整備」が最も多く、男性と比較してより多くの女性が「ハラスメントを行った者に対する処分の規定の整備」を望んでいる。次点で「議員向けハラスメント研修」、「ハラスメントを行った者の氏名等の公表」の項目にて男女差がある。



(回答者数：全体 372 人、女性 197 人、男性 172 人、その他 3 人)

問7 ジェンダー平等・男女共同参画の推進について、これまでの設問以外に意見はありますか。

【回答内容】（意見抜粋）

- 制度的な男女格差は減ったが、無意識的な文化や価値観による男女格差が問題だと思う。
- 構造上の男女差や体格の違いがあるため、本当の平等について悩むことがある。
- 性別ではなく人間として立場に立ち、話を聞き、一緒に答えを出せる場所が増えてほしい。
- 男女共同参画の推進には相談窓口の多チャンネル化や広報活動の強化が必要だと思う。
- 子育てにおいて男性も女性と同様に休める環境づくりが必要だと思う。
- 男女平等を語る際には、生物学的な違いを認めた上で進めることが重要だと思う。
- 人口減少社会では男女問わず良い意見を取り入れ、スピード感を持って取り組むべきだと思う。
- 女性議員が少ないのは性別役割分業的な価値観が根強いことが原因だと思う。
- 男女ともに働くことが当たり前になりすぎて、専業主婦（主夫）の希望が尊重されにくい社会だと感じる。専業主婦（主夫）の存在を認め、扶養控除や手取りを充実させるべきだと思う。
- ハラスメントを防ぐためには、自分の言動が他者を傷つける可能性を常に意識することが重要だと思う。
- デートDVへの意識は改善されてきたが、昔ながらの風習や考え方が残る地域もある。
- SNSで九州の男尊女卑文化が皮肉られることがあり、ジェンダー平等には啓発教育が必要だと思う。
- 男女の得意分野の違いは認めつつ、妊娠出産など女性特有の課題を義務教育で学ぶべきだと思う。
- 女子枠を設けるなら男子枠も設けるべきで、女子学生だけが優遇されているように感じる。

＜自転車安全利用について＞

【調査の目的】

令和5年4月1日に改正道路交通法が施行され、すべての自転車利用者について、乗車用ヘルメットの着用が努力義務となりました。

事故の被害を軽減するためには、ヘルメットを着用し頭部を守ることが非常に重要です。

本県においても「福岡県自転車の安全で適正な利用の促進及び活用の推進に関する条例」に基づき、自転車の安全利用の促進等を行っているところです(※)。

つきましては、道路交通法や自転車条例の認知度、自転車乗車用ヘルメットの着用などについて、御意見をお聞かせください。今後の施策の参考とさせていただきます。

【活用状況】

- ・自転車乗車用ヘルメットの着用を促進するための参考資料として活用。
- ・効果的な広報啓発を行うための参考資料として活用。

(人づくり・県民生活部生活安全課)

※福岡県自転車の安全で適正な利用の促進及び活用の推進に関する条例では、県民が安心して暮らし、活力ある地域社会の実現に寄与するため、

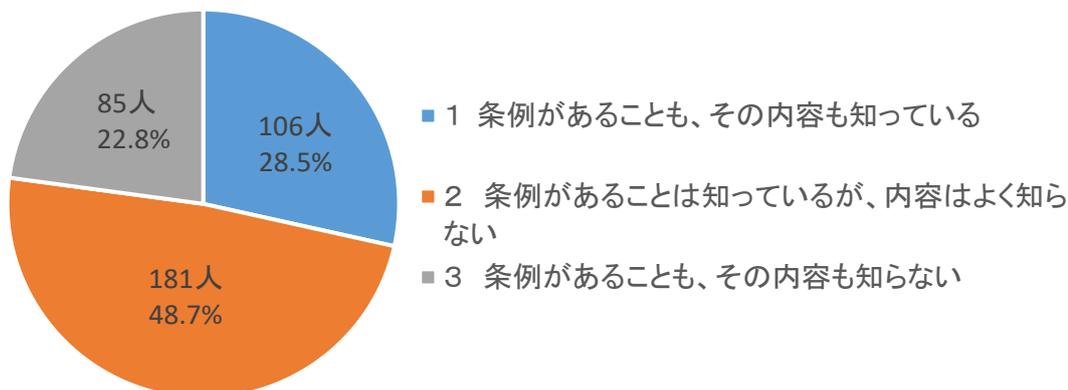
- (1) 自転車の安全利用の促進
 - (2) 交通安全教育の充実
 - (3) 自転車保険への加入義務化
 - (4) 事故の際の負傷者の救護・警察への報告義務
 - (5) 自転車の活用推進
- 等を規定しています。

問1 あなたは「福岡県自転車の安全で適正な利用の促進及び活用の推進に関する条例(福岡県自転車条例)」を知っていますか。

次の中から当てはまるものを【1つだけ】選んでください。

(n=372 選択は1つのみ)

1 条例があることも、その内容も知っている	28.5%	(106人)
2 条例があることは知っているが、内容はよく知らない	48.7%	(181人)
3 条例があることも、その内容も知らない	22.8%	(85人)



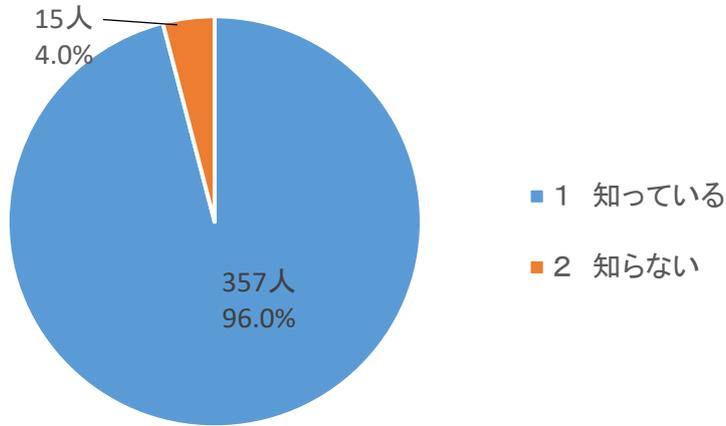
問2 道路交通法により、すべての自転車利用者に対し、乗車用ヘルメット着用の努力義務が課されています。

あなたは乗車用ヘルメット着用の努力義務について知っていますか。

次の中から当てはまるものを【1つだけ】選んでください。

(n=372 選択は1つのみ)

1 知っている	96.0%	(357人)
2 知らない	4.0%	(15人)

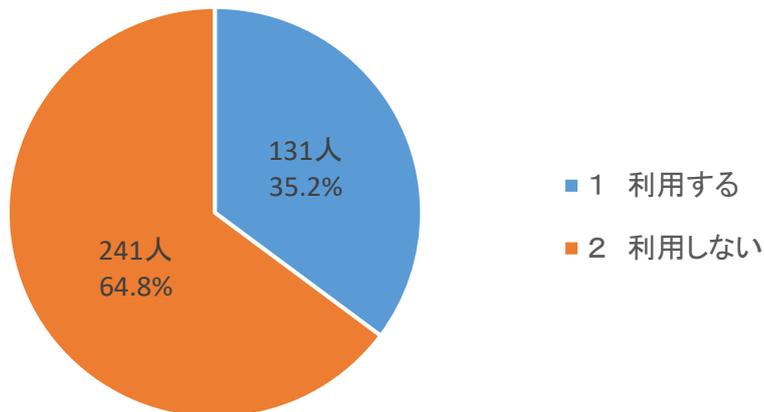


問3 あなたは、自転車を利用することがありますか。

次の中から当てはまるものを【1つだけ】選んでください。

(n=372 選択は1つのみ)

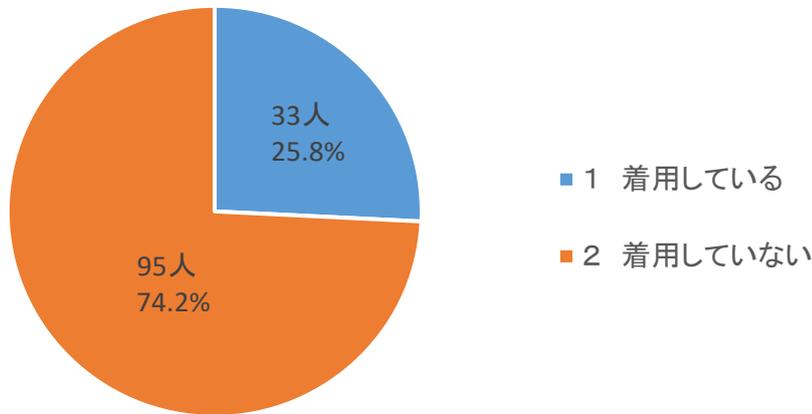
1 利用する	35.2%	(131人)
2 利用しない	64.8%	(241人)



問3-2（問3で「1」を選択された方にお尋ねします。）
 あなたは、自転車利用の際、ヘルメットを着用していますか。
 次の中から当てはまるものを【1つだけ】選んでください。

(n=128※3名無回答 選択は1つのみ)

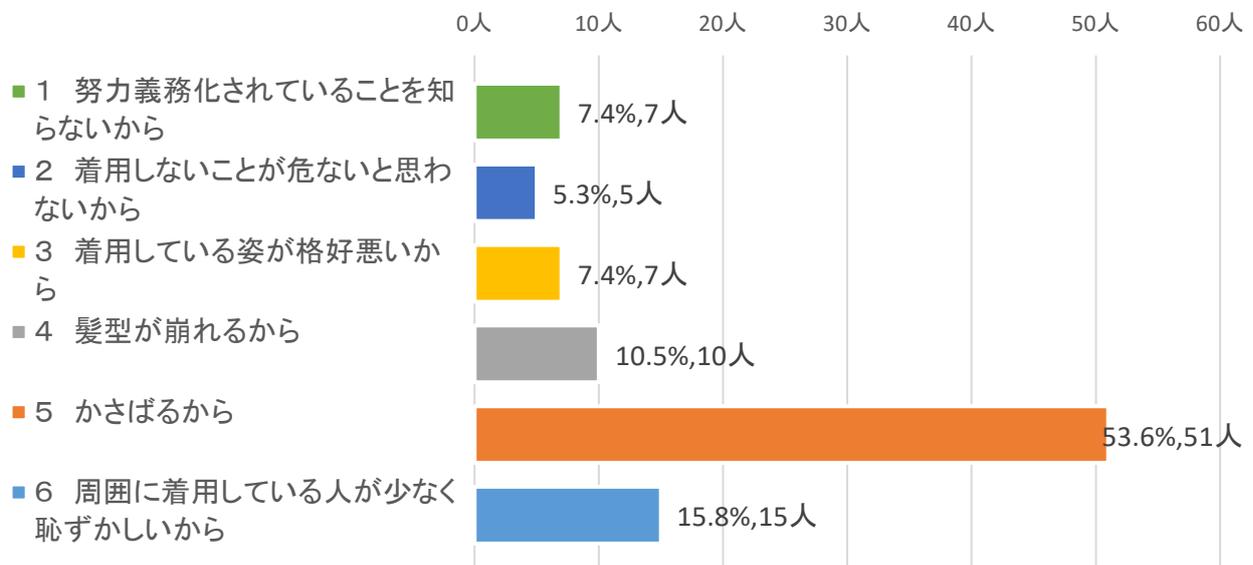
1 着用している	25.8%	(33人)
2 着用していない	74.2%	(95人)



問3-2-2（問3-2で「2」を選択された方にお尋ねします。）
 自転車利用の際にヘルメットを着用していない理由について、次の中から最も当てはまるものを【1つだけ】選んでください。

(n=95 選択は1つのみ)

1 努力義務化されていることを知らないから	7.4%	(7人)
2 着用しないことが危ないと思わないから	5.3%	(5人)
3 着用している姿が格好悪いから	7.4%	(7人)
4 髪型が崩れるから	10.5%	(10人)
5 かさばるから	53.6%	(51人)
6 周囲に着用している人が少なく恥ずかしいから	15.8%	(15人)



問3-2-3 (問3-2で「2」を選択された方にお尋ねします。)

自転車乗車中に事故に遭い、亡くなられた方の約半数が頭部に致命傷を負っていた、また、ヘルメットを着用していない場合、頭部への衝撃は約3倍というデータがあります。

このような危険性に関するデータがあることについて、あなたは知っていますか。

次の中から当てはまるものを【1つだけ】選んでください。

(n=71※24名無回答 選択は1つのみ)

1 知っている	64.8%	(46人)
2 知らない	35.2%	(25人)

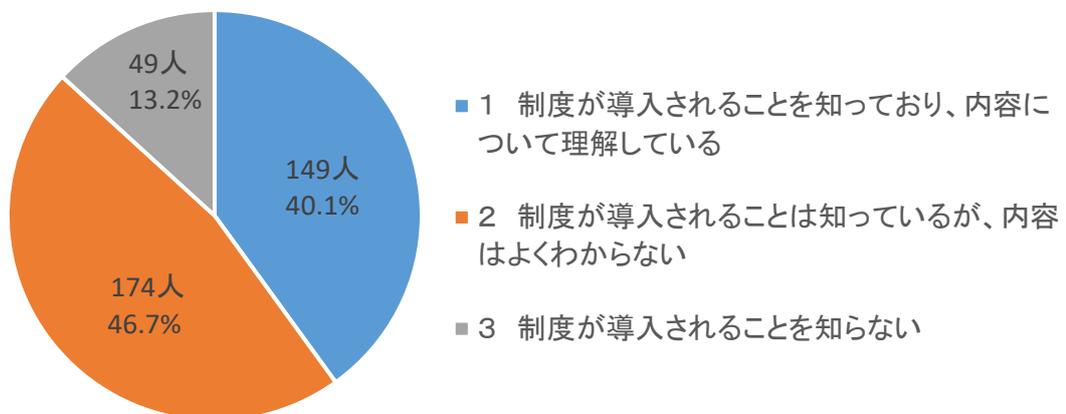
問4 令和8年4月1日から、自転車の交通違反に対する反則金制度(青切符制度)が導入されます。

あなたは、この制度についてどの程度知っていますか。

次の中から当てはまるものを【1つだけ】選んでください。

(n=372 選択は1つのみ)

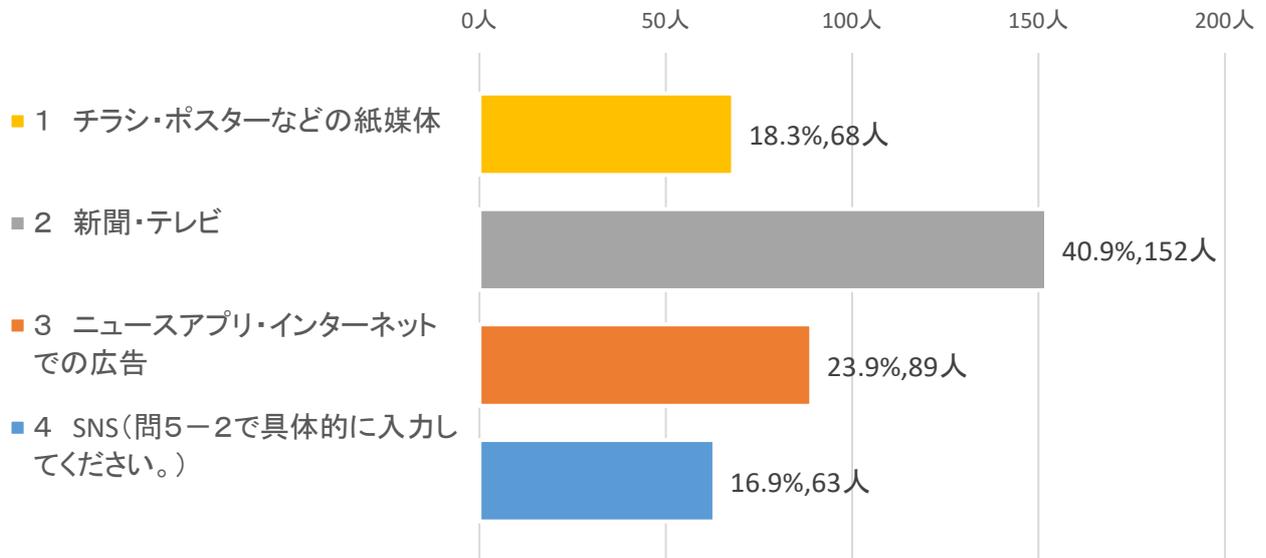
1 制度が導入されることを知っており、内容について理解している	40.1%	(149人)
2 制度が導入されることは知っているが、内容はよくわからない	46.7%	(174人)
3 制度が導入されることを知らない	13.2%	(49人)



問5 自転車ヘルメット着用の必要性や青切符制度などをはじめとした自転車の安全利用について広報・啓発するためには、どの媒体を活用することが適していると思いますか。
次の中から最も当てはまるものを【1つだけ】選んでください。

(n=372 選択は1つのみ)

1 チラシ・ポスターなどの紙媒体	18.3%	(68人)
2 新聞・テレビ	40.9%	(152人)
3 ニュースアプリ・インターネットでの広告	23.9%	(89人)
4 SNS(問5-2で具体的に入力してください。)	16.9%	(63人)



問5-2 (問5で「4」を選択された方にお尋ねします。)

問5で「4」を選んだ場合は、その内容(LINE、Xなど)を具体的に入力してください。

Instagram、Xなど比較的若い世代が利用する媒体
X
X
LINE、Instagram
TikTok
Instagram(若い世代にとって身近で、自転車に乗る10~30代へのリーチ力が高いと感じます。LINEよりも広告色が弱く、ユーザー投稿やストーリーズによる自然な啓発ができるため、「押しつけ感」が少なく効果的だと思います。)
LINEニュース、YouTube広告等
自転車を使用するのは若者世代が多いと思われる。 なので、周知・認知するためにも、x・Instagramなどで広告を出した方がいい。
Xや他SNSでの投稿を定期的にする 電車やバスの電光掲示板に表示
TikTok、X、Facebookなど様々なものを利用しては
若い方達や外国の方々に、一番知らせる必要があるのではないかと感じています。instagramやTikTokでしょうか？
YouTube X Instagram
Tiktok,Instagram
自転車に乗るのは、主に若者というイメージがあり、SNSを通して訴えた方がいいのではないかとと思う。いっそ、アイドルやアイドルグループにコマーシャルに出てもらってはどうか。ヘルメットをかぶったらとてもかっこいい絵になるとかいいと思うのだが。社会貢献ということで、出演料は安価で。
X,TikTok
LINEやInstagram
テレビが主な情報源の自分は割と目にする機会があったので、テレビを観ない若者のためにあらゆるネットを活用したら良いのではないかと思います。
LINE,X
危険な自動車運転をしている世代は若年層が多いと感じるため、XやInstagram、TikTokが適当と思う。
YouTubeやショート動画などを通じて「取締りどのように行われている様子・違反切符が切られる様子」を動画発信するのも一案です。この手の動画に関しては、若者層やSNSとの相性がとても良いです。(炎上します)高齢者には、公民館だよりでの講習会が良いと思います。
TikTokやYoutubeのショート動画で若者に人気があるインフルエンサーにヘルメットを着用してもらい呼びかける。こういった乗り方をすると違反になるよっていう動画を場面毎に作成する。
公的機関がXに投稿する
ラインやInstagram
自転車に乗るのは比較的若い世代が多いためSNSを利用する世代に向けての啓発が良いと思う。
LINE利用時の広告部分、X利用時の広告部分など
自転車を利用することの多い年代は10代までが多いと考えますので、その年代がよく利用しているSNS例えばLINEやX.インスタ、TikTokYouTubeなどで広告を利用し目につくようにしておくといいんじゃないかと思います。 自転車での注意点など調べたり見ようとするタイプの人間はちゃんと情報収集して知ってると思うので、見ないタイプの人間に知らせるためには広告で誰の目にもつくようにしていいと思う。
Instagram

X
LINEやXでの広告は即時性があり効果的だが、YouTubeの短編広告も若年層への視覚的訴求に有効。あわせて、サイクルショップ等での店頭啓発や、学校・保育園経由での家庭内周知も広く届きやすく、世代を問わず意識づけが期待できると思う。
インスタグラム、X、TikTokなど
インスタグラム。 自転車利用は中・高校生や、未就学児の父母に多い印象なので、その世代にうまくアプローチできる情報流通の仕組みを考案できるとよさそうに感じました。
自分はあまりSNSしないのでわからないが、若者がよく利用するSNS
LINEでの配信、TikTokで流す
LINEやX、インスタグラムなどでも良いかと思います。
どの媒体でも良いが、若い人はテレビも新聞も利用しないので、SNSが良いと思います。
Instagram
Instagram
TikTok
LINEは、どの世代でも日本人がもっともアクティブに利用しているから。
最近ではSNSを誰もが利用することが当たり前の時代なので情報が入りやすいから。
LINE、X、YouTube、Instagram
糸島市の公式LINEが一番良いと思います。1番注意深く目に止まるからです。
インスタやTikTokであれば短時間で視覚的に相手に伝わりやすいから。
LINE.X.Instagram
自転車は、若い人の利用が多いため、今後はSNSなどのLINE、Tver、instagramなどで啓発。お年寄りには、オールドメディアでも良いかもしれない。
instagramでの広告
youtube.tiktok.Line Insta
TikTokなど若い世代に知ってもらう必要があると思う
TikTokやインスタなどのショート動画や広告で、違反や罰金などを身近なストーリー風にして載せる事で、若い世代(学生など)誰もが身近にあり、具体的に気づききっかけかつ、抑止にも繋がるのではと思いました。
X
x、youtube
X、高校生などが見てもわかりやすいように、イラストメインであるほうが良いと思う。
Youtube、x
可能であればYouTubeの広告などで啓発できればいいのではないか。 InstagramやXなどでは自分の興味ある内容しか見ないと思うため、広告などでどうしても見ないといけない時間を作る方法は有効的である。 テレビは見ることがない家庭も多い。
自転車に乗るのは大人もいますが、学生が多いので目にするのはSNS(X、インスタ、TikTok)だと思う。
TikTokやInstagramなどの縦リールタイプで詳細な説明などは不要で短時間リールを流す
インスタやフェイスブック、ライン
アカウントを友だち登録やフォローしてる人でなくても目に触れる環境作り(有料で広告を打つなど)が必要だと思う。

TikTok、Instagramが若者の情報収集の場になっているから。
高齢の方は行きつけのスーパーなどでチラシを貼るのがいいと思う。

LINE,X,TIKTOK

自治体のSNSでの投稿だけでなく、広告掲載も必要

LINE

自転車利用の多い若者はSNSで訴えかけるのが一番だから

問6 自転車の安全利用について、これまでの設問以外に意見はありますか。

ある場合は、その内容を具体的に入力してください。

<p>私自身、学生の時(今から15~20年前)は自転車をよく利用していましたが、就職してからは車or公共交通機関となり、それ以降自転車を乗らなくなり自転車に関する法律も希薄となっています。実際そのような例が多いと感じます。今の小学生・中学生は学校でも自転車利用に関する学習はするので知識が最新版にアップデートされますが、我々のように「自転車をもう使わなくなった世代」は古い情報のままストップしていると思うので、そのような世代に向けた発信も必要ではないかと思えます。</p>
<p>イヤホン装着、スマホを見ながらの走行は取り締まるべきだが、歩道を走っているのを取り締まるのはやりすぎだと感じる。歩道に上がらないと、危ない場合や、逆走を避けるため歩道に上がることも多い。</p>
<p>自転車で車道を通行することに危険を感じるので、歩道を走行することが多い。人によると思うが、歩道でスピードを出したり乱暴な運転をする人がまだ多くいると思う。自転車を利用することは、健康だし環境に良いし、もっと自転車利用を進めるべきと思うが、歩行者の安全性がもっと図られるとよいと思う。</p>
<p>自転車で歩行者にぶつかりそうになるような運転をする人が多い。</p>
<p>自転車専用レーンの整備</p>
<p>自転車専用道路が脇にある歩道を歩いても、後ろからベルを鳴らしてのいてくれと合図してくる方が多い印象です(特に高齢の方々)。ヘルメットに関して、若者よりも、高齢者の着用率が低いように感じます。新しい約束事を知らない方も多く、受け入れにくいかもしれませんが、自身の命を守るためにも古い考えを刷新する機会があればいいなおもいます。</p>
<p>昔から危ないことは言われていたが、車と同じで車両である以上適切な使用と罰則が必要であると思う。</p>
<p>このアンケートのお蔭で具体的に令和8年4月1日の制度をきちんと理解し幸せ一杯の安全運転を貫こうと思いました。朝晩安全運転お祈りしていますし、警察官だった亡き祖父の遺影を拝し、又県警本部に折あれば、勉強に行きます。更に意識が高まり嬉しいです。</p>
<p>自転車専用道路がない場合に車道を走るのは場所によっては危険だと感じます。自動車を運転中に自転車に気を遣いながら追い越す→信号停車中などに自転車がまた隙間を縫って追い越してくる→また追い越さないといけない…というのが危ないしストレスです。</p>
<p>安全利用を特に若い世代に訴えかける必要があるので、どうすれば拡散できるか有効な方法を考える必要がある。</p>
<p>たしかに自転車は、ヘルメットした方が安全だが、なんでも義務化とかするのはどうかと思う。かぶっても危ないこともあると思う。</p>
<p>歩道での自転車走行やスマホを操作しながらの自転車走行など、自転車側の問題のため法律の制定は確かに必要性を感じます。ただある意味これは行政側からの一方的やり方ともいえます。絶対的に解決すべき問題は、自転車が安全に走行できる道路環境の整備ではないでしょうか。ただ国土が狭いからとか、多大な整備コストがかかるからといった行政側の理由から、あるべき環境の整備が先送りされ、自転車の使用者側のみに規制かけてるように思えます。立法・行政側にこそこの自転車問題は目先の法律整備だけにとどまっておき、大きな社会問題として捉える姿勢が見えないのではないのでしょうか。</p>
<p>外国人が荒れた運転しているのが気になる。</p>
<p>ヘルメットの着用より先に逆走、無灯火、信号無視をなんとか取り締まってほしい。私も自転車乗ってますが、黒い学生服着た無灯火の自転車が逆走して来たらめっちゃ怖いです。</p>

<p>自転車は「車両」として車道を走ることが原則とされていますが、実際には車道の整備状況やドライバーの意識、安全インフラの未整備などから、「車道を走るのは危ない」と感じる場面が多々あります。特に交通量の多い道路や交差点では、自転車利用者も命の危険を感じる場合があります。</p> <p>また、歩道を走ることが一概に悪とは限らず、高齢者や子ども、自信のない方にとっては歩道の方が安全な場合もあると感じます。</p> <p>自転車専用レーンのさらなる整備や、道路幅が狭くレーンが設置できない地域では、柔軟な運用(例：一部歩道走行の容認・表示強化)を検討する必要があるのではないのでしょうか。</p> <p>あわせて、自転車の利用者・自動車の運転者の双方に対する「共存」に向けた啓発活動や、地域に即したルールの見直しも検討いただけると嬉しいです。</p>
<p>自転車の安全利用について、ヘルメットの種類がたくさんありますが、どれを選んだらいいのか教えてほしいです。例えば、自転車用と防災用が一緒になっていたらいいのにとったりします。「自転車用を購入すれば、防災用にも使えます」みたいな啓発があればいいと思います。</p> <p>また、自転車を左側通行とありますが、道幅の狭いところでも歩道ではなく、車道を走る？ことができる道って本当にあるのでしょうか。バスの車内から道を見ても厳しい道がたくさんある気がします。そういう場合は、「こちら」のようなマークがあるか、道路を利用するそれぞれの人たちが理解できる仕組みが必要なのではないかと思っています。</p>
<p>やっとここまで来たかと思っていますが、免許制にしてほしいと思っています</p> <p>自動車学校で初めて知る知識があり、自転車でも重要なことが多いです</p> <p>自転車を買うときに自動車免許を持っていない人には講習をしたり、少しでも事故が少なくなってほしいと願っています</p>
<p>学生はある程度ヘルメット着用している。</p> <p>問題は老人だと思う。</p>
<p>任意保険も努力義務化して欲しい</p>
<p>自転車の死亡事故を減らすにはヘルメットの着用が重要だと考える。</p> <p>全ての方にヘルメットを着用してもらいやすくするために安全性を確保しながらデザイン性や蒸れないなどの着用しやすいヘルメットをメーカーと県民が共同して考える場を行政がセッティングしてはどうか。</p> <p>また、自転車のながら運転も問題となっているためスマホを使用しながらの運転や音楽をイヤホン等で聴きながらの運転の取り締まりを定期的におこなって欲しい。</p>
<p>高校生、外国人労働者の方々、あとサイクリングを趣味にしてる方々に主に周知をお願いしたいです。</p>
<p>歩道の自転車通行のルールがいまいちわからない</p>
<p>原則、車道通行は危険では？路上駐車も多く心配。高齢者と子供は歩道通行は良いとしても。</p>
<p>利用者の意識が自己に都合良すぎると思います。歩道で我が物顔でスピード出したり、スマホや傘をさしていたり、交差点で一旦停止もせず飛び出したり。もっと厳しく対処するべきだと思います。</p>
<p>自転車の交通ルールに付いてもっと周知が必要。</p> <p>基本的に車を運転することが多いが、かなり非常識な自転車運転を見かけることが多い。</p> <p>特に、携帯電話をさわりながらイヤホンしている人が近くを通ると大きく避けるようにしているが、それも違反であることを自転車利用者には特に周知する必要あり。</p> <p>そのためには警察による違反者確認をしてもらいたい。</p>
<p>30年乗ってない事もあり、ルールがよく分からない</p> <p>横断歩道は降りて押して渡るのか？歩行者用を通過してよいか？等</p>
<p>自転車は年に数回しか乗らないので、ヘルメットを購入していないが、早めに購入するようにします。</p>
<p>自転車自体の構造や性能についての規制を厳格にすべきと思う</p>
<p>学生に対する交通ルールの徹底、周知をしてほしいです。</p>
<p>市ごとに、何年生以上から乗っていいというルールがあることに疑問。行橋市は小4から乗れるという事に違和感を感じる。北九州市の友達には自由に乗れているらしい。</p>

自転車の交通マナーも大事だと思う。運転免許講習の時に、自転車についての講習も必須にするとか、試験問題にも出すとかしたらどうか。
また、学校でも、出前授業を積極的にしてはどうか。

何か新しい取り組みを始めたときはキャンペーンをがっつりとやらないと周知は難しいように思う。しっかりと告知をした上で、公道上でヘルメットを被らないものに対しては例外なく罰を与えて因果関係をしっかりと浸透させるべきと考える。

幼児を乗せ自転車を日々こいでいる。北九州市においても自転車ゾーンが少なく、車が寄せて駐車しているケースがある為、車の法制度を強化してほしい。

自転車保険の加入義務化は絶対に必要であると思う。未加入者の罰則規定も必要だと思う。歩道を猛スピードで走る自転車で怖い思いをしたことが何度もある。自転車専用道路を整備し、自転車と歩行者が別になるようにしてほしい。赤信号でも平気で信号無視する自転車にも怖い思いの何度もしている。今後は、取り締まりを強化して、反則金制度も厳格に進めてほしい。そうしないと意味がないし、効果もないと思う。特に通勤通学の時間帯の自転車の通行は特にひどい。集中的に取り締まってほしい。

歩行者として自転車の危険を何度も感じてきた。県内の高校や中学校で自転車安全教育を徹底してほしい。歩道を猛スピードで来る自転車が多く危ないので、高校の登下校時に警察官を配置して現状を知ってほしい。(特に行橋高校付近)

我がマンションの3階から近くの信号のない交差点がよく見えます。とても危険です。信号がないので近所の中学生や高校生は一旦停止のマークを無視して同じ速度で走っています。ヘルメットも重要ですが、もっと厳しく教育することが必要です。

原付や単車などで、車の横をすり抜けるような運転をするものがいて非常に迷惑なのですが、それと同じような動きをするロードバイクの人などの取締と罰則を重くしてほしい。危ない運転をしている自転車は本当に多い。
そのためにも、歩道や車道と別で自転車の専用通路などの整備を進めてほしい。

車の運転中のスマホ使用は違対象ですが、自転車乗用中にも適用していただきたいです。通勤途中に自転車利用の方を多く見かけますが、学生含め社会人のかたもスマホを使用しながらの危険運転をよく見かけます。
いつか事故に発展しかねないような運転を見ると、自身の運転中もヒヤヒヤしますし、巻き込み事故にも気をつけています。

自転車は利用しているが歩道を走るのには歩行者の邪魔になってる。
車道を走るには、車の中に走るには危険がありすぎる。
もっと自転車レーンを作ってほしい。
車道を走れないときは、歩道を走るが道が狭く、でこぼこの道は自転車も歩行者も危険なので整備をお願いしたい。

ヘルメットの着用も重要だと思いますが、自転車の交通ルール厳罰化の徹底をお願いします。歩道走行、スマホ運転、並進、集団走、信号無視など歩行者が非常に危ない思いをしています。特に高校生に対する教育活動の充実をお願いしたいです。特に自宅近隣の県立高校の自転車走行に何度も危ない目に遭っています。

自転車専用道には駐車しない、幅寄せをしない、など自動車運転者にも理解を促して欲しい。

自転車の手軽さが損なわれるのは残念かもしれないが、生身の体を守る為にプロテクターの使用を考える人が増えても良いのではないかと思います。

自転車は、基本的に車道を左側通行というのは、分かるが、年齢や歩道の幅によって例外がある。それがよく分からない。

誰もが気軽に便利に利用してきている自転車なので、教育、ルールの徹底、継続的な啓発活動が必要だと思います。

ヘルメット使用もそうですがイヤホンを使用しながらの運転の危険性をより啓発して欲しいです。

自転車に限った話ではないのですが、「努力義務」の部分については守られることは少ないのではないかと思います。

ヘルメット購入補助金を出して欲しい。購入に3000円補助金をだすなど。自転車店では、5000円もし、ヘルメットが高すぎるから、なかなか買えない。

逆走や信号無視、一方通行違反など、重大な交通ルール違反をする自転車が後を絶ちません。これらの行為は自動車運転者や歩行者にとっても非常に危険であり、事故につながるリスクが高いと考えます。

本当に「安全運転」を徹底させたいのであれば、自転車にも免許制度や講習義務(受講者証の携帯義務化など)を設けるべきだと思います。現状では安全運転の啓発が不十分で、「事故が起こってからでは遅い」という状態が放置されているように感じます。

これらの基本的な啓発を行っていない状況でのヘルメット義務化や啓発物品の普及が「安全」よりも「利権目的ではないか」と疑念を持たれても仕方ないと感じます。

学生に対してはそれぞれの学校で講習会を開く。警察や地域の自治会などと協力して自転車の交通量の多い所での地道な啓発活動を行なう。
そして、スーパーやショッピングモールのような買い物で自転車を利用する人がいる所での啓発活動も行なう。

自転車専用レーンの拡大
夜間・早朝時利用の際における自転車本体への蛍光設備の義務化

マナー違反が多いため、厳しく規制する必要がある。

ヘルメット着用率はどれくらいあるのでしょうか。年齢層により違いがあるかも知りたいです。

道幅が狭いのに歩道が自転車通行可ではないところが散見されますが、そのような道路の路側帯を自転車で通行しないといけなくすると、より一層事故が増えそうだと思います。導入前に1度道幅を見て、歩道を自転車通行可にすべきところはないか検討していただきたいです。

自転車を扱う適性があるか、他都道府県より早く精神鑑定を導入した方がよいと考える。

令和8年4月1日からの自転車ヘルメット着用の必要性や青切符制度については、ラジオでも流してほしいし、区民センターやアミカスのようなところにおいてもポスターを掲示してほしい。場合によっては選挙のような宣伝カーを利用しても良いかも。さらにレジャー施設や映画館など人がよく集まる場所には必須と思う。

自動車だけではなく自転車も、免許まではいかなくとも講習があるといいのではないかと思います。また、自転車ヘルメットの着用は熱中症予防の観点から見ると非常に厳しいです。特に子どもは義務化されても嫌がってむしろ危なかったり、熱中症リスクが高かったりと事故遭遇時の安全性だけで語られるのは難しいと思います。

私は徒歩での移動だけでなく、ロードバイク、原付、車など、さまざまな交通手段を利用しています。そのため、立場ごとの交通ルールやマナーについては自然と意識するようになっていきます。

ただ、福岡に来て感じたのは、交通ルールの意識が全体的にやや低いのではないかと思います。特に若い世代の中には、イヤホンをつけたまま自転車に乗っていたり、平気で逆走してきたりする人をよく見かけます。また、車の運転も全体的に荒めで、横浜に住んでいた頃にはあまり見なかったような危険な運転に出くわすこともあります。

さらに気になるのが、飲酒運転に関するニュースの多さです。首都圏と比べても、飲酒運転に対する意識がまだまだ低いと感じられます。こうした状況を踏まえると、正直福岡で車を運転することには不安を感じる事が少なくありません。

交通ルールやマナーの啓発、特に若年層への継続的な教育・広報活動が、より強く求められていると感じています。また、飲酒運転の根絶に向けた取り組みも、引き続き強化していただきたいです。

歩道が狭い道路の横に狭い自転車通行路が設置されている所では危険を感じる。車走行、自転車走行について「注意」の標識が欲しい。

無灯火、スマホ運転など違反となる運転をしている人が極めて多数です。特に歩道で危険を感じます。重点的に取り締まりをしてほしい。

<p>ヘルメットはどうしても持ち歩きが大変だったり、シェアサイクルを使うと持っていないなかったり、といった点で難しさを感じ、ヘルメットを購入してはいるが日常的には使っていないのが実態である。 自転車の利用に関する危険度については、個々人の差がかなり大きいと思っている。多くの優良な利用者には不便不都合に感じることもあると思うので、なぜこういう決まりができたのか、ということ丁寧に説明していくことが必要と感じる。</p>
<p>出勤や登校に自転車を使う人がよく通る地域に住んでいる。朝など爆走している学生さんがいたりで、非常に危険を感じる。自転車で人に加害してしまう危険性を意識してほしい。</p>
<p>車のシートベルトの時と同じように、今まで習慣になかったものを習慣にするのは難しいので、呼びかけを強化してほしい。町でヘルメットをかぶって自転車に乗っている人を見かけたことはないの、ほとんどの人が義務化されるまではいいかな、と思っていると思う。</p>
<p>学校で自転車の交通ルールの教育(安全運転、危険運転、罰則、事後を起こした場合の影響)の徹底 小学・中学・高校と教育が必要と思います</p>
<p>自転車利用に関わる法改正並びに整備は、利用者のみに関わる問題ではなく歩行者の安全に関わる問題です。恐怖と隣り合わせの歩行など、健康な社会生活を阻害することでもありましょう。</p>
<p>7.8年前までは、メインの交通手段としてよく利用していたが、中央区に引っ越してからは、人通りが多い事やルールの改正など、煩わしさを感じることもしばしば… 交通法規を守るのは当然と考えるが、特に不便を感じておらず、昭和の人間なので、自転車はもういいかなと…</p>
<p>通勤・勤務中や通学で自転車を使う場合、従業員や生徒・学生を守るために企業や学校でヘルメットの着用を義務付けたいと思う。</p>
<p>私は車を運転しますが、時に自転車運転者のマナーについて強い危機感を持つことがあります。また最近許可されたループにつきましても同様で、無謀運転者には事故に対する意識をなんとかしっかりもってほしいです。 残酷すぎる映像はきついかもかもしれませんが、運転免許更新時に拝見するような事故やその後の被害についての動画、教本、体験談集を見てもらう機会があればと思います。</p>
<p>子どもからも容赦無く罰金をとっていくんでしょうか？その罰金は、その後どこに行ってもこの誰のものになるんでしょうか？それは明確に国民がわかる形になってますか？また、小学校などで「自転車マナー教室」を導入すべきだと思います(もう広く導入されてたらすみません)</p>
<p>駐輪場、自転車販売店などに広報チラシを置くこと</p>
<p>大変難しい問題です。自転車で最寄り駅まで乗っていますが、ヘルメットをつけるとしたら、そのヘルメット自体が荷物になることが最大のネックになってしまいます。安全利用については、乗る人が安全運転を心掛けることが、シンプルではありますが重要だと考えます。</p>
<p>特に若者の暴走が怖いです。学生たちが群れて向かってきます。中学生や高校生に学校での指導をお願いしたいです。</p>
<p>交通ルール、マナーを知らずに自転車を利用する人がとても多く危険を感じる。車を運転する人はまだ危険予知を含めルールを守っていると思うが、子供や高校生の自転車は本当に怖い。</p>
<p>自転車マナーは悪いと思う。こちらに向かって来ている時など全く避ける様子が無い。2、3人並んでの走行頻繁にあります。特に外国人。ここは日本でルールがある事を完全に無視した行動です。すり抜け走行は冷や汗が出ます。マナー違反の加害者の通報の簡素化、厳罰化して下さい。</p>
<p>正しい情報をわかりやすく知りたいです。</p>
<p>購入の際の説明やパンフレットの配布を徹底するとよいと思う。 また、シェアサイクルが増えているが、飲酒後とみられる人の利用を目にすることがあり、安全性に不安がある。</p>

自転車は全員が持っているわけではありませんが、持っている家庭では親子で楽しめるイベントがあると参加意欲が高まると思います。たとえば、自転車と徒歩どちらでも参加できるスタンプラリーや、子ども向けの自転車スラローム・安全運転体験などの簡易コースイベントは、町内会レベルでも実施可能で、交通安全の啓発にもつながります。

また、自転車のデコレーションパレードや、ヘルメットに貼るオリジナルシールづくりなどを組み合わせれば、楽しみながら安全意識を育てるきっかけになるはずです。
こうしたイベントをきっかけに、地域住民が交流しながら交通マナーへの理解を深められる仕組みが広がれば、自転車を取り巻く環境もより良くなると感じます。

若い世代でも通学時以外のヘルメット着用はあまり定着していない。定着のためにはヘルメットのデザイン性を高める、着用している姿がカッコいいと思わせる宣伝など地道な努力の継続が必要。自転車以上に、免許不要の電動式の乗り物(バイク等)への規制も必要と思う。海外からの観光客も含めて。

歩道を走行する自転車の取り締まりを強化してほしい。
信号待ちで歩道に立っていて危ない思いをしてことが何度もあります。

どういった行動が自転車の違反行為にあたるのかわからない、標識の意味を知らないなど、もっと自転車に乗る人に対する啓発を行う必要があると思う

自転車利用者の認識がまだ不足していると思います。
例えば、交通が多い交差点を自転車が通る時、歩行者に目を配るとかなく、大変荒い運転です。自転車を利用する人にもっと安全面について働きかけてください。

ヘルメット利用のルールは、果たして守られているのか？疑問です。歩いている、狭い道でも音もなく後ろからやってくるので、怖い。歩行者に対する配慮に欠けている

着用しない一番の理由は「ヘルメットを買う機会がない、費用がない」というものです。どのショップに行けば手ごろでカッコいいヘルメットが売っているのか、探す機会がなかなかありません。学校の生徒等は、もしかしたら学校から指定があったり、チラシ等を配布したりするのかもしれませんが、私の職場では、ヘルメットの集団購入の呼びかけのような取り組みはありません。どのくらいの費用のヘルメットが安全なのか、安すぎたはいけないと思いますが、購入に当たって注意すべきチェックポイントが分からずにいます。

原付に乗っているの、道路の悪さ。自転車だと、怖いだらうと思います。

自転車は原則として車道を走行し、左側端に寄って通行することが定められていますが、地域によっては道路整備が十分でないにもかかわらず、この方針を強引に進めている現状があります。その結果、交通事故の増加につながっていると考えざるを得ません。

また、自転車や特定小型原動機付自転車(特定原付)のヘルメット着用については「努力義務」とされていますが、道路整備が不十分な現状では、命に関わる問題となり得ます。そのため、一般の原動機付自転車と同様に、着用を義務化するなど、より厳格な措置を講じるべきだと考えます。

自転車が車道を安全に走れるように 道路の整備も必要だと思う。

普段クルマをよく運転しますが自転車やバイクにはいつもヒヤリとさせられます。あまりにも運転マナーが悪い。ルール違反への罰則強化は当然のことだと思います。

子どもからなぜヘルメットが必要かを学ぶ機会を毎年必須教科にしてほしいです。また、親子で学ぶきっかけも増やし、子どもの素直さと積極性を大人たちに伝えたい。
高校生の自転車利用が多いので、自己が不幸を招き加害者になるとどれだけの悲しい結果となるのか、被害者の体験と家族の辛さを伝える手段をさらに検討してほしいです。

道が狭く自転車専用レーンも少ない。専用レーンは良く配送用トラックやタクシーが止まり塞いでいる。交通量が多いところで車道を走るの怖い。道路の整備がない中での罰則はいがかかと思っています。

運転免許更新時の講習への付加

チャリチャリ等のサービスで予定外に利用することがある。
その場合はヘルメットの用意ができないため、未着用で乗用している。
レンタルサイクルの促進とヘルメット着用の努力義務化を同時に促進するのなら、連携して改善策を用意するというのはいいのでは。

あまりに厳しい道路交通法改正となる前にヘルメット着用や死傷者数に改善が見られるとよいのですが

博多区に出勤するが、街中で危険を感じることが多い。
怪我をするだけ損だと思い、優先されるべき歩行者の自分が我慢している。
地元では、立場が変わり自転車に乗るが歩行者に気を付けているだけに、腹立たしい気持ちになる。
なので、青切符制度の導入は良いことだと思う。

ヘルメットは必要だと思う。安全に乗ってほしい。車と同じようにルールは必要だと思うので、条例には賛成です。

自転車は免許が必要な乗り物である反面、交通ルールや自転車も車であることを知らないで運転している方が非常に多い。自転車に乗る方にあたって交通ルール等を学ぶ場を作ると同時に自転車の交通量が多い道路に自転車専用道を整備して、歩行者、自動車、自転車が走りやすい環境整備を行う事で、事故も減っていくと思う。

県として改めて自転車利用者に交通ルールを再徹底し歩行者の安全に配慮し、自転車の歩道通行や歩車分離の道路施策を強力に推進すべき

私の場合自転車の利用はレンタル(チャリチャリ:福岡市の事業でしょうか?)に限られます。そのため普段ヘルメットを持参しているわけではないためかぶっていません。具体的な改善方法が思いつきませんでしたため問題提議だけになってしまいますが、これを何とかした方がよいと思います。

自転車レーンがしっかり整備されている道路であれば問題はないのですが、
「本当にここを通るのか」と驚くような危険な道も多く見受けられます。
十分な整備が行き届いていない現状にもかかわらず、反則金制度が導入されることには、正直なところ不満や戸惑いに近い感情を抱いております。

そのためにも、市民が納得できるような形で、制度の趣旨や今後の整備方針について丁寧にご説明いただければと存じます。

青切符制度は本当に不満である。自転車に免許はないので、悪気なく違反になる可能性が高い。そもそも日本は自転車に優しい環境ではない。法律の前に、自転車専用道路を増やし、すべての道路に自転車専用レーンを作るべきだと思う。環境整備はしっかりしてから法整備するなら納得いくが、いまの環境では反対だ。福岡県として、条例を制定したならば、自転車に優しい環境整備に力を入れてもらいたい。

自転車を使うには、道路の整備が遅れてます。自転車は子どもや高齢者以外車道が原則？なのでしょうが、危険です。

自転車は車道を走るのが原則というルールを知らない人が多すぎます。我が物顔で歩道を走る自転車が多く、取り締まるにもなかなか取り締まれないと思います。歩道を走るのが当たり前の状態から、車道を走るのが当たり前の状態へ変わるよう、啓発活動を徹底してもらいたいと思います。自転車専用帯がある道路も増えましたが、まだまだ少ない。幅が広い道路には必ず作って頂きたいなと思います。

福岡県在住の外国人には、特に指導した方がよい。

外国人留学生や労働者は、自転車移動が多く、ヘルメット着用は、あまり定着していない。
なぜヘルメットを着用することが望ましいのか、未着用状態で身体を負傷した場合や後遺症、加害者になった場合など、福岡県に住んでいるのなら、福岡県の条例を守って、自転車を利用してほしいから。

福岡市内で通勤時に自転車の利用をたまに行なっています。車道に自転車用のスペースが確保されている箇所が少なく、かといって歩道にも上がれないので、車との接触が怖いです。
また夕方時の中・高生の自転車の運転が荒いのが気になります。特に住宅街は狭い交差点でも止まらず進入するなど危険に感じます。

自転車が車と並走することが道が狭く怖く、安全に道の左側を走れない
また自転車道の整備が進んでおらず、あった場合でも車が停車していることがよく散見される

自転車用歩道の整備を進めてほしい。

<p>違反者を厳罰化、公道での利用はルールを周知するため、免許制にしたほうがよい。 なぜなら、人命がかかっているから。</p>
<p>自分の体感ではヘルメット着用率は半々ぐらいかなと感じます。駐輪場に多言語のポスターを貼ったり乗っている現場での告知が効きそうですね。</p>
<p>人をかき分けながらなどの危険走行、スマホを見ながらの自転車走行などたくさん見かけるので、繰り返し呼びかける必要を感じます。</p>
<p>自転車用ヘルメットが高価なのが普及しない一因だと思います。もう少し安価な商品も作って欲しいと思います。</p>
<p>道路に自転車レーンがあるのを見かけますが、危険だと思います。 まずは、道路整備ではないですかね</p>
<p>以前、左耳は突発性難聴、右耳は低音難聴に罹った際に自転車で会社まで通勤していました。 左右の聞こえ方のバランスが違ったため、イヤホンなどで耳を覆い音を遮断しなければ平衡感覚が保てませんでした。 その際、警察に止められイヤホンを外すように指示されましたが、歩行時も同様にイヤホンを付けていないと平衡感覚を保てない旨を伝えましたが、それでも外すように指示されました。 慢性的なものではなく、突発性難聴のように一時的に困難な状況にあり、生活に支障があるためにイヤホンを付けざるを得ない人がいるという事をご理解いただいた条例になって欲しいと思います。</p>
<p>自転車はスピードが出る割に小回りも効くので、免許を必要としない乗り物である割に、歩道を走るにも車道走るにも、被害者・加害者になりやすい乗り物であると考えます。 個人的には、ワイヤレスイヤホンを着用しながらの運転は周囲の状況を正確に認識できずかなり危険性が高いと思うので、適切な運転マナーに関する啓蒙をしっかりと行っていただきたい。</p>
<p>1.歩道と自転車道の区分の明確化(歩行者にやさしく→歩行者しかわからないのでは?) 2.外国人労働者の悪いマナー(ノーヘル、歩道走行) 3.警察か安全協会の指導の強化</p>
<p>外国人(学生・旅行者)の自転車マナーの改善について、県政で対応した方がよいと感じる。 日本人でも自転車マナーを遵守できていない人はいるが、特に外国人の場合、右側通行が世界的に多いという例もあり、すれ違う時の避け方向が日本人と違ったり、また狭い歩道を横並びで走るグループもいる。 これは彼らが日本の自転車マナーをわかっていないだけなので、例えば留学生向け日本語学校や大学、ツーリストインフォメーションなどで自転車マナーの啓蒙をすることで改善できると思う。</p>
<p>私は車を運転する事が多いので、自転車に対する罰則は概ね賛成。 無灯火や一旦停止無視などの自転車もあるので、そういった事も含めて、自転車も交通ルールを守って頂いて事故のない社会にしてほしい</p>
<p>糸島市は、自転車の走行が難しい道があります。歩道がとても狭く、車道も狭い、そして歩道と車道の距離も狭い。特に国道202号線の前原あたりです。交通量が多いので、もう少し自転車の道も整備してくれると助かります。</p>
<p>自動車運転免許は定期的な更新時講習で交通ルールが再確認される機会がありますが、免許制度のない自転車では、交通ルールに関する体系的な教育や啓蒙の機会が極めて少ないと感じます。なので、自転車利用者全体の交通安全意識を向上する為の何かが必要だと感じます。</p>
<p>自転車は道路交通法上で軽車両であることの認識が低いと思います。自転車を乗り始める小学生低学年以降、自分を守るためにも、認識をしてもらうための講習(授業)を必須とすべきだと思います。 普段車を運転していますが、自動車免許を持っている人は、自動車運転者側に立った自転車運転ができるのですが、免許を持っていないであろう若者の自転車運転にハツとする場面もあります。 事故が起きれば、自転車のそうですが、自動車側も不幸です。</p>

中高生の自転車利用が私の地域ではとても多い。そのため、中高生に向けた周知徹底にはSNSが有効だと考えている。一方で、働き盛りの中高年に対する訴求は、市民が有効な場合も課題としてあると思う。

そして、年齢を重ねるほどに周知をしても、マイルールを遂行するのが高齢者。高齢者への徹底した訴求を締め等の情報だけではなく、各自治体の民生委員等を含めて、リアルコミュニケーションで策を講じていくのが望ましいと思う。

真夏にヘルメットをかぶって運転している学生を見ると倒れないか心配になります。自動車を運転する身としては、自転車の逆走が危険なことも広く知って欲しいです。

私は普段、車を運転しています。福岡は自転車の利用者も車の利用者も多いように感じます。互いに命を守る配慮が必要だと常日頃感じています。そのため、ヘルメットは努力義務ではなく義務化して欲しいと感じます。

完全に自動車と同じ罰則規定にすることが大切

日頃、歩道を歩いていて、ハラハラ場面とよく出くわす。

男性の自転車利用者が猛スピードで車道を走っていたかと思うと、急に歩道に入ってきたり、横断歩道に割り込んだり……

走行がでたらめ！！！！

自動車の運転手も歩道の歩行者も、安心して移動ができない。

もっと、厳しく取り締まってほしい。

自転車専用道路の整備をしてほしい。車道の側に自転車専用通行帯はあるが狭くて怖いので、結果的に歩道を通行してしまいがち。自転車が歩道を通行するのは違反になるので、よほどのことがなければ車道を走る様にしているが、車道も狭く走りづらい。既存の狭い道路には難しいと思うが、区画整理、再開発、道路拡張の際など歩道のそばに自転車専用道路など作っていただきたい。

自転車に傘を立てる装置(手で傘を差さずに自転車に固定できる器具)は非常に危険だと思います。また、傘をさしていなくても、長い傘をたたんだままサドルの下などに収納していると、後輪に巻き込まれそうで見ていて非常に怖いです。

多々の自転車利用者がヘルメットをしていない。夏は暑さのせいもあると思うが事故を起こした時のリスクの差は歴然である。特に外国の方の自転車乗車率は高く、ルールさえも守っていないことが多い

子供(小中高生ぐらい)の自転車の乗り方が車を運転していて怖いことが多いです。スピードの出し過ぎや飛び出しなど。学校で指導を行なっていただきたいです。

また、高齢者のふらふら運転も同時に恐ろしく、こちらが気をつけていてもあちらから向かってくることがあり、避けようがないこともあります。高齢者の移動手段を確保してあげて欲しいです。

町中で借りれる、チャリは、殆どヘルメットをしてない。貸すなら、ヘルメットも一緒に貸すようにする。または、キックボートのレンタルは、車道を走っているのにヘルメットは、いると、思います。

自転車専用レーンをつくってほしい。

自転車レーンもなく道交法に罰則規定だけではできたのは問題だと思う。

幼少期には自転車に乗る時の教育が行われるが、中高生にも継続して行うべき

高齢者や子どもへの自転車教育の強化が必要です。

事故件数の多くを占めるのが高齢者や子どもです。年齢層に応じたきめ細かい安全教育が必要だと考えます。たとえば小学校・中学校での交通安全教室の定期開催や高齢者向けの実技講習会(電動アシスト自転車の扱い方など)地域での見守り活動や、声かけによる注意喚起。

自転車道の整備とルールの「見える化」が必要です。

道路状況が場所によって大きく異なるため、利用者が混乱しやすく、事故の原因になります。以下の対策を求めます。

自転車専用レーンの拡充と、路面表示の明確化

交差点での自転車の動線が見える形でガイド(矢印など)

自転車の走行ルール(車道左側通行、歩道では徐行など)を看板や地面の表示で常に見えるようにする。

車を運転するので、自転車の通行はとても危険だと感じる事が多いです。

特に小さい子供さんにも分かるように説明お願いします。

かなり危ない乗り方をする人が増えてきているように感じます。もっと自転車のルールを周知させる必要があると思います。
なんでも規制すればよいというものでもないと思います。ヘルメットや違反切符を義務化したからといって、運転マナーの良い人は良いし悪い人は悪いです。車の危険運転などがその良い例だと思います。したがって、危険な自転車の乗り方に対してのみ最初は厳罰化するなど、軽い罪とのグラデーションをつけることで県民への理解が得られると思います。
問3-3は、回答に<その他>がなく、<かさばるから>を選択した。私の意見は、ヘルメットの重要性は、認識しているが、この猛暑の中ヘルメットをかぶることで、熱中症になるリスクがあると思う。また、努力義務ではなく、義務にすれば、ヘルメットをかぶる予定。
ヘルメットの着用は大切なことであることは承知している。しかし、8000円程度もするヘルメットを2回も盗難に会うとさすがに購入気持ちが失せます。ヘルメット着用を普及させようとするならば、ヘルメットが盗難されないような方法を警察を始めとする行政機関が提示しないとヘルメット着用は普及しません。
ヘルメット着用以外にも、危険な運転が多い。警察、行政が厳しく指導してほしい
自転車通行帯の整備、取り締まりの強化を進めていき実績を積みれば周りの意識が変わっていくのではないかと思う
最近、近くの小道上に自転車道の印である青い矢印表示が描かれた。狭い道路に強引に”自転車道は作りましたよ”と”とりあえず感”が出ていて、安全性は疑問である。幅が狭いので、自転車道を避けて運転すると完全に対向車線にはみ出してしまう。2年前、カナダ人の友人が自転車で九州一周をしていた時、福岡から熊本まで行ったところで、トラックに跳ねられ重傷を負った。トラックは轢き逃げでまだ捕まっていない。自転車で九州一周は無理ではと思った。
自転車の運転が横暴で危険と感じるケースが多いです。しっかりと啓蒙し、取り締まってほしいと感じます。
外国人への研修の徹底。 文字を読めないのだから実践講習が必須。法律もきちんと説明。 踏切、交差点、狭い道路などでの悪行が多いと思われる。 本人達はそれが普通だと思っているところが問題。故郷の道路状況と同じ感覚でいるものが多い。 中学生の時期での徹底的に自転車教育を望む。 自転車専用道路の整備を望む。 並走ができない幅でガード柵ありが望ましい。人、自転車、車の分離道路。
自転車道の整備を継続して推進、広報していただきたいと思います。
小学4年生で自転車の交通安全教室はありますが、それ以降は自転車の交通ルールを習うことがないので、しばらく乗っていない間にルールが変わっていたり、忘れてしまったりしています。ルールの啓蒙をしていく必要があるかと思っています。
自転車運転手のマナー違反が目立つ。信号無視、スマホ運転等が未だ多い。
自転車で音楽をききながら走るとか車道にはみ出して走るときは危ないし、これが改善されないなら、自動車のように免許制にすればいいと思います。
自転車事故がなくなるように(少なくなるように)、自転車専用レーンの拡充を急いでください。
自転車が車道を走る必要があるならば、今の道路環境を自転車が走れる環境にしてください。 乗用車側も自転車側も非常に危険を感じます。 乗用車側は自転車の急な接近に気づかず巻き込み事故等の危険性が高まったように思います。 自転車側はトラックや大型乗用車の追い抜き時にかなりの恐怖を感じます。 現状の道路では交通量が多い狭い道路では双方に悪影響しかないように感じます。
県の責務だとは思いますが、自転車の安全利用については殆ど機能していないと思います。 福岡市内では自転車運転者でヘルメットを被っている人を殆どみたことがありません。 条例の制定と、現実的な対策との間の乖離が大きいのではないかと感じています。
ながらスマホが一番気になります

警察主体のルールをまとめた動画、X等各種SNSにおいて投稿をし知ってもらう機会を作るべき
道交法改正において変わっている印象がある

自転車の交通ルールはヘルメットなど身を守るだけでなく加害者になることも多い。厳しくて然るべき
だと思うけど、自転車の通り易さも非常に大切だと思う
車を運転する時も、歩きの時も車の多い道路側を通る自転車をヒヤヒヤして見ることもある

もしあったらすみません。
ヘルメットの購入補助金とか、あれば助かります。
また、県指定の物ならば割安に買えるとか。自転車は、どうしても子ども、学生、女性が使う頻度が高
いと思いますので、購入しやすい体勢を考えて頂きたいです。

ヘルメット着用は、努力義務ではなくて、完全義務化にすれば良いと思います。

自転車道の設置を求めます。自転車が歩道を走ることによって歩行者が危険に晒されるのは理解できます。
しかし、車道を走る自転車は自動車から危険に晒される立場にあります。歩行者、自転車、自動車の
すべてが安全に移動できる道路が必要です。ルールの整備や取り締まり以前に、道路環境の整備を
優先すべきです。現状では車道を走れと言われても無理があります。

自転車が車道を走るほどの道幅が日本にはないので危ない。

外国人の方が増えてます。
自転車の運転は集団になって危険を感じます。

自動車運転は注意してますがどんな状況でも過失の割合も多くなるため特に外国人に知ってもらいた
い。

小中高校などの交通安全教育では、やむなく歩道上を走行する場合、並走禁止が法律違反にあたる
ことを児童や生徒さんに、確実にご指導して頂きたいです。

自転車専用道路があっても利用が少なく遊歩道を多くの自転車が走っていると感じます。
また、中高生は校則で自転車通学者にヘルメットの使用があると思うが校門をでたらヘルメットを脱い
でハンドルに掛けてこいでいる。
ヘルメットが脳を守ることをもっと生徒達に伝える必要があると思います。

信号無視や道路を逆走、急な飛び出しなどをする自転車を度々見かけるので警察による罰金の徴収
が必要ではないかと思う。

車道を自転車が走っていると危ないし、交通渋滞の原因にもなる。道路の整備も併せて必要。

努力義務という言葉がわかりにくい

命を守るためにも、ヘルメットの着用は、努力義務ではなく必須にしたほうが良い。
救える命がたくさんあると思う。
ヘルメットのデザインや着用時の不快感などを、それらの専門性のある方の助言などをもとに改善して
いくと良いと思う。

自動車優遇社会から、歩行者と自転車の優遇社会となるような施策があると、SDGsの観点からも良
いと思う。
自動車と同様に、自転車に対する標識があると注意喚起しやすいかもしれない。

義務教育期間並びに高校生に対して、定期的な交通安全教室の義務化条例が必要。

自転車は、車道通行ですね。自分が歩道を歩いている時、横を猛スピードの自転車が通り過ぎた
り、自分が車を運転している時に、車道を自転車がふらふら走っていたり、ルールの徹底が更に必要
なのではないかと思います。そんな自転車の方は、必ずといってもいい程ノーヘルです。

普段、車しか使っていないが、普段から自転車を使っている年配者の方は、これからは車道を走らな
いといけないので、もう、自転車に乗れない。田舎なので歩くしかない困っていました。

条例が外国の方にも周知されるよう工夫して欲しい。

ライトをつけない、逆走をする等危なくて仕方がない
もっと取り締まりの強化を考えて欲しい

県において自転車講習を各年代において義務とする。
主管は各地区交通安全協会とする。

<p>車道側を走ると車にぶつかりそうで怖い</p>
<p>自転車の利用者がマナーが守れていない、危険な運転などが見受けられます。自転車を利用する人で、危険な運転をする人には講習が必要な気がしています。</p>
<p>やはり学生さんが通学しているがヘルメットの着用は非常に少ない。どのように指摘していいのか？</p>
<p>ヘルメットが当たり前になり、安心している。 普及はまだ完全に100%ではないが、将来的に100%に近づく事は間違いない。</p>
<p>自転車の左側通行などの部分については、まだ浸透されていないイメージを歩行者として感じる。</p>
<p>学生はもちろんだが、大人ですら、信号の遵守や左側通行など当たり前のことをできていない方は多い。 バイクを日常的に運転するが、危ないと思うことは多々ある。 道交法自体解釈が難しいところもあるが、福岡県が率先して県民の自転車マナーや知識を啓発していくモデル県としてぜひ取り組んでいただきたい。 車の運転も荒く、自転車の乗り方も悪いんじゃないかも当てられない。</p>
<p>自転車利用については専らチャリチャリ等のレンタルサイクルの利用に留まっています。私含め周囲もレンタルサイクルを頻繁に利用していますが、利用のタイミングでヘルメットを持ち合わせていることがなく、着用に至っていません。努力義務ではなく、着用が完全に義務づけられた際には、そもそもレンタルサイクルの利用に消極的になる気がします。</p>
<p>自転車の安全のためには、まず道路の整備も大切だと思います。自転車で、ただ走るだけでも怖い道路がたくさんあります。</p>
<p>自転車専用レーンをできるだけ設置してほしい。</p>
<p>いまだにイヤホンして運転したり逆走している自転車がが多く、実際に警察が自転車に乗っている方に対して停止を求める現場も見ることがないので、より取り締まりの機会を増やして認知度を上げるといいと思います。</p>
<p>今迄が治外法権状態だったので、秩序が整うまである程度時間が掛かるのは仕方ないと思いますが、啓蒙と指導と処罰を粛々と進めることが大切だと思います。</p>
<p>スマホ利用しながらの自転車運転している人を車が跳ねても罪にならない。位にしないと無くなってしまうと思います。 (行き過ぎな意見かもしれませんが)</p>
<p>今はほとんど自転車に乗りませんが、車側からすると危ない自転車が多すぎます。 もちろん、安全には十分気を付けて譲ったりしています。 左側通行の逆走や信号無視、一時停止無視など。これらは自転車は歩行者と同じ立場と考えてる人が多数なんではないでしょうか？ 自転車は軽車両でありバイクや車と同じ扱いだと認識させる必要があると思います。 自転車も市町村で登録制の免状などを発行するとか、小学生の時から授業に交通法規の時間を設ける必要があると思います。</p>
<p>危険運転は取り締まってほしいが、自転車が安全に走行できる道路整備も進めていただきたい</p>
<p>子どもにも、わかりやすい啓発活動が必要だと思う。難しい言葉ではわかりにくい。</p>
<p>自転車専用ゾーンをもっともっと普及するべきだと思います。</p>
<p>車を運転する側からしたら あの細い白線内に入ってる自転車ってすごく危険に感じるし、かといって歩行者ゾーンに入ると それはそれで迷惑だし自転車を利用する人たりの肩身が狭すぎる。</p>

海外の様に自転車レーンが設置されている訳でもなく、自転車ですら道路を走るのが危険な所もあるのに、一律道路を走りましょう。はあまりにも無謀すぎる。
道路整備などが追いついていないのに、無理やり法を整備しても、余計に事故につながる。
また、イヤホンについても、外の音を聴けるようなイヤホンもあるし、音に過敏な人はイヤーマフをつけることもある。
時折、バイクでも音楽を垂れ流している人がいるが、自転車でもスピーカーで音楽を垂れ流しされても嫌。
爆音の人もでると思う。
ボリュームを制限することや、集音機能付きの製品のみを販売するなど、法律を変えるしかないと思う。

当然、自転車乗車についての交通規則の改定は、TVその他のメディアで以前より了解している。が、今回のような厳しい制度について、取り締まりは本当に「平等」に行われるのかが疑問。ただ、情報として「正しく乗りましょう。罰金ですよ」と垂れ流すだけで実体がないのなら、方法に使う税金は無駄である。国の方針なのだろうが、実施するのは地方行政。人員的に予算的に、理念的に可能なのか？実施するのだろうが、そこに不公平感がないように責任をもって行ってほしい。我が家には自転車はないが、バイクは所持しており、違反をすると当然行政処分を公的に受ける。当たり前だが、当たり前自転車にも実施してほしい。本当に、福岡県として実施できるのだろうか？はなはだ疑問である。

ヘルメットの着用は努力義務は理解しておりますが、たまにしか、自転車に乗らないので着用しておりません。乗る回数が増えれば、ヘルメットは着用したいとは思っています。

自転車は子供から乗るもので、教習も特にないので道交法を学ぶ機会が必要ではないか。またどう考えても自転車が走行しては危ない道路ばかりで、車からも怖いし、自転車でも怖い。

ルールが曖昧だと思います。
歩道走行はよいの？広い歩道の場合で必ず左側走行なの？傘は止める器具があれば違反にならない？等など、小学生から高齢者まで、しっかりと届いてほしいです。
市町村にある、ごみの出し方のような保存パンフレットがあれば1番よいかと。制度変更あれば差替えるとよい。そうすれば、知らなかったとはいえないと思います。

制度についていまだに知らないことを多いので、推進活動をしてほしい。知る機会が少ない気がする。

道路に自転車道路(大刀洗 朝倉線)等と書いてあるが、どこを走ればいいのかという道路ばかりで、自転車に乗らない人が考えたものだと思う。特に高齢者や子供は走れたものではない。無駄な表記にかかる経費は少しでも自転車の為の道路整備に使ってほしい。

外国人のマナーが非常に悪い。
歩道を高速で走る、信号のない車道を突如横切る
一部の外国人は、歩行者のすぐそばをスピードを落とさず走行することがある。外国人の親(自転車)子供(三輪車)が猛スピードで国道の車の通りが多いところの歩道を走っていた。

逆走・信号無視
左側通行の日本では、逆走してしまうケースが散見される。
信号を守らない、横断歩道のない場所での横断など、交通ルールに対する認識の違いが目立つ。

無灯火・スマホ操作・片手運転
夜間の無灯火走行は事故のリスクが高く、非常に危険。
スマホを見ながら運転、片手運転する外国人も一部で見られ、周囲に不安を与えている。前をろくに見ずにテレビ電話をしながらイヤホンもして自転車の運転は非常に危険。

多くの訪日外国人は、自転車ルールについての説明を受ける機会がほとんどない。
レンタサイクル業者も、英語や多言語での利用マナー啓発が不十分なケースが多い。
日本人でさえ、自転車ルールの理解が不十分な人が多い(スマホ利用しながらは非常に多い)

自転車の交通ルールを学ぶ講習などとして欲しい。
小郡は外国人の方々が多いうえ自転車移動をされているが、日本のルールを知った上で乗って欲しいです。車を運転していると外国人の方にヒヤッとさせられる事が多いです。

ヨーロッパの国のような自転車道の整備をお願いしたい。

学校教育の場で、より一層指導の徹底を望みます

まずは、きちんと小学校から自転車のマナーについての教育の機会を増やしてほしいと思う。

学校などでも定期的に指導の時間を設ける

学生を初めてとする若い人を中心として、自転車の逆走が分かっていないためそれに関する取り組み・講習を学校で行ってほしい。

車道を走って良いということは理解しているようだが、「車と同じ方向に限る」ということを理解できていない。クラクションを鳴らしたくなる。

お年寄りの高速道路での逆走を批判している場合ではない、若い人も逆走していることを自覚すべき。

九州国立博物館について

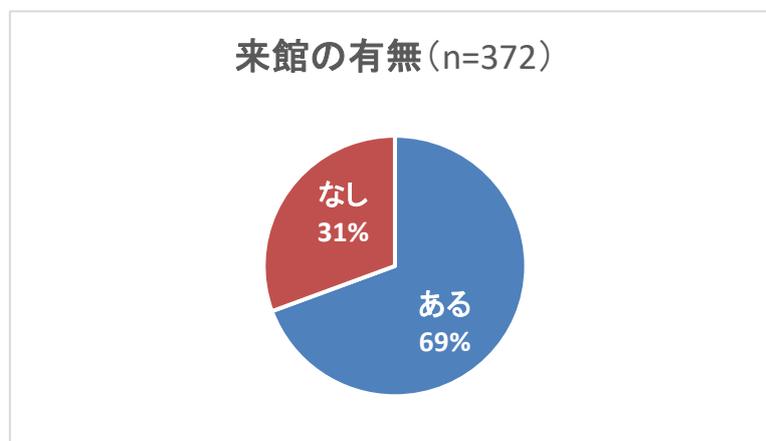
【調査の目的】

九州国立博物館は、東京国立博物館、奈良国立博物館、京都国立博物館に続く全国で4番目の国立博物館として、2005年太宰府市に開館し、今年20周年を迎えます。九州国立博物館は他の国立博物館と異なり、国（独立行政法人）と福岡県が共同で管理運営を行っています。

開館から20年が経過した現状を踏まえ、皆さんの意識を改めて把握し、今後の博物館の運営に役立てることを目的としています。

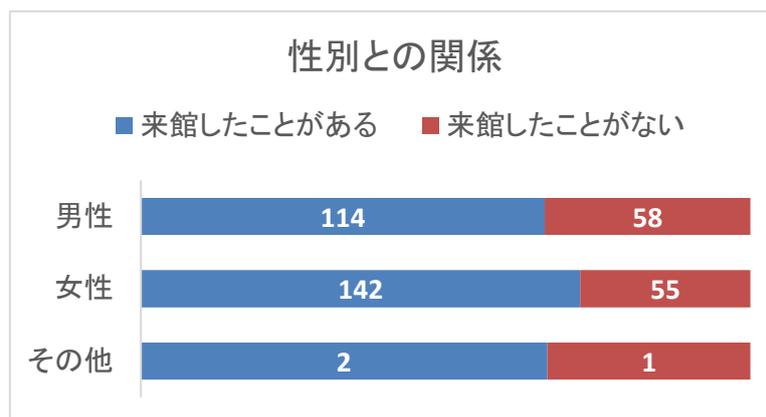
(人づくり・県民生活部アジア文化交流センター)

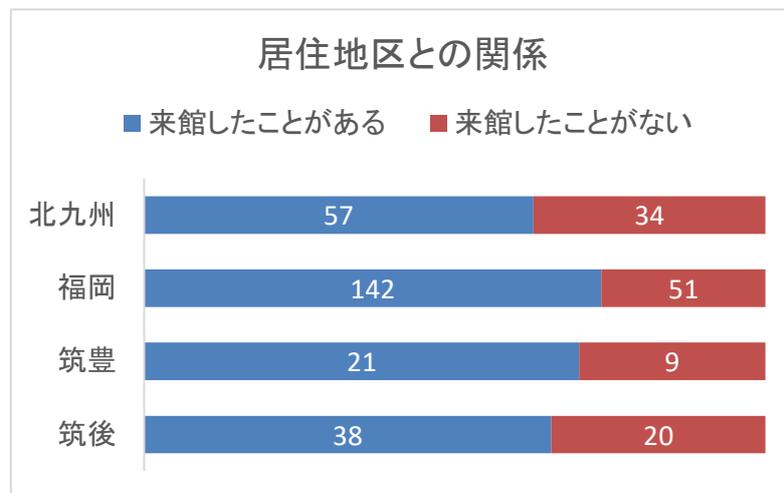
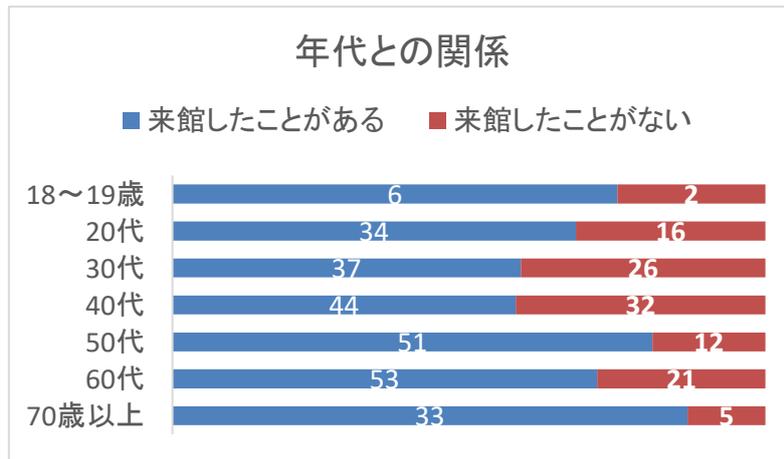
【問1】 九州国立博物館に来館したことがありますか。



全体としては、来館したことがある方が約7割となっていた。

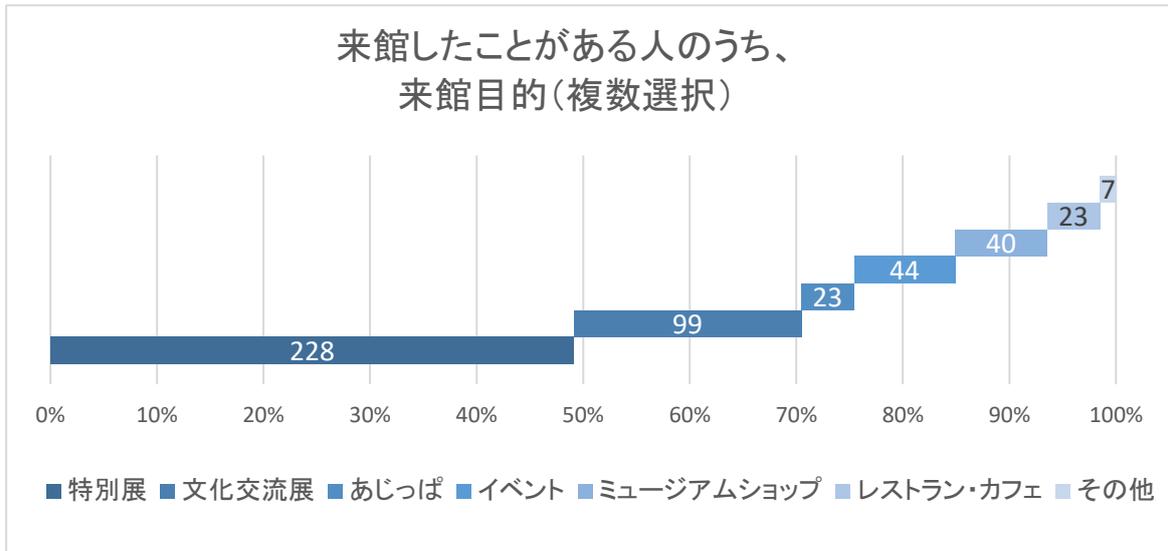
その内訳として、性別、年代、居住地区ごとに来館の有無の割合を比較した。





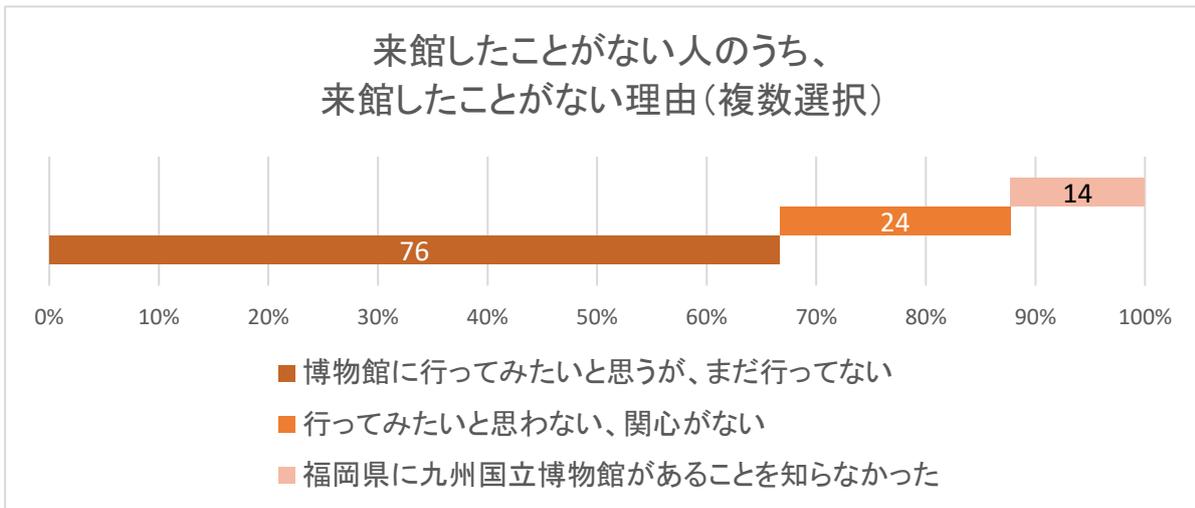
- ・性別との関係では、女性の方が来館したことがある割合がやや高い。
- ・年代との関係では、比較的50代以上の方が来館したことがある割合が高く、一方で30代～40代は来館したことがある割合が低い。
- ・居住地区との関係では福岡地区の方が比較的来館したことがある割合が高く、北九州地区の方は来館したことがある割合がやや低い。
来館者の傾向としては、50代以上、比較的近距離の福岡地区居住となっている。

【問2】 問1で「1」（来館したことがある）を選択された方にお尋ねです。来館目的は何ですか。（複数回答）



来館目的は、特別展が特に多く、次いで文化交流展と展示を目的としたもので約7割を占めた。また、「その他」（7件）の中では、「太宰府天満宮に行ったついで」が4件と最も多かった。

【問3】 問1で「2」（来館したことがない）を選択された方にお尋ねです。来館したことがない理由は何ですか。



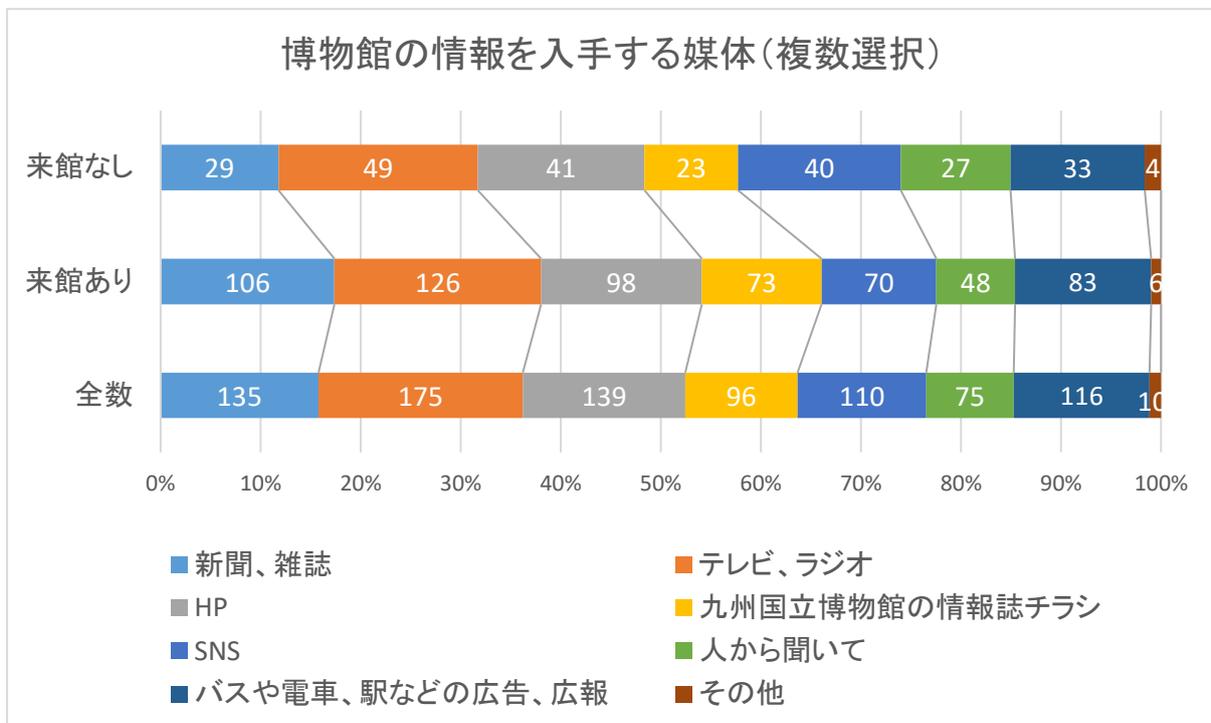
来館したことがない理由としては、「博物館に行ってみたいと思うが、まだ行ってない」が6割以上となっており、来館したことがなくとも、多くの方は九州国立博物館自体には関心があると考えられる。

【問4】 問3で「1」（博物館に行ってみたいと思うが、まだ行ってない）を選択された方にお尋ねです。まだ行ってない理由は何ですか。（自由記述）

理 由	人 数
遠くて行きづらいため（交通手段が限られている）	31
（わざわざ）行ってみたいと思う展示・イベントがない	23
情報がないため	5
混雑していそうだから	4

まだ来館したことのない方の来館したことのない理由として、「遠くて行きづらい（交通手段が限られている）」が最も多く、次いで「魅力的な展示・イベントがない」という理由が多く、この2つが8割以上を占めた。

【問5】 博物館の情報を入手する媒体は何ですか。（複数回答）



博物館の情報を入手する媒体としては、来館したことがある方は、来館したことない方と比べて新聞や雑誌、九州国立博物館の情報誌チラシから情報を得ることが多く、来館したことない方は、来館したことがある方と比べてSNSから情報を得ることが多いとみられる。

【問6】 今後、博物館にどのような展示やイベントを期待しますか。(自由記述)

来館したことがある方

① 人気コンテンツ・体験型展示

- ▶ アーティスト、アニメ、マンガ、デジタルアートなど、子どもも楽しめる話題性の高いコンテンツに関する展示（例：「ジブリ展」「鬼滅の刃」「呪術廻戦」）
- ▶ 歴史の深掘り：大陸との文化交流の歴史、仏教や各宗派の誕生、九州の歴史や地理にゆかりのある展示など、地域に根ざしたテーマに関する展示
- ▶ 体験型・参加型イベント：子どもも参加できる親子イベント、ワークショップ、発掘体験などを通じた「学ぶ」と「楽しむ」が融合したイベント

② 国宝・海外美術品の展示

- ▶ 国宝級の貴重な展示品や海外の美術品（特に東京や京都で開催されるような大規模な特別展）に関する展示
- ▶ エジプト展、三国志、兵馬俑、浮世絵、陶芸品（九州の焼き物）、日本の刀、国宝級の絵画などに関する展示

③ 革新的な展示方法

- ▶ 「うんこミュージアム」のようなユーモラスなイベントや、SNS映えするスポット、音楽や映像とコラボした企画展など、九州国立博物館では実施したことのないような新しいジャンルの展示

④ 文化交流展（常設展）の定期的な更新

来館したことがない方

① 来館のきっかけとなるイベント・情報

- ▶ 魅力的な展示・イベント：「ミイラ展」「エジプト展」「マンモス展」「恐竜」「世界の天然石」など
- ▶ 子ども向け・家族向けイベント：子どもも楽しめる、参加型のイベントや、絵本・アンパンマンなどの人気コンテンツとのコラボ

② 新しいタイプの展示・体験

- ▶ 「現代アートや SNS に投稿できるような写真映える内容」や「アニメ、映画、漫画の原画など、現代の流行と歴史を繋げる展示」といった、若い世代やライト層を意識したコンテンツに関する展示
- ▶ 「教科書に出てくるような国宝など有名なもの」のように、認知度が高く学習要素のある展示

両者とも、来館の動機づけとなるような、多くの方が認知しているテーマ・物に関する展示を求めており、また、子どもや家族が楽しめるイベントの実施が求めていると考えられる。なお、文化交流展の更新に関しては、定期的な展示品の入替えは行っているが、これに関する周知不足があるものと思われる。

【問 7】 九州国立博物館について、これまでの設問以外に意見はありますか。

来館したことがある人
同じ福岡県ですが、北九州から太宰府までは少し距離があるので、遠方向けの県内在住者向けの割引サービスがあればもっと行き易くなると思います。
質の高い展示を期待しています。九州以外の地域に住んでいる人にも、もっと足を運んでもらいたい。
交通の便が悪い。
九州にあるのが嬉しい。奈良によくいくが、卑弥呼や邪馬台国の九州。
全国的な美術館博物館についてになります(私自身は専門的に詳しいわけではないのでご容赦いただいたうえで) 1. SNSなどで「学芸員の担い手不足」や「処遇の厳しさ」について知り、気になるようになりました。文化の担い手が安心して働ける環境づくりが、質の高い展示や継続的な発信につながると思います。 2. また、一部の海外のように、美術館や博物館で来場者がスケッチをしたり、座ったり寝転んだりしながら作品とじっくり向き合える、自由度の高い鑑賞スタイルも導入されると、より多様な人にとって「居場所」となる施設になるのではと感じています。
開館から 20 年がたったのですね。九博ができる前に建設にかかわる募金をしたことを思い出しました。開館後は度々特別展に行っていました。コロナ禍後や退職後はなかなか行くことがなくなりました。高齢の家族と行くとなると、宿泊を考えたり、外国からの観光客の多さに躊躇したりしています。 最近の入場料など値上がりしているようなので、何かとコラボしながらお得なプランだと感じられるものがあれば、行きたいと思うかもしれません。
立派で格好いい建物ですが、影が薄い気がしています。太宰府天満宮とともに有名になればと思っていますが...
九州国立博物館と福岡市の博物館、美術館、北九州市の美術館とコラボしてイベント等をおこない共通利用チケットに JR や西鉄のチケットを付けたものを発売すれば面白いのでは。
人気のある展覧会などでは、高い観覧料を払っても見えるのは他の来場者の後頭部のみです。何か工夫が必要かと思います。
来館時は毎回満足して楽しませてもらっている。イベントは各世代が興味あるイベントを積極的に開催すれば来館者数増加につながると思う。少し遠出してでも行ってみようという気になる。 ただし、PR がやや足りないように感じる。私は博物館や美術館などが好きなのでわざわざイベント情報等を調べているがそうでなければ知る機会がないことに気づいた。もっとたくさん PR してたくさんの方に利用してもらえるといいなと思う。
主な地区からの直行バスとかがあれば便利。特に高齢者などが行きやすいのだが。
以前、夕方から入場の、安価な券で入ったことが何回もあり、とてもよかった。特に、夏場や人気のあるもので、相当な混雑が予想されるものとかは、とても助かる。最初にこの件を知ったのは、偶然だったが、今後も導入してほしいし、周知もしてほしい。
県内に国立博物館があるのはとても嬉しい。もっと他の国立博物館の展示も見られるようになると嬉しい。
ここ数年は、九州国立博物館に行くことはありませんが、また行く機会がありましたら、次はしっかり展示されているものの重みや深さを味わいたいと思います。

<p>韓国を旅行することが多くありましたが、日本の博物館との大きな違いは2つ。1. 入場料が比較にならないほど安い。無料も多い。2. 写真撮影が許可されている。日本はなぜ写真撮影を禁止しているのでしょうか??</p>
<p>これからも楽しみです。</p>
<p>北九州からは遠いイメージ。企画展に合わせてバスツアーなど設定してくれると嬉しい。</p>
<p>エスカレーターを上がるとわくわくしますね。九州博物館。九州ならではの展示はもちろん、世界に行かなくても、九州で体感できるようなイベントも期待しています。</p>
<p>NHK、福岡市教育委員会、福岡県社会福祉協議会と連携させて大イベントをして欲しい。こどもから、高齢者も安心して勉強できる魅力ある展示企画を。</p>
<p>学芸員やガイドの方がもっと増えると、展示の理解がより深まり、音声ガイドでは得られない楽しみや発見につながると思います。対話を通じた解説は、来館者の興味を引き出し、記憶にも残りやすいと感じます。また、このような文化施設こそ、高齢者の方々が培ってきた知識や経験を活かして活躍できる場になるのではないのでしょうか。「亀の甲より年の功」という言葉があるように、人生経験のある方がガイド役を務めることで、より深みのある案内が可能になると思います。高齢者の生きがいや地域とのつながりにもつながるよう、しっかりとした予算をかけて、そのような仕組みをつくっていただけることを期待します。</p>
<p>最寄りの太宰府駅からの道のりが長く遠く感じるので、もっと行きやすくなればなと感じます。もしくはその道のりを楽しめるものがあればと思います。</p>
<p>博多・天神からの直行バスの運行便新設。</p>
<p>入館料が高くなりすぎて、全く行く気にならない。生活にそんな余裕は無い。そのお金を別の事に使います。</p>
<p>太宰府市民は入場料無料にすべき。</p>
<p>遠くに行かないと見れないものを見れたら嬉しいです。</p>
<p>カフェの敷居が高い。県民誰でもウエルカムという雰囲気ではない。価格も割高。気軽に誰でも親しめる博物館でない博物館である意味がない。一日いて家族で楽しめる場所にしてほしい。飲食できる場所を充実してほしい。場所が遠いイメージがある。市内のもう少し天神に近い場所（例えば静かな街：高宮など）に分館を作してほしい。</p>
<p>常設展の展示の充実が重要と考えます。特設展示だけでなく、常設展への案内の充実が望まれます。展示内容の入れ替えが多いと、リピート回数が増えると思われます。</p>
<p>時間的余裕が出来る年齢になったら、足を運ぶ機会も増えるだろうと思っている。今はまだ難しい。</p>
<p>最近行ってないので意見も特にないのですが、情報があまり入ってこないのももう少し行きたくするような情報を発信してほしい。</p>
<p>暑い夏に涼しく楽しめるスポットとして、海外の方も楽しめるように展示を工夫して欲しい。</p>
<p>もっと若い人に興味を持ってもらえるように「コラボ」などを取り入れていくべきだと思います。例えば「名探偵コナン」とか「ちいかわ」とか、歴史紹介にそれをかなりの比率で混ぜていくことで、小学校の社会科見学など、活発に使われ子供達も喜ぶ内容になると思います。(もちろんアニメ好きの大人にも好評になるとは思います)</p>
<p>最近には私にとって魅力ある展示が少なくなってきた気がします。頑張ってください。</p>
<p>非定期でも良いので、空港からの直通バスなど交通手段を増やして欲しい。</p>
<p>いろいろ広報活動をしていると思います。</p>
<p>九州国立博物館で、扱う主なジャンルがわからない。料金が安いイメージが付き、足が遠のいている。</p>

<p>経済産業大臣指定の伝統的工芸品が施行 50 年を過ぎ、多くの品目が指定されているので、それらを一堂に集め、文化庁的な視点も含めて解釈した展示会があると楽しいだろうなと思います。</p>
<p>いつも楽しみにしています。</p>
<p>いつも思うが展示館内が暗い。しばらく見ていると疲れてしまう。美術品のためかもしれないが、他の美術館はそこまで暗くない。そう思いこんでいるので今では二の足を踏んでいる。入場するのに時間がかかり面倒なイメージ。もっとスムーズの入れるようにして欲しい。</p>
<p>見やすい、わかりやすい展示の時と、見せ方も展示物もバラバラの時がある。</p>
<p>車がない人が、特に高齢者が行きやすい交通手段が欲しいです。駅からの乗合タクシーとか、社会実験はいかがでしょうか。</p>
<p>特別展の入場料免除対象者を広く設定されていることに対し敬意を表します。</p>
<p>博物館へ直行出来る拠点やバス等の便数をもっと増やして欲しいです。</p>
<p>よくぞ太宰府に博物館を建ててくれたと嬉しく思う。 古の良き場所にぴったりだと思ふ。</p>
<p>とても素晴らしい施設で、大好きです。太宰府という場所もとても利用しやすく良いと思う。</p>
<p>太宰府天満宮によると外人さんと修学旅行や観光客であふれています。それらの一部でも足を向けてもらえるよう太宰府の駅や天満宮内の要所要所でうまく PR できないでしょうか。過度な PR はまずいのかなあ。</p>
<p>入場料に福岡県民割りがあるとありがたい。</p>
<p>イベント機関中は、シャトルバスを運行してほしい。</p>
<p>博物館巡りなどの企画があると面白いと思う。スタンプラリーや、現地の周囲の飲食店などを巻き込むと経済効果もあるし、楽しいと思う。</p>
<p>特別展の回数を増やして欲しい。</p>
<p>入場料を抑えてほしい。</p>
<p>場所が遠いのでなかなか行けないのが残念です。 東京の国立博物館みたいにいつも人が多いよりはゆっくり見れて良いと思います。</p>
<p>私が行くには、乗り継ぎが 4 回あります。結構大変です。 何かしら、特典等があれば行く事も多くなりそうです。</p>
<p>私は太宰府在住ですが、太宰府市外から足を運んだ方が展示関連で 1 日楽しめる時間を持てるような取り組みがもっとあるとわざわざ遠くまで来た意味も、次回への期待も上がると思います。</p>
<p>立地。太宰府天満宮に行く用事がなければ多分訪問しないだろう。</p>
<p>博物館の場合は、美術館みたいに巡回展があまり無いので見たいものが九州以外であると、どうしても遠方まで行かなければならなくなります。先日も奈良へ行きました。展示物の特性上、巡回が出来にくいというのは理解できますが、以前の正倉院展や国宝展みたいに順次巡回出来るものの頻度を増やしてもらえたらと思います。</p>
<p>20 年経ったとは、びっくり。個人的に、退職し年金生活者になり、時間がたっぷりできたので、年間パスを使って楽しむのもいいかな・・・と、考えている昨今です。</p>
<p>あるのかもしれないが、特に太宰府駅から車のない人のための送迎バスがあればと思う。</p>
<p>子供の頃、博物館は見るだけでつまらないと思っていました。 体験できるコーナーがあるので、ぜひ子供を連れて行きたいです。</p>

大陸との交流など、九州ならではの展示が面白いです。
もっと地域とのつながりを感じられる企画があったらうれしいです。九州やアジアとの歴史的なつながりを紹介するだけでなく、地元の伝統工芸や文化、食とのコラボ企画など、「九州に来てよかった!」と思える展示やイベントをもっと増やしてほしいです。 アクセスや導線をもっと少しわかりやすくしてほしいです。太宰府天満宮からの道順が初めての人にはちょっと迷いやすい印象なので、案内板やマップの工夫があるとうれしいです。館内の移動も、もう少し直感的にわかるとさらに快適だと思います。 もっと気軽に立ち寄れる雰囲気づくりがあるといいです。博物館というとちょっと「かたくなるしい」イメージもあるので、カフェイベントやワークショップなど、親しみやすくして何度も来たいくなるような工夫があれば、もっと幅広い世代が楽しめると思います!
具体例・世界の伝統衣装体験+撮影ブース：民族衣装を通して文化の違いと美を体験。・「世界の祭りと芸能」展：アジア・アフリカ・中南米など各地の伝統芸能のライブイベントや展示。・世界を旅する Youtuber などとのコラボで講演会など<Bappa Shota>・若年層・ファミリー向けの参加型イベント来館者の裾野を広げるには、「体験型」や「遊び×学び」の要素を強めることが重要です。・こども向け考古学体験：「発掘ごっこ」や「縄文土器作りワークショップ」など。・ミュージアム・ナイト：夜間開館に合わせたライトアップ展示、ミニコンサート、謎解きゲーム。・地元の文化資産と連携した展示と体験！福岡・九州の文化資産や伝統工芸とより深く連携し、地域の魅力を再発見できるような展示を。・九州各地の焼き物リレー展示（有田焼・小石原焼・薩摩焼など）・福岡の祭り特集（博多祇園山笠・戸畑祇園）+映像アーカイブ
県民割を設定してほしい
歴史、文化の継承はとても大切だと考える。正の遺産はもちろん、負の遺産（戦争の歴史など）も含めて、展示できると良い。VR を使ったりしてもイメージが湧きやすくて面白いと思う。
インバウンドがコロナから戻ってきており、現在はそれ以上に多くなってきており、太宰府も盛況のようです。インバウンド需要も適宜取り込めれば、博物館も潤うのではないのでしょうか。
会員制のPR強化と募集徹底、開催イベントの周知。もっとネット活用しましょう。
アジアの玄関口として、外国人と日本のつながりを知るイベント、たとえば、絵画、音楽、彫刻等々、文化交流が融和を生むと思います。
特別展やイベントなどの情報を広く発信してほしいです。
周辺地域の渋滞緩和策を練ってほしい。
これからも、時代とタイミングに応じて魅力的な内容を求めます。若年層が興味を感じてもらえるよう発信してほしいですね。
太宰府と一体となった広報が重要と感じます。
もっと便利な所、天神や博多駅近くにあるといい。
猛暑が続くこの時期、博物館を避暑地として利用される方をターゲットにできれば、利用者数の向上に繋がるのではないのでしょうか。博物館と名打っているものの、博物館以外の用途（案があまり思い浮かびませんが、天文などの科学系とか？）でのイベントも併設してみたいかたがでしよう。場所貸しで賃貸料を受け取ることはできませんか？
もう少し安く鑑賞できたらと思うこともあります。ただ太宰府の地に開館されたことはとても良かったと感じています。

今年 5 月に行った時に、遊園地前とつながるエスカレーターが一部壊れたままになっていたので、きちんと修理すべきと思った。
なにが展示されているかいつも知らないなので、どんなことが知れるかを端的に伝えていけばいいのではと思います。
国立博物館を利用した場合、駐車場の料金を少し優遇してほしい。 止めたくても止められない時があるので、繁忙期は駐車場を博物館専用にしてほしい。
展示内容をもっと宣伝してはどうかと思います。 SNS での宣伝は見たことがないので良いと思います。
場所的に、自動車で行くことが多い（太宰府天満宮とセットの時は電車）ののだが、渋滞はどうにかならないのだろうか。魅力ある展示の見学に関して、多くの方と希望の日時が重なるのは当然だが、混雑が予想されるイベントの時は、一期間だけでも、早朝見学や夜間見学など、柔軟な対応を考えてもらえないかと思う。
入館料（特に特別展）が安いと行きやすいです。
以前に人気の特別展に朝イチで並びましたが、後ろの行列をみてびっくりしました。事前に QR のチケットとかで並ばなくても行けるようにならないかなと思いました。（今は変わっているかもしれませんが）
どんなイベントがあっているのか知らないし、知る機会もないので、県政だよりやテレビ等でも知らせてほしい。
九州国立博物館のような空間だからこそ、伝統と革新が融合した新しい形の展示イベントに期待したいと思っています。 たとえば、私が経験した国内外の別の exhibition では、音楽やプロジェクションマッピング、空間全体を活かした没入型演出が組み合わさった展示体験は、視覚・聴覚・感情に訴える非常に豊かな時間でした。 単に「美術品を鑑賞する」だけでなく、“その世界に入り込む”ような体験型アートイベントが、九州国立博物館でも実現されれば、世代や国籍を問わず多くの人がアートや歴史に親しむきっかけになると思います。 具体的には： ・ プロジェクションマッピングで屏風絵や仏像が動き出す演出 ・ 箏や尺八など和楽器と連動した照明・映像演出 ・ 夜間限定のナイトミュージアムやライトアップイベント ・ 子どもも楽しめるようなインタラクティブ展示や体験型ガイド といった工夫があれば、九州という地域の歴史や文化の魅力を”身体で感じる”ような深い学びと感動が得られると感じます。
ホームページなどで、行ってほしい展示やイベントについてのリクエストを聞くようにしてはどうでしょうか。
魅力ある展示・イベントが増え、入場料などがもう少し安くなり、誰でも手軽に利用できるようになれば良いと思います。

来館したことがない人
国内外の方々が魅力を感じる展示会を度々開催されているので、ぜひ先々伺いたいです。
福岡県民でも行った事ないので、今度母や子供と行きたいです。
何の催しをしているか、大々的に宣伝してほしい。
開館直後で、余りにも来館者が多すぎて、中へ入れなかったです。

ホームページが見やすく良いです。
来場特典等を検討してほしい。
出張展示等で地理的に離れた地域でも展示を見ることができれば福岡県民全体が当館について楽しむことができるのではないかと思います。 また、デジタルで楽しむことができればどこに住んでいても楽しむことができるのではないかと思います。
展示内容がやや専門的で、歴史や文化に深い興味がないと、少しとっつきにくい印象も受けました。特に子どもや若い世代にとっては、もっと体験型・参加型の展示や、デジタルを活用した工夫があれば、より楽しめる場所になるのではないかと思います。また、常設展と特別展の差が大きく、常設展だけだと少し物足りなさを感じる人もいるかもしれません。もっと気軽にリピートしたくなるような企画や、県民・市民向けの割引キャンペーンなどがあると、利用が増えると思います。 全体としては質の高い施設だと思いますが、今後はより幅広い層に開かれた場所になるよう、柔軟な発信や展示の工夫に期待しています。
メディア、SNS等広報活動のさらなる強化。
わざわざホームページを見たりしないと思うので、多くの人目につきやすい広告をしたらよいと思う。
九州国立博物館は建物も展示も素晴らしく、貴重な文化に触れられる場だと感じています。ただ、子どもを連れて訪れる立場からすると、展示の多くが小学生以上向けで、未就学児には内容が難しく、じっくり見ることが難しい場面もあります。せっかく家族で訪れても、大人が交代で見るといった形になることが多く、親子で一緒に楽しめるコンテンツがもっとあればと感じます。 未就学児向けには、音や映像、触れる展示を取り入れた体験型コーナーや、絵本・アニメと連動した親しみやすい展示、季節や行事に合わせたワークショップなどがあると嬉しいです。また、授乳室やおむつ替えスペースの充実など、子連れで訪れやすい環境づくりにも引き続き期待しています。博物館が「文化に触れる入り口」として、小さな子どもたちの心に残る体験の場になることを願っています。
九州で起こった戦争の惨禍などの資料の掲載などあったら、戦争教育になるのかなって思いました。
もっとアピールしてほしいと思う。
車以外だと行きにくいので、公共交通機関による移動手段がほしい。
久留米や柳川から直通のバスを出してほしい。
博物館に対して興味がわからないので、もっと伝え方を工夫したりすると良いのでは。

<福岡県の環境について>

【調査の目的】

福岡県の環境のマスタープランである「福岡県環境総合ビジョン(第五次福岡県環境総合基本計画)」(※)では、県民の皆さんと一緒に目指す5年後の姿を「誰もが安心して、たくさんの笑顔で暮らせる福岡県～環境と経済の好循環を実現する持続可能な社会へ～」と設定し、進捗管理のために、主要な環境基準の達成率等の20の数値指標を設定しています。

これらの数値指標に加えて、環境に関する実感を把握するため、県政モニターの皆さんの御意見をお聴かせください。

【活用状況】

環境総合ビジョンの進捗管理の一環として、環境へのニーズや満足度等を把握し、環境施策へ活用します。

(環境部 環境政策課)

※ 福岡県環境総合ビジョンとは

福岡県の環境行政の基本的な方向性を示すとともに、経済成長と環境保全が両立した持続可能な社会の構築を目指して、県民、事業者、行政など、全ての主体が環境について考え行動する際の指針となるものです。

詳しくは、下記を御覧ください。

<https://www.pref.fukuoka.lg.jp/contents/env-vision.html>

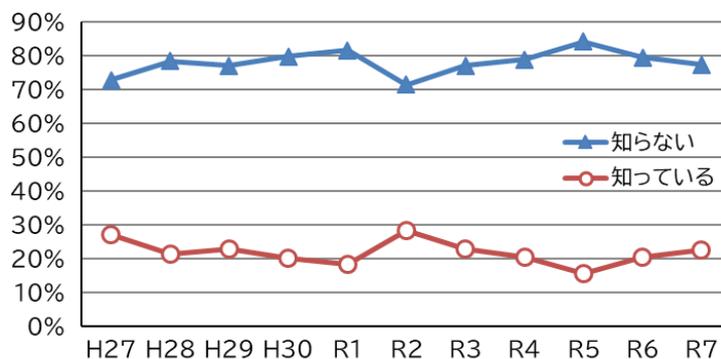
<1> 毎年6月は環境について考える環境月間であり、県でも街頭キャンペーンなどを行っていますが、6月が環境月間であることを知っていますか。

(n=372 選択は1つのみ)

知らない	288名	77.4%
知っている	84名	22.6%

無回答 0% (0名)

環境月間の認知度



<2> あなたが普段生活している身の回りの環境について、現在、満足しているのはどのようなところですか。

(n=372 複数回答可 回答件数=1,505)

ごみが正しく管理・処理されていること	186	50.0%
身近な自然(海、山、雑木林、川、野鳥など)と触れ合えること	179	48.1%
水が汚染されていないこと	137	36.8%
太陽光や風力などの再生可能エネルギーが活用されていること	121	32.5%
環境に負荷をかけず、安全・安心な、資源を有効活用するリサイクルが行われていること	114	30.6%
空気や空が汚染されていないこと	107	28.8%
住まいの周りの静かさ	92	24.7%
モノや資源が大切に使われ、ごみが少なく資源の無駄遣いがないこと	84	22.6%
省エネルギーの取組が行われ、家庭や会社でエネルギーが効率よく使われていること	81	21.8%
様々な産業において、環境に配慮した取組が行われていること	63	16.9%
豊かな自然の恵み、生物の多様性を活かす社会経済活動が行われていること	60	16.1%
環境関連の技術や産業が向上・発展していること	60	16.1%
希少な動植物を守る取組や里山保全活動などの地域の豊かな自然環境を将来に引き継いでいく取組が活発に行われていること	55	14.8%
家庭や会社で、環境配慮型製品が選べること	55	14.8%
地域(自治会、サークル、NPOなど)で環境保全・環境教育を通じた地域づくりが行われていること	51	13.7%
誰もが環境の大切さを意識し、日々の生活や事業活動の中で環境に配慮した行動が実践されていること	31	8.3%
環境について満足しているところはない	25	6.7%
その他	4	1.1%

無回答 0名 0.0%

〔その他〕

- ・ スーパー等でリサイクル品が集められているのをよく目にする。

<3> あなたが普段生活している身の回りの環境について、この10年間で良くなったと感じるのはどのようなところですか。

(n=372 複数回答可 回答件数=1,243)

太陽光や風力などの再生可能エネルギーが活用されていること	141	37.9%
ごみが正しく管理・処理されていること	131	35.2%
省エネルギーの取組が行われ、家庭や会社でエネルギーが効率よく使われていること	110	29.6%
環境に負荷をかけず、安全・安心な、資源を有効活用するリサイクルが行われていること	102	27.4%
モノや資源が大切に使われ、ごみが少なく資源の無駄遣いがないこと	79	21.2%
水が汚染されていないこと	75	20.2%
様々な産業において、環境に配慮した取組が行われていること	71	19.1%
環境関連の技術や産業が向上・発展していること	68	18.3%
空気や空が汚染されていないこと	65	17.5%
身近な自然(海、山、雑木林、川、野鳥など)と触れ合えること	61	16.4%
家庭や会社で、環境配慮型製品が選べること	57	15.3%
10年前とは違う地域に住んでいるので分からない	43	11.6%
希少な動植物を守る取組や里山保全活動などの地域の豊かな自然環境を将来に引き継いでいく取組が活発に行われていること	42	11.3%
住まいの周りの静かさ	42	11.3%
地域(自治会、サークル、NPOなど)で環境保全・環境教育を通じた地域づくりが行われていること	42	11.3%
豊かな自然の恵み、生物の多様性を活かす社会経済活動が行われていること	41	11.0%
環境についてよくなったと感じるところはない	41	11.0%
誰もが環境の大切さを意識し、日々の生活や事業活動の中で環境に配慮した行動が実践されていること	27	7.3%
その他	5	1.3%

無回答 0名 0.0%

〔その他〕

- ・ 夏、冬、にエコチャレンジ等の車内広告を見かけるようになりました、先着等の言葉があると知らないでも頑張っている人達が居ることを知ります。

<4> あなたが普段生活している身の回りの環境について、不安や不満足と感じるのはどのようなところですか。

(n=372 選択は4つまで 回答件数=801)

モノや資源が大切に使われず、ごみが多いことや資源が無駄遣いされていること	109	29.3%
空気や空が汚染されていること	89	23.9%
ごみが正しく管理・処理されていないこと	83	22.3%
住まいの周りの静かさが保たれていないこと	57	15.3%
省エネルギーの取組が行われず、家庭や会社でエネルギーが無駄遣いされていること	56	15.1%
太陽光や風力などの再生可能エネルギーが活用されていないこと	56	15.1%
水が汚染されていること	50	13.4%
環境について、不安や不満足と感ずるところはない	45	12.1%
希少な動植物を守る取組や里山保全活動などの地域の豊かな自然環境を将来に引き継いでいく取組が活発に行われていないこと	38	10.2%
環境に負荷をかけず、安全・安心な、資源を有効活用するリサイクルが行われていないこと	36	9.7%
豊かな自然の恵み、生物の多様性を損なう社会経済活動が行われていること	35	9.4%
身近な自然(海、山、雑木林、川、野鳥など)と触れ合えないこと	34	9.1%
日々の生活や事業活動の中で環境に配慮した行動が実践されていないこと	28	7.5%
地域(自治会、サークル、NPOなど)で環境保全・環境教育を通じた地域づくりが行われていないこと	20	5.4%
様々な産業において、環境に配慮した取組が行われていないこと	18	4.8%
環境関連の技術や産業が向上・発展していないこと	18	4.8%
家庭や会社で、環境配慮型製品が選べないこと	8	2.2%
その他	21	5.6%

無回答 0.0% (0名)

〔その他〕

- ・ ペットのフンをきちんと持ち帰りをしない飼い主やポイ捨てされている空き缶を見かける。農作業で使用したマルチの切れ端などのプラスチックごみの放置。川にごみを捨てる人がいて、野鳥(烏・ゴイサギ)に生ごみを与える。家の解体した木材などを大量に焼却しているのを見かけることがあるが、家の近くまで灰が飛んでくることがあり、火災にならないか、不安である。
- ・ 日本は世界的に見て色々取り組んでいると思いますし、色々と目標も掲げられています。更にがんばろうとしていますが、かえってお金がかかったり、それに縛られ過ぎている気もします。ほどほどが良いと思います。
- ・ 太陽光というのは古くなったパネルの処分やパネル製造時の環境負荷などについて、トータルで評価されたものとは感じていない。言うほど経済的でもないし、単純に新たな権益の誕生なのではとさえ感じている程度。
- ・ 太陽光パネルによる山林伐採や景観悪化、災害リスクが不安です。放置パネルや廃棄処理も

課題です。電気自動車のバッテリー寿命や電力負荷、道路劣化も気になります。再エネや電化の推進が本当に地域の安心につながっているのか疑問です。

- ・ 不満がないとはいえチェックがつけにくいです。それぞれの取り組みについて知らないことが多いため。
- ・ 現代社会では「消費者」として安価なものを選ぶ(あるいは、そのような消費者に選ばれるモノやサービスを生産する)ところに過剰に光が当たりすぎており、自分の消費行動を通して自らの関心(生産工程へのこだわりや社会課題へのアプローチなど)と重なる企業や事業者への投資をするような意識が薄れているような気がします。そのような意思を持った行動としての投資者倫理を育むアプローチがあってもよいのではと感じています。
- ・ 太陽光設備の廃棄問題が懸念です。再生可能エネルギーも廃棄・撤去となった際に今までの収支が逆転し、環境負荷が高いものになってしまうことに対して対策が必要だと思えます。
- ・ 太陽光や風力発電等はよく耳にするし見たりもします。空気や空の汚染もニュースで知ることができそうですが、残念ながらその他については実際のところ、どこでどの様にされているのかわかりません。回覧板など回ってきますが、実際どうなの?と思えます。夏休みになると市政だよりや広報誌に参加型の環境の何やらがよく募集されているのをみますが子供向き。
- ・ 原発が稼働していることは災害時、または有事におけるリスクと思う。PFAS 問題も、井戸を使用している家庭が多い場所なのでとても心配。
- ・ 全てに満足しているわけではないため<その他>を選びました。再生可能エネルギーの活用量が不明確な上、太陽光発電の設置のために山が削られ、環境や動物に悪影響を及ぼしており、本来の目的と逆行しているように感じます。
- ・ SDGs と言いつつも、それが環境保全に逆行しているところがチラホラあること。
- ・ 過度に太陽光発電所が建設され、森林破壊を生んでいる。
- ・ 太陽光パネルがあちこちに出来て、自然が破壊されていると感じる。環境に良いはずの太陽光がと思う。あのたくさんの太陽光パネルの仕組みを教えてください。
- ・ 或るご近所の方のゴミが毎回猫やカラスに荒らされて、それをゴミ収集車の方が片付けしてくださるのが、申し訳ないです。
- ・ 大規模ソーラーパネルの設置による森林の伐採や山の切り崩しによる災害発生の危険性が高まっていること。
- ・ ゴミの分類が自治体に依って異なっていること。焼却場などの理由もあるとは思いますがルール統一が分別を間違えない。リチウムイオンについては発火の不安があるためもっと積極的に処分方法などを PR してもらいたい。
- ・ 飲食店等、家庭ゴミ以外はプラも燃えるゴミも一緒になって出されているから、そこもゴミの仕分けをしないと意味がないと思う。
- ・ 路上等にゴミを捨てる人が多いこと。

<5> 福岡県の環境について、これまでの設問以外の意見(抜粋)

<①経済・社会のグリーン化>

- ・ 技術の発展に伴って環境関連の技術も昔に比べてずいぶん進歩したと思います。応援したいと思います。具体的な福岡発の会社や技術内容などもっと知りたいです。

<②持続可能な社会のための地域づくり・人づくり>

- ・ ゴミの不法投棄やポイ捨てがなくなる。個人の考え方を变えるのは簡単ではないし、古い考えの人がまだまだ居る現状。せめてこれからの時代を生きていく若い世代には教育現場でもしっかり根付かせてほしい。

- ・ 環境に関する認識や取組みが自分に不足している。誰でも積極的に参加するための場面づくりを強化していただきたい。県民参加型イベント等。
- ・ 自然を大切にすることが命を育み、自分も大切に守られることにつながることを市民が意識できるような教育を望みます。
- ・ 大学における環境講座との連携について。
- ・ 男女ともに働くのが当たり前の社会になり、子育てと仕事中心にやってきた。どれだけのサラリーマンが県の環境整備や取組みについて知っているのか、はなはだ疑問。働き方改革とはいえ男女ともに残業もあるため、県の環境の取組みについて知り得る時間が圧倒的に少ない。関心の向上のためには、県政についての企業内研修なども実施するとより身近なものに感じられるようになると思う。
- ・ 野焼きが多く、ただでさえ福岡県は PM2.5 が多く空気が良くないのに、条例はどうなっているんだと思う。乾燥した時期は山火事にでもなりそうな勢いである。歩きタバコものすごく多い。毎朝たばこの煙を浴びる。吸い殻は排水溝へ捨てているようだ。そのまま川へ流れている場所もある。大人の住民全てへの啓蒙、教育が早急に必要である。個人的に定期的に町内清掃を行っている。街をきれいにしたい。

<③脱炭素社会>

- ・ 水素の活用が北九州にとどまっていることは、とても残念。様々な課題があると思うが、福岡の地の利を活かした自然エネルギーを活用した水素の製造はできないのか。そして、それを蓄えて活用する仕組みまたは、原発に依存しない自然エネルギーの蓄電方法の開発(固形電池を含む)。東北の原発事故の復旧にどれほどの税金が投入されているかを考えると、総合的なコストは圧倒的に自然エネルギー由来のものに部があると思う。これからは、いかにエネルギーを貯めて安定供給できるかが、環境問題にも影響するものと思う。
- ・ 各家庭・工場・商店の屋上太陽光を推進してほしい。エアコンからの排熱を活用する取り組みなど、これまで無駄にされているエネルギーを活用できないのか。九州・福岡は再エネ出力も高く、また九州大学には国内最先端の水素研究センターがあるので、もっと脱炭素化を推進し、他県と差別化できる余地があると感じる。再エネ出力や研究機関をどの様に利用するか、海外の再エネ先進都市などへの訪問や提携などで知見を深めるべきだと思う。
- ・ 個人的には原子力発電が最もクリーンで効率の良い発電方法だと思っているので、現在の再生可能エネルギーの流れは疑問が残ります。原発の問題は、災害時でも安全に稼働できるかであり、そこを解決することを福岡県ができれば全国の電力不足は解消されると思います。電力は産業の要であるため、福岡のような工業地帯からまずは再開すべきです。
- ・ 太陽光に恵まれた土地でありながら、原発が稼働しているのは残念。再生可能エネルギーにもっと力を入れるべきだし、また福岡はその力があると思う。また、県内の井戸を維持していくべきだと、能登半島地震の際に強く感じた。災害、有事の際に絶対に有用だし、また自然保護にもつながると思う。
- ・ 太陽光や風力が環境に良いことだとは思えません。
- ・ 電力会社と協力して太陽光や風力などの再生可能エネルギーをもっともっと活用してほしいと思います。
- ・ 無駄に太陽光パネルの設置面積が多く、害獣の民間への接近、環境破壊に寄与している事を無視している。パネルの生産に於いて環境破壊がある事を知らしめていない。太陽光パネル信者が多い。ビルの屋上に設置すべき。
- ・ 洋上風力のさらなる促進が必要と感じる。
- ・ 最近の暑さの中、節電や温暖化防止のためにエアコンの設定温度を 26℃に設定しているが正直暑すぎる。暑い環境では職員 1 人当たりのパフォーマンスが低下し、全体のパフォー

マンスも低下してしまう。特に医療職では医療事故における原因の中に職場環境、医療事故当時の体調や精神状態の異常などもある。患者の死へと直結するような事は避けるべきだと思う。

- ・ 太陽光発電が進んでいるが、山を切り開いたり、豊かな自然が壊されて、メガソーラーが作られたりする場面をよく見る。これでは本末転倒で何のためにエネルギー転換をしているのか分からない。環境破壊につながるような開発については、条例等を定めて規制することが必要だと思う。
- ・ 私達の税金から森林税がとられていることを、緑の青年団の活動を通して知りました。何気なく、税金に含めるのでなく、森林税が取られていることを知らしめてほしい。そうすると、少しは森林を大切にしたりする気持ちが湧いてくるかもしれません。
- ・ 持続可能な社会の実現と環境保護は重要ですが、その推進方法には注意が必要だと考えます。例えば、太陽光や風力といった再生可能エネルギーの導入において、太陽光発電施設の設置のために広範囲の森林が伐採される事例は、まさにその典型だと思います。これでは、環境を守るための取り組みが、かえって生態系を破壊するという本末転倒な結果を招きかねません。真に持続可能な社会を目指すには、その過程で新たな環境負荷を生み出さないよう、慎重な計画と実行が求められると思います。

<④循環型社会>

- ・ ゴミの分別があまり進んでいないと感じます。
- ・ ゴミの分別はもう少し細かくしたほうが良いと思う。
- ・ リチウムイオン原因のごみ処理場発火事件が、県内のみならず多発しており早急な法整備やゴミ分別などの取り組みが急務だと思います。
- ・ フードロスがとても勿体なく感じます。どうにかして、余ったものを生かせないものか。
- ・ 福岡県は、外食産業が盛んなため、食品ロスが多すぎる。食品ロスについて、真剣に取り組んでほしい。
- ・ 県としては、特に気になるのは産業廃棄物問題ではないかと思っています。北九州市、福岡市を筆頭に多くの産業があり、不法投棄や野焼き問題も一時期深刻化していたと聞いたことがあります。その辺の状況が知れたらいいなと思います。
- ・ ゴミ不法投棄について対策が不十分と感じる。
- ・ 学校や地域の市民センターで不用品を回収できるようにされたら良いと思う。学校で取り組みされると子供たちのモチベーションも変わってくると思う。今、物を大事にする心がなくなっている気がする。物を大事にする心がエコに環境につながると思うので、使い捨ての当たり前前の気持ちを変えるように、行政がPRしていくことは絶対に広げてほしい。
- ・ 最近、リサイクルに持っていくとポイントをもらえる所が増えてきたが、そういうゲーム感覚でお得感があれば、みんな楽しんでリサイクル活動するだろうし、就活や進学の際に環境に優しい事したらポイント高くなるなど価値を付けたりする。
- ・ 地域によってはまだまだリサイクル事業にばらつきがあるので、県内で統一されてより取り組みが活発になれば良いと思います。

<⑤自然共生社会>

- ・ ホタルの生息が昔より減ったような気がする。自然環境に変化があるのかと感じる。
- ・ 住んでいて周りの環境が悪化という程でもないが、幼い頃に見ていた自然の動物や虫、植物が減少しているのを肌で感じている。県や地域の条例をもっと厳しくして環境保全できることがまだあるのではないかなと思う。

<⑥健康で快適に暮らせる生活環境>

- ・ 水道水に関心があり浄水器を使用中。安全な飲料水を提供してほしい。
- ・ 全ての店舗や企業をチェックする事は難しいですが、各企業等の排気や排水問題を厳しく取り締まるようにしてほしいと思います。
- ・ 大牟田市在住ですが、近年、有明海側に工場群が建ち並び、水蒸気か煙か分からないけれど、モクモクしています。市の広報誌で、あの煙の正体を説明いただく欄があれば地域の方々も安心されると思います。市が発展することはよいことだと思っています。
- ・ 特にはありませんが、水質については大変不安に感じています。水道管破裂などの全国ニュースを観るたびに、自宅近辺のインフラは大丈夫なのかと危惧しています。

<⑦国際環境協力>

- ・ PM2.5 や黄砂などの対策が重要と思いますが、中国が相手ではなかなか対応が難しいと感じます。
- ・ 特に福岡県は大陸から、黄砂など、大気汚染が時期的にひどい。県や国ではどうにもならない問題もあり大変だと思う。室内では空気清浄機もありだと思う。
- ・ 難しいんですが、黄砂やPM2.5のいい対策があれば知りたい。
- ・ 福岡県だけで解決する問題ではないと思いますが、福岡は東日本に比べて空気が悪いです。大陸からの大気汚染物質が一因だと思います。
- ・ 福岡県は関係ないが、毎年中国からの黄砂が飛来するのが非常に辛い。空気も悪くなるが、花粉症なども悪化する。どうしようもないのは分かるが、意見として黄砂問題も考えてほしい。

<⑧その他>

- ・ ワンヘルスについて、わかりやすく県民に説明してほしい。
- ・ 海や山など身近な自然がいつまでもきれいであればいいなと思います。
- ・ 環境問題の改善にはひとり一人の意識や取り組みが必要とあらためて感じます。
- ・ 企業の環境取り組みも当然必要ですが、個人としても散らかさない、ゴミ収集ルールを守る、自宅周辺の清掃等、各自の自覚が必要と思っています
- ・ 県が環境問題にどんな取り組みをしているかはほとんど知らない。
- ・ 県民全員の意識が変わらないと改善は見込めないと思う。もっと将来的な危機を訴えかけて、なんとかしなければと思わせないといけないと思う。
- ・ 私自身は街中に住んでいますが、車で少し行けば豊かな自然があり、とても満足しています。
- ・ 福岡県は自然豊かな素晴らしい所なので、みんなで意識して守っていききたい。
- ・ 都市と自然が近い福岡県だからこそ、もっと「身近な自然」を守る取り組みが必要だと思います。公園や川沿いの清掃、緑地の保全など、地域ぐるみで自然とふれあえる場を守る仕組みがあるといいです。子どもや若い世代が自然に親しめるイベントや体験活動ももっと増やしてほしいです。ポイ捨てやごみ問題への対策を強化してほしいです。特に観光地や繁華街、海沿いのエリアではごみの放置が目立つこともあります。ごみ箱の設置や啓発ポスターの工夫、地域ボランティアとの連携など、見た目のきれいさと意識の両面からの取り組みを期待しています。再生可能エネルギーやエコな取り組みをもっと見える形で広げてほしいです。太陽光や風力などの地産エネルギーの導入状況や、公共施設での省エネの取り組みなどを、県民にもわかりやすく発信してくれると関心が高まると思います。地元企業や学校と連携した環境活動なども応援したいです。
- ・ PM2.5 などによる大気汚染が進行している。大型ショッピングセンターなどが増えて、広い緑地が減少している。博多湾や河川の水質汚染が進んでいると感じる。福岡市と周辺都

市では、人口の増加、田畑など緑地が減少し、ヒートアイランド現象による温暖化が進行し、その影響は市外に及んでいると推定される。ヒートアイランド現象による高温化は10数年の気温変化を福岡市と近郊(飯塚市など)と比べると(気象庁のデータから)よく分かる。温暖化は、環境悪化、野菜などの生育不良など、今後、深刻な問題となりそうである。

- ・ 福岡県環境総合ビジョンを読むといい取り組みのように見えるが、ECO 関連は利権がからんでいることが多い。そこをオープンに、クリーンにしてもらいたい。

<6> 満足・不満足に関する回答の経年変化^{注)}

<①経済・社会のグリーン化>

「産業での環境に配慮した取組」「環境関連技術・産業」に対する満足度は、横ばいで推移しています。

<②持続可能な社会を実現するための地域づくり・人づくり>

「環境配慮行動」「地域づくり」に対する満足度は、横ばいで推移しています。

<③脱炭素社会への移行>

「再生可能エネルギーの活用」に対する満足度は昨年度から増加しました。「省エネルギーの取組」に対する満足度は、横ばいで推移しています。

<④循環型社会の推進>

「ごみの管理・処理」に対する満足度は比較的高く推移しています。「資源の有効利用」「リサイクル」に対する満足度は、横ばいで推移しています。

<⑤自然共生社会の推進>

「身近な自然との触れ合い」に対する満足度は、比較的高く推移しています。「豊かな自然の恵みを活かす社会経済活動」「希少種や里山を守る取組」に対する満足度は、横ばいで推移しています。

<⑥健康で快適に暮らせる生活環境の形成>

「水の汚染」「空気の汚れ」「住まいの周りの静かさ」に対する満足度は、横ばいで推移しています。

一方、満足していないと感じる割合については、「<循環型社会の推進>モノや資源が大切に使われていないこと」では他の項目に比べ比較的高く推移しています。

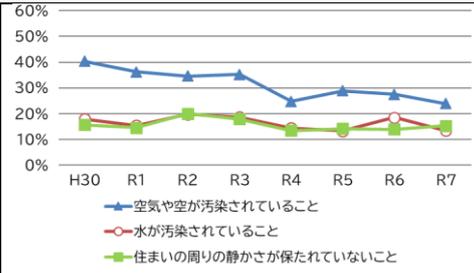
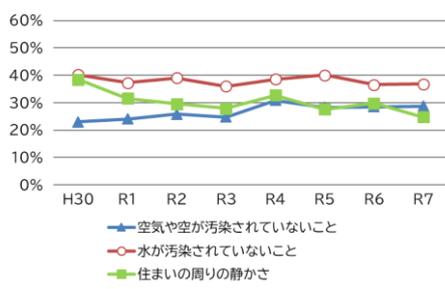
また、<経済・社会のグリーン化>「家庭や会社での環境配慮型製品の選択」は近年減少傾向にあります。

これらの項目については、今後の環境に関する取組の進め方に活かし、県民への情報提供や普及啓発に取り組んでいく必要があります。

(注)登録していただいているモニターは毎年度変わっています。

項目	満足していること	満足していないこと
① 経済・社会のグリーン化	<p> 60% 50% 40% 30% 20% 10% 0% </p> <p>H30 R1 R2 R3 R4 R5 R6 R7</p> <p> ■ 様々な産業において、環境に配慮した取組が行われていること ● 家庭や会社で、環境配慮型製品が選べること ▲ 環境関連の技術や産業が向上・発展していること </p>	<p> 60% 50% 40% 30% 20% 10% 0% </p> <p>H30 R1 R2 R3 R4 R5 R6 R7</p> <p> ■ 様々な産業において、環境に配慮した取組が行われていないこと ● 家庭や会社で、環境配慮型製品が選べないこと ▲ 環境関連の技術や産業が向上・発展していないこと </p>
② 持続可能な社会を実現するための地域づくり・人づくり	<p> 60% 50% 40% 30% 20% 10% 0% </p> <p>H30 R1 R2 R3 R4 R5 R6 R7</p> <p> ■ 誰もが環境の大切さを意識し、日々の生活や事業活動の中で環境に配慮した行動が実践されていること ● 地域(自治会、サークル、NPOなど)で環境保全・環境教育を通じた地域づくりが行われていること </p>	<p> 60% 50% 40% 30% 20% 10% 0% </p> <p>H30 R1 R2 R3 R4 R5 R6 R7</p> <p> ■ 日々の生活や事業活動の中で環境に配慮した行動が実践されていないこと ● 地域(自治会、サークル、NPOなど)で環境保全・環境教育を通じた地域づくりが行われていないこと </p>
③ 脱炭素社会への移行	<p> 60% 50% 40% 30% 20% 10% 0% </p> <p>H30 R1 R2 R3 R4 R5 R6 R7</p> <p> ■ 省エネルギーの取組が行われ、家庭や会社でエネルギーが効率よく使われていること ● 太陽光や風力などの再生可能エネルギーが活用されていること </p>	<p> 60% 50% 40% 30% 20% 10% 0% </p> <p>H30 R1 R2 R3 R4 R5 R6 R7</p> <p> ■ 省エネルギーの取組が行われず、家庭や会社でエネルギーが無駄遣いされていること ● 太陽光や風力などの再生可能エネルギーが活用されていないこと </p>
④ 循環型社会の推進	<p> 60% 50% 40% 30% 20% 10% 0% </p> <p>H30 R1 R2 R3 R4 R5 R6 R7</p> <p> ■ モノや資源が大切に使われ、ごみが少なく資源の無駄遣いがないこと ● 環境に負荷をかけず、安全・安心な、資源を有効活用するリサイクルが行われていること ▲ ごみが正しく管理・処理されていること </p>	<p> 60% 50% 40% 30% 20% 10% 0% </p> <p>H30 R1 R2 R3 R4 R5 R6 R7</p> <p> ■ モノや資源が大切に使われず、ごみが多いことや資源が無駄遣いされていること ● 環境に負荷をかけず、安全・安心な、資源を有効活用するリサイクルが行われていないこと ▲ ごみが正しく管理・処理されていないこと </p>
⑤ 自然共生社会の推進	<p> 60% 50% 40% 30% 20% 10% 0% </p> <p>H30 R1 R2 R3 R4 R5 R6 R7</p> <p> ■ 豊かな自然の恵み、生物の多様性を活かす社会経済活動が行われていること ● 希少な動植物を守る取組や里山保全活動などの地域の豊かな自然環境を将来に引き継いでいく取組が活発に行われていること ▲ 身近な自然(海、山、雑木林、川、野鳥など)と触れ合えること </p>	<p> 60% 50% 40% 30% 20% 10% 0% </p> <p>H30 R1 R2 R3 R4 R5 R6 R7</p> <p> ■ 豊かな自然の恵み、生物の多様性を損なう社会経済活動が行われていること ● 希少な動植物を守る取組や里山保全活動などの地域の豊かな自然環境を将来に引き継いでいく取組が活発に行われていないこと ▲ 身近な自然(海、山、雑木林、川、野鳥など)と触れ合えないこと </p>

⑥健康で快適に暮らせる生活環境の形成



令和7年度第2回県政モニターアンケート

(回答者構成)

項目		計		北九州	福岡	筑豊	筑後
		人数(人)	構成比				
総数	人数	369		92	192	29	56
	構成比		100.0%	24.9%	52.0%	7.9%	15.2%
性別	女性	194	52.6%	48	103	14	29
	男性	172	46.6%	42	89	15	26
	その他	3	0.8%	2	0	0	1
年代別	20代以下	52	14.1%	12	27	4	9
	30代	63	17.1%	16	33	5	9
	40代	76	20.6%	18	41	6	11
	50代	64	17.3%	17	33	4	10
	60代	76	20.6%	21	34	8	13
	70代以上	38	10.3%	8	24	2	4

モニター数 399人

回答数 369人

回収率 92.48%

実施期間 R7.8.7～R7.9.3

【回答結果の注意点】

- ・ 集計は小数点以下第2位を四捨五入しているため、回答比率の合計は、必ずしも100%にならない場合がある。
- ・ 2以上の回答（複数回答）を要する設問の場合、その回答比率の合計は、100%を超える場合がある。

<飲酒運転の撲滅について>

【調査の目的】

福岡県では、深刻な状況にある飲酒運転の撲滅を推進し、飲酒運転のない、県民が安心して暮らせる社会を実現するために、全国初の罰則付きの「飲酒運転撲滅運動の推進に関する条例」(以下、「飲酒運転撲滅条例」という。)が平成24年9月に全面施行され、その後、状況に応じて改正がなされています。

県では、本条例に基づき、飲酒運転撲滅に係る様々な取組を実施しているところですが、今後の効果的な取組を推進する上での参考とするため、条例の周知状況等について、県民の皆様の御意見をお聴かせいただくものです。

【活用状況】

- ・飲酒運転撲滅条例の内容を始め、県で行っている飲酒運転撲滅対策に係る事業を広く県民に周知するための参考資料として活用
- ・来年度以降の飲酒運転撲滅キャンペーンの効果的な実施に向けた検討資料として活用
- ・効果的な広報啓発を行うための参考資料として活用

(人づくり・県民生活部生活安全課)

問1 福岡県では、飲酒運転撲滅対策の強化と県民の意識改革を推進するため、飲酒運転撲滅スローガン(「飲酒運転は絶対しない、させない、許さない、そして見逃さない」)のもと、飲酒運転を見かけたときの110番通報の義務などを飲酒運転撲滅条例に規定しています。

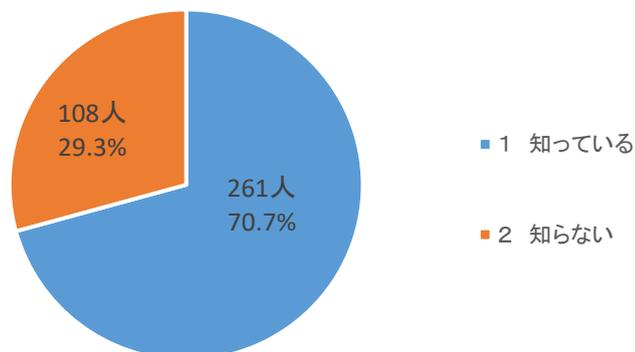
あなたは、県民に、飲酒運転を見かけたときの110番通報の義務があることを知っていますか。次の中から当てはまるものを【1つだけ】選んでください。

※詳細については、県ホームページを御参照ください。

<https://www.pref.fukuoka.lg.jp/contents/inshujoureikaisei2020.html>

(n=369 選択は1つのみ)

1 知っている	70.7%	(261人)
2 知らない	29.3%	(108人)

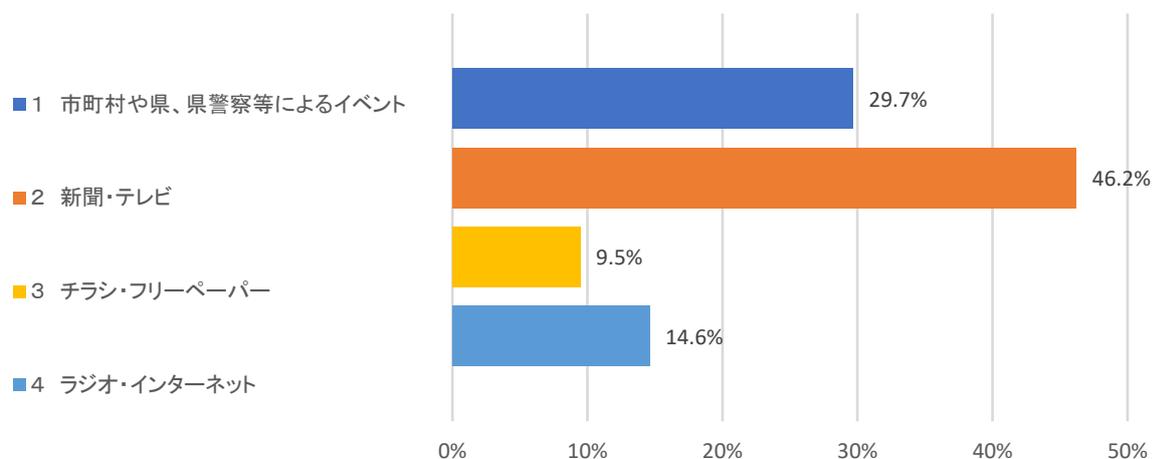


問1—2（問1で「1」を選択された方にお尋ねします。）

あなたが、飲酒運転を見かけたときの110番通報の義務があることを知ったきっかけは何ですか。
次の中から当てはまるものを【すべて】選んでください。

(n=411 複数選択可)

1 市町村や県、県警察等によるイベント	29.7%	(122人)
2 新聞・テレビ	46.2%	(190人)
3 チラシ・フリーペーパー	9.5%	(39人)
4 ラジオ・インターネット	14.6%	(60人)



問2 福岡県では飲酒運転撲滅を図るため様々な取組を行っております。

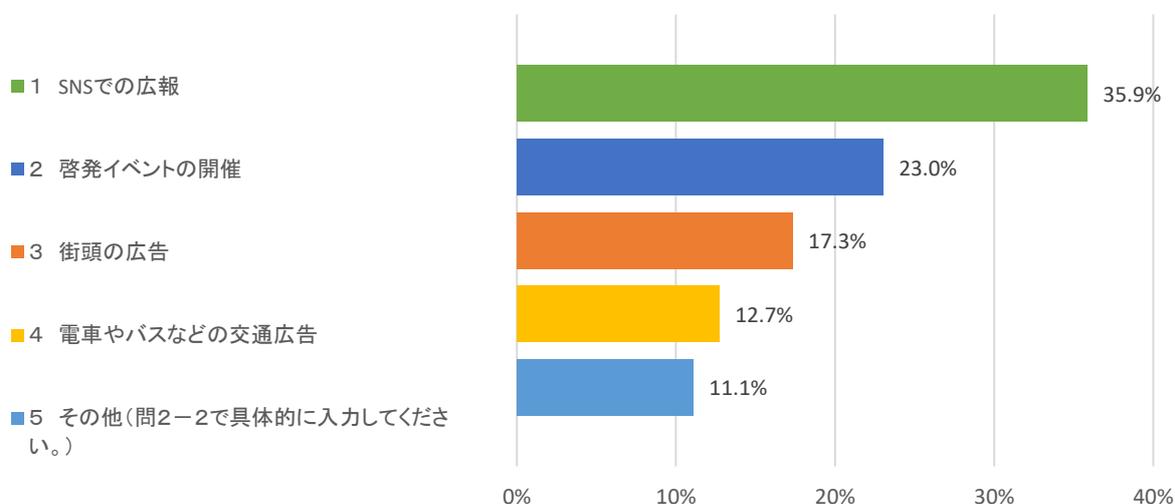
あなたは飲酒運転の撲滅を図るために、どのような広報・啓発が効果的だと思いますか。
次の中から最も当てはまるものを【1つだけ】選んでください。

※詳細については、県ホームページを御参照ください。

<https://www.pref.fukuoka.lg.jp/contents/insyuuntenbokumetu-torikumi.html>

(n=369人、選択は1つのみ)

1 SNSでの広報	35.9%	(132人)
2 啓発イベントの開催	23.0%	(85人)
3 街頭の広告	17.3%	(64人)
4 電車やバスなどの交通広告	12.7%	(47人)
5 その他(問2—2で具体的に <input type="text"/> してください。)	11.1%	(41人)



問2—2 問2で「5」を選んだ場合は、その内容を具体的に入力してください。

(n=41)

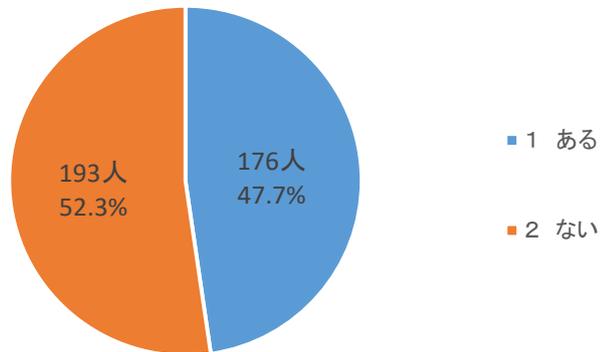
約17・8年前の福岡での大事故を教訓に県が特別期間を設け、その間車で飲食店に来た人にはノンアルコールやジュース類の割引券やタクシー割引券を渡すなど行政と民間一帯のイベントをやってみてはどうですか。
頻繁な取り締まりとお酒を購入する際のマイナンバーカードの提示など
飲食店での注意喚起と、代行運転の利用促進
お酒を出すお店に、啓発ポスターを目立つように貼る。 貼るポスターの内容は、恐怖を覚えるぐらいインパクトのある内容にする。
飲酒運転の悲惨な現実を伝える「感情に訴えかける」広報 「飲酒運転は犯罪です」というメッセージの定着
厳罰化を図り、そのことを告知する
免許更新の際に講習で流れる映像がとても印象深く忘れられません。冊子の中の飲酒運転を犯した方の手記も大変記憶に残っていて、自分も気をつけなければ、と思う事が出来ます。しかし、怖い映像をストレスと感じる方もいるので、難しいですね。
NHK福岡の地域ニュースや、FBS福岡くん。TNCや、九州朝日放送などの情報番組、夕方ニュース時間帯に、毎回流して欲しい
「車載カメラ録画中」や「赤ちゃんが乗っています」といった既存のマグネットに「飲酒運転撲滅」のメッセージを加えた啓発ステッカーを作成し、下記の場所で配布することを提案します。
配布場所 運転免許更新時(試験場・警察署) 母子手帳交付時(市町村窓口) 保育園・幼稚園・学校の通安全教室
日常的に目に触れる場所に貼ることで、飲酒運転への意識を高め、煽り運転の防止など副次的な効果も期待できます。
飲酒運転にて加害者被害者となってしまった方々両者による、事故後の生活等に関する事を訴えるセミナーを頻繁にTV番組にて伝える。
デジタルサイネージで動画を繰り返し繰り返し流す。 (注意啓発ではなく実際にぶつかった動画などリアルな動画)
アルコールを提供する飲食店での掲示がいちばん効果があると思います。みんな飲酒運転がいけないことが普段はわかっているけど、いざ飲酒したあとは、これくらいなら大丈夫、という気持ちになるものなので、そこでちゃんと「普段わかっていること」を思い出させることが大切かと思っています。
そもそもSNSや街頭の広告、交通広告を見る人は飲酒運転しないと思います(良識があるので)なので税金をかける形になりますが、例えばYoutube広告で出したり、福岡県民全員に届ける「チラシ」という形が一番効果があると思います。
飲食店でのポスター掲示
短期的には、週末夜や繁華街周辺でのランダム検問強化や、無料タクシー・代行クーポン配布、違反者の公表が有効だと思います。さらに、事故被害者や加害者の体験映像をSNSやテレビで広く伝え、飲み会主催者に安全な帰宅確認を義務付けると良いと思います。加えて、居酒屋やバーでの飲酒時免許証預かり制度を導入すれば、運転を防ぐ効果が高まると感じます。
テレビの酒類CMのテロップで流すだけでなく音声でも流す。 そもそも子どもたちも視聴する時間にビールなどの広告が多すぎるから、幼い頃から好奇心を刷り込まれ飲酒に対して抵抗感が薄れている。日本の慣習からも飲酒へのハードルを低くしている。
免許取得時(新規・更新)での意識向上を図る取組み
酒販売店、飲食店、居酒屋での徹底的な啓発、ポスター活用。
1～4の広報に加え、自治会や付随するイベント、学校や企業と協力をして個別に啓発活動を直接行う事で条例の浸透と飲酒運転禁止の意識を高めることができる。 草の根運動になるが、その運動の継続や運動量が飲酒運転の減少と撲滅に繋がると考える。

飲食店、販売店での啓発ポスターの設置義務。複数の設置サイズのデザインや種類によって大きさを決め、設置数、サイズによって啓発に参加した企業には、特定のポイント付与や、何かしらの特典を与える。
大企業、中小、自営限らず、福岡県内にある全ての会社に、飲酒運転撲滅の啓発ポスターを貼ってもらう。
警察官による取り締まり強化
実際の取り締まりの強化
お酒を提供する飲食店を重点的に広告や店内の掲示物などで知らせる。
広報や啓発はすべて行えばよいと思います。 世代によってまったく違うので。 どれが効果的かはわからない
酒を販売している場でのポスター掲示
飲食店経営者と従業員に関する研修 高校生に対する社会科、家庭科での授業での学習
各個人へ送られる公、官の郵便物を利用する。 飲酒撲滅メッセージ付きの封筒や葉書を作成する。
乗用車を使いそうな場所での広告掲載(飲食店、コインパーキングなど)
対象となる成人だけでなく、学習段階(義務教育)飲酒運転をしてはいけない(したらどうなるかを加害者・被害者両サイド)ことを学ぶ機会を作っていくことが必要だと思います。飲酒運転は人を殺してしまう可能性があるということが当たり前である意識を醸成するが必要であると思います。 具体的には、小学校から道徳の授業の中で学ぶ等
テレビなど偏らない多くの人が見るCMや番組がいいと思う
道路の電光掲示板
テレビによる広報活動が効果的かつ身近に伝わり易いと考えます。
公共施設や公衆トイレの便器に立つ、座ったときの目の前に見えるようにポスターを掲示する。問いかけるように。
格安自動運転タクシーの実用化。
海外の様なインパクトのある内容の広告をテレビCMやSNS等の媒体で流せば、危機意識が浸透すると思うから。
学校、企業での講演会
処罰の厳正化と、その事例の報道。「そんな事をすると、こうなります」という具体的な中身を伝える。
多角的・継続的なアプローチをすべきです。 過去の重大事故の実映像や再現ドラマを用いたショック効果のある映像を制作し、SNSや公共施設で上映。 企業など朝礼・安全会議で定期的に事件事例と処罰内容を共有。 学校で子ども向け飲酒運転防止授業を行う。家庭に啓発資料を持ち帰らせることで親世代へ波及。
テレビCM
居酒屋など飲食店への教育

問3 あなたは、配架してあるチラシやフリーペーパーなどを手に取ったことがありますか。
次の中から当てはまるものを【1つだけ】選んでください。

(n=369 選択は1つのみ)

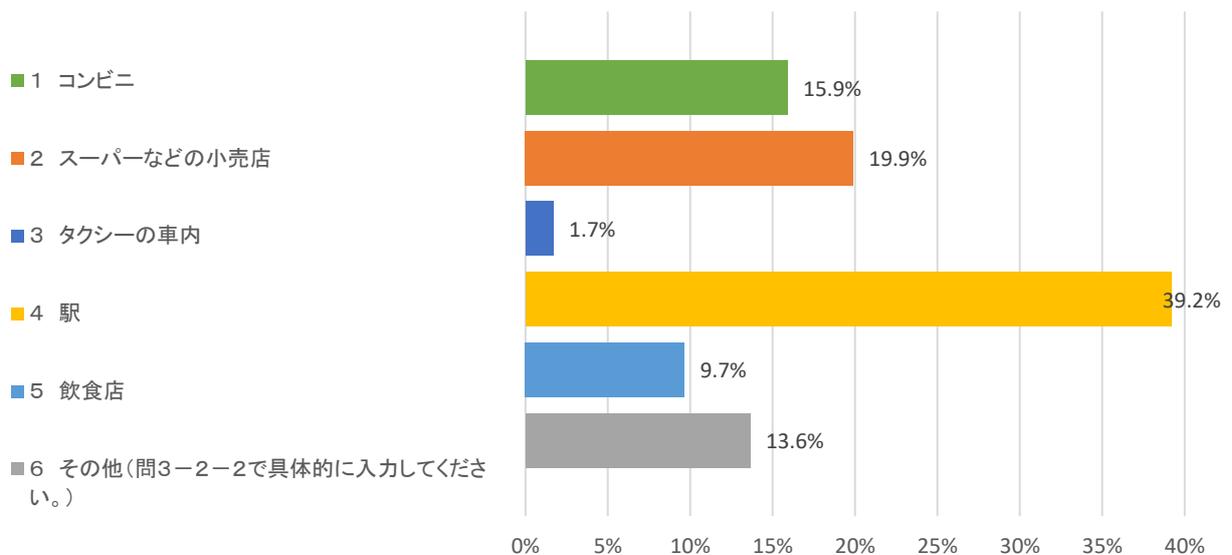
1 ある	47.7%	(176人)
2 ない	52.3%	(193人)



問3—2（問3で「1」を選択された方にお尋ねします。）
どこで手に取る機会が多いですか。
次の中から当てはまるものを【1つだけ】選んでください。

(n=176人、選択は1つのみ)

1 コンビニ	15.9%	(28人)
2 スーパーなどの小売店	19.9%	(35人)
3 タクシーの車内	1.7%	(3人)
4 駅	39.2%	(69人)
5 飲食店	9.7%	(17人)
6 その他(問3-2-2で具体的に入力してください。)	13.6%	(24人)



問3—2—2 問3—2で「6」を選んだ場合は、その内容を具体的に入力してください。

(n=24)

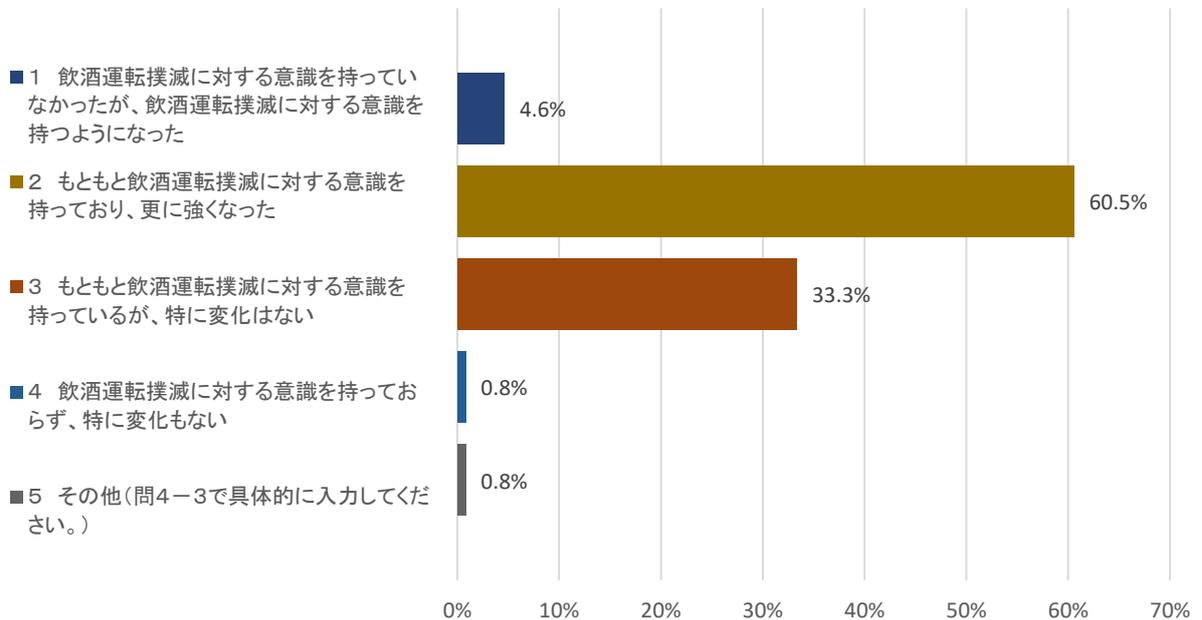
(子供の習い事会場の)市役所や市民センターなど
市役所、図書館
役所
学校、パンフレット置き場
市民センターからの回覧などで見たと思います。
市役所
役所やその出張所に置いてあるチラシ
中央区役所を訪ねる機会が多く、その際チラシ・ポスターを目にします。
児童館や図書館など公共の施設など
・区役所 ・講演を聞いたことがあるから
幼稚園
図書館や市役所など公共施設。吟味された情報という安心感があるから。
ウォッシュハウス
町の施設や図書館
郵便受け
公共施設
イオンやゆめタウンなど大型ショッピングセンターなど
公共施設
図書館などの公共施設
公共施設(アクロスなど) 色々な情報が一カ所で入手できるためよく利用する
市役所や図書館などの公共施設
役所や図書館など公共施設の情報コーナー
筑后市立図書館
啓発活動の一環として、配られてるのを受け取った。

問4 近年における飲酒運転撲滅運動等をきっかけとして、御自身や周囲の方々の飲酒運転撲滅に対する意識に何らかの変化がありましたか。

次の中から当てはまるものを【1つだけ】選んでください。

(n=369人、選択は1つのみ)

1 飲酒運転撲滅に対する意識を持っていなかったが、飲酒運転撲滅に対する意識を持つようになった	4.6%	(17人)
2 もともと飲酒運転撲滅に対する意識を持っており、更に強くなった	60.5%	(223人)
3 もともと飲酒運転撲滅に対する意識を持っているが、特に変化はない	33.3%	(123人)
4 飲酒運転撲滅に対する意識を持っておらず、特に変化もない	0.8%	(3人)
5 その他(問4-3で具体的に記入してください。)	0.8%	(3人)



問4-2 (問4で「1」を選択された方にお尋ねします。)

飲酒運転撲滅に対する意識にどのような変化があったかを差し支えない範囲で具体的に記入してください。

(n=12)

自分自身が飲酒運転をしないのを当たり前と思って過ごしてましたが、他の人・身近な人にも飲酒運転をしない・させないと思うようになったことです。
飲食店で啓発を受けることが増えた。
最近、ニュースで、飲酒運転で逮捕がでて、初めて意識が、上がった。
厳しい罰則、また周囲の飲酒運転に対する意識
30年くらい前までは飲酒運転当たり前という周囲の状況だったが、今では考えられない。
周りに飲酒運転をしている人を見たことがあったが、注意しなければならないと思うようになった
飲酒して運転するドライバーはもちろんの事、同乗者も責任があり罪になる。
飲酒運転はみんなで防止することが重要と考えた
志賀島の事件以来、飲酒運転の恐ろしさを知ったので、絶対に飲酒運転はしないようにしています。
一昔前は、短時間寝たら運転してもいいという認識の人がおおかったが、現代はそれがなくなった。
両親は以前、飲酒量が少なければ運転をすることもあったが、近年は私たち兄弟から指摘したり厳罰化が進んだりしたこともあって、少しでも飲酒したら運転しないという意識を持ってくれるようになった。
アルコールの分解時間を考えて、飲酒量を調整するようになった。

問4-3 問4で「5」を選んだ場合は、その内容を具体的に入力してください。

(n=3)

自分自身及び周囲が自動車の運転をしないため、意識の変化はない。

お酒飲まないから個人的には何も変わらない。
周囲はお酒を飲んだ時は代行を使うようになった。

免許証更新で、動画を見て心に刻みました。

問5 飲酒運転の撲滅について、これまでの設問以外に意見(飲酒運転の撲滅のために必要だと思うこと等)はありますか。

ある場合は、その内容を具体的に入力してください。

(n=244)

飲酒運転によって亡くなった人の遺族のコメントを、もっと広報すべきと思います。

家族の抑止
飲食店の監視

飲酒運転した結果の、加害者のその後の人生をSNSやテレビ番組、新聞などあらゆるメディアで伝えることが足りてないのではないかと。社会的にどうなったか、金銭的にどうなったか、など。一度の飲酒運転でどれだけ人生を棒に振ることになるか想像できないので、やってしまうのではないかと。被害者家族の切実な訴えはよく見るが、加害者がその後どうなったかは、知らない人が多いと思う。

私自身はバスなどの公共交通機関をよく利用するので、掲出自体はよく目にしますし、そういった県民の意識向上につながるとはおもいますが、飲酒運転をされる方たちは、おそらく自家用車を利用されておりあまりそういった街頭や公共交通機関のポスターをみる機会がそもそもないのではないかと思います。免許更新のタイミングだけでは不十分かと思しますので、職場での指導や、スーパーや飲食店、車を扱うお店など、運転される方が目にする場所へ掲出をすすめるなど、効果的にしていく必要があるかと思えます。

飲酒運転になるかどうか判断できるキットの配布

小中高でもダメということを学んだ記憶があると思いますが、大学等の高等教育、社会人となると情報として流れてくる機会はあっても、知ろうとする機会が無くなっているように思います。
私が勤める会社では、飲酒運転撲滅宣言を行っていますので、会社でも取り組みとして交通安全運動は実施していますが、やはり学校、企業体それぞれで担当者や安全運転管理者が日ごろから啓発活動を行い、身近な存在として指導していく必要があると思われる。

あってはいけないので、周囲がしっかり家族や仲間を守る意味で、飲酒の場を冷静に見ること、自覚の無い人には関わらず、れっきとした態度を示す事、人間の安全と幸せは何か考える事と思えます。

飲酒運転における被害者と加害者のその後の状態や生活等を、実際の映像やドラマを制作しテレビやSNSで訴えかける。

罰則を厳しくする

飲酒運転を無くす為に、本人だけでなく、同乗者や周りの人達の協力も大事だと思った。

特にない。今のままで十分だと思う。

更なる厳罰主義の強化！

飲酒運転での言い訳として「既にアルコールが抜けてると思ってた」ということをよく耳にします。やはりアルコールをチェックするもっと簡単で安価なりトマス紙のようなものが欲しいですね。

飲酒運転をする人は、公共交通機関の利用をほぼしないと思います。日中はコンビニやスーパーの駐車場、夜間は飲み屋近辺に飲酒運転を見つけた場合110番ではなく動画を送るや最寄りの警察のSNSに送り検挙につながればポイントが入るなどし関心を高めてほしいです

繁華街の駐車場でのアルコール検査など実施しても良いのではないのでしょうか？

<p>50代男性へ重点的な啓発が必要だと考えます。特に「少しなら大丈夫」という過信や、長年の習慣からくる慢心が背景にある場合も多い層かと思えます。交通安全やアルコールに関するリテラシー向上、モラル意識の醸成が重要と考えます。また、アルコール依存症が関与しているケースもあり、予防や相談体制の充実といったケアも不可欠だと思います。また、運転業務のある企業では普段からアルコール依存になっていないかなどの運転時以外の広い調査をすることの必要性を広めていくのもいいかと思えます。加えて、アルコールチェッカーを一般の人々が入手しやすい価格・流通に整備することや、運送業界などでの導入促進、さらには飲食店街などに誰でも利用できるアルコールチェックスポットを設けるなど、チェック環境を社会全体に広げていく取り組みも効果的ではないでしょうか。</p>
<p>ここ数年、あれだけメディアで飲酒運転の撲滅などを報道や啓発をしているのになぜ飲酒運転の事故の報道が後を絶たないのだろうかと思議でならない。事故が起こるたびに飲酒運転の危険性を訴えている当事者や被害者の言葉はどうして届かないのか。 特に被害者の家族のコメントを聞くにつれ、いたたまれない。 どうしたら撲滅になるのだろうか。 最近では、「アルコールが抜けていると思っていた」という当事者がいるのが残念でならない。 対策として考えられるのは、運転前にカーナビなどで「アルコール検知をします。」とか「アルコール検知チェックを開始します」と検知してくれる機械が付いていればいいのと思う。(実際あるのかもしれませんが) 自分事として自覚できる仕掛けがあればいいと思います。(スタンプラリーみたいな)</p>
<p>アルコールの販売を辞める。 飲酒運転をする人はほぼアルコール依存症。</p>
<p>具体的に、このお酒をこの量飲んだら基準値を超えるという基準を広めてはいいのではないのでしょうか？神社でお神酒などのごく少量のお酒をいただくケースもあると思いますので、分かりやすくいいと思います。</p>
<p>飲酒運転で人生終わってしまう旨の動画を運転免許講習に取り入れる。</p>
<p>飲酒運転をすることによって、被害者のみならず、加害者側にかなりの刑罰が起こることへの認知を更に広めることが重要と思えます。</p>
<p>飲酒運転で事故を起こした人の体験を文章化し書籍や広告にする 飲酒運転で事故を起こすと人生が変わることを周知することが大事 代行運転業者を増やす事※ライドシェア事業の普及も含む</p>
<p>福岡県は2006年に飲酒運転の車に追突されて3名のお子さんが亡くなったという悲惨な事故をうけて県をあげて運動をおこなったり、条例を制定したり違反に対する罰則などを強化しており、司法も行政もそれなりの対策はとってきているものの近年飲酒運転による摘発が増加しているように感じられる。違反金は高額となり公務員などは懲戒免職といった厳しい処分等があるにも関わらず飲酒運転が減少しない現状をみると未だに「私だけは大丈夫」といった気持ちがあるケースとアルコール依存症の存在が大きな要因ではないかと考える。 飲酒運転をなくす方策としては県が条例で定めている「飲食店側の通報システム」を基に飲食店業者に協力をお願いすることはもちろん、警察による摘発の強化、それにより摘発された者のマスコミでの実名報道など現行の対策は継続しつつ、飲酒運転で摘発された者全員に対するアルコール依存症の確認および治療へつなげる事、強制的な三日間程度の飲酒運転に関する講習会参加など少しやりすぎと思われる事も行っていかなければなかなか飲酒運転の減少は難しいのではないかと思う。</p>
<p>飲酒運転についての認識の甘い方々が一定数存在する気がしています。そういった方々にも認識していただくために、比較的強く広報をしていく必要もこれからあるかと思えます。</p>
<p>取り締まり機関を増やすこと。警察だけでなく一般からの公募で取り締まりの権限を与えて取り締まる。準公務員的な扱いで。</p>
<p>飲食運転が減っているかは不明だが、撲滅できていないということは、防止のための取組の効果が全くないということなので、罰則を強化するしかないと思う。 あとは、アルコール依存症の人を減らすことにも目を向けるべき。 治療や更生施設など。 そういう人には条例やモラルは全く通用しないので。</p>
<p>福岡県はいつまでたっても飲酒運転がなくなりません。 条例などで厳重な罰則を実施すべきです。</p>
<p>さらなる厳罰が必要だと思います。</p>

<p>飲酒運転は自動車講習以外でも行うようにしてもいいかもしれない。 例えば、自動車講習で流す飲酒運転撲滅動画をテレビやSNSで発信するなど。</p>
<p>お酒を飲むお店の従業員の業務後のアルコールチェック(車で出勤している方) 日常的にお酒を飲む機会があるので「これくらい大丈夫」「私はお酒が強いから」と運転される方がいらっしやると思いますし、実際酒気帯び運転で捕まった若い子もいらっしやると思います。</p>
<p>飲酒運転の撲滅に取り組んでいる事はわかりますが、先日も北九州市職員が酒気帯びで捕まっていました。 まずは県や市の職員の教育をしっかりともらいたい。</p>
<p>各企業や団体や学校などに啓発ポスターを配布して掲示や教育の場を設けさせる 懲罰を厳しくする。</p>
<p>当事者や家族の経験について知ること。具体的に事故を起こした後、自分や周囲がどうなってしまうのか、想像できるように周知するべき。</p>
<p>飲酒運転かどうか後ろからではわからないので、通報するタイミングがわからないので、こういう時等何項目か候補も書いてほしいです。</p>
<p>自動車学校での授業を強化する。 飲酒運転をしたことによる人生の破滅を、とにかく刷り込みのように植え付ける。</p>
<p>飲酒運転をやめられない人の中には、かなりの割合でアルコール中毒の人がいると思う。 家族や、職場の人、近所の人気が付いている場合もあると思う。 現行犯ではなく、事前に情報を寄せる窓口があったらいいと思う。</p>
<p>私は飲酒運転や、ドラッグをさせない為の啓発運動に参加し、補導員や保護司、ライオンズや市の職員方々と駅前ではらとティッシュ配りをしています。 一人でも多く意識を持って頂く事が大切だと思います</p>
<p>飲酒運転検問を行う量の問題もあるが、それ以上に検挙される人間が関わる事業、例えば建設業や運輸業など、事業者にも一定の責任を負わせるべき。 徹底した罪と罰の相関性を強くするべきだと思う。</p>
<p>飲酒運転の厳罰化も必要だが、義務教育での自動車の運転のルールやマナーを守る大切さを教えることが大切と考えます</p>
<p>飲食店やコンビニなど酒類販売店の従業員に、特に周知するべきだと思う。</p>
<p>飲食店側に徹底したルールを作る</p>
<p>居酒屋などの駐車場利用時、ドライバーの免許証のコピーを取る、宣誓書を書かせる、店内にいる間は蛍光の目立つベストを羽織ってもらうなど</p>
<p>居酒屋やコンビニなどアルコールの販売や提供を行うお店で購入時または代金支払い時に「飲酒運転をしない」の指差し確認をする。</p>
<p>多忙な日々であると思うが、週末や年始年末などの取り締まり強化は、飲酒運転事故を未然に防ぎ、悲しい事故防止に即効力があると思う。</p>
<p>飲酒運転をしてしまう心理的背景を探ることも大切ななと思いました。</p>
<p>罰則を厳しくするよりほかに方法はないと思います。過去いろいろな啓発運動が企画されていますが、ほとんど効果がありません。たとえば飲酒運転が発覚した場合は100万円くらいの罰金を課せば効果があると思います。 就職している場合は、即退職等の厳しさが求められます。</p>
<p>さらなる厳罰化</p>
<p>家呑みをして、車でお酒を買いに行く知人がいます。本人も悪いことであることはわかっているが1km程度の運転ならと過信もあるようです。 宅配での対応がもっと充実すれば解決できるかもしれません。 飲酒運転をしている人に寄り添った制度設計も重要かもしれません。</p>

飲酒運転を撲滅するためには、まず「絶対にしない」という社会的な意識を広めることが大切だと思います。そのために、代行サービスや深夜交通機関の充実、飲食店との連携強化など、環境整備を進めてほしいです。また、啓発活動においてはすでに取り組みられているとは思いますが、実際の事故被害の事例や、加害者・被害者双方の人生に及ぶ影響を、テレビやSNSなど多様なメディアを通じて伝えることで、より強い抑止力につながると考えます。さらに、顔認証や指紋認証などの生体認証と連動したアルコール検知システムを導入すれば、他者代用を防ぎつつ車両の始動制御や記録管理と組み合わせられ、技術面からも確実な防止策を実現できると思います。地域や家庭単位でも「飲酒運転は絶対に許されない」という文化を広めていくことが重要だと感じます。

飲食店の出入りに飲酒運転はダメの文字を大きく書いて貼って欲しい。

SNSのショート動画はより多くの方に見てもらえると思う。いろんな角度からの作品を流すことでターゲット別のムービーがあると面白いと思う。ターゲットが元々飲酒運転をしない若者や数時間寝たらアルコール反応は消えると思込んでいる人たち、仕事帰りに飲みたくなる人とは見る映像は変わると感じる。

飲酒運転をしても、懲戒処分に至らないケースもあり、ゆるい海の中道の事故以来、飲酒運転撲滅の機運は醸成されてきたが、未だに変わらない状況を見ると、飲酒運転をしたら一般社会に戻れないくらいのさらなる厳罰化が必要だと感じる。

- ・懲戒免職
- ・免許剥奪、一生免許を取得できない
- ・人身事故の場合は無期懲役以上

職場向けの出張(出前)イベントの開催。
二次被害にならないように配慮した上で、被害実態の紹介、広報。

すでに行われてると思われるが、自動車学校での啓発活動が有効だと思う。

酒好きの人は、どうやっても酒を飲む。強制的に運転できなくなるように、自動車に酒を感知したら、エンジンがかからない装置を付けることを強制的に法律に明記する。または、一度でも飲酒運転をしたことのある人には、義務化する。

継続することが大切だと思います。

行政が行うことができる範囲か疑問ですが、自動車の機能向上(息を吹きかけて飲酒をしていないことが確認できた場合にエンジンオンが可能になる機能等)が必要だと考えます。現在まで多くの広報・啓発を行っていますが、未だに撲滅できていない現状は、広報・啓発では限界があることを示していると思います。広報・啓発と同時に自動車の機能向上に行政が自動車メーカーと協力して研究・開発していくことが求められていると考えます。

「飲酒運転を見かけたときの110番通報の義務」というものを、国として定めているものと勘違いしており、今回初めて福岡県の条例だということを知りました。

以下はいささか乱暴な意見ではあると思うのですが、抑止力を強くすることが必要なのではないかと感じます。

- 今以上の厳罰化
- 言い訳によって責任が軽くなることのないよう制度の改革(すでにあるのならその周知)
- 事故の発生から飲酒運転者の結末までを具体的に記した実例を、定期的にSNSで広報

- ・刑罰の厳罰化
- ・就労している場合は、理由不問で即日解雇
- ・運転免許の永久剥奪

町中はもちろん、特に田舎を取り締まってほしい。田舎は車が足になっているから、そこを捕まえて、はじめて、行政が動くので、まだまだ甘い。また、都市部では、駐車場に監視カメラを設置し、飲酒と分かれば、ナンバーを控え、翌日逮捕して欲しい。

罰則の強化は、逆にひき逃げによる隠蔽を助長する可能性があるため、慎重な運用が必要です。近年、外国人による飲酒ひき逃げ事故も増えており、免許取得時に法令・罰則・応急救護義務や警察報告義務を明確に教育・周知することが重要です。

「知らなかった」「母国では許されていた」など言い逃れできない仕組みが必要で、短期滞在者でも国際免許で運転する可能性もあります。

同乗者の責任も曖昧にさせないためにすべての外国人に、入国時点で広く伝える気構えが必要だと思います。

一番は、家庭での認識、学校などでの認識、広報やテレビなどでの広報活動。
日本はコンビニや自動販売機などいつでもお酒を手に取りやすい購入しやすい環境なので、せめて夜間は購入出来ないなど一定の規制が必要だと思います。また、車にも飲酒しているとエンジンがかからないロックの搭載を早急に進めるべきだと思います。そして、アルコールに対しての税率をもっと上げるべきだと思います タバコのパッケージに癌や疾患について大きく掲載しているのと同じようにアルコール類のパッケージに対して飲酒運転の事故の遺族や被害者の声を大きく載せて意識改革をしていけば良いと思います。
取締まり及び違反者への罰則強化 取締りは大規模駐車場出入り口の抜き打ち調査 違反者は少なくとも1年間は運転できない
守れるよう何度も何度も発信し続けたいといけなと思います。絶対に風化させないために。
刑事罰強化
教習所での徹底教育
アルコール依存症者を家族友達にもつ方は、該者へ日ごろから強く言い聞かせ監視する。 アルコール提供者(飲食店等)へ罰を与える条例等を制定する。
飲食店でのアルコールチェック
飲酒運転撲滅について家族で話し合う週間を意図的に設けたりする必要があると思う。 Youtubeの飲酒運転撲滅動画は会社で共有されたが、もっと世間に公表すべきと思う。
福岡の飲酒運転問題について、正直言って、現状はあまりにも多すぎる。ニュースを見ていると、ほぼ毎日のように飲酒運転による事故が報じられており、このままでは命が危険だ。福岡の道路は、運転が荒く、他の車両を見ているだけでも事故のリスクを感じる。自分自身も横浜では運転していたが、福岡ではそれが難しい。運転すると、事故に巻き込まれる可能性が高いと感じ、今では運転を避けている。
飲酒運転撲滅のためには、まずは社会全体の意識を変えなければならない。飲酒後に車を運転することがいかに危険か、もっと強く認識すべきだろう。教育や啓発活動を強化し、飲酒運転が許されない社会の風潮を作ることが重要だ。社会的な非難を強化することで、運転者が飲酒後の運転に対してより強い意識を持つようになるだろう。法的な罰則強化はもちろん大切だが、それだけでは不十分だ。罰則が厳しくても、それに甘んじて飲酒運転を続ける人がいる限り、問題は解決しない。
また、飲酒後に運転せずに済むような環境づくりも必要だ。終電や終バスの時間を延ばすことがその一つだろう。働いている人たちにとって、終電や終バスが早い時間に終わるのは大きな問題だ。もし、公共交通機関の利用がしやすくなれば、飲酒後の移動手段としてより多くの人が公共交通機関を利用するようになるはずだ。それだけで、飲酒運転のリスクを減らすことができる。
飲酒運転についての刑罰が軽すぎると感じている。危険運転の基準を厳しくすべきである。
罰則強化
飲酒運転は厳罰化を行い、減らす努力をもっとした方が良いと思う また外国人が増えてる中で外国人は認識が甘い部分があるので、周知した方が良い
飲酒運転は絶対にしてはいけないことを意識せざるを得ない環境を張り巡らせること。今でも海の中道の事故や高校生の息子さんを亡くされたお母さんが事故の命日にはよく新聞で取り上げられているが、命日の近辺だけ飲酒運転撲滅運動をすれば良いものではないので。
どれだけ啓発のための広告活動をして、響くのはもともと気を付けている県民であり、未だに飲酒運転のニュースはなくなる。実名報道はされているが、刑罰そのものをもう少し厳しくしないとなかなかなくなると思う。 ただ、広報活動も全く意味がないわけではないので、7月だけでなくもう少し頻りに啓発活動をしてほしい。
タバコ同様、酒にもパッケージに飲酒運転の注意喚起の表示
本人の自覚次第だと思います ただ、飲酒で捕まった場合の家族への影響、事故を起こした場合の被害者(家族含)への影響等を理解すれば、飲酒運転は、減ると思います 免許を取得する時、飲酒違反等の時に、飲酒運転での事故、家族の影響等の映像で自覚を促すようにしたらどうでしょうか

<p>新聞・TVニュース等によれば、飲酒運転は減っていないと感じています。法的な厳罰化もなされているとは思いますが、更なる重たいペナルティを課すべきではないでしょうか。</p>
<p>アルコール依存症の方およびその家族の方へのサポートプログラムの費用を一部補助する。通勤や業務で車の運転をする事業所ではバスやタクシーのようにアルコールチェックを義務化する。</p>
<p>福岡県はいつまで経っても飲酒運転をされる方がいるので車に感知機をつけてはどうでしょうか</p>
<p>飲酒運転をした者に実際の事故や被害者の体験談をしっかりと知らせることが大事だと思います。自分や家族に置き換えることでその痛みや社会的影響、被害を具体的に知らせるべきかと思います。</p>
<p>私自身、飲酒運転をされていた車に正面衝突されて小さい頃に受けた外傷が未だに残っています。何故、飲酒運転が、減らないのか、いつも疑問に思います。人生を棒に振ってまで飲酒運転をする人達の神経がわかりません。ましてや、忘れもしません。小さい子供が8月25日に海ノ中道の途中、飲酒運転で命を落としました。飲酒運転をする方々は容赦なく免許剥奪、以降免許がとれないようにして欲しいです。私自身が飲酒運転で受けた傷が残っているので強い思いがあります。</p>
<p>飲酒運転をしちゃう人は「良識のない」人です。良識のない人でも一発で伝わるようにするには法改正もしくはアプローチの仕方を変えるしかありません。法改正はすごい時間が掛かるでしょうから無理なのですが、飲酒運転をしたら「殺人未遂罪」を適用すればいいと思っています。</p>
<p>アプローチの仕方を変える件ですが、殺人未遂罪を適用できませんが飲酒運転は実質殺人未遂のようなもので、ワード的にも非常に重たいパワーワードです。なので啓発広告などであえてこのワードを使うことで、かなり強いイメージを与えられると思います。</p>
<p>例えば「お酒飲んで運転したの？それ”殺人未遂”だよ」や「パパ、人殺しなの？」「飲酒運転は人殺し予備軍です」などです。強い言葉なので子どもが啓発活動で使うのは難しいと思いますが「良識のない人」には強い言葉で投げかけないと絶対に響きません。</p>
<p>一番は法改正がいいんですが、まずはパワーワードで反応を見てみるのもありかと思います。</p>
<p>そもそも飲酒していたら車に乗れない車にするなど仕組みづくりが必要と思う</p>
<p>社会全体で撲滅する！許さない！という姿勢をこれからも強く持つべき。</p>
<p>お酒を飲む時には、本人も同行の家族や友人も、飲酒運転は絶対ダメだということを全員で共通認識でいるためにも、お店からの指導やポスター、代行なども積極的に使えるような環境があるといいと思う</p>
<p>飲酒運転による事故の話を、免許更新の際に聞いてより強く飲酒運転の怖さを考えました。実体験の話も含めると話が聞きやすかったです。</p>
<p>どの年代の意識が低いかわからないが、意識が低い年代に対して有効な手段で意識改善を行う必要があると考える。</p>
<p>意識付けに関しては啓発等で十分に伝わっていると思うので、物理的に飲酒後の運転が出来なくなるアルコールインターロック装置を義務化するとかですかね？ あとは、罰則をさらに厳しく一発で必ず実刑(刑期も長く)にするなどでしょうか。</p>
<p>ラジオを聴きますが、クロスFMのコーナーのひとつに毎日の飲酒運転による事故数を報告するものがありました。こんなに運動をしても飲酒運転する人がいるんだと毎日驚いていました。ラジオは運転する人がよく聴くはずなので、各局連日報道したらいかがでしょうか。</p>
<p>車だけでなく自転車も罰則の対象になることを周知すべきだと思う。車ほど大きな事故にならないかもしれないが、だからこそ気の緩みがあると思う。</p>
<p>車と違い自転車はナンバーがないので通報しにくいのかなと思う。身元がある程度わかる相手なら通報して説明出来るけど通りすがりで見かけたとしてもすぐいなくなってしまうかなと感じています。マナーが悪い乗り方はよく見かけます。並んでいたり、先日は全く避けようとせずに歩道を前から来て、横をすり抜けるのがギリギリで腹立たしかったのか「オイ！」と怒鳴られとても怖かった。</p>
<p>飲酒運転によって起きた悲劇を伝え、飲酒運転の怖さを伝える機会があるといいのではないかと思います。</p>

<p>私は運転をしないので罰則について詳しく知らないのですが、どうして飲酒運転をするのか理解できません。 罰則強化しかないとします。 酒気帯び運転で一発免許取り消しを原則というのはどうですか？</p>
<p>飲酒運転の撲滅には、短期的な取締りや啓発だけでなく、社会全体の意識や行動を変える長期的な取り組みが必要だと思います。まず、学校教育において中学・高校段階から飲酒運転の危険性や法的責任を学ぶ機会を定期的に設け、若いうちから「飲んだら運転しない」という価値観を根付かせることが重要です。また、企業や自治体、学校単位で「飲酒運転ゼロ宣言」を行い、その内容を社内・校内で常に見える形で掲示することで、集団としての行動規範を形成できます。さらに、代行運転やタクシー利用を促すための料金補助制度を恒常的に整備し、「飲んでも安全に帰れる手段」を当たり前にする環境づくりも必要です。被害者や加害者の手記やインタビュー動画を教材化し、定期的に視聴する機会をつくることで、感情に訴え、記憶に残る啓発が可能になります。加えて、繁華街や観光地など人目につく場所に飲酒運転撲滅のメッセージや事故事例を常設掲示し、日常生活の中で継続的に意識づけを行うことも効果的です。さらに、将来的には自動運転車の早期導入を推進し、飲酒時でも安全に移動できる社会インフラを整備することが、根本的な撲滅につながると考えます。こうした教育・文化・環境・技術の四方向からの継続的な施策により、飲酒運転をしないことが「特別な意識」ではなく「当たり前の行動」となる社会を実現できると考えます。</p>
<p>飲酒運転の撲滅に対する啓もう活動の限界を感じており、今は社会の本気度が問われている状況ではないかと思う。例えば、現状では重い罪という認識が薄いので、違反した場合のペナルティを重くする。罰金刑は無くし、禁固刑や長期間の運転免許取得不可など、一般生活が困難となるレベルのペナルティを科す。同乗者にも運転者と同じペナルティを科す。などの検討が必要と思う。</p>
<p>海の中道の悲惨な事故以来、飲酒運転は減少したことがあるが最近ではまた飲酒運転による事故や検挙などのニュースを毎日のようにみることがあります。 飲酒運転による罰則をさらに強化することはもちろんですが、飲酒運転をする人の多くはアルコール依存症またはそれに近い人が多いと思います。やはりこのような人たちの治療や意識改善の手立てをしっかりとしなければならぬのではないのでしょうか。</p>
<p>自動車免許証更新の際に啓発ビデオを見せます。</p>
<p>【職場等で予防文化を醸成する】 1. 職場を軸にしたルール化と緩やかなネットワーク連携を促す 会社単位で「飲酒運転ゼロ規範」を明文化し、飲み会後運転の禁止（違反時は社内ペナルティ）＋代行費補助など制度化する試みを後押し。各企業の安全衛生活動やCSR活動の一環として横のつながり（業界団体・商工会議所など）の活用も可能性有。業界ごとに安全運転優良企業の認証制度を設け、対外的に評価される仕組みを作る。 2. 利用者参加型の安全インフラの作成 代行運転やタクシー配車アプリと連携し、飲み会当日の「移動記録」や「帰宅ルート」選択を簡単に可視化する仕組みを作り、企業等での導入を促す。ポイント還元や飲食店割引とセットで、車を運転しない選択を経済的にも後押しする。職場やオンライン共同体で「安全行動ポイント」を共有できる仕組みを導入。</p>
<p>とにかくテレビやSNS等で粘り強く広報することだと思います。</p>
<p>飲酒運転を行った人は直ちに運転免許を返納と定めてください。 飲酒運転の撲滅に向け、警察官の警備人数を増やし、住民の意識を高めて頂きたいと思います。 飲酒運転の撲滅に向けた広報を深めて頂く事で、効果が高まると思います。</p>
<p>飲酒運転に限らず、携帯電話触りながらの運転にも力を注いでほしい。車に限らず、自転車も原付のイヤホン両耳にいらての運転も論外ではない</p>
<p>酒販業界自らが飲酒運転の撲滅に向けた呼びかけを行う活動があると、とても興味を引く新たな活動になるのではないかと思います。 このような活動は、本来酒類の売り上げ増と相反する方向性のものと思われるかと思いますが、様々な分野におけるコンプライアンス意識は今後ますます広がるものと思われる。飲酒運転撲滅を訴えることが決して酒販業界にとってマイナスにならないという認識が広がるとよいのでは、と思っています。</p>
<p>ひとくちでも飲んだら乗りませんが、日常的に飲酒はしています。 正直、どれぐらいの量を？どれぐらいの時間をあけなければならないのか？ 正確な量と時間を知りたいです。そしたら、さらに意識が高まると思います。</p>

若い世代への啓発を学校行事として取り入れるくらい重要視したほうがよい。 また、会社経営者にも酒の席でのルールを徹底するよう広報する機会を増やす。
人間の意識だけに頼るには限界があるため、テクノロジーの力で物理的に飲酒運転を不可能にする仕組みの導入、あるいは自動運転レベル6の開発が不可欠である。
アルコール類のラベルに飲酒運転の危険さ等を目立つように記載する。タバコのラベルに健康被害の事が書かれてみたいに。
運転代行の充実
飲酒運転で摘発された人の氏名を必ず公表する様にしていく。飲酒運転する人は啓発運動にもかかわらずするだろうし、ある程度の社会的な制裁を科さないと減っていかないと思う。
企業や学校に、飲酒運転含め安全な運転のための講習や適性検査を実施することを義務化する必要があると思います。
学校教育で取り入れて欲しいです。既に組み込まれているのですが、親子で受講するとか、子どもたちが大人たちを教育できていると思っています。
県政でどうにかなる問題ではないかと思いますが、車自体に呼気チェッカーを搭載するなどの対策をしなければこの先飲酒運転がなくなることはないと感じております。
飲酒運転0を目指して今日までに〇〇日目をいうニュースをTVで流しても効果的だと思いました。ラジオではそのようなものを聴き、より気を引き締めていこうと思いました。
あまりにもお酒のコマーシャルが多すぎる。飲め飲めと訴えてくる気がします。コマーシャルを減らすべきでは。
飲酒運転により人生を棒にふることになるメッセージの強化
もっと学校で飲酒運転の怖さを教えた方がいいと思う。SNSや広告では他の情報が多過ぎるので、目に止まらない。
飲酒運転で逮捕された人がよく「もう酒はぬけていると思った」と言っています アルコール分解の正しい知識や軽い判断がまねく恐ろしさをさらに伝える努力が必要です
問1-2で、その他を選択したかったのにその他が無かったので、2新聞・テレビを選択しました。 実際のところ私が最初に通報の義務を知ったのは、アルバイト先の飲食店のマニュアルでした。そこでは飲酒運転をさせない、見かけたら通報を徹底的に教育してたので、飲酒後自転車・自動車で帰る客を見かけても止めて、止まらないようなら警察に通報しました。 福岡県は飲酒運転が本当に多いと思います。悲惨な事故がまた起こる前に、販売店への指導に力を入れてほしいです。
飲食店などで、ポスターなどの掲示を増やす。駐車場などにも掲示する。
罰則が緩すぎると感じるので更なる厳罰を科すことによって抑止力になると考える。 都市部より地方都市での飲酒運転が多いイメージがあるため、啓蒙活動は地方都市で集中的にやる方が効果が高いと思われる。
テレビにて飲酒運転の恐ろしさを伝える動画を流す。 飲酒検問の場所、回数を増加させる。 飲酒運転による罰則を強化する。
飲酒運転をする方は劇的に減っており、ハンドルキーパーや車で帰る方はお酒を勧められない空気も増えている。他方で、断れない雰囲気はまだある。罰則を厳しくしても飲酒運転を行う方は減らないと思う。 飲酒運転の危険性について、日常生活で学ぶ機会や情報に接する機会が多いほど撲滅に近づく。全員に浸透は厳しいが、様々な周知方法を試して情報を広げてほしい。
近年、若年層や高齢者の飲酒ニュースが散見する若年層に向けては学校教育での周知徹底、高齢者では免許更新時での啓蒙活動強化に加え、飲酒運転撲滅集中取締りキャンペーン等によるさらなる注意喚起が求められる
飲酒運転の疑似体験を免許更新の何回かに一度取り入れて、恐怖体験(大げさな言い回しになりますが)を味わってもらいたいと思います。

<p>警察が飲酒運転で逮捕されるニュースをみると、説得力がなくなる。まずは、警察官や公務員の撲滅のための取り組みを強化してほしい。その強化方法を広報すればいいと思う。また、免許を取った人のみアルコールを購入できるようにするなど、購入段階で制限すればいいと思う。20才以上でなく、免許を持つて人のみアルコールを飲めるようにするのもいいと思います。</p>
<p>若年層はSNSからの情報収集が多いと思うので、SNSからの発信を多くするといいとおもいます。</p>
<p>お酒が残っているかわからない人のため、車へのアルコールチェッカーの搭載義務化。 また、過去の悲惨な事故事例など啓発メッセージなど、自動車税納付書に印刷して目に届くようにする。</p>
<p>複数人の身勝手な行動により、他者に不利益を与える事については、警察や啓発活動のように税金投入した形で自身を含めた多くの人々の社会的活動に制限をかける形となる事について、理解増進できる何らかの媒体を通して伝える事が出来たらいいと思います。</p>
<p>飲酒運転の刑罰を今よりも重くする</p>
<p>社会福祉協議会と協力して、高齢者に向けた、飲酒運転撲滅の講演や授業をした方が良くと思う。 高齢ドライバーが増加する昨今、運転技術だけでなく、飲酒運転がどれだけ危険なのか認識した方が良く思う。</p>
<p>利用するSNS上で広告のような形で目に付けば、さらに意識を持つ人が増えるのではないかと思う。特に若い年代。</p>
<p>飲酒運転はこれぐらいは大丈夫という旧来の考え方から抜け出せていない人への啓もう活動を強化する必要がある</p>
<p>30年ぐらい前のグレーだった頃の感覚が高齢者には少しある気がする。 近所なら、田舎道ならという感じ。 田舎の飲食店等へのキャンペーンや高齢者講習で力を入れていったほうが良く思う。</p>
<p>警察官による取り締まり回数を増やすこと、場所も増やすこと、いつもやっていると見せることで、絶対に減ると思う</p>
<p>繰り返し継続的な啓発に尽きると思います。事故のニュースを見るなどして飲酒運転はいけないと心に刻んでも、その後無事に過ごしていると忘れてしまうのが人間ですから、何度も思いを新たにできるよう、免許更新講習や職場の安全講習など様々な場所で事あるごとに耳に入るようになってほしいです。</p>
<p>家族、友人そして飲食業者など飲酒の機会に立ち会う者が飲酒運転は厳禁という事を自覚、徹底する。</p>
<p>車メーカーの対策をもっとお願いしたいです。 お酒を飲んだらエンジンがかからないような仕組みの車を開発してほしいです。 アルコール依存の人への対策も考えたほうがいいかもしれません。電話相談やネットでの相談など気軽にできるようになると良いと思います。</p>
<p>飲食店等に夜でも警察官が立ち寄るような行動があってもよいと思うんですが。 警察官がいるのといないので、どんな場所でも違うように思える。 酒類を二重構造のようにして、すぐには飲めないようにはできないでしょうか</p>
<p>お酒を売り場やお酒を飲む場に、飲酒運転禁止や飲酒運転を見かけた場合は通報の義務がある旨のPOPを必須で設けるなどして、撲滅に力を入れるなどすると良いと思います。</p>
<p>福岡県は、飲酒運転事故については、過去に大きな問題を起こしており、絶対悪であるがいまだに公務員の不祥事が多発している。 残念なことに公務員(取り締まりの警察も問題発生)も多種多様であり、いかに意識改革を行い、撲滅せねばならないが不祥事が続発している。 年度ごとに組織名、地位、住所、氏名すべてを公表する等、厳罰に処す必要がある。 8月になると毎年、思い出す！</p>
<p>飲酒運転は、平日の場合、特に業務上車を利用せざるを得ない会社員や事業者が多いと感じる。そのような企業、事業者に対しての啓蒙活動や検査の導入などを打ち出すのはどうか。</p>

小・中学校などでも飲食運転を起したらどうなるか授業の1コマで啓蒙したら良いのかなと思いました (子供から親に授業で習った事を言われると気持ちとして響くから)
これまで様々な対策を講じても無くならないのなら、広報・啓発活動では難しいと思う。罰則面の強化 (免許取消だけでなく再取得出来ない、高額罰金等)や車メーカーとの協力による、飲酒すると車そのものが運転できなくなる仕組み作りが必要だと思う。
運転者の更なる意識向上。
少しの飲酒なら大丈夫とおもわないで、しらふの時とは違う事を強く思うようにする。
アルコール依存症の専門病院への入院をすることが大切だと思う 無知は罪です。
飲酒運転を一度もしようと思ったことが無いためあまり気持ちが分かりませんが、する人としていない人は 極端に分かれていますと感じます。 飲酒運転被害者のメッセージはこれから免許を取る若い人には効果があると思いますが、飲酒運転を する人には加害者のリアルな声のほうを受け取られる気がします。 (何故飲酒運転をしたのか、その後失ったもの変わった生活等)
重大事故の事例を風化させないように今後も定期的に事故等についてメディアで流して欲しいです。
啓発活動を頻繁に行っていく 様々な世代に訴えていく
飲食店などで飲酒している方へ、帰りの交通手段などを聞いてみるといいのでは
飲酒運転で捕まり、罰金と運転免許の取り消しを受けながら、勤務先(一部上場企業)には一切報告せ ずに、こっそり免許を取り直した輩を知っている。 職種が運転に関係なく、勤務先に知られずにすんだのか、内緒で運転していたのかは不明。 その輩が、次に交通死亡事故を起こしている。当然加害者、被告。 こういう輩を野放しにしておく勤務先も舐められたもの。コンプライアンス遵守が聞いてあきれる。 勤務先の職種に関係なくとも、運転に関しての管理は必要だと思う。個人情報に盾にするような輩は解 雇も有りしだと思ふ。
人の心理的な要素も必要だと考え、ランダムな検問も必要ではないかと考える。そうすれば人々の飲 酒運転への意識も高まるのではないかと思う。
若年層からの交通安全教育を強化。テレビCMやSNSなどを活用して、飲酒運転のリスクと社会的責任 を広く周知する。
海の中道の事故から19年目ですね。辛い事故でした。みんな飲酒運転はいけないことと分かりつつ、 ついそこだからとか、時間的に大丈夫だとか、気持ちの問題だと思えます。もっとSNS等を利用して、ま た、公共の機関を利用して、また、免許更新時等を利用して広めていくべきかと
お店側にも、帰宅方法の手段の確認を義務付ける等しなければ全くの撲滅は難しいと思います。
運転する自動車にアルコールチェッカーのような機能を付けるのが最も効果的だと思います。 もしくは、飲食店側も厳しくチェックするように条例を作るなど。
コンビニに車でアルコールを買いに来る人に啓発する。 前にありましたが、ステッカーを作る。公募で県民にデザインやコンテストをする。 各市でデザインを作り、車やバイクに貼ってもいいようにカッコいいようにする。
代行タクシーが足りなすぎる。宴会などで飲まざるを得ないことも多く、そうした場合に利用できる代行 手段が少ない(タクシーが来ない)ことの改善が必要
学校や職場での意識づけを何回も繰り返す
小中高校の段階から飲酒運転の危険性について学ぶ機会を設け、若いうちから「しない・させない」意 識を育てるべきです。その意識をあたりまえにして欲しいです。 アルコール検知器の義務化 業務用車両だけでなく、個人の車にもアルコール検知器の搭載を進め、車の始動前にチェックを義務 化する制度が必要だと思います。 飲酒運転の疑いがある人物を見かけた場合に、匿名かつ迅速に通報できるアプリやシステムの導入を 検討すべきです。 「ハンドルキーパー」の方は特典ありとか！
かなり強い処罰をつけた方がいいのでは？と思っています。そうでなければ、昔の感覚で「バレなきゃ いける」「バレてもお金払えば大丈夫」と思っている人が大多数だと思います。

<p>運転代行が気軽に利用できるように、利用した個人に補助をする。</p>
<p>過去の悲惨な飲酒運転事故の話をみんなで繰り返し伝え、忘れないようにすること。 若い人から大人まで、飲酒運転が人の命を奪う危険な行為だとずっと教え続けること。 飲酒依存症の人や繰り返す人には、専門の指導や治療を強化し、定期的に検査を受ける仕組みを作ること。</p>
<p>飲酒運転の撲滅に関して、ポスターによるキャラクター的な広告でなく、より飲酒運転によって引き起こされるネガティブな結果を具体的に表すことで、皆の印象に刻まれると思う。</p>
<p>飲食店経営者に、来店者に対する自動車運転による来店の確認の義務化 自動車による来店者に対する飲酒前の代行運転またはタクシー予約確認の義務化</p>
<p>テレビ、ラジオでの広報活動および職場での指導が効果的だと思う。</p>
<p>年末年始、お盆などの長期休暇に検問などの取り締まり強化、イベントの開催</p>
<p>警察による定期的な検問</p>
<p>現在もしていることかとは存じますが、居酒屋など飲酒を提供している店でのポスター掲示は効果的かと思えます。</p>
<p>1人1人が飲んだら乗らないと意識をもつこと。子供の頃から、学んでいく環境が大事。</p>
<p>罰金を高くする</p>
<p>飲酒運転撲滅に関してテレビ等でもよく見受けます。撲滅強化期間だけでなく常日頃からPR強化して頂けたらと思っています</p>
<p>カナダ人の友人が来日した時に言ったことだが、日本はいつでもどこでも(例えばコンビニ)お酒を買うことができると驚いていた。徹底して対策をするなら、夜間のアルコール販売の禁止くらいしかないといけなし、車にドライバーアルコール検知器をつけるくらいしかないといけなしと思う。</p>
<p>運転手の飲酒を検知した場合、エンジンが停止する仕組みを構築する。</p>
<p>現在の取り組みの継続で可。</p>
<p>飲酒運転者への罰則強化。飲酒運転者は運転許可の取り消しや悪質な場合は再発行はしない。</p>
<p>罰金刑罰を重くする、飲酒したら動かない自動車を開発する、同時に啓発活動を強化することでしょうか。</p>
<p>検問回数増加</p>
<p>今の施策はどれも法的にも社会的にも甘いと思っています。 飲酒運転がどれほどの不幸を生むのかについて、飲酒運転をする加害者になりえる側の人には訴求効果がないから、いつまでたってもなくならないと思っています。</p>
<p>飲んだら乗るな、この合言葉は永遠に不滅だと思います</p>
<p>ぼくは大丈夫、近くだから大丈夫という考えを捨てさせるイベントが必要</p>
<p>すでに取り組みされているかもしれませんが、飲酒運転に加担した飲食店の実名を公表する、また同乗者に対する罰則をさらに強化するべきだと思います。</p>
<p>車の運転席に座るとアルコール探知されるとよい 自動で</p>
<p>個人の意識の問題だと思います。 あとは、どれだけ他人事と思わないでいるか。もし、被害者、加害者が自分の身内や、近い人だったら、と想像する事ではないでしょうか。</p>
<p>取り締まりを強化する</p>
<p>具体的に体重何キロの人が何合お酒を飲んだらアルコール分解に最低でも何時間以上かかるのか、年齢や肝機能によってもその時間は変わるという事を計算式と共にもっとみんなに周知してはどうかと考える。 また、各職場での就業規則に飲酒運転についての処罰が規定されているのも一定の効果をもたらしていると考えます。</p>
<p>飲酒運転が禁じられた行為だというのは、いまや誰も理解していることなのかなと思います。飲酒運転撲滅の啓発とともに、代行運転サービスや公共交通の充実など、深夜帯や郊外でも使いやすい代行サービス・深夜バスの導入などの整備も有効なのではと思います。</p>

飲酒運転をする側の気持ちに立って考えたときに「少しくらいなら大丈夫」「見つからないだろう」などの心理が働くと思います。

その気持ちにどうしたらブレーキがかかるかと考えたときに、単純に飲酒運転はダメと言いつけることはもちろん必要だと思います。

より、リアルに考えたときに、実際に飲酒運転をして、人を死なせてしまった方のケーススタディを通じてその方のその後の人生が大きく変わったことなどを伝える動画や文書が必要だと思います。

1、アルコール検知器の義務化の徹底と対象拡大

企業や業務用車両だけでなく、一般家庭や個人にもアルコール検知器の使用を促す施策が必要です。たとえば、自家用車に設置義務を課す、または補助金制度を設けて導入を促進するなどが考えられます。

2、「代行運転」サービスの普及支援

飲酒の機会が多い地域やイベント会場の近くで、代行運転サービスを利用しやすくすることで、運転代行のハードルを下げ、飲酒後に車を運転しない選択肢を増やすことができます。料金補助や制度的支援も検討すべきです。

現行の道路交通法下では、アルコール検知による判定だと「酒気帯び運転」と「飲酒運転」に2分されていますが、被検挙者は自身の判断で飲酒後、運転している訳だから、違反を一本化し、罰則強化を切に望みます。そうしなければ、飲酒運転撲滅は実現不可能だと考えるからです。

飲酒再現ゴーグルをつけて体感するイベントの開催

違反者にはアルコール依存症の人が多いのではと思います。アルコール依存症が引き起こす事故以外の諸々のトラブルまで広く深く伝えていく事もいいかもしれません。

自動車やバイクなどの検閲だけでなく、自転車などにも検閲をすることで飲酒運転を撲滅することが出来るのではないのでしょうか？

さらなる厳罰化。飲食店、販売店での啓発活動。

提供店や販売店での啓発

飲酒運転撲滅については、県民の意識向上が必要であると思うので、引き続き啓発活動を行ってほしい。

飲酒運転の有無を免許証の記録に残るようにする。

どんどん実名を告知していくのが良いと思う
また告発した人の人権と個人情報を守り流出させない

福岡県では、過去に福岡市職員が飲酒運転をして子どもの命が亡くなった事件がありました。そのご家庭の方が、色んなところで、飲酒運転撲滅の講演をされています。それは、よいことだと思います。が、その一方で若干20歳だった職員の再起をするのを阻んでいるのではないだろうかとも思います。

罰が甘い。
だから減らない。

鉄道やバスのダイヤの増数により、自家用車でないと行けない場所を減らす。

アルコール臭に反応するセンサーを開発する。そのセンサーをハンドル付近に装備することでエンジンがかからないようにする。車検時にこの装置がないと合格しないようにする。装置の装着に不正がないように、取り外せない無効化できないようにする。

会社や雇用主が積極的に飲酒運転撲滅のために常日頃から従業員に対して、注意喚起することが大切。また、個人情報に抵触するかもしれませんが、飲酒する人の把握は雇用主として把握しておく必要があると思います。さらに日頃どの程度の飲酒をしているのかまで知ることによって、酒好きな人に対して「飲みすぎてないか？」「飲んだら車に乗るなよ」などの普段からの「声かけ」も有効だと思います。

福岡でも飲酒運転はなくならないので色々な取り組みをして、今まで起きた事故を風化させてらいけないし、今後絶対悲しい事故を増やしてはいけません

未成年の飲酒事故もニュースで見かけるので、中学、高校での啓発をしてもいいのではと思います。もしかしたら、実施しているかもしれませんが。

飲酒運転をする人の多くがアルコール依存症だと思うので、アルコール依存症の人が治療につながるようなアプローチがあると良いと思う。家族や周囲の人がアルコール依存症かもと思ったら、気軽に相談できるような所が身近にあると良いと思う。

<p>もっと罰則を重くするべき 例えば飲酒運転で事故を起こしたら殺人未遂罪 飲酒運転で捕まったら一生免許は取れない等</p>
<p>飲食店はお客さんに注意せずに見逃していることが多いと思うので、飲食店側にも呼びかけていくことが大事だと思う。</p>
<p>法の厳罰化(二度と免許取得できないようにする。) 風土の見直し。 福岡県は山笠をはじめ祭りの多いところ。祭りの前後には飲み会と称するものが催しされており酒盛りの歴史は長い。これをどう変えていくかだと思う。</p>
<p>お酒を飲んでも睡眠をとれば大丈夫だと思っている人が多いように思います。運転する前にはアルコールチェックを行うことを推奨する取り組みなどを行うとよいと思います。</p>
<p>車そのものにセンサーを装着してエンジンがかかるようなシステムを</p>
<p>飲酒運転撲滅を一時期TVで毎日のように訴えていましたが、現在は、全く効果が無いように思います。県独自の条例などで、罰則を重たくするような取り組みは行えないでしょうか？ アルコールは、中毒性、常習性が高いものだと思いますが、飲酒運転事故は他者の人生を巻き込んでしまう大きなことですので、罰則規定をさらに拡大するようにしてほしい。</p>
<p>職場での交通安全講習で、ゴーグルを着用し飲酒時の視界による運転の難しさを体感したがとても為になった。 飲酒の機会がでてくる大学生や専門学生や高校生たちにもっと体験してもらいたいと思う。</p>
<p>飲酒運転が「なあなあ」で許されていた経験を持っている方々(福岡県には多いと感じています)にその危険性をしっかりと実感してもらえよう、今後も継続して、もっと頻繁に飲酒運転撲滅の啓蒙活動を行っていく必要があると思います。</p>
<p>飲食店での積極的な活動</p>
<p>飲食店での酒類提供に対する罰則の強化</p>
<p>どのぐらいが酒気帯び運転で、どのぐらいから飲酒運転になるかまたその際の刑罰など具体的な数値や内容を知る機会を増やしたら運転する際に思い出すことができ、安全意識につながりやすいかなと考えます。</p>
<p>罰則強化 飲食店への罰則強化</p>
<p>車の設備に呼気検査機を必須にする。</p>
<p>罰則をもっと厳しくする。 事故など起こしても、一旦逃げてお酒を抜いて戻ればよいというような逃げ得に対してもっと厳しく罰してほしい</p>
<p>飲酒運転に対する罰則強化が、必須。飲酒運転の前科持ちには、その3親等以内の親族に対する県税の割増。これは、金銭的制裁と被害者救済の為の財源確保等意義大きいモノと考える。それと、過去に福岡県警察の警視で交通管理官が飲酒運転で捕まったのに、依願退職に成っているが、酒と運転というワードが共存した場合事情や情状など差し挟む余地無く、懲戒免職一択が正しいと考える。また、その正しい処分を唯一の人事権者が決定したのを福岡県人事委員会が停職にグレードダウンさせた事があるがそもそも人事委員会とはパワハラや不当な人事評価等に対して意見を述べるだけの存在でなければならない、人事委員会のメンバーを飲酒運転厳罰主義者に刷新すべきである。先ずは、この2件の再検証から始めるべきと強く強く考えるものである。</p>
<p>お酒を飲むお店での注意喚起</p>
<p>飲酒運転を撲滅する事は不可能だと考えています。それは実際飲酒運転をしたときに検問などに引っかからなければ成功体験となり、今回も大丈夫だろうと言う流れになるからです。そのため、飲酒運転ができないような車を開発し、車検の項目に入れ義務化するか、お酒を飲んだ後にコストがかからないように、自宅まで帰れるような仕組みが必要ではないかなと思います。</p>
<p>罰則の強化、厳格化</p>
<p>飲酒運転の背景にアルコール依存症が疑われるケースが多くあると聞いたことがあります。 飲酒運転で捕まった人に対する介入もですが、学校や大学での飲酒についての教育をするなど飲酒についての知識が広まると良いと思います。</p>

<p>子供達にも飲酒運転はいけないことだと知ってほしい。子供が言うことで、大人の抑止力になっただけだと思いたい。</p>
<p>以前まで勤めていた勤務先とグループ会社では、飲酒運転防止に関する取組に積極的でかなり効果があった。 例えば毎年警察を呼んで交通事故防止や飲酒運転防止に関する講話が行われていた。 また、会社の部署で飲み会がある時は、誰が飲酒して誰がハンドルキーパーになるという文書を事前に総務部に提出することが義務付けられていた。</p>
<p>飲酒運転はまだまだなくなっていない。 なくなる理由としては、代行サービスやタクシー代が賄えないことが大きな理由と考えられる。 飲食店との共同で、飲酒後の代行サービスやタクシー利用の場合は、割引キャンペーンなどがあるのもよいと考えられる。</p>
<p>はっきり言って、福岡県としてこれほど「飲酒運転の撲滅」に力を入れ、様々なイベントや報道を行っているにもかかわらず、飲酒の違反者および飲酒事故が発生し続けるのか、根本的な理由がわからない。国の施策として「処罰の重罪化と、その周知」くらいしかないのではないかと感じる。飲酒の本人、関わる者(販売店、飲食店、家族等)に重大なデメリット(現行以上の)が生じるというような法の改正が必要なのではないかと思う。</p>
<p>飲食店などでアルコールを注文した場合、必ず、飲酒運転をしないように、強く言う！</p>
<p>罰則を重くする</p>
<p>厳罰化しか有効な方法はないように感じる。 「アルコールが抜けていると思った」「ほんの少しなら問題ないと思った」本当にそうなのか知る方法はない。つまりドライバーの意識を高めるしかないが、そのためには「飲酒運転で捕まったら人生終わる」くらいの意識を持たせるべきである。 飲酒運転で死亡事故を起こしたら「終身刑」、物損事故なら「生涯運転免許証は取得させない」くらいの罰則で、抑止を図るしかないと思う。</p>
<p>自分だけは大丈夫だと思いがちだが、事故を起こしたら相手家族や自分の家族に、取り返しのつかない将来を負わせると、自覚して運転して欲しいです。</p>
<p>アルコールチェッカーの無料配布と義務化 私は主婦なので、家族の朝食には、明太子や漬物系は出さないようにしています。特に明太子はお酒を使ってあるためかアルコールを強く感じるものもあるためです。食品類にはアルコール何%運転可と表示があれば迷わず助かります。</p>
<p>飲酒運転をなくすためには、みんなの意識を変えていくことが大切だと思います。 まず、「飲んだら乗らない」という当たり前のルールを、もっと自然に守れるような雰囲気づくりが必要です。 飲み会や会合の際は運転代行や公共交通の利用を習慣化し、友人や家族同士で声をかけ合ったり、また、飲酒運転がどれだけ危険で、誰かの大切な命を奪ってしまう可能性があるかを伝える啓発活動も重要です。 「飲んだら絶対に運転しない」が当たり前の社会でまたそのような教育も大切だとも思います。</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・アルコール提供後の客の帰宅手段を確認・記録する仕組み ・深夜・地方でのタクシー、ライドシェアの充実 ・ドライブレコーダーやAIカメラで蛇行運転を検知して通報するシステム ・学校教育で飲酒運転の被害者や加害者の事例を伝える
<p>飲食店の負担は増えるが、飲食店にてアルコール提供時に車に乗るかの確認をするべきだと思う。 また通常、車に乗る前にアルコールチェッカーで検査するのを義務付けたり、将来的にはアルコールチェックが出来ないと車のエンジンがかからないようなシステムの搭載を車に義務付けられたらいいと思った。 飲んだら物理的に車に乗れないようになればいいなと思った。</p>
<p>教育</p>

「罰する」だけではなく、「そもそも飲酒運転できない・しない状況を作る」と同時に、「生活再建と飲酒習慣改善」を並行して進めるのが効果的だと考えます。特に無職や社会的地位のない人による飲酒運転については、罰則だけでは抑止力が弱く、生活状況や心理的背景に踏み込んだ対策が必要です。無職や社会的孤立が背景にある場合、飲酒自体が生活習慣化していることが多いため、福祉部門と警察・自治体が連携し、生活相談や就労支援を並行して提供する。地域の居場所（公民館やコミュニティカフェなど）で「ノンアル」イベントや無料送迎付きの交流会を増やし、昼間からの飲酒を減らすなどを行う。

飲酒運転に対する意識は挨拶と同じくらい声かけだと思います。
家族でも店でも当たり前で声かけできたらと思います。

またお酒に飲酒運転撲滅って書いてあったら飲みながら目に入ると思います。

私も主人もお酒を飲まないからあまり飲酒運転に意識がありませんでしたがテレビで8月25日は飲酒運転撲滅の日とあると気持ちが引き締まるのでメディアで取り上げる事は大事だと思います。

海の中道での事故以来、私の周囲では飲酒運転をする人はいなくなった。
今だに飲酒運転で事故を起こしたり、捕まる人が後をたたない。職場、学校での飲酒運転に関する指導はかなり行われてると思う。今だに飲酒運転をする人は職場、学校等に属しておらずその意識が持てない人か。そのような人を減らす為に、飲食店、コンビニ、酒類販売店での飲酒運転撲滅の取り組みの強化が必要では。

目に入るものだけでなく、テレビCMや選挙カーのように、耳から入る呼びかけを行っても良いのではないかと思います。

免許更新時など、飲酒運転について学ぶ機会がもっと増えればよいと思う。

酒は人の生活に潤いを与える物。それが自動車、バイク、自転車の運転と結びついた時には、凶器となる。
酒と自動車、バイク、自転車の運転と完全に切り離すことための取り組みを今以上にを行うことが不可欠であるとする。

啓蒙活動は、自ら参加しようとする意思を持った人にしか啓蒙できない。そうでない人が、飲酒運転で捕まっているのではないと思う。居酒屋など飲酒機会の提供する施設での徹底的な飲酒撲滅活動を行うことが、飲酒運転撲滅のための強力な手段であると思う。客商売であるため、難しいところではあると思うが、店員の言う事が一番耳を傾ける可能性があると思う。どのようにしたら、居酒屋の店員が飲酒運転を食い止めることができるかを行政には具体的に考えてほしい。

<自転車保険への加入状況等について>

【調査の目的】

本県では、「福岡県自転車の安全で適正な利用の促進及び活用の推進に関する条例」(以下「自転車条例」という(※1))において、自転車利用者の責務等を定めているほか、全国的に自転車利用者が加害者となる高額賠償事例が発生していることを踏まえ、自転車利用者等に「自転車損害賠償保険等(以下「自転車保険」という。)」の加入を義務付け(※2)ています。

つきましては、今後の施策の参考とするため、自転車保険への加入状況等についてお聞かせください。

【活用状況】

- ・自転車保険への加入促進を始め、福岡県自転車条例の内容を広く県民に周知するための参考資料として活用。
- ・自転車乗車用ヘルメットの着用を促進するための参考資料として活用。
- ・効果的な広報啓発を行うための参考資料として活用。

(人づくり・県民生活部生活安全課)

※1 福岡県自転車の安全で適正な利用の促進及び活用の推進に関する条例では県民が安心して暮らし、活力ある地域社会の実現に寄与するため、

- (1)自転車の安全利用の促進、(2)交通安全教育の充実、(3)自転車保険への加入義務化、(4)事故の際の負傷者の救護・警察への報告義務、(5)自転車の活用推進等を規定しています。

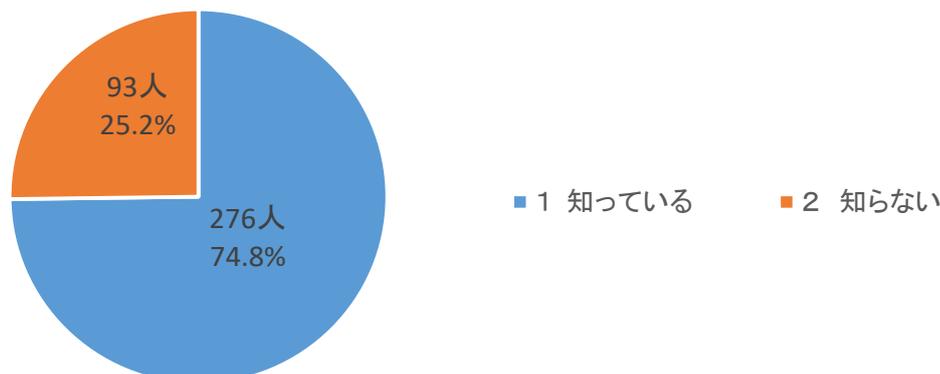
※2 自転車保険の加入義務の対象は、自転車利用者(未成年者を除く。)、未成年者を監護する保護者、自転車を業務で利用する事業者、自転車貸付業者です。

問1 あなたは令和2年10月から、福岡県の自転車条例において、自転車保険への加入が義務化されていることを知っていますか。

次の中から当てはまるものを【1つだけ】選んでください。

(n=369 選択は1つのみ)

1 知っている	74.8%	(276人)
2 知らない	25.2%	(93人)



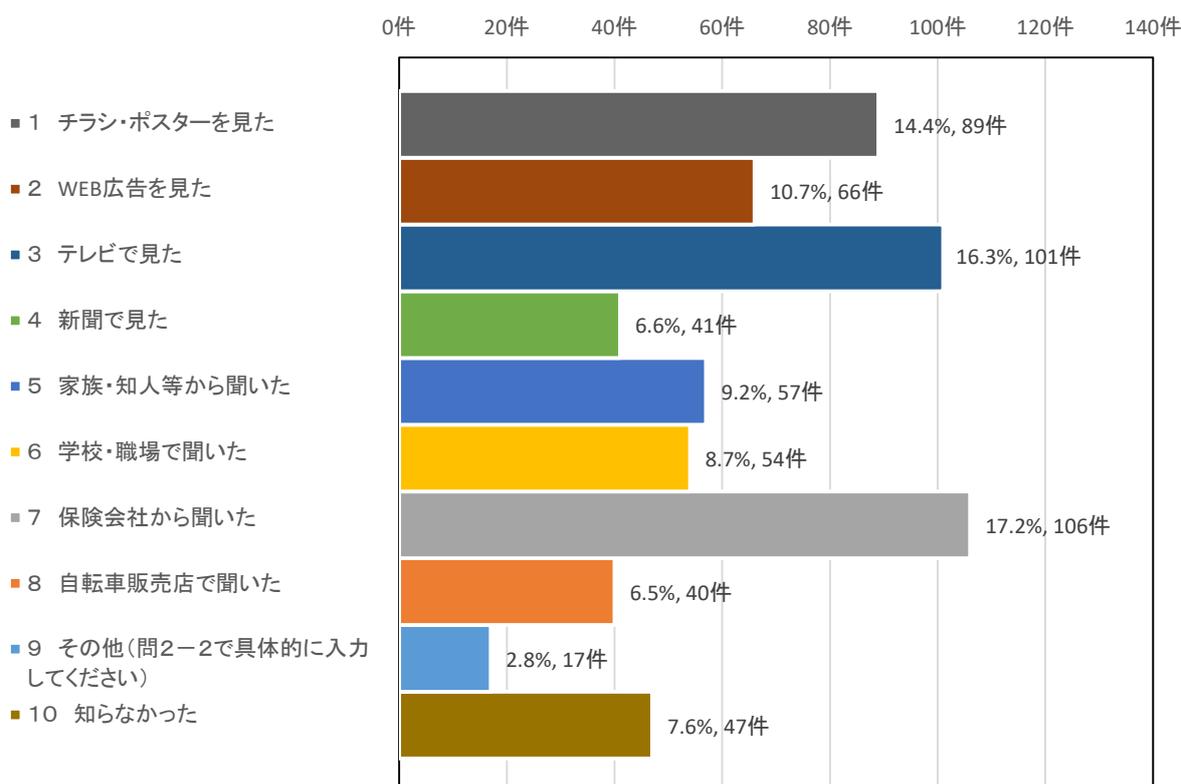
問2 自転車利用中の事故について、他人や他人の物に損害を与えた場合の被害者への賠償責任を補償する自転車保険には、「自転車保険」という名称が付いているものだけでなく、自動車保険や火災保険、傷害保険などに付帯しているものがあります。

あなたは、こういった自転車保険があることをどのように知りましたか。

次の中から当てはまるものを【すべて】選んでください。

(回答件数618件、複数選択可)

1 チラシ・ポスターを見た	14.4%	(89件)
2 WEB広告を見た	10.7%	(66件)
3 テレビで見た	16.3%	(101件)
4 新聞で見た	6.6%	(41件)
5 家族・知人等から聞いた	9.2%	(57件)
6 学校・職場で聞いた	8.7%	(54件)
7 保険会社から聞いた	17.2%	(106件)
8 自転車販売店で聞いた	6.5%	(40件)
9 その他(問2-2で具体的に入力してください)	2.8%	(17件)
10 知らなかった	7.6%	(47件)



問2-2 問2で「9」を選んだ場合は、その内容を具体的に入力してください。

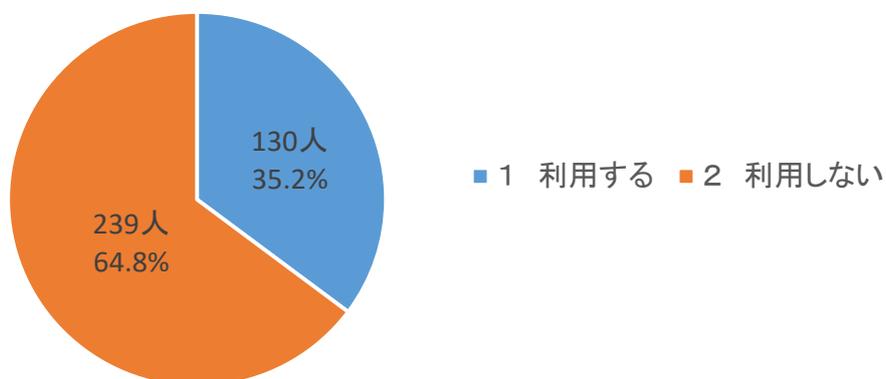
(回答件数17件)

○自動車保険の加入時に知った	(3件)
○保険関係の会社で働いている(働いていた)ので知っていた	(2件)
○保険の資格の勉強をすることがあり、知っていた	(1件)
○保険会社のチラシで知った	(1件)
○保険のチラシで知った	(1件)
○加入している他の保険のパンフレットで知った	(2件)
○子供が小さい頃は毎年加入していたため、知っていた	(1件)
○Youtubeやインターネット(ニュースなど)の情報で知った	(2件)
○コンビニの端末で知った	(1件)
○セブンイレブンの自転車保険のコピー機械の前のポスターで知った	(1件)
○転居前の地でぼんやりと知っていた	(1件)
○検索して調べた	(1件)

問3 あなたは、自転車を利用しますか。
次の中から当てはまるものを【1つだけ】選んでください。

(n=369 選択は1つのみ)

1 利用する	35.2%	(130人)
2 利用しない	64.8%	(239人)



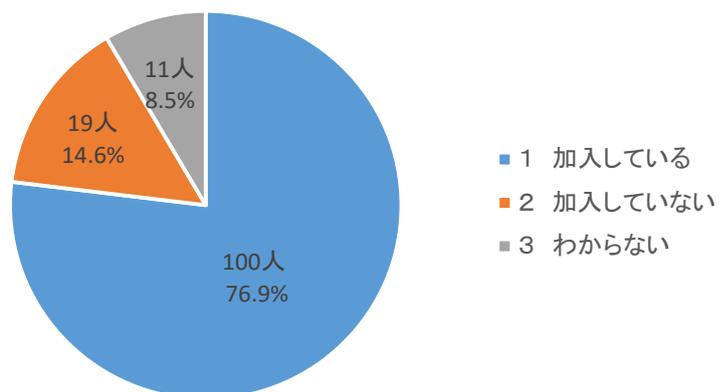
問3-2 (問3で「1」を選択された方にお尋ねします。)

あなたは、自動車保険や火災保険、傷害保険などに付帯しているものも含め、自転車保険に加入していますか。

次の中から当てはまるものを【1つだけ】選んでください。

(n=130 選択は1つのみ)

1 加入している	76.9%	(100人)
2 加入していない	14.6%	(19人)
3 わからない	8.5%	(11人)



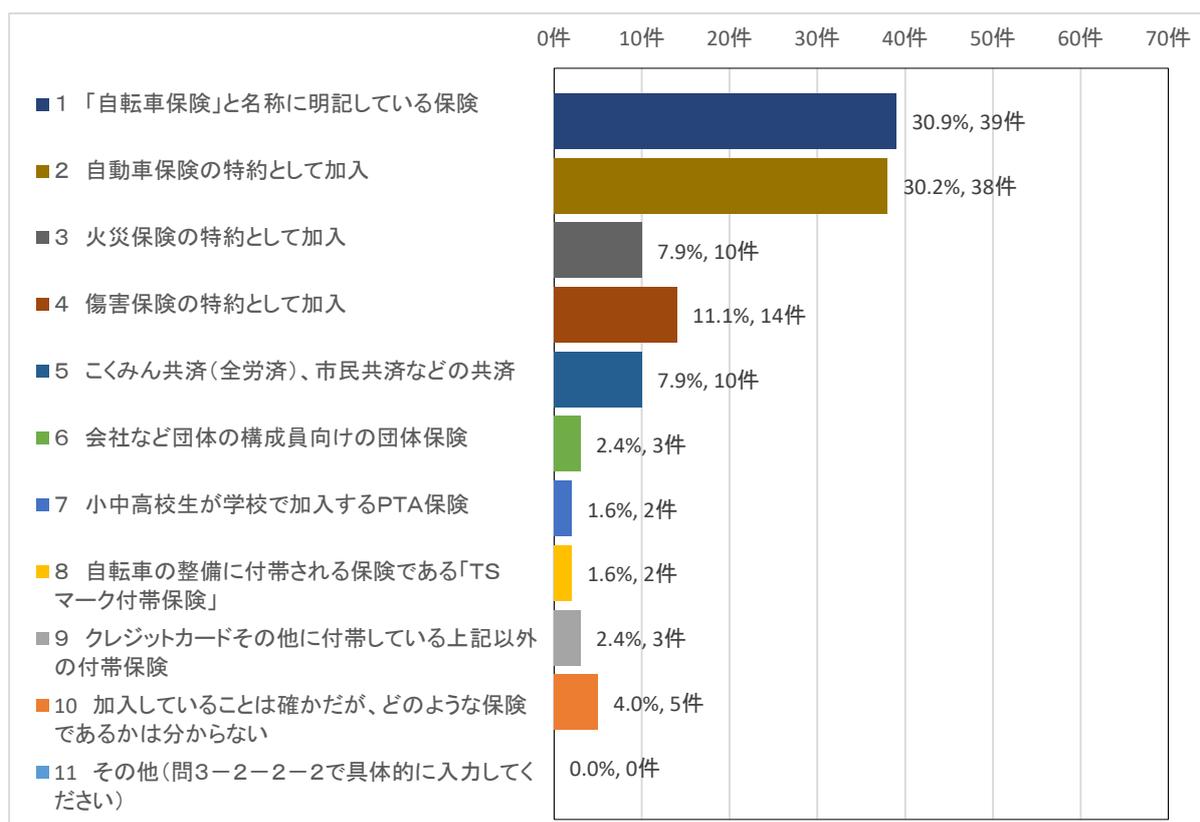
問3-3-2（問3-2で「1」を選択された方にお尋ねします。）

加入している保険の種類をお答えください。

次の中から当てはまるものを【すべて】選んでください。

（回答件数126件、複数選択可）

1 「自転車保険」と名称に明記している保険	30.9%	(39件)
2 自動車保険の特約として加入	30.2%	(38件)
3 火災保険の特約として加入	7.9%	(10件)
4 傷害保険の特約として加入	11.1%	(14件)
5 こくみん共済(全労済)、市民共済などの共済	7.9%	(10件)
6 会社など団体の構成員向けの団体保険	2.4%	(3件)
7 小中高校生が学校で加入するPTA保険	1.6%	(2件)
8 自転車の整備に付帯される保険である「TSマーク付帯保険」	1.6%	(2件)
9 クレジットカードその他に付帯している上記以外の付帯保険	2.4%	(3件)
10 加入していることは確かだが、どのような保険であるかは分からない	4.0%	(5件)
11 その他(問3-2-2-2で具体的に入力してください)	0.0%	(0件)



問3-2-2-2 問3-3-2で「11」を選んだ場合は、その内容を具体的に入力してください。

（回答件数0件）

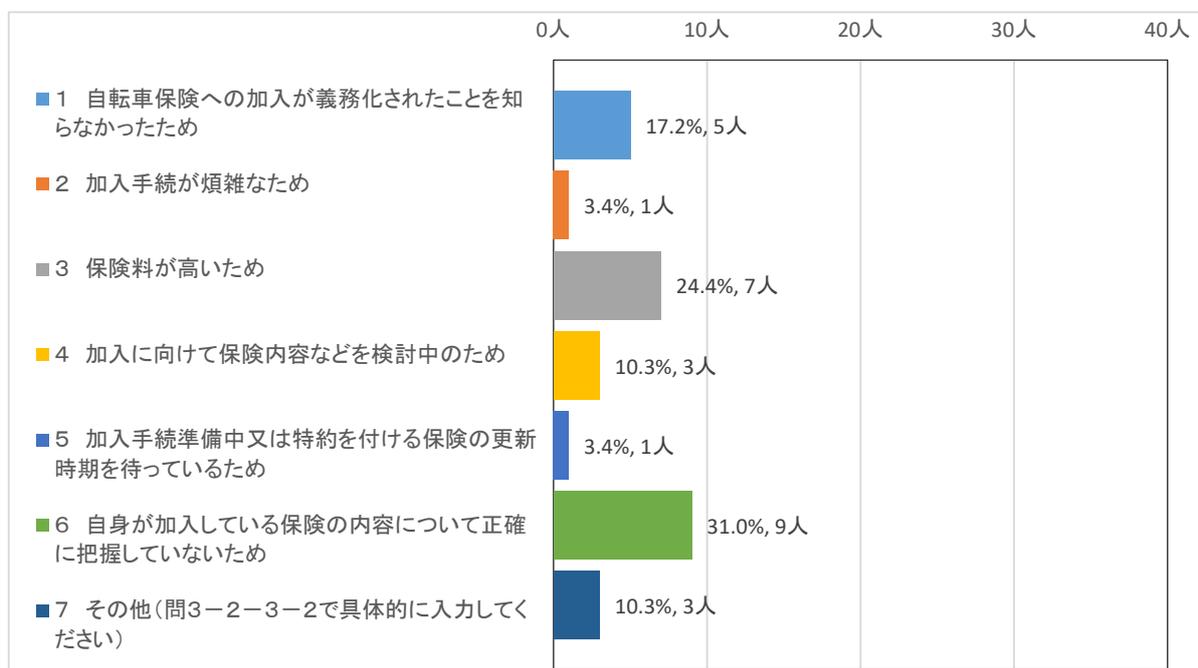
問3-2-3 問3-2で「2」又は「3」を選択された方にお尋ねします。）

自転車保険に加入していない、又は加入しているかどうか分からない理由は何ですか。

次の中から最も当てはまるものを【1つだけ】選んでください。

(n=29※1名無回答 選択は1つのみ)

1 自転車保険への加入が義務化されたことを知らなかったため	17.2%	(5人)
2 加入手続きが煩雑なため	3.4%	(1人)
3 保険料が高いため	24.4%	(7人)
4 加入に向けて保険内容などを検討中のため	10.3%	(3人)
5 加入手続き準備中又は特約を付ける保険の更新時期を待っているため	3.4%	(1人)
6 自身が加入している保険の内容について正確に把握していないため	31.0%	(9人)
7 その他(問3-2-3-2で具体的に記入してください)	10.3%	(3人)



問3-2-3-2 問3-2-3で「7」を選んだ場合は、その内容を具体的に記入してください。

(n=3)

○自転車に乗るといっても年に一、二回程度のため	(1人)
○チャリチャリ等、自分が所有していない自転車を利用しているから	(1人)
○自転車に乗る機会がないため	(1人)

問4 自転車保険への加入状況等について、これまでの設問以外に意見はありますか。
ある場合は、その内容を具体的に入力してください。

小学生から乗り始めるので、学校で積極的に広報活動をしたり授業で教えるべきだと思います。交通安全は昔からしていますが、保険に関してはまだ足りないと思います。
自分自身は、自動車に比べると自転車は安全な乗り物だという認識を持っていました。しかし自転車による事故は結構多いということも、最近知りました。利用者のマナーや運転技術の向上以外に、自転車事故が起こった場合の補償も必要だと思います。現実的には加入している人は少ないと思いますが、今後も継続的に広報は必要かと思います。
車と同じで車両であるという認識を強く持つ必要がある。子供達にはしっかりと親と学校での指導が必要ですし、免許制度でないため、マイナンバー管理等で18歳以上など線引きを行い2時間でもよいと思うが、講習を義務化させるのが得策と感じます。
自転車は普段良く使用して大事な足ですので、ヘルメットも30代からバッチリ付けています、保険の加入は自然に入りましたが、事故に遭って実際どう使うかこのアンケートの機会を確認して認識を高めたいです。
誰でも簡単に乗れるため、いつ自分が被害者や加害者になるかは分からないので保険加入は必要である。
自転車保険は、子供達が高校生の時に加入したので、知っていますが、家族全員が入れる、誰でもよりリーズナブルな金額で入れる保険があったら良いと思います。
自動車の場合は車検時に強制保険が制度的に付くようになっていますが、自転車の場合は新車購入時だけで、更新手続きが難しいのではないですか。また中古を友人等から譲り受けた時も同様に、難しさが残るように思います。せめて通勤通学に自転車を使用する者に対しては、会社や学校が加入確認を行うことぐらいしかできないのではないのでしょうか。
自転車購入時は必須にするのは如何ですか？既に入っている場合はその保険証の提示が必要とか... それ以上に事故を起こしたら、どれだけ費用が掛かるかなどの啓もうも必要ですね
福岡県で自転車保険加入を義務化しているというのをこのアンケートで初めて知りました。ホームページも確認させていただきました。チラシなどPDFを回覧などで周知させたり、学校などに置くなど工夫されているとは思いますが、ヘルメット着用と同様に今後も啓発に努めていけばと思いました。 ヘルメット販売のところで自転車保険の加入を促せたらいいと思いました。
加入していない人がどれくらいいるのか知りたい。子供の自転車を購入する時に口頭で加入義務について説明したほうが意識が高まると思う。
車の自賠責保険のように強制的に加入させましょう
自転車による事故は自転車側が被害者となるケースは殆どの方が知っていると思うが、歩行者をはねて死亡させてしまうといった加害者となるケースもあるという事を知っている人が少ないように思われる。 その際の罪の重さや賠償金の支払いといったものは自動車と変わらない事をもっと周知させる必要があると思う。 また、小中学生に向けて安全教室の際に保険の話もしていって「保険加入があたりまえ」といった考えになるよう指導して欲しい。
道交法改正で理解していない部分があるのでもっと頻繁にお知らせしてほしい。 SNS等を通じて
加入状況等を示す、表示が自転車に必要と思います。無ければ取り締まりの対象とするべきだ。
保険加入は義務化して、未加入の場合の罰則を設ける。
自転車保険加入以前に、自転車保険があることを周知することから優先的に取り組んでもいいのかもしれない。 また、加入促進を目的とするのであれば各自治体が格安の保険料で加入できる保険を制定してもよいかもしれない。
自転車保険へ加入している旨の標章の貼付の厳格化義務化
子供が自転車通学になる時に検討したい。
自転車を買うときに、自転車保険に入らないと買えない仕組みを作れば良いと思う。

義務化するなら定期的に検問等でサンプルを取って、未加入者からは罰金を取るなどの対策をした方が良いと思う。
自転車保険は学校や職場単位で加入できたら良いと考える
保険の継続をする場合には自動車のように2年毎の講習を設ける
自転車を購入時に販売店で保険加入を義務化する。保険加入が分かるように自転車にステッカーを貼付する。
40年前に歩道を逆走してきた自転車に怪我をさせられたことがある。当時は自転車保険など全くなかったため、相手方との話し合いに時間がかかった。自転車保険に加入を義務化すれば、間に立ってもらえるなど、被害者の救済に繋がると思う。ただ義務化と言っても実際の加入率は少ないと思うので、高校や中学校生徒を徹底するなどから家族の保険加入など積極的な具体策実施が必要である。
自転車が安易な乗り物ではなくなり時代も変わったなと思います。
高齢者となり自動車も自転車もやめてしまいました。 車の場合はほとんどの人が任意保険に加入していますが、自転車の場合はどれくらいでしょうか？
ノールックで横断してきたりなどの危険な運転をする自転車は、はねても罪に問われないようにするくらいの決まりがあってもいいと思う。危ない運転をする自転車が多すぎる。
今までなかったことがおかしいのではと思います。
自転車購入時に義務付けていくのが良い
高校生の自転車通学のマナーの悪さに辟易としており、自転車通学生の加入義務確認を行ってほしい。
自動車の賠償責任保険のように、強制力を持った義務化を行う。例えば、販売時に加入していないと販売できない、自転車を対象とした検問で確認し、未加入者へのペナルティーを設ける等。
義務化するのが良いと思う。
自転車保険単独に、作って欲しい。自動車保険の付帯ではなく、改めて、きちんと独立させた保険として、機能運用、そして認知度上げるために。
子どもが使う自転車の事故で保護者が賠償責任を負うケースもあるため、学校や地域を通じた周知や、加入状況の確認が進むような仕組みづくりが必要です。高齢者へや外国人への周知も必要です。
自転車保険は必ず入ってもらうように、販売店などで教育。
自転車保険についての県民の意識は低いのではないかと思います。そもそも知らない人もいるだろうし、知っていてもどのように申し込めばよいか分からない人たちもいると思います。バイクの自賠責保険のようにコンビニの端末で簡単加入出来るのと同じように気軽に出来れば加入率が増加するのではないのでしょうか。 もしくは県が保険会社と提携して福岡県オリジナルの自転車保険を導入してみるのもひとつではないのでしょうか。
入るべきである。
自転車購入時に保険に強制加入を制度化する
自転車保険(個人賠償保険)の加入義務化を知っていても、手続きはどうしたらいいか分からない方がほとんどである。自動車車検と同じように3年ないし2年毎に自転車販売店へ持ち込み整備することを義務化する法律を制定し加入させるまでやらないといけないと考える。
自転車保険の存在は知っていましたが、義務化されていることは知りませんでした。駅や駐輪場などで大々的に告知してはいいかかと思っています。
自転車保険については、私自身、保険料が安いので加入しています。特にロードバイクの場合、高速で走行することが多いため、万が一の事故に備えるためにも保険への加入は重要だと感じています。しかし、大学生や若年層の中には、保険に加入していない人が多いのではないかと思います。もし自分が同じ立場なら、保険に加入しない可能性が高いと考えます。
利用頻度が月1しかなくても入らないといけないのか、また入らないといけない場合でも利用頻度に応じて安くして欲しい

我が家には自転車に乗る人間がいないので、あまり考えたことがなかったが、福岡市中央区に在住しており、猛スピードで走る自転車を日常的に見かけるので、被害者になる可能性はあるのだと思う。自転車による事故に合った場合にどう対応すれば良いか、考えてみたこともなかった。
福岡は(特に福岡市)ももとの道幅がせまく自転車が車道を走りやすく、自転車は歩道を走っている方が多いと感じる。歩行者との接触事故も目にするし、保険はとても大事だと思う。ただ、周りではあまり周知されていないのも確かである。もう少し学校や職場で加入状況の確認を必須にするなど、対策してほしい。
自転車保険加入の義務化推進と同時に、運転マナーの向上を図らねばならないと思います。私の生活圏内に限って述べさせていただければ、自転車の無法地帯化が甚だしい。特に貸し自転車の利用者による交通マナー違反には目に余るものがあります。
必ず必要なものだと認識しています。
知らなかったので認知が進んでないと思います。まずは認知させるための活動を考えられてください、話はそれからです。
自転車保険に加入しているから良いというものではない。加入していることで、気が抜けて運転がおろそかになることもある。本末転倒な気がする。本来は自転車事故で賠償問題に発展するケースがどれくらいあるのかをきちんと行政が保険会社のデータに基づいて公表するべきであると考えている。自動車と自転車は、同じ道路交通法が適用されるとはいえ、扱いは異なるはずだと思う。
1人で自転車を利用する世代として学校に通っている人などには講習があってもいいと思う
加入状況や加入しなかった場合のリスクをより周知して欲しい
若い方の自転車の運転にドキッとすることがあります。今年は特に病気で身体の動きが悪くなりました。若い人にはわからないと思います。「どいて」と言われてもよけられない人がいます。横並びで走らない、速度を上げない、前を見るなど学校などで教育をお願いします。
自転車保険への加入義務があるとのことですが、加入しているかどうかを確認する方法があるのか、未加入の場合の罰則や、具体的な保険の内容を知りたい。自転車保険の加入率が高くないならば、もし自転車と事故になった場合、相手が保険に入っている、入っていないで、加害者被害者双方にどのような影響があるかを例示するとよいと感じた。
自転車を利用する機会のある人は絶対に入るべき、自転車を持っていなくても必須だと感じます。
もっと保険の内容がわかりやすいといいなと思います。
現在は自転車を利用していませんが、今後子供と一緒に乗る機会は増えると思います。自転車保険については、単体で加入できることは知りませんでしたが、自動車保険や火災保険などの付帯プランとして選べるのであれば、その中から付帯させる形を選ぶと思います。特に火災保険に付帯できると、賃貸住宅でも加入しやすく便利だと思います。単体契約よりも既存の保険に付けられる形のほうが加入しやすく、結果的に加入率も高まると感じます。
自転車事故で加害者となった未成年者が怖くなってその場から逃げないためにも、自転車保険の必要性和事故への対応方法を「通学に自転車を利用している生徒に周知する施策」が必要である。交通安全教室や校内ポスターでの周知は是非やって欲しい。
学校や職場単位で加入率を知らせることや加入促進の取り組みを定期的にも必要ではないでしょうか。
中学生や高校生の安全運転に力を入れてほしいです。片手運転でスマホと小型扇風機を持っていました。非常に危険です
自転車保険は条例で義務化されていますが罰則がなく、認知度が低いならば加入率向上に課題があるように感じました。義務の空文化を防ぐとすると、自転車購入時や駐輪場登録時、リース契約時等に事業者には保険加入確認を行う仕組みや、保険加入者に対する料金割引等のインセンティブ付与、中高生や保育園・幼稚園保護者等に対するターゲット型広報で加入促進キャンペーンを展開するなどの事業を行いうるかもしれません。
自転車の保険制度は一定の効果はあると思います。しかし、問題は事故を起こした人への援助だけの対策としては問題です。まず、自転車を運転する人に対し、安全運転に向けしっかり指導し、自覚させることが必要です。
未成年、幼児関係なく一律に加入すべき。ルール無視する子供の運転は危険です。ルールは、守るためにあると同時に安心してよりよい暮らしとするための思いやりである

<p>自転車保険を提供している保険会社の全容を知ることが結構難しいと感じています。楽天保険などのネット保険会社で比較を試みたりしていますが、どのような種類があるのか等を毎年更新する形で一覧表として配布してもらえるといいなと思っています。</p>
<p>地方のローカル番組で天気予報のように定期的にCMのように放送されれば、刷り込み式で認識が高まると思います。</p>
<p>強制的に加入するよう法整備をした方がよい。 そのほうが乗る人も万一被害に遭う人も経済的損失が少なくて済む。</p>
<p>自転車に乗る人の交通マナー向上の意識が自転車保険加入率の向上に繋がっていると思う。</p>
<p>義務化されていることがなかなか浸透していないように感じています。TVのCMなどで告知しても良いかと思います。</p>
<p>無謀運転の禁止、歩道運転の禁止などを含め保険加入の義務など、自転車運転に関する法律や規則の周知が充分なされていないと思います。</p>
<p>保険切り替えのときに失念しやすい項目のため、意識して覚えておかないと継続を忘れてしまいそうだなと思う。</p>
<p>自転車についての損害賠償や危険性について認識が薄い方が多い一方、子育て世帯や自転車を日常利用する方は保険加入の必要性が比較的認識されているように感じる。 都道府県によって、義務化されていないこともあるので、全県で保険加入の義務化など、条例の共通化を図ることで、加入の必要性もさらに高まると思う。</p>
<p>乗る側の歩行者への配慮や軽車両としての認識が拙すぎる。モラルアップが喫緊の課題</p>
<p>自動車運転の立場で見ると往來の自転車の運転には目を覆いたくなるものばかりです。飛び出し、スマホ脇見、イヤホン、そしてそういう自転車の多くはノーヘルメット。かつて原付バイクがノーヘルの時代からヘルメット義務から定着したように速く自転車のヘルメットも定着してほしいと願います。</p>
<p>自転車保険の加入やヘルメット着用など、どんどん自転車規制が厳しくなる一方、自転車のための道路整備が全くできていない。自転車に乗りやすい環境をしっかりと整えてもらわないと困る。</p>
<p>ヘルメットと同様の県民周知を行い、広く県民が知るところとしてもらいたい</p>
<p>自転車の保有について、車両のように保有するだけで税金を加算される存在になっていきそうで不安</p>
<p>賠償責任保険はオプションで他の補償についている場合もあり、加入者が把握しきれていないことも多い。 自転車事故は高額な賠償責任が発生する可能性も高いため、車の自賠責のように必ず加入していることがわかるような仕組みが必要だと思う。</p>
<p>通勤などに使っている場合は、事故の際に、使用者責任で会社にも責任を取らせるようにすることで、しっかり保険加入を進めることができると思う。</p>
<p>自転車に乗らないので周知の現状がどんな感じか詳しくありませんが、販売店で勤めるだけでは届かない層がいると思うので、お店の駐輪スペースや公園など自転車が集まる場所での啓発も必要かと思います。</p>
<p>自転車乗車する人は必ず加入する必要がある。 実際に事故に遭ったりしたときの補償は当たり前。</p>
<p>自分が自転車に乗らないこともあって自転車保険が義務だとは知りませんでした。任意だと思っていました。知らない人も多いと思うのでもっとPRしたほうが良いかもしれません。</p>
<p>自転車保険を知らずに自転車を利用する人も多いと思うので、自転車置き場などにポスターや看板を設置して周知してほしいと思います。</p>
<p>何か起きる前の抑止力になる啓蒙活動(街頭ポスターなど)なども必要なのかなと思いました(危険な自転車の運転には切符が切られるみたいなニュースを見ましたが、詳細な事例紹介を載せて未然に防ぐなど)</p>
<p>自身が自転車に乗らない事もあり、保険の知識に乏しい。</p>
<p>自転車は軽車両であり、運転する人の意識向上が車以上に必要。</p>

<p>自転車保険加入者は自動車保険とは違った認識を持っているように感じます。 私が最初に自転車保険のことを知った職場での会話で、自身を守るために加入する必要がある、といったような声が多かったです。 です所以他損事故よりは自己を守るものとして加入しているような感じがするので自転車の利用者の加害事例をもっと広く共有して、意識を変えていく必要があるのかな？と個人的に思っています。</p>
<p>義務化しても罰則が厳しくなければ加入しない</p>
<p>最近自転車を運転している人のモラル、マナー全てがなっていない。 車道にいたかと思うと、歩道に入ってきたり…… 自動車も歩行者も安心して利用できない。厳しく取り締まってほしい。</p>
<p>自転車保険の種類が多くて選びづらい。</p>
<p>自転車保険の義務化を知らない人が多いと思うのもっとアピールが必要だと思う それと、先日愛媛県に行ってきたのですが、結構自転車に乗っている人のヘルメットを着用している人が多いのにびっくりしました。福岡県では着用率が低いのではと</p>
<p>自賠責のように、長く乗る人に安く出来るように予算化して、コンビニだけでなく、郵便局やクルマメーカーなどでも入れるように窓口を広くする。 また、ネット割引みたいに入りやすいようにしては、どうでしょうか？</p>
<p>中学校入学と同時にPTA費用、学級費用などから徴収するとして全学生加入斡旋強化すべき</p>
<p>自転車は車両のひとつだという意識が、相変わらず低い。大人でもそうなので、ヘルメット着用の義務化から徹底すべき。</p>
<p>○加入義務の周知不足の解消 一部の自治体では加入が義務化されているものの、まだ多くの方が「知らなかった」「自分は対象ではないと思っていた」と答えるケースが多いです。もっと日常的に目にする場(学校、職場、免許更新時、市報、SNSなど)で、わかりやすく繰り返し周知する必要があります。</p> <p>特に子どもや通勤で自転車を使用する人が多い学校・企業単位で、団体保険に自動加入するような仕組みがあれば、加入率が上がりやすくなります。</p> <p>自転車を購入する際に、保険への加入案内や比較・申し込みがその場でできるよう義務づけると、特に高齢者や未加入者の加入が進むと考えます。</p> <p>○事故時の補償内容の啓発 保険に入っていないと、加害者になった際に数千万円の損害賠償を請求されるリスクがあることを、多くの方は十分に理解していません。実際の事故例や損害額などを用いて、具体的にリスクを伝える啓発が効果的です。</p> <p>○保険料の補助制度の検討 生活困窮世帯や学生などに対して、保険料の一部を自治体が負担する制度があれば、経済的な理由で未加入になっている層にも加入が広がると思います。</p>
<p>みんなが簡単に保険に入れるようにすることや、学校や地域で保険の大切さを教えることが必要。</p>
<p>保険の義務は必要だが、あまりにも多くの方が火災保険などに付帯しているということを知らなすぎて、新たに unnecessary な自転車保険に加入していると思われる。対策を講じるべきである。</p>
<p>自転車販売店による自転車購入時の自転車保険の加入確認。 防犯登録時に自転車保険の加入を義務付け、防犯登録に自転車保険会社、加入年月日なども登録する。</p>
<p>自転車利用者について、加入の有無をチェックする制度が必要だと思う。</p>
<p>保険料が高い、せめて500円から千円にしてほしい</p>
<p>自転車を保有しておらず、レンタサイクル(チャリチャリなど)の利用が主なため、保険などがあることは知っていたが、加入の義務があることを知らなかった。 自分の周りにもそういう人は多いため、自転車保有者以外にも知る機会があると良いと思った。</p>
<p>成人の自転車保険に関してはよく目にします。小学生中学生高校生の加入に関してはあまり情報が入ってきません。その辺のこともPRが必要だと思っています。</p>

夫の母が自転車に乗っていた時、夫が代わりに加入手続きを行っていた。お年寄りには加入方法がわからない可能性が高いと感じる。いつもイオンなど大型スーパーで買い物をしていると駐輪場に自転車を停めて買い物をしているお年寄りを見かける。大型スーパーなどで自転車保険説明イベントなどをしてほしいかもしれない。
自転車は二輪車であり、道交法が適用される以上、オートバイと同じようにナンバープレートを付すべきと考えます。
職場、学校等自転車を利用した通勤通学者が多い組織で更に徹底すると良いと考えます。
車道を走るのを禁止してほしい、イヤホンをつけての運転禁止を徹底してほしいです。
保険はもちろん大事だと思います。万が一の不幸な事故においては加害者も被害者へも金銭的な補償があるほうが良いに決まっているので、自転車の所有者には必ず加入義務付けが必要だと思います。それ以上に、自転車にも運転免許証のような法的、運転技能の認定を義務付けたうえで、保険に加入しない人には自転車を販売できないような制度作りも必要だと思います。
乗り物は凶器になり得るものなので保険は必要不可欠だと思います
自転車保険は義務付けられるといいと思う 迷惑な自転車は多いし車走行中にもある
各小学校で、自転車講習会を義務化。中学校でも継続し義務化してはどうか。安全な乗り方、交通標識、事故を起こした時の対処法など幅広くその年齢に合わせた講習を保健体育や道徳の時間を使って学習指導要領に組み込めるとよいと考える。
自転車＝軽車両との認識があまりなく自転車での事故は特に高齢者や子供などは危険だと思います。 外国人の方の運転も増えていきますので自分も他者も守るために大切だと思います。
○自転車購入時の保険加入セット化 自転車を購入する際に、保険加入を同時に行えるような仕組みが必要です。販売店での案内や、購入価格に保険料を組み込むことで、加入の手間や判断を軽減できます。
自転車保険に加入していなくて事故を起こした場合、刑事罰に問えるようにすることで自転車保険への加入が増え、安全運転する人が多くなるのではないかと
保険未加入者に対する罰則規定を厳格に定め周知させる。
公道を走らなければオッケーだと思う。私有地の乗車は保険は入らなくて良いと感じる
自転車よりも、今はスケボーみたいな乗り物の方が危険で保険をかけないと乗れない制度を望みます。
自転車保険加入が義務であることを知っている人は少ないと推察します。保険に入ることの重要性は理解していて、私は加入していますが、あまり周知する取り組みは聞かないように感じます。ヘルメット装着の努力義務やスマホやイヤホンの罰則は、よく聞きますが。
自転車販売店の協力が不可欠、購入時に保険加入しないと購入できないなど、また、中古自転車を譲ってもらい使用するとき、最寄りの販売店が警察署届出と自転車保険に加入している証拠として偽造できないような形での表示の義務付けが必要。
近年自転車への罰則が厳しくなっているのにもマナー違反や大きな事故が原因になっているので加害者、被害者にならないように意識して取り組みたいと思います
自転車で事故をおこし、被害者がいた場合、補償を充分するべきなので、保険の力を借りた方がいいから、自動車保険と同様に自転車保険加入は必要であると考えます。
私も家族も自転車を保有していないし使わないので、友人から聞いて保険の事を知りました。身近な各市町村の広報などに掲載をするなどです。
本当に徹底するのであれば、自転車の所有者と使用者を明確にするべきなので、最終的には自転車にもナンバープレートのようなものが必要になるかもしれないと思います。
自転車販売時の加入、中古車などの管理調査
自転車の購入時に保険加入の確認を義務付ける必要があると思います。また、保険加入期間を表記したシールの添付も必要だと思います。さらに保険加入期間を表記したカードの携帯を自転車の運転免許のように義務付けることで、自転車の運転時に違反等があった場合に確認できると思います。

<p>保険の加入も重要だとは思いますが、自転車の運転について、安全運転教育の更なる強化も重要で、特にお年寄りや児童は、日常的に危険行為を無意識に繰り返しているのを頻繁に目撃する。</p>
<p>知らない人が多いので、もっと周知すべき それと、自転車を歩行者と同等に軽く思っている人が多すぎるので、軽車両であることをもっと周知させ、罰則があり、自転車でも運転するのに講習が必要だと思う</p>
<p>子どもが自転車に乗るので保険に加入している。保険は必要だと思う。</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・自転車を利用するのは主に学生か、年配者なので、まずはそのターゲット中心に広告を訴求し普及させることが必要。 ・自転車保険を販売した販売員への販売手数料を上げる
<p>保険会社に勤務していますが、自転車保険(賠償責任補償)の必要性を十分に案内できていないのが現状です。自転車利用の有無をよく確認し、必要性をより訴えていかなければならないと思いました。</p>
<p>自転車もルールがあるため、免許制とはいわずとも、一定の講習を受けた上での利用が必要になると考える。 その場合、小さな子供たちの利用は制限される可能性がある。 そうならないよう、幼稚園での交通ルール講習の中に自転車講習も組み込む、小学校でも毎年、自転車講習を行うようにする必要性を提言する。 その上で、自転車販売店で自転車を購入する場合は、必ず保険加入を行うようにしなければならない。 それ以外の中古の場合も、自ら保険に加入し、加入した証のシールを車体に添付する。 添付がない車両は取り締まる。ということが必要ではないか。</p>
<p>現在、若い世代(中学生、高校生)に対し、ヘルメットの着用義務化も含め、県として対策が実施されている点は評価できる。学校現場も、これに伴って「指導」をしっかりとする義務が生じ、保護者にも「納得」させる事象となっていると感じる。「自転車保険」を国として「必要だ」と判断するのならば、自動車の自賠責保険と同じように、保険に関しても「義務・責任」を明文化・法制化すべきではないかとも思う。</p>
<p>加入していない人が多いと思うので、自転車事故の怖さを伝える場があったらいいなあと思う。 学校や地域のイベントなど</p>
<p>自分が事故を起こす、又は自動車等に巻き込まれるという自覚が足りないと思う。</p>
<p>自転車保有の全世帯の世帯主に年間1000円程の保険料を徴収してはいかががでしょうか。そうすれば、未加入者はいなくなり、皆保険になることで、一世帯あたりの保険料もかなり安価になるのではないのでしょうか。</p>
<p>自転車保険の加入状況については、まだ十分に周知されているとは言えないと感じます。 自転車事故による高額な賠償事例が報道されることもありますが、日常的に自転車を使う人ほど保険の重要性を知らないまま乗っているケースも少なくありません。 学校や職場、自治体などが積極的に情報を発信し、保険の種類や加入方法を分かりやすく伝えることで、より多くの人々が安心して自転車を利用できる環境が整うと思います。</p>
<p>義務というのは知らなかった。知らない人が多いと思います。</p>

自転車保険の加入状況を向上させることが必要だと考えます。
複数の施策を組み合わせた総合的な取組が有効であると思います。まず「周知・啓発の徹底」が重要であり、義務化を知らない人を減らすために、ポスターやチラシだけでなく、テレビ・ラジオ・SNS広告・YouTube動画など多様な媒体で、短く分かりやすいメッセージを発信する必要があります。特に通勤通学で自転車を利用する高校・大学・専門学校においては、入学案内や保護者説明会の場で必ず案内を行うべきです。

次に「加入しやすい環境づくり」として、コンビニやスマホアプリ(PayPay、LINEなど)で簡単に申し込みができる仕組みを整備するほか、自転車販売店や修理店で購入・点検時にその場で加入できるセット販売を推進します。

さらに「インセンティブの付与」により加入意欲を高めることも有効です。例えば、加入者向けに交通安全イベントへの優先参加権やクーポンを提供したり、保険加入証の提示で自転車駐輪料金の割引が受けられる制度を導入します。

また「事故・賠償事例の見える化」として、実際に福岡県で発生した高額賠償事例を紹介し、「自分ごと」として捉えてもらう工夫が必要です。その際、動画や漫画形式で、保険加入によって救われた事例も併せて発信することで、加入の必要性を具体的に理解してもらえるかと思います。

これらを組み合わせることで、自転車保険の義務化を単なるお知らせにとどめず、「加入しないことのリスク」を強く実感させることができると思います。

以前勤務していた職場では、自転車種保険に加入していないと通勤に自転車が使えなかった。職場、学校で自転車を使う場合には保険の加入を義務づけたらと思う。

高齢者に対して、自転車利用についての意識を高める対策が必要だと感じます。

もう少し安くて手軽に利用できる保険があればよい。

孤独・孤立について 県政モニターアンケート

【調査の目的】

福岡県では、県民の「孤独・孤立」に関する理解醸成を深めるとともに、行政・NPO 等の多様な主体間の分野を超えた連携体制を構築し、県内における孤独・孤立対策の推進を図るため、今後の取組みを検討しているところです。

本調査は、孤独・孤立に対する認知度や孤独感等について皆様のご意見をいただき、今後の取組みの参考とさせていただくため調査を行いました。

(福祉労働部福祉総務課)

【調査期間】

令和7年8月7日～9月3日

【回答者数】

369人

※集計は小数点以下を四捨五入しているため、合計が100%にならない場合があります。

問 1

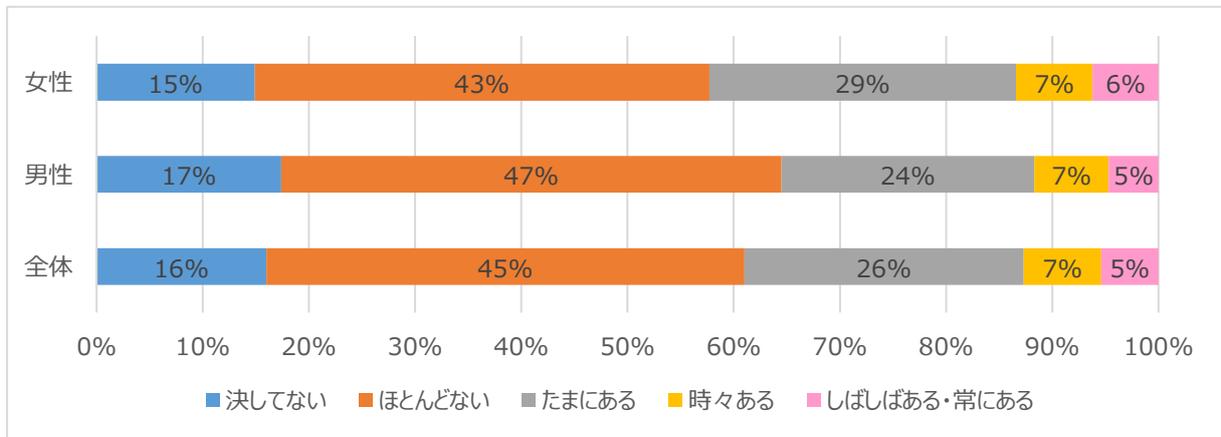
あなたはどの程度、「孤独」と感じることがありますか。

【回答内容】

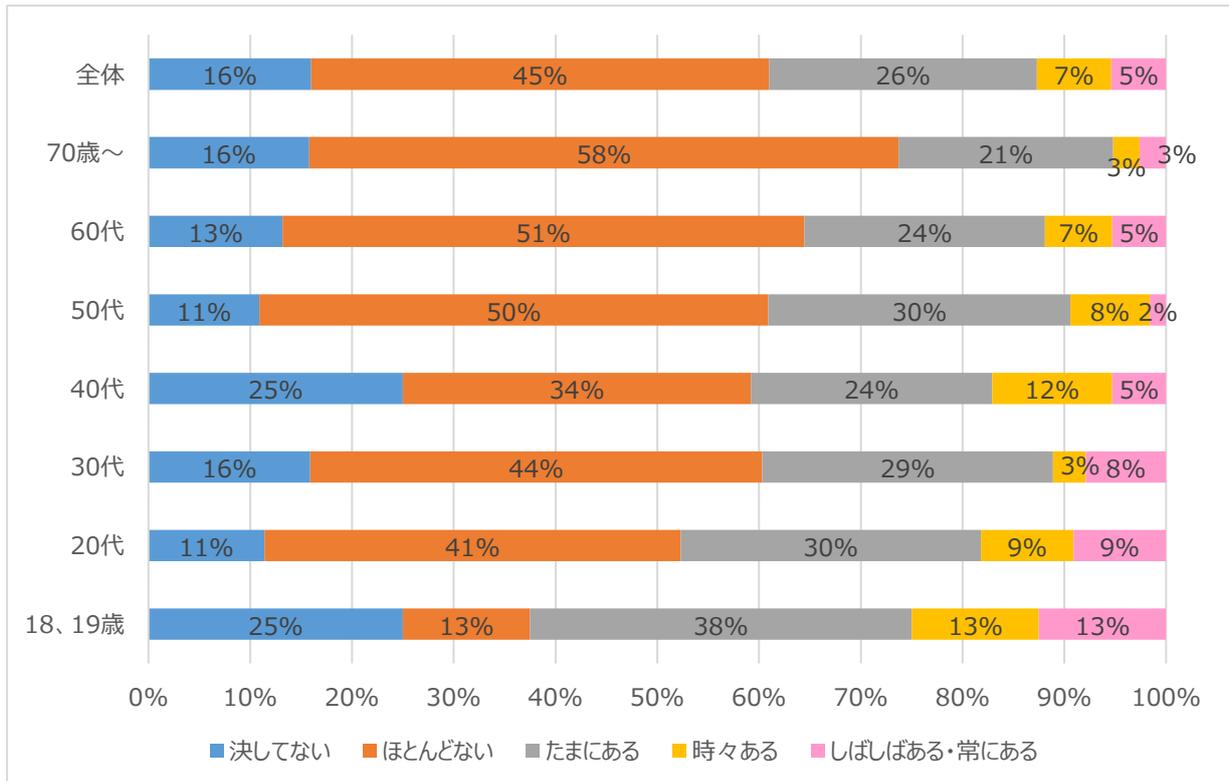
全体では、38%が「孤独感がある（「たまにある」、「時々ある」、「しばしばある・常にある」の合計）」ことが判明した。

このことから、孤独の問題は誰にでも起こりうる問題であると言える。

(男女別)



(年齢別)



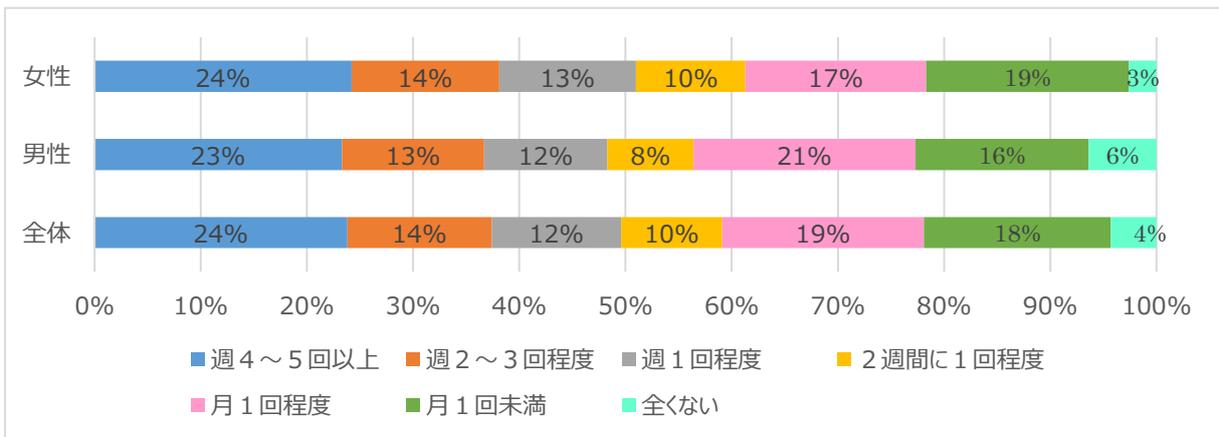
問2

あなたはどの程度、同居していない家族や友人たちと直接会って話しますか。

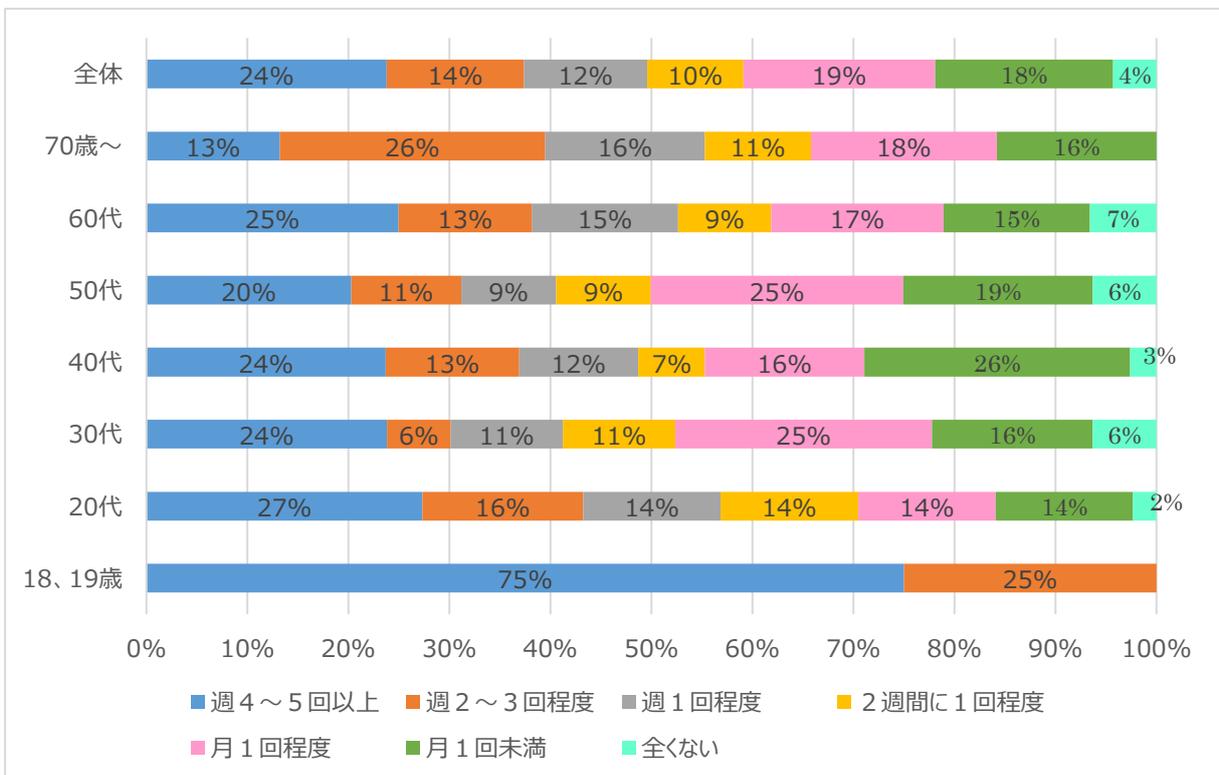
【回答内容】

全体では、41%が「月1回程度以下」しか同居していない家族や友人たちと直接会って話をしていないことが判明した。特に、30～50代の「月1回程度以下」の回答割合が多いことが顕著であった。

(男女別)



(年齢別)



問 3

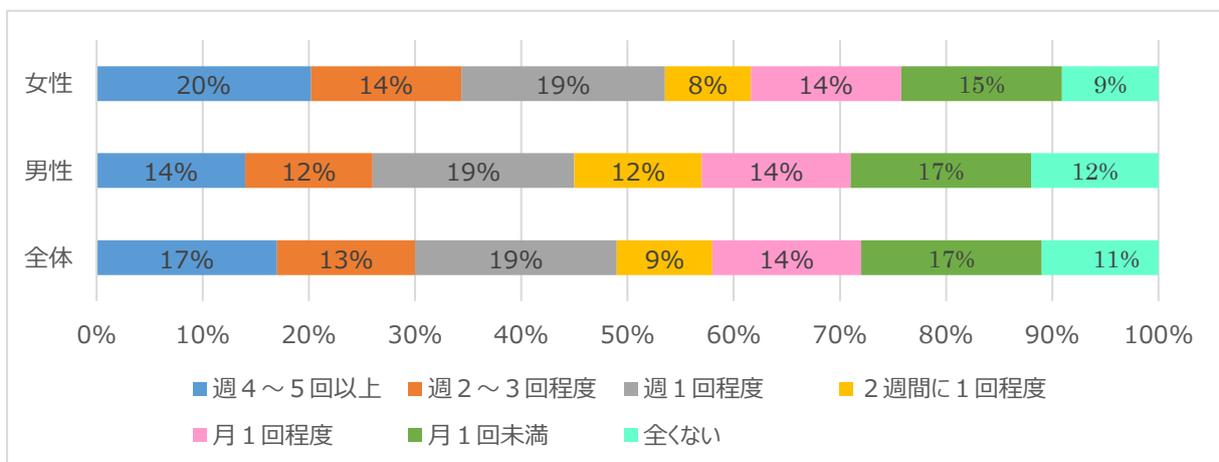
あなたはどの程度、同居していない家族や友人たちと電話（ビデオ通話含む）でコミュニケーションを取りますか。

【回答内容】

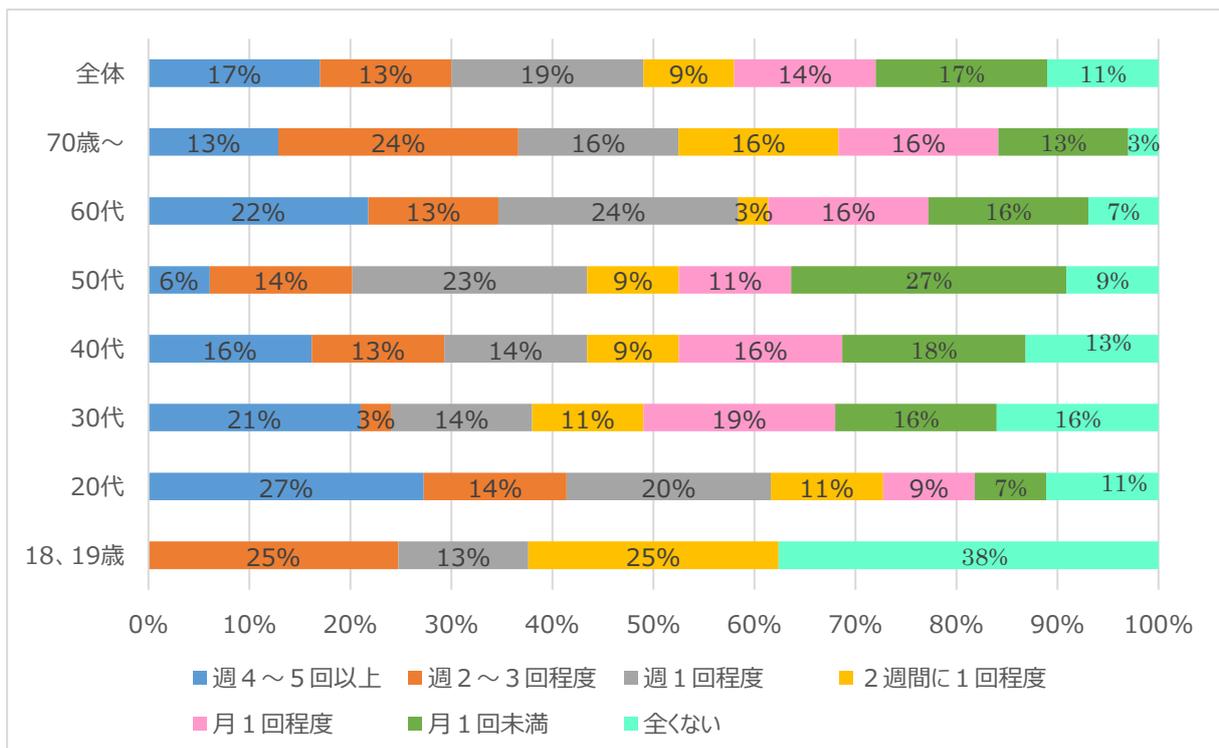
全体では、42%が「月1回程度以下」しか同居していない家族や友人たちと電話でコミュニケーションを取っていないことが判明した。

また、問2と同様に30～50代の「月1回程度以下」の回答割合が多いことが顕著であった。

(男女別)



(年齢別)



問4

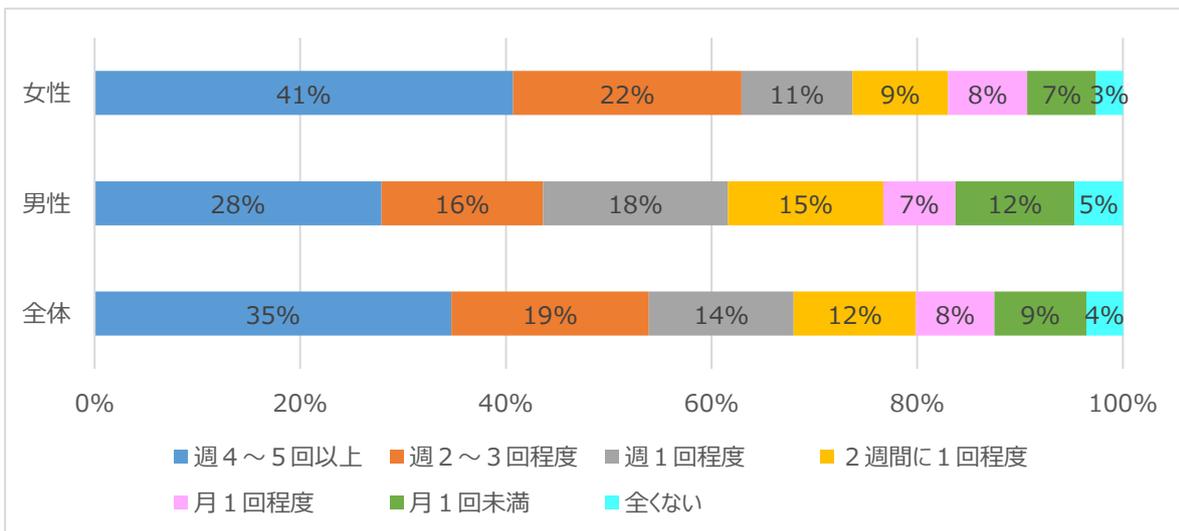
あなたはどの程度、同居していない家族や友人たちと SNS や電子メールなどでコミュニケーションを取りますか。

【回答内容】

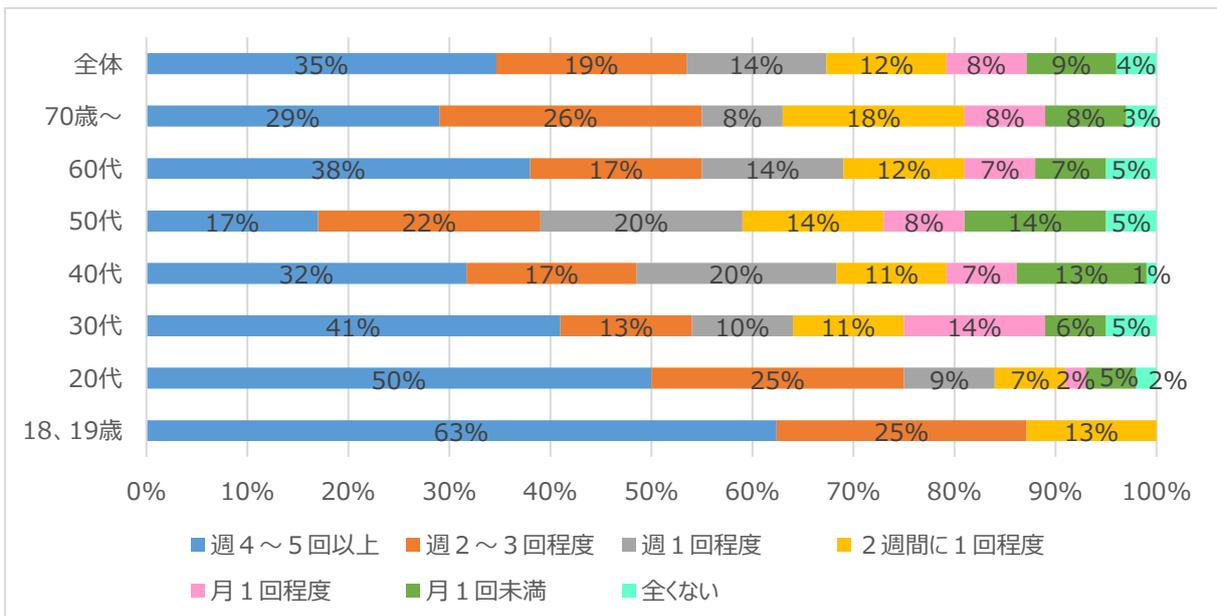
全体では、「2週間に1回程度以上」との回答が80%であり、同居していない家族や友人とのコミュニケーションツールとして、SNS や電子メールが多く使用されていることが判明した。

年代別では、50代及び30代の「月1回程度以下」の回答割合が他の年代と比較して多く、問2～4の結果から、30～50代は他の世代と比較して、同居していない家族や友人とのコミュニケーションが希薄であると言える。

(男女別)



(年齢別)



問5

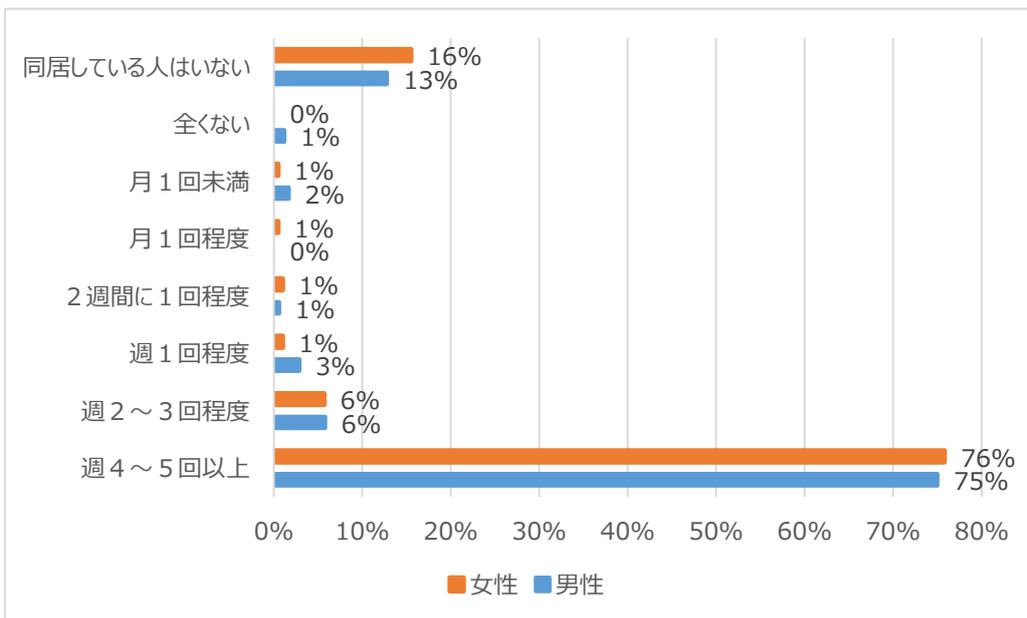
あなたはどの程度、同居している人とコミュニケーションを取りますか。

【回答内容】

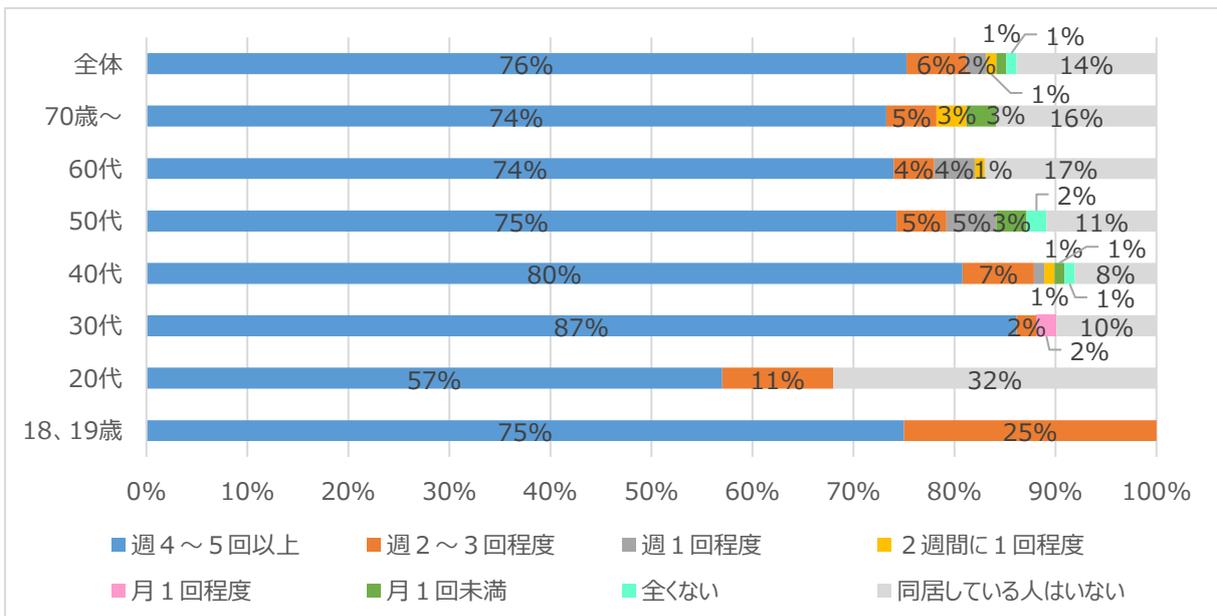
30～50代は、他の世代に比べて、同居していない家族や友人とのコミュニケーションが希薄であったが、同居している人とのコミュニケーション頻度は高いことが判明した。

また、孤独感があると回答した割合が一番大きかった20代は、「同居している人はいない」の回答割合が他の世代より高く、同居人の有無は孤独であると感じるかどうかに何らかの影響があることが示唆される。

(男女別)



(年齢別)



問 6

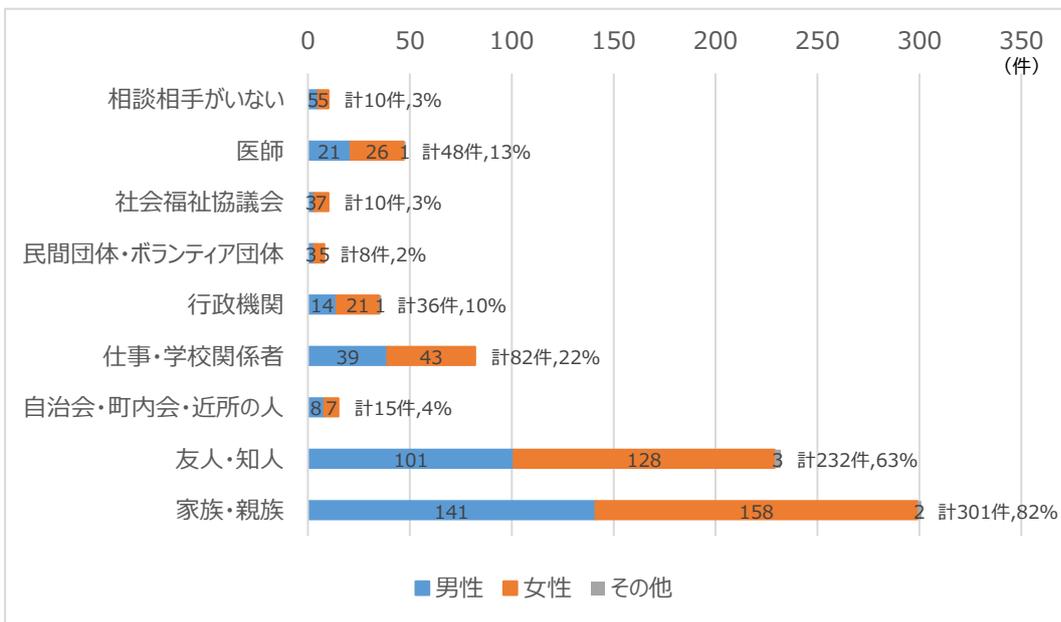
あなたに不安や悩みが生じた場合、誰に相談しますか。（複数回答可）

【回答内容】

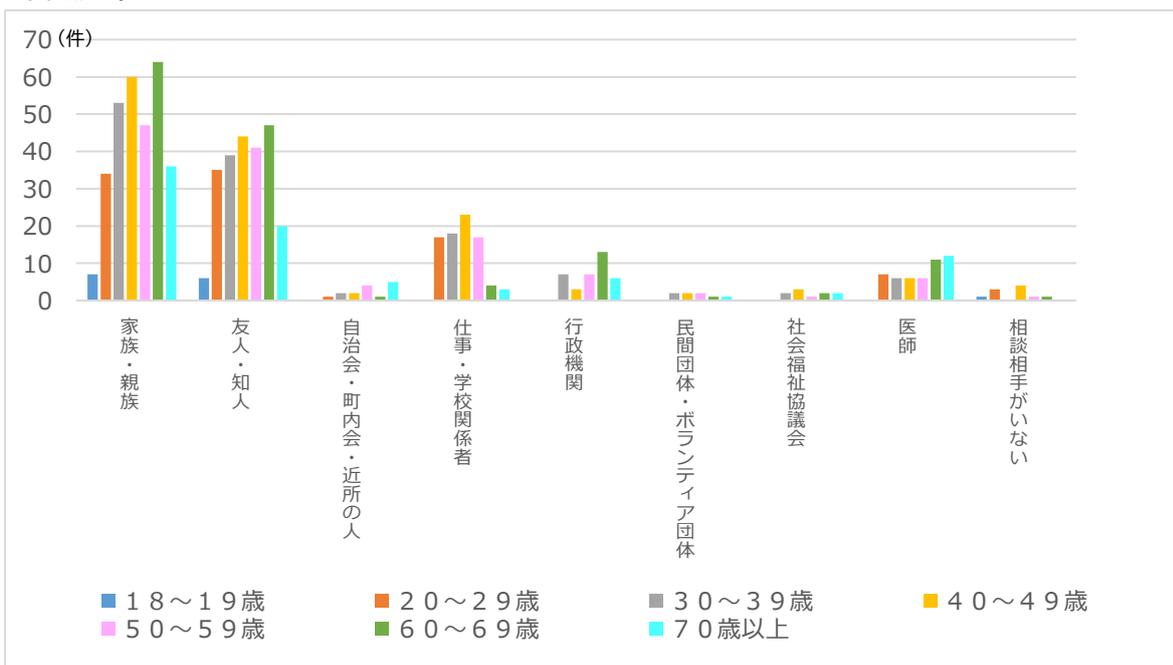
不安や悩みが生じた場合、369 人中 82%が「家族・親族」、63%が「友人・知人」、次いで 22%が「仕事・学校関係者」に相談すると回答。

一方、官民の相談窓口に相談するとの回答割合は低く、不安や悩みが生じた場合、身近な人に相談する傾向が高いことが判明した。

(男女別)



(年齢別)



問 6-2

問 6 で「その他」を選んだ場合は、その内容を具体的に入力してください。

【回答内容】

- ・ChatGPT というアプリに悩みを打ち込み AI に聞いてもらっている。
- ・SW さん
- ・心療内科の先生
- ・相談したくない
- ・心療内科の先生
- ・これまで生きてきて、あまり人に相談した記憶がない。子供時代は別として、自分で行動解決して来た。
- ・SNS の他人
- ・子どものことであれば、保育園や児童館などのスタッフなど
- ・相談することがない。仮に何かしらあっても自分で解決する。
- ・年に 1 度あるかないかですが、誰にも言えない内容の場合、占い師に頼ります。はまりすぎても怖いので、1 回 3000 円くらいにおさめるようにしています。
- ・同居母親担当のケアマネージャー
- ・不安や悩みが生じた場合、まずは家族に相談します。そのうえで、身近な人に話しづらい内容や、専門的な知識が必要な場合には、生成 AI を活用します。時間や場所を選ばず、客観的な意見や多様な情報を得られる点が安心につながっています。
- ・悩みの内容によっては家族にも友人にも話せずネットで検索することが多くなりました
- ・ネットで同じ悩みを抱えた人の悩みを見たり（ヤフー知恵袋等）、最近チャット GPT も一意見として活用してる。もちろん信じすぎるのは良くないので、あくまで気分転換、そういう意見もあるよな、くらいに留める。
- ・今のところ、人に相談したい不安や悩みはありません。
- ・卓球サークル内の先輩の方々に、ご相談したいと考えています。
- ・所属してるママコミュニティ内
- ・就労移行支援所に通所しているため、その支援員とも繋がりがあり、なにかあった場合に相談することができる。
- ・ネット匿名相談所

問7

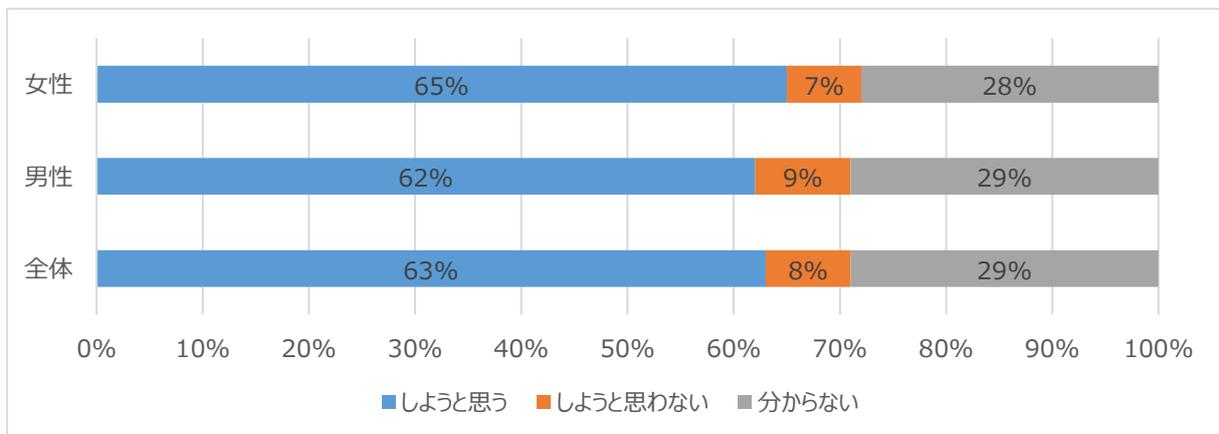
あなたは、まわりに不安や悩みを抱える人がいたら、積極的に声掛けをしようと思いますか。

【回答内容】

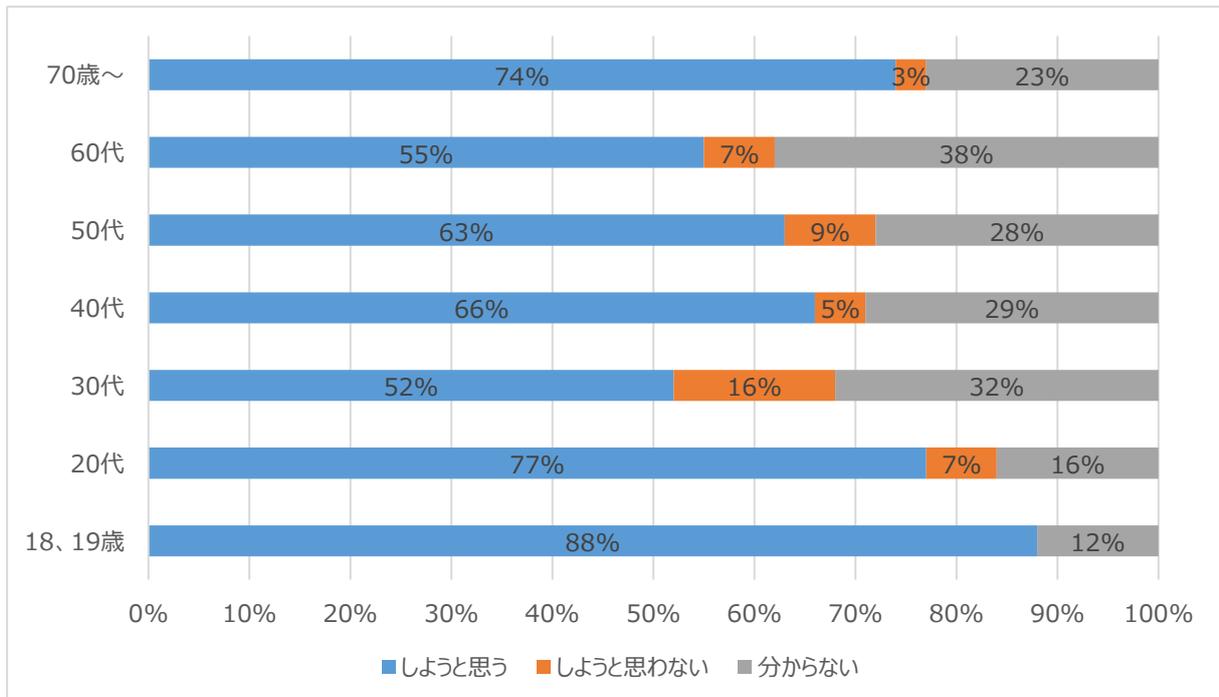
30代は、他の世代に比べて、まわりに不安や悩みを抱える人がいても「声掛けをしようとは思わない」と考える方が多いことが判明した。

そのため、孤独・孤立対策に係る啓発のうち、「誰もが困ったときに気軽に声を上げられる・かけられる社会」の実現に向けた啓発は30代をターゲットにすることが有意だと考えられる。

(男女別)



(年齢別)



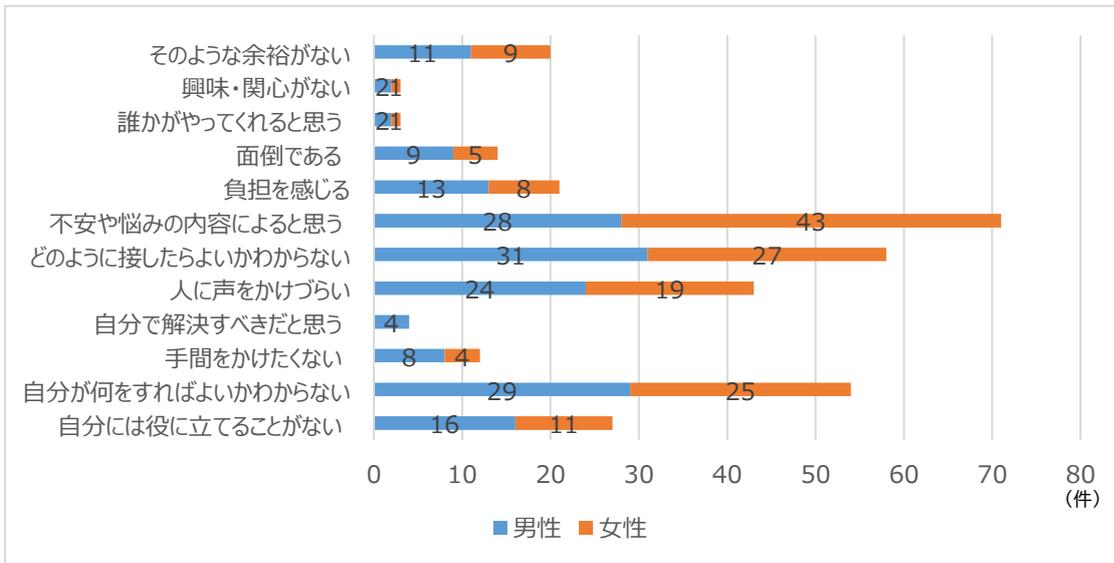
問7-2 (問7で「2 しようと思わない」又は「3 分からない」を選択された方にお尋ねします。)
声掛けしようと思わない、又は分からない理由は何ですか。(複数回答可)

【回答内容】

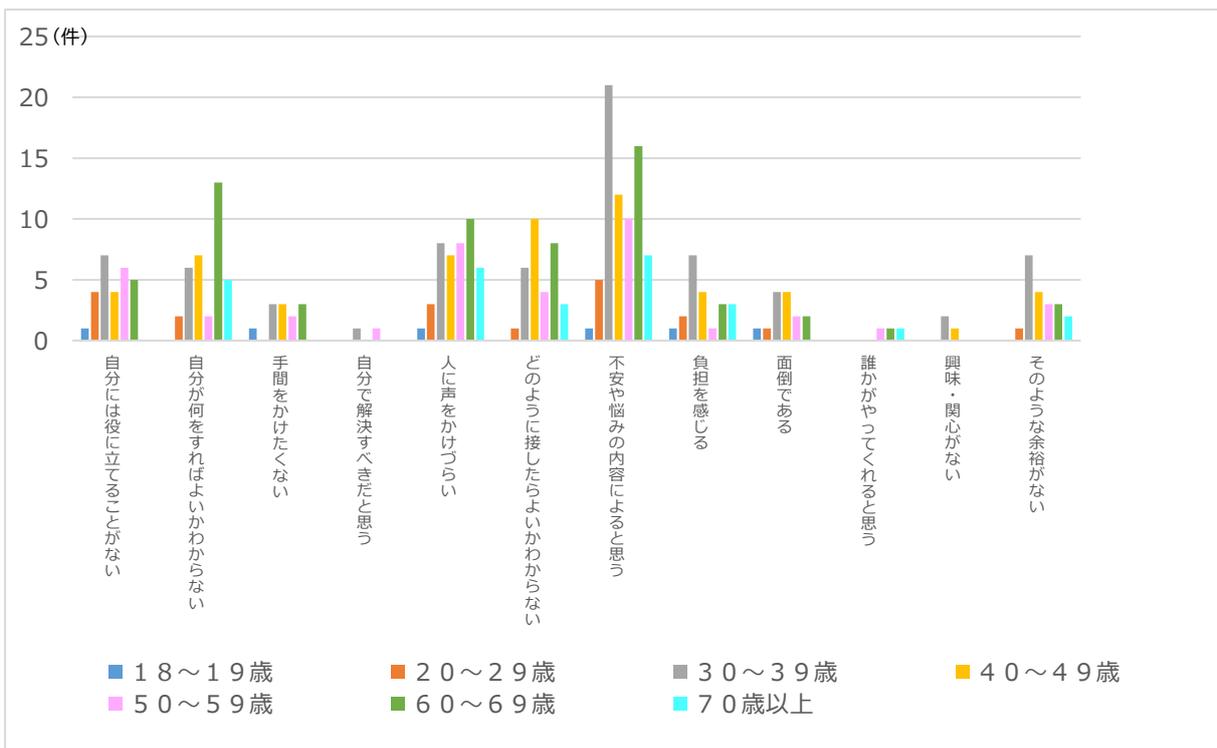
全体の回答のうち、「どのように接したらよいかわからない」、「自分が何をすればよいかわからない」、「人に声をかけづらい」という回答が比較的多かった。

そのため、今後の取組みとして、まわりに不安や悩みを抱える人に対し、「自分がどのようなことができるのか知ってもらうこと」や「声をかけやすい気運情勢」などの取組みが有意だと考えられる。

(男女別)



(年齢別)



問 7-3

問 7- 2 で「その他」を選んだ場合は、その内容を具体的に入力してください。

【回答内容】

- ・出過ぎたことはしたくない。
- ・関係性による
- ・ネガティブな意味で「声をかけない・わからない」というわけではない。人によっては不安や悩みを抱えていてもむしろそこには触れてほしくない、という場合もあるので、いつも通り普通に接して行き、ケースによって行動を起こしていきたいと思う。
- ・逆に、声をかけると怪しまれるし、うつや精神疾患者は、逆ギレすることもありうるので、自分の命が大事だから、今の世の中、親切にして、刺されたとか事件が多いから、なるべく素人は、関わりたくない。
- ・日々の生活に追われて他人まで意識してるほど余裕がない。
- ・スレズなどの匿名の場所で聞いてみる
- ・相手との関係性にもよるし、相手が私を頼ってくれるのであれば、私にできる範囲でアドバイスや他の専門家などへの繋いだり、出来ることはしたいと思う
- ・相手が自発的に打ち明けるタイミングまでは無理やり聞き出さないようにしている
- ・相手の態度によっては（そっとしておいて欲しそうならば）声掛けしない。
- ・その人の不安や悩みに対して声掛けがよいことと限らないと思います
- ・相談されたら話を聞いて自分にできることをしたいと思うが 不安や悩みを抱えているかどうかを見分けるのは難しいと思う。
- ・相手との関係による思う
- ・逆に相手が迷惑だと感じるかもしれないと考えてしまうため
- ・自分と相手の関係性があるから
- ・悩んでいる人と距離が近いと声をかけるが、親しくないと声をかけない。
- ・悩んでる人に「あなたは何を悩んでいるの？」と聞くのは聞き手のエゴだと思うから。聞いてほしくない、そっとしておいてほしい人もいる。だから待つ。
- ・生活していれば、多少の不安や悩みは誰でも持っている。本人が言い出さない限り、干渉すべきではない。

問 8

孤独・孤立について、これまでの設問以外に意見はありますか。

【回答内容】（一部抜粋）

- ・高齢者は孤独、孤立状態になりやすいので、ピーリアルなどのアプリを使うことで生存確認やアプリ内の人と繋がりを持ってもらうことで防げると思う。
- ・人生において孤独感を和らげるには、友人や気軽に話せる人とのつながりが不可欠だと思います。しかし、学校を卒業すると新たな友人を見つけることが難しいのが現代社会の課題と感じています。そのため、芝生で寝転んだり散歩をしながら自然に会話生まれるような公園や、ふらっと立ち寄って人と交流できる「開かれた居場所」を増やすことが、孤独・孤立の予防に有効だと考えます。
- ・私の場合はマッチングアプリを活用して、同じ趣味の友達を数人作ることができ、今はすごくプライベートも充実しています。このように気軽に友達作りができるサイトやアプリがあれば、孤独・孤立する人も減るのではないかと思います。
- ・孤独や孤立は物騒な世の中になっていくにつれて年々増えていると感じます。昔は近所付き合いがあったり、親戚との集まりが頻繁にあったりと直接的な関わりが多かったと思います。いまは SNS で繋がる時代で、ある意味孤独なのではないかと感じます。核家族の増加に伴い仕方ないこともあるかとは思いますが、地域での声かけや、関わりなど増えたらいいなと思います。
- ・高齢者の孤独化が進んでいると思う。病院に通院などが繋がりの一部となっており医療費の負担が少ないため、少しの症状でも通院し、他の患者さんやお医者さんと話をするがために通院をしている事が常態化していると肌で感じる人が多い。自治体などで談話ができる場所をもう増やすことにより高齢者の孤独を減らしていくことができるのではないと思う。
- ・孤独・孤立の背景には、社会全体の余裕のなさがあると感じています。行政が直接できることは限られますが、「減税の推進」「賃上げしやすい環境整備」「育児休暇を取りやすくする制度設計」「共働きフルタイムを前提としない社会づくり」が必要です。
- ・いくら周りに支えがあるとはいえ、親世代、自分たち世代、子供たち世代それぞれで抱えている問題が違うとは思う。だからこそ日々のコミュニケーションを取りに行く、逆に来たときはしっかりと対応をすることが大切だと思う。
- ・きっかけを作ってあげたいが、その人自身が積極的になって貰わないとどうしようもないと思います。現在、コミュニケーションを取る手段は無数にある状態なので自分自身で何とかするしかないと思います。
- ・私は、近所の高齢の方や子育て世帯など年齢を問わず外で会ったら挨拶したり話しかけたりなど意識しているが、核家族の時代でなおかつ SNS でのコミュニケーションが普通になった状況では隣に誰が住んでいるのかすら知らない人が多い。コミュニティを強めるためには自治区会、町内会への参加・加入促進に努めてもよいかもしれない。
- ・孤独や孤立そのものが悪いこととは思いません。何の不自由もなく悠々自適な暮らしと思っている人もいます。しかし、いつ状況が悪化して困っている状態になるかは誰にも分からないので、行政機関は困っている人がいつでも安心して相談できる状態で待っていることが大事だと思います。
- ・スマートフォンの普及で SNS を見る機会が増えてしまい、画面越しの世界と孤独な自分とのギャップを強く認識してしまうことで、孤独感が増幅するというスパイラルが発生している。実際、それを一因として鬱病患者が増えていく。SNS 閲覧制限は不可能だが、これが一因であることを踏まえた対策が必要だと思われる。

・今でこそ、病院など様々なところで繋がりができ、孤独を感じなくなったが、自分自身、コロナ禍は孤独を感じていた。日本は海外と比較し、心療内科の受診率が低い。また、医師も少なく受診するにも予約が必要であり、すぐに受診できない状況にある。

・独居老人の孤独問題を日常的に感じることもある。病院でくらいしかお話しをされることがない方も多いのではないかと思う。人とはなさないと孤独に陥り、ボケたりするリスクがある。行政の介入の余地があると思う。

・孤独、孤立は、自らそういう風になっていると思う。例えば、面倒だからとかの理由で、地域の自治体の組に入らない家庭。若いときは、それなりの付き合いとか、子どもがいれば、学校とかの付き合いもあるけど、年をとるとそれもなく、孤立、孤独になりやすいと思う。

・SNS の普及によって家族の在り方が変化しつつあります。「自分らしく」「多様性」といった言葉の意味の捉え方の違いや間違い、また、自分の気持ちに正直にして良いんだといった SNS で発信されている情報等により、結果、孤独感を感じたり孤立したりする人も増えている気がしてなりません。勿論そういった気持ちも大切ですが、その前提として人を思いやる気持ちも忘れてはいけないと思います。支え合いの社会の日本の良さが損なわれるのが残念です。

・子育て中ですが、地域はもちろん保護者同士の関係も希薄であると常々感じています。県外出身のため、身近に親しい友人知人もおらず、出産以降は常に孤独を感じながら育児をしてきたように感じます。孤独を抱えている高齢者も多いのではないかと思います。

・孤独・孤立問題への対応には、多様な背景や性格特性を踏まえた柔軟なアプローチが求められると思います。特に内向的な人や人付き合いが苦手な人は、行政や民間団体が主催するイベントや交流会といった従来型の「対面参加型施策」には参加しにくい傾向があります。そのため、従来の集まりや講座だけでなく、より低ハードルかつ匿名性を保った相談・交流手段を用意することが有効なのではないかと考えました。

・一つの有望な手段が、チャットボットやオンライン相談窓口の整備です。AI を活用したチャットボットは、24 時間いつでも気軽にアクセスでき、名前や顔を出さずに悩みや不安を打ち明けられる点が強みです。

・地域や近所付き合いがなくなってきているので、孤独や孤立させないために、なかば強引に会合等に参加させるような取り組みが必要と考える。

・孤独については、家族がいても起こりうる。孤立については、近所の人に相談できないこともあり、挨拶はするものの具体的に話していいものかを考えてしまうことが多い。

独居老人が多く、もっと自治体や民間の企業を使って生活のサポートや状況確認をして欲しい。

・気になることは、コミュニケーションツールとして SNS に偏っていることです。便利な半面、誹謗中傷や偏った情報が這入りやすく、何より人との会話を通じてコミュニケーションを取らないので閉鎖的になると思います。

・そもそも人間という存在自体、ほかの人とのコミュニケーションをとりながら進化してきた生物なので、孤独に陥ることはその人の幸福感の欠乏や心身の不調につながる問題だと思います。しかし「自己責任」ということだけでなく、社会や周りの人が温かく迎え入れる姿勢も必要だと思いますし、法を整備して行政としての役割も明確することは、評価します。

・ひきこもりが長期化、深刻化した人が病院(心療内科、精神科等)に行きやすいような風潮を作っていく努力をしてほしい。精神科や心の悩みを相談できる行政の窓口へのハードルを低くする必要があると思う。

・自分も含め、一人であることが全く苦にならず、むしろ好きな人も多いと思う。一人暮らしだから、必ず孤立しているとも限らない。家族と暮らしている中で、孤独・孤立感を感じている人もいるし、その方がよほど悲惨だ。本当にその人が重い孤独・孤立感を持っているのを判断することは、とてもむずかしい。へたに声がけするのは、かえって

傷つけることにもなりかねない。

・町内でも独居老人宅が増えています。幸いにも今はその方たちはご健在で、ご近所とのお付き合いもできているように思いますが、今後には心配を感じております。町内会という制度も高齢化に伴い、今後活動休止ということも考えなければならないのが現状のようです。

こうした状況では、今後行政が単に町内会に頼るのではなく、定期巡回や電話等での確認等、また食料や日用品の宅配業者との連携などが必要になると考えています。

・孫(男性)が単身生活をしています。食事もすべて自分で準備し、弁当も作って職場に通っています。我々の時代に比較して驚くばかりですが、友達を自宅に呼んで一緒に食事をしたり、外に飲みに行ったりしているようです。まったく孤独を感じていないようです。問題は孤立だと思えます。

・孤独は楽しむべし、孤立は避けるべし。どちらもプライベートなデリケートな部分を多々含んでいる為に、第三者としての関わり方には慎重な踏み出し方が必要とされていると思えます。

・孤立の高齢者に対する援助は難しいと思う。本人からの発信がない限り、親族でも難しい。

令和7年度 県政モニターアンケート調査結果

テーマ：資源の有効利用について

【調査の目的】

日本国内では、規格外品や売れ残り、食べ残しなど、本来食べられるにもかかわらず捨てられてしまう「食品ロス（フードロス）」が年間464万トン発生しています。これは、国民一人当たり換算すると、毎日おにぎり1個分（102g）の量を捨てている計算になります。

本県では、この食品ロスの削減のため、平成28年度から事業者や県民の皆様と行政が一体となって県民運動として取り組んでいます。

また、海洋プラスチックごみ問題を背景に、本県では、ワンウェイ（使い捨て）プラスチックの使用削減やプラスチック代替品の利用促進などに取り組んでいます。

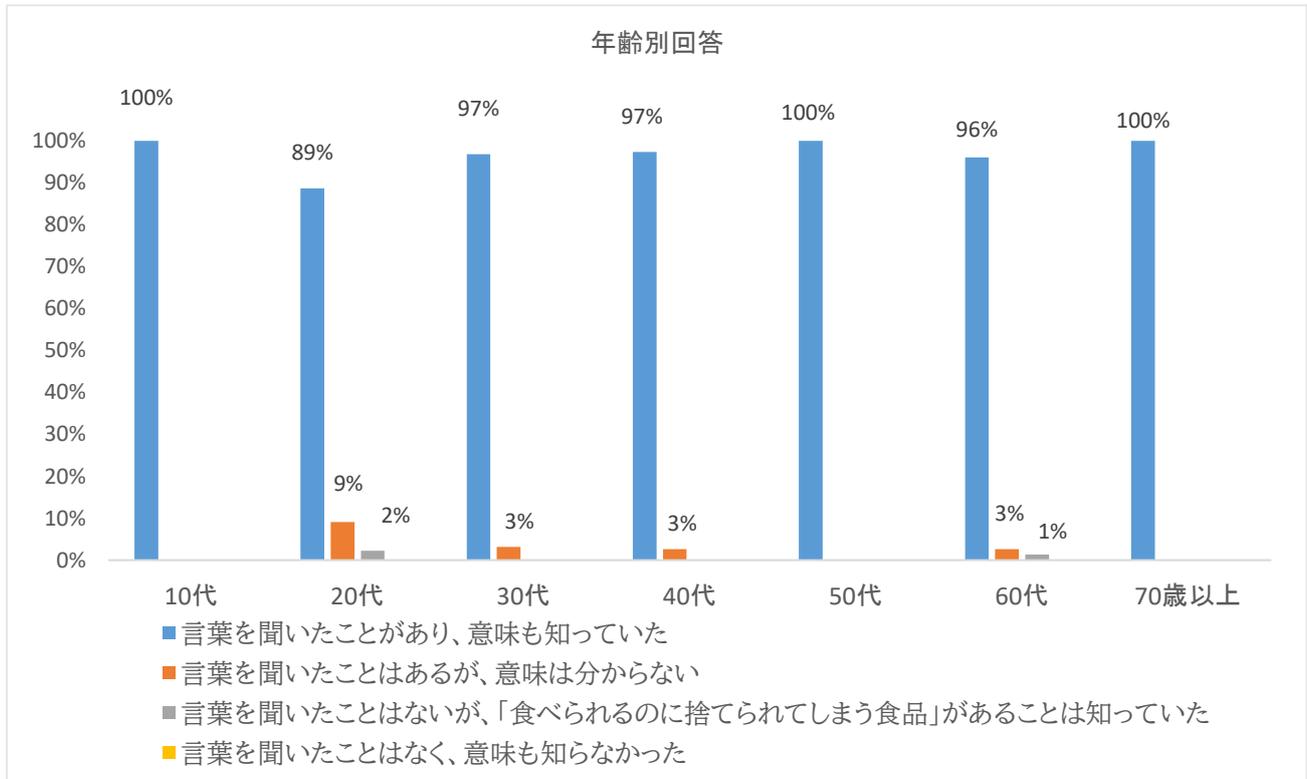
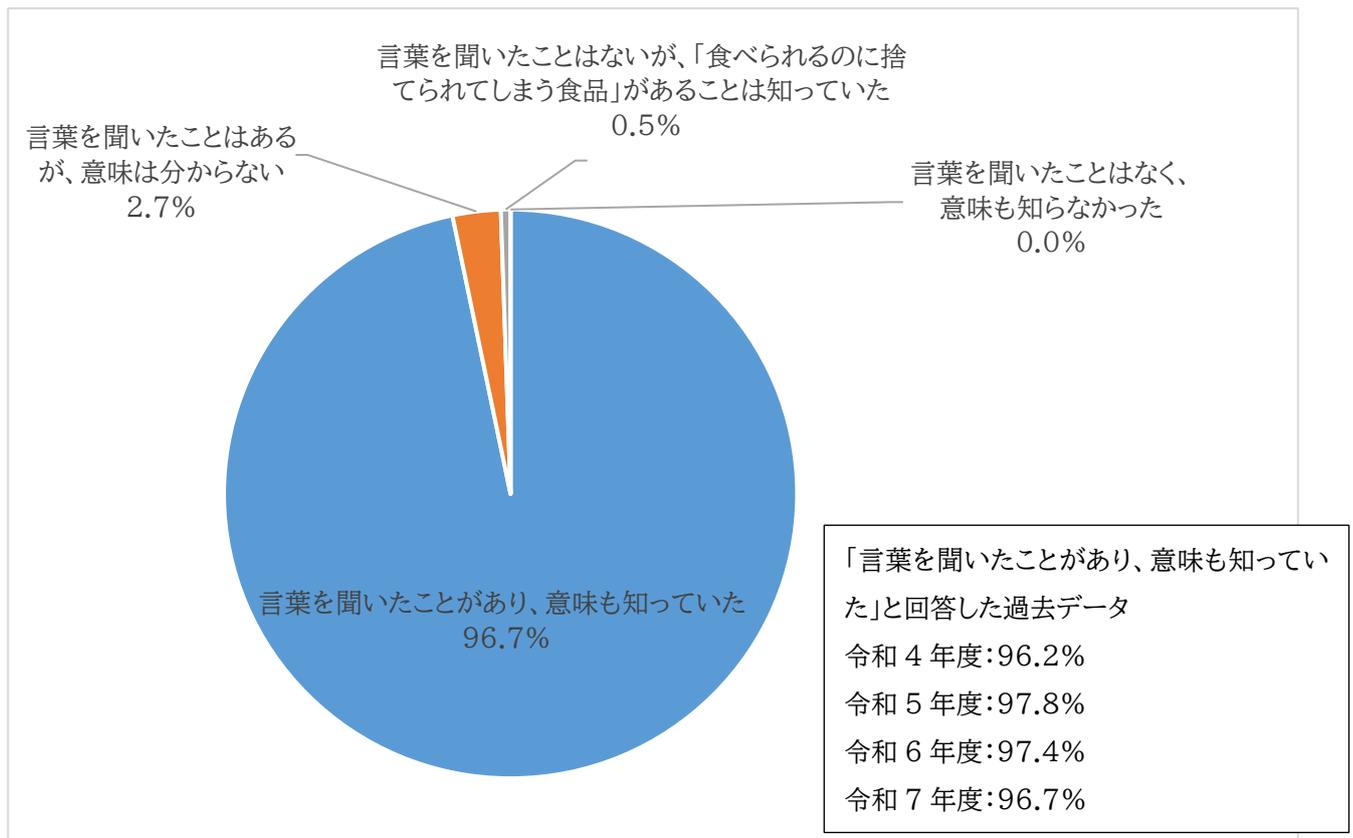
プラスチック代替品の利用促進にあたっては、まず、プラスチック代替品にはどのようなものがあるのか、なぜ環境に優しいのかを知ってもらうことが必要であり、次のステップとして、環境に配慮した商品を選ぶという意識の醸成を図っていく必要があると考えております。

つきましては、食品ロス削減やプラスチック代替品に関して、皆様の御意見をお聞かせいただき、今後の行政施策の参考とさせていただきます。

(環境部循環型社会推進課)

問1 「食品ロス（フードロス）」という言葉について聞いたことがありますか。

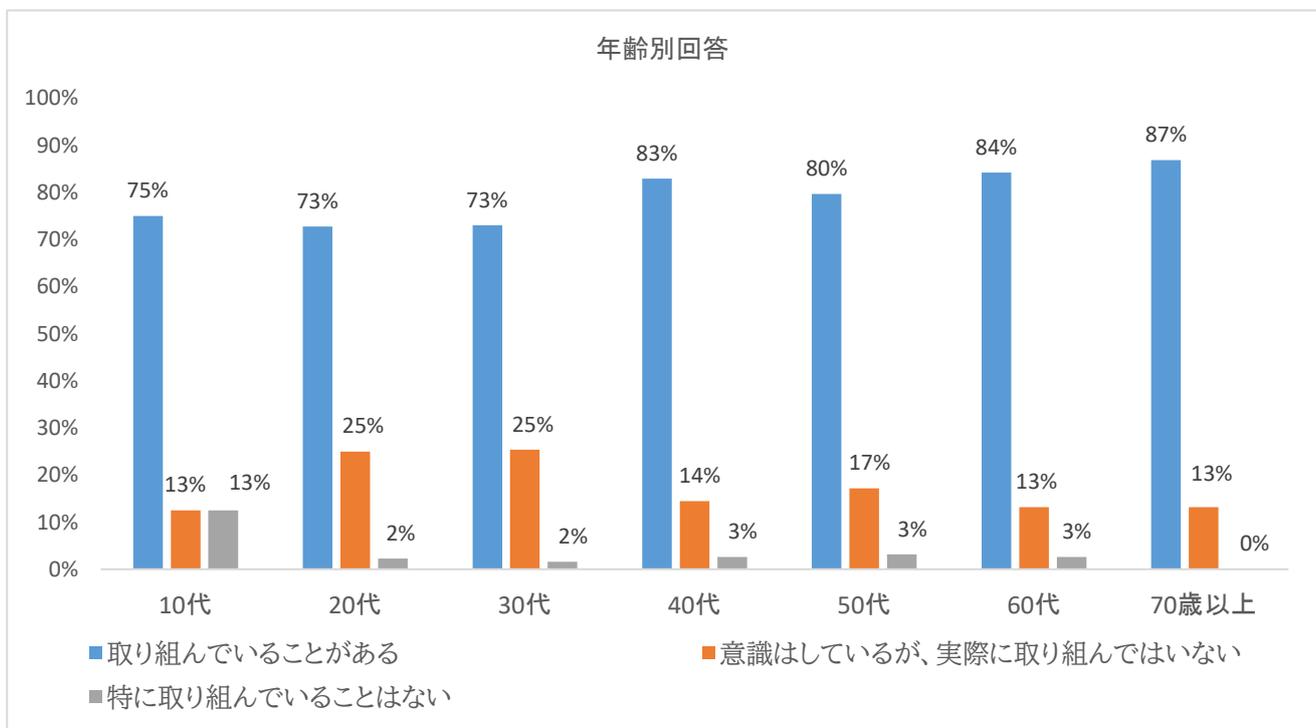
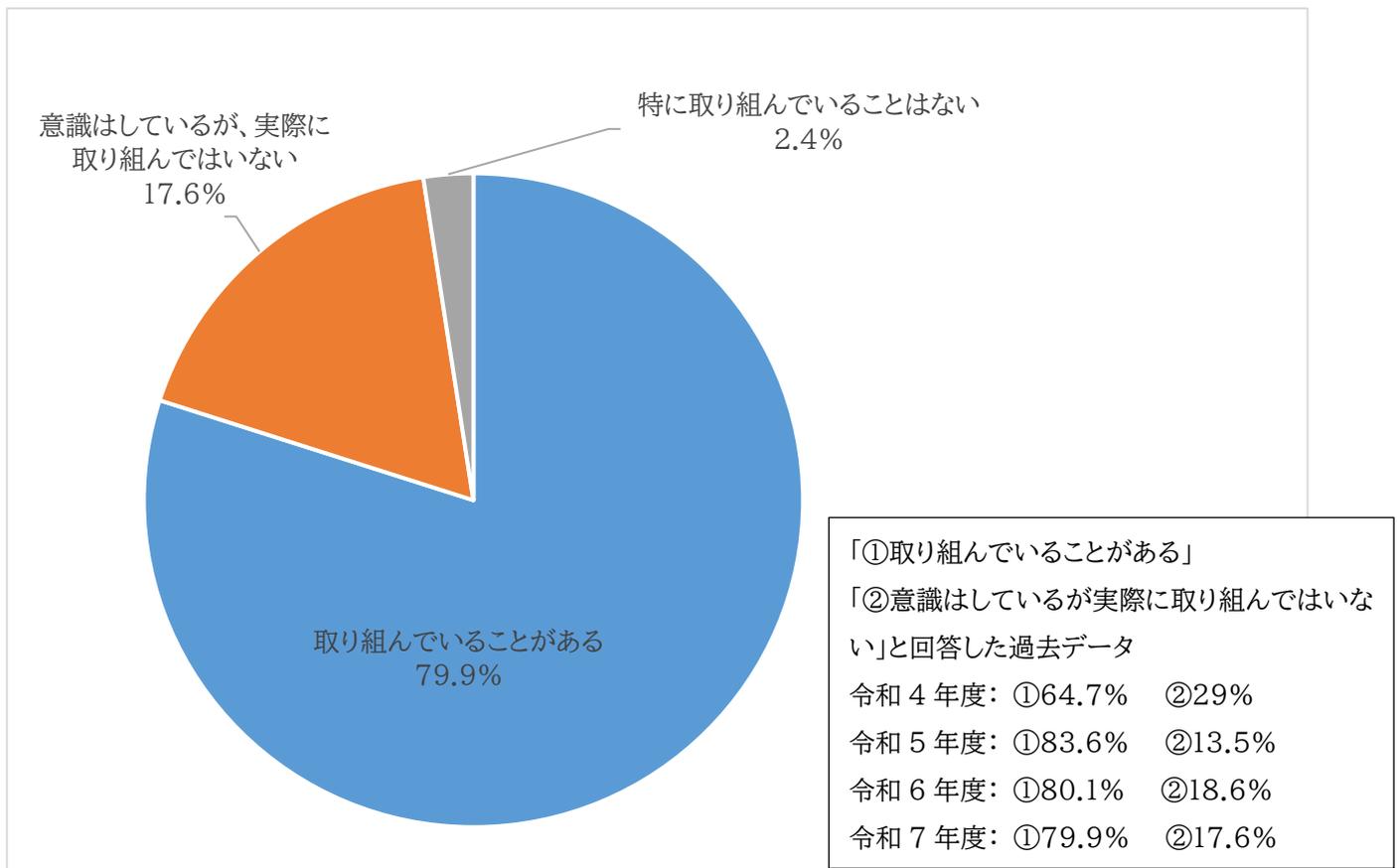
また、その意味を知っていましたか。次の中から当てはまるものを【1つだけ】選んでください。



- 「言葉を聞いたことがあり、意味も知っていた」と回答した割合は 96.7%で、昨年度より若干減少したものの高い水準を保っている。
- 「食品ロス（フードロス）」という言葉は、どの年代においてもある程度浸透しているといえる。

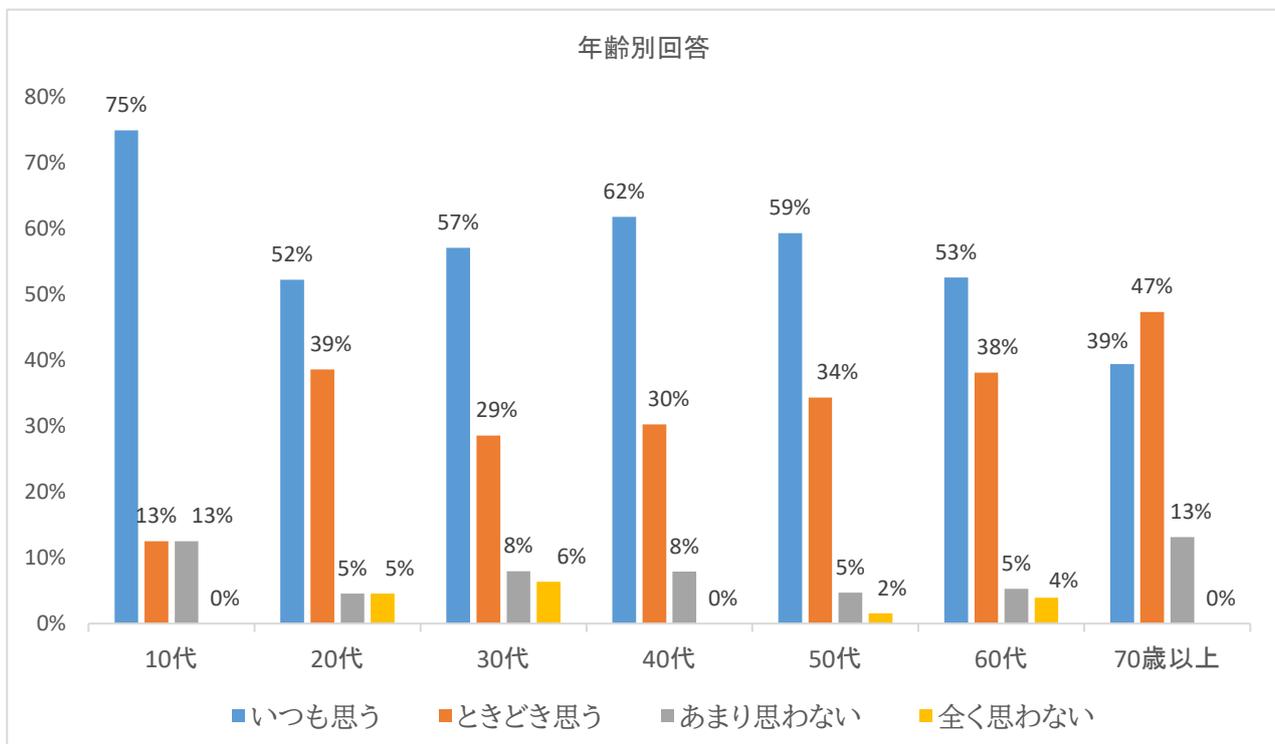
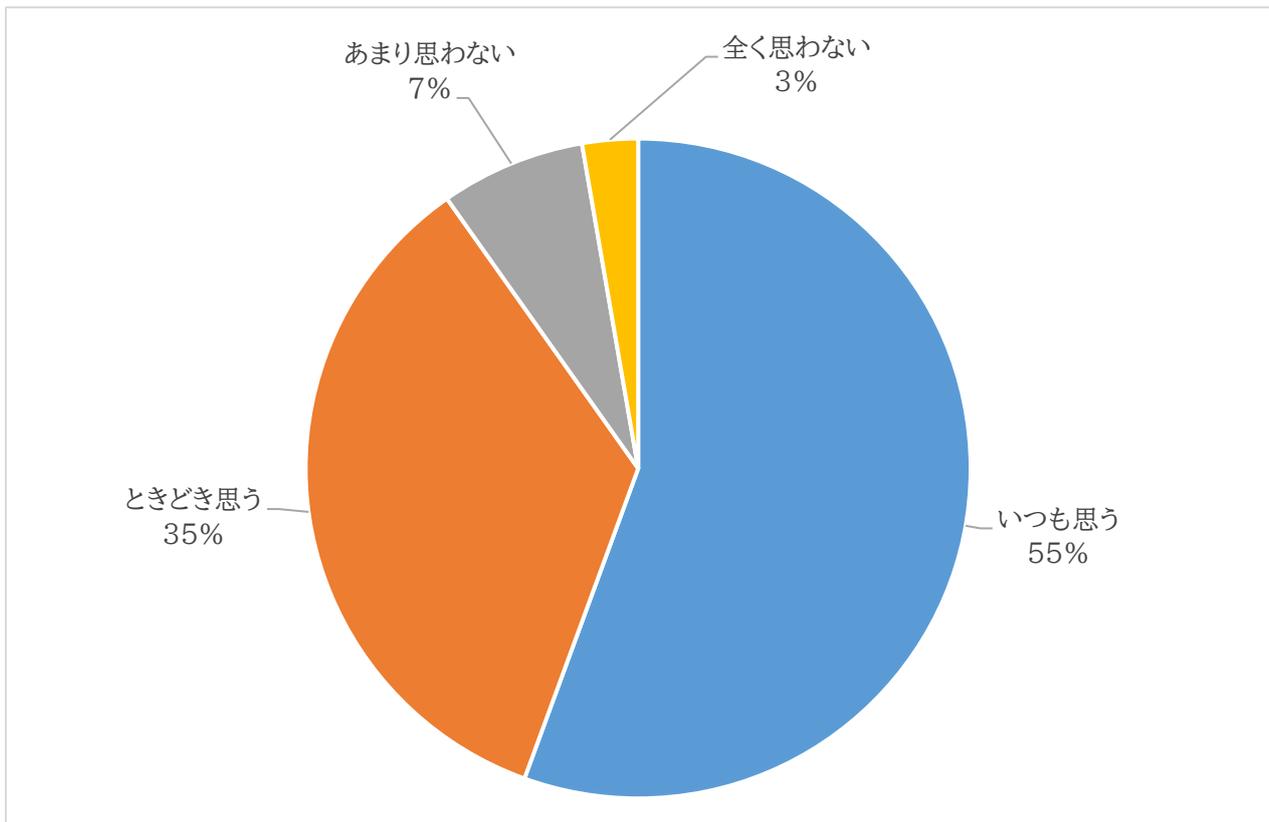
問2 実生活の中で、食品ロス削減に取り組まれていますか。

次の中から当てはまるものを【1つだけ】選んでください。(回答数：369)



- 「取り組んでいることがある」と回答した割合は、昨年度から微減し、79.9%となった。
- 「取り組んでいることがある」と回答した人の割合はどの年代においても1番高いが、10代から30代は、40代以上と比較すると低いことがわかる。

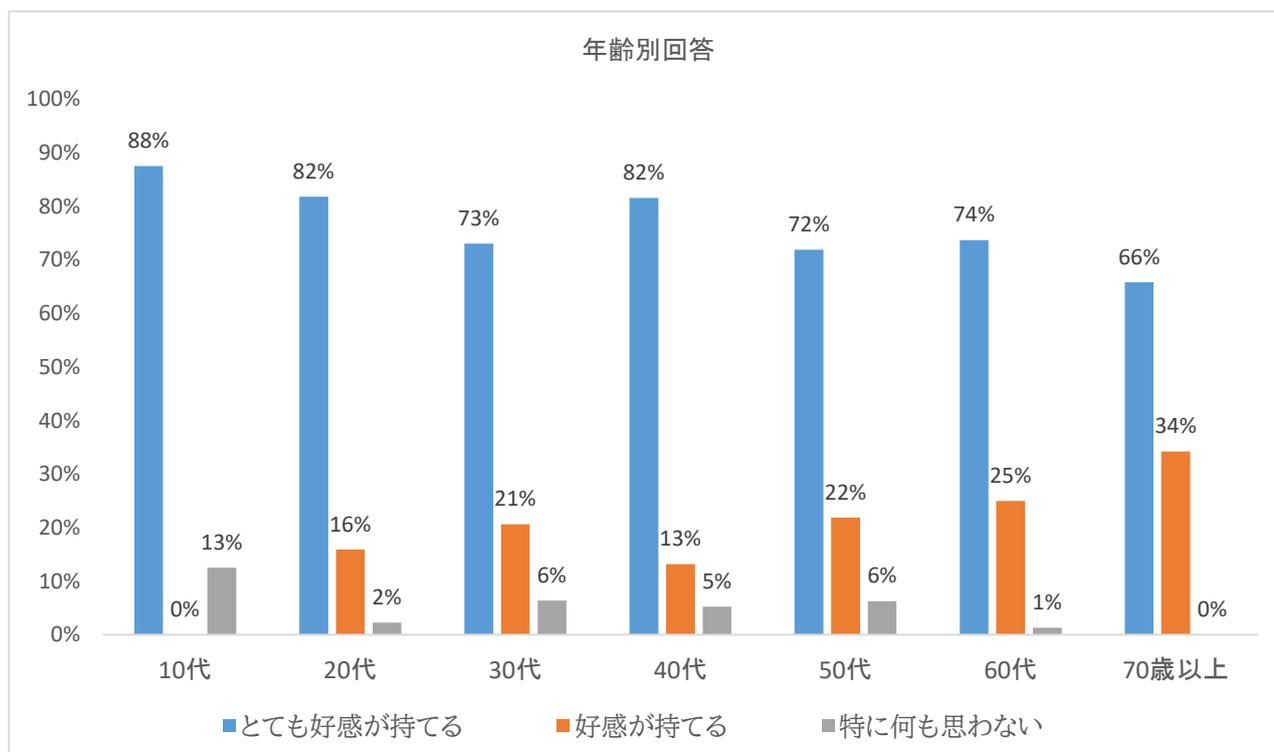
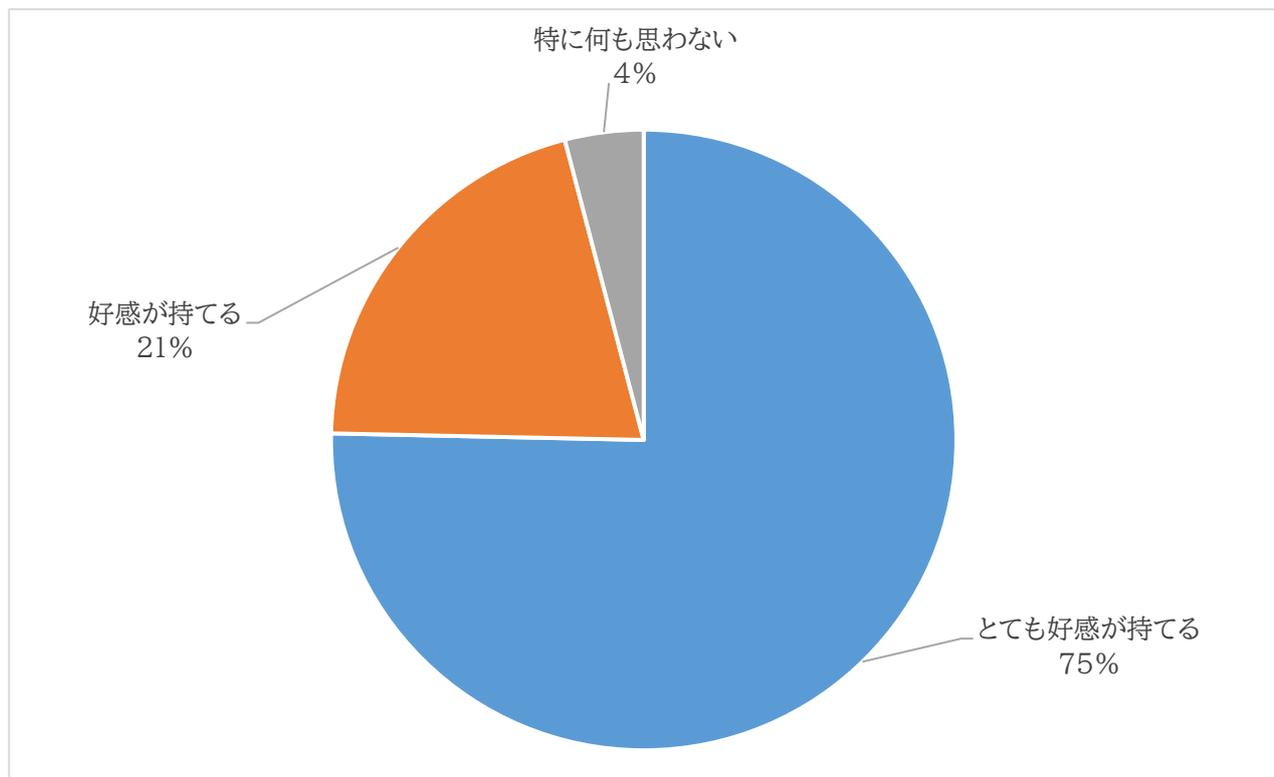
問3 飲食店でどうしても食べきれなかった料理を家に持って帰りたと思いますか。
次の中から当てはまるものを【1つだけ】選んでください。(回答数：369)



- 飲食店で食べきれなかった食品を持ち帰りたと思うと「いつも思う」、「ときどき思う」と回答した人の割合は90%を超えており、持ち帰りに対する意識が高いことが分かる。
- どの世代においても、食べきれなかった食品を持ち帰りたと思う人の割合が高いことがわかる。

問4 食べ残しによる食品ロスを削減するため、持ち帰りに対応してくれる飲食店をどう思いますか。

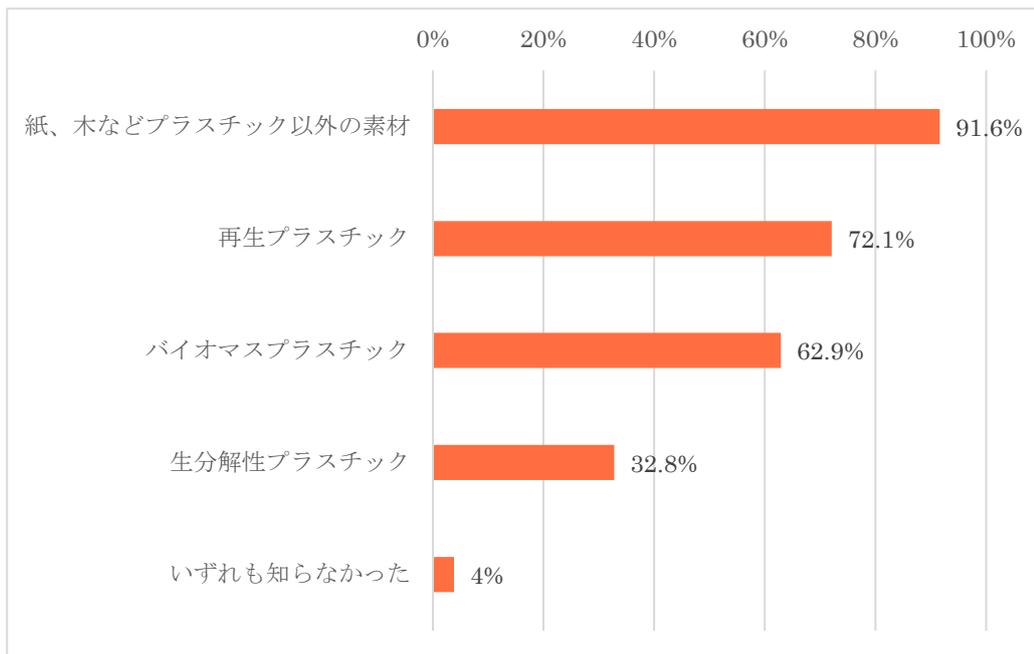
次の中から当てはまるものを【1つだけ】選んでください。(回答数：369)



- 持ち帰りに対応する飲食店に好感を持つ人の割合は 95%を超えており、持ち帰りに対応する飲食店への消費者の評価は高いことが分かる。
- どの年代においても、持ち帰りに対応する飲食店に対して好感を持っていることが伺える。

問5 次に挙げたプラスチック代替品の中から、知っているものを【すべて】選んでください。

(回答数 : 369)

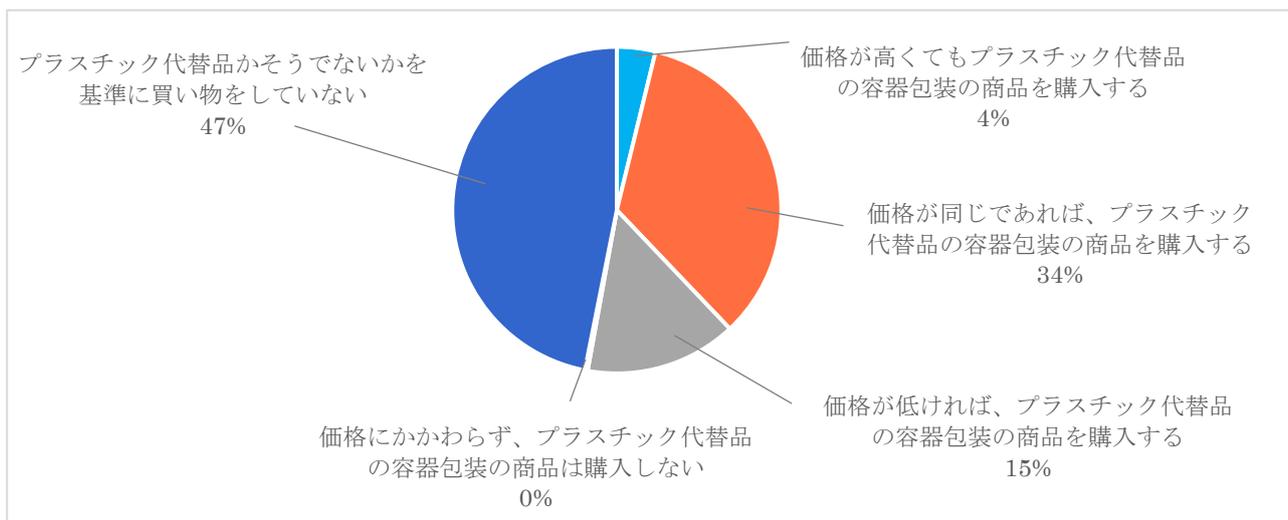


○紙や木など、身近にある素材については認知度が高い。

○バイオマスや生分解性など、素材の性質に由来した素材についても、一定程度認知されている。

問6 普段の買い物の際、商品自体は同じもので、商品の容器包装が石油から作ったプラスチックでできたものと問5で挙げたプラスチック代替品でできたものがあった場合、プラスチック代替品でできた容器包装の商品を購入する条件について、当てはまるものを【1つだけ】選んでください。

(回答数 : 369)



○「プラスチック代替品かそうでないかを基準に買い物をしていない」という回答が多い。

○一方で、「価格が高くてもプラスチック代替品の容器包装の商品を購入する」、「価格が同じであれば、プラスチック代替品の容器包装の商品を購入する」と4割近くの方が回答していることから、環境に配慮した代替品購入に前向きな方も一定程度いることが伺える。

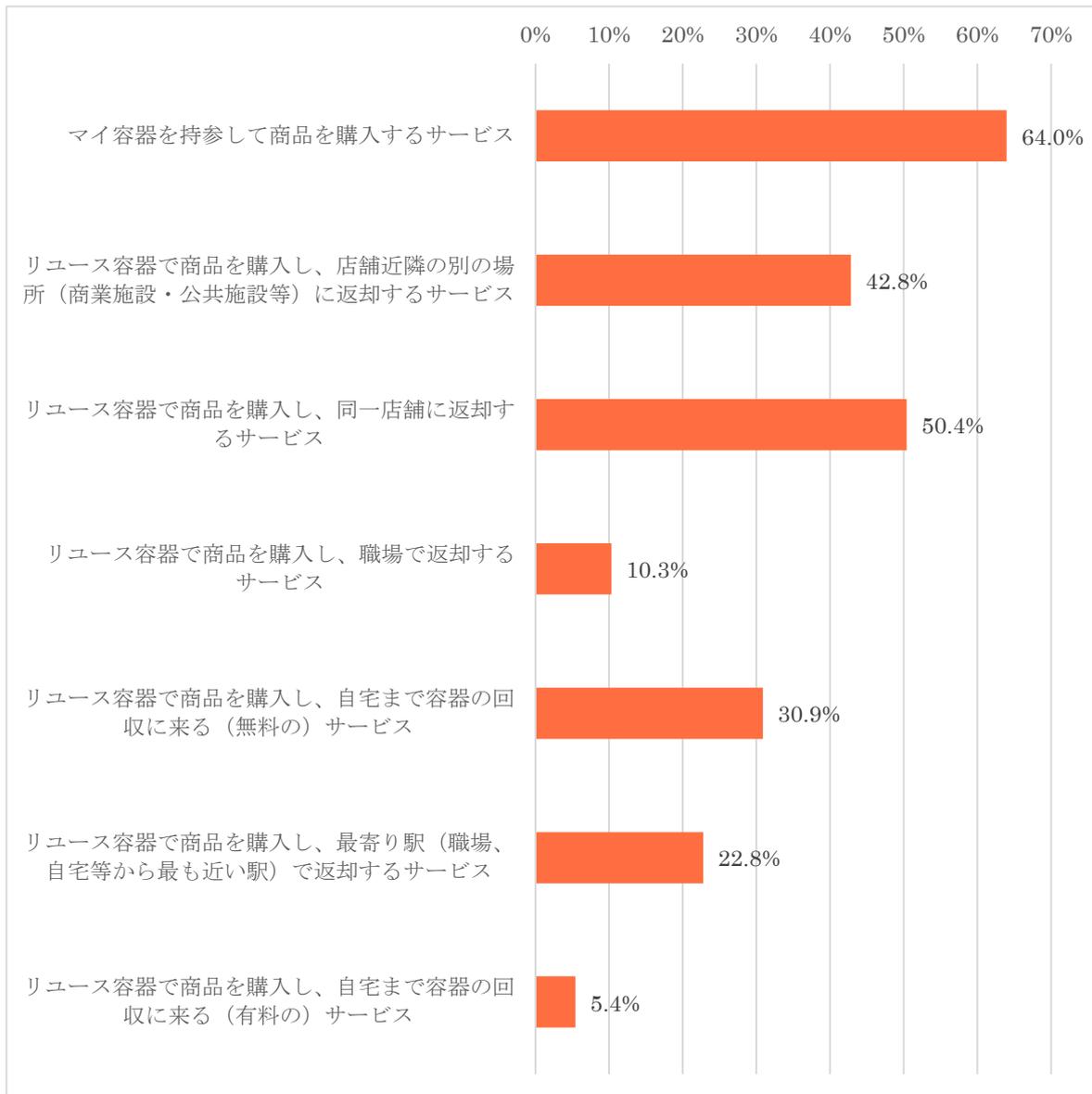
問7 プラスチックごみ削減に向け、使い捨ての容器に変えてリユース容器※を利用可能な店舗や、マイ容器を持参のうえ量り売りで購入する店舗が、近年改めて注目されています。

そこで、食品や飲料などの商品を購入する際、どのような容器や返却方法であれば利用したいと考えますか。以下のサービスについて、利用したいと思うものを【すべて】選んでください。

(回答数：369)

※リユース容器

本設問においては、洗浄により繰り返し利用が可能で、返却が必要な容器を指します（マイ容器は除きます）。



○マイ容器を持参して商品を購入するサービスは、返却が必要なリユース容器で商品を購入するサービスに比べ、受け入れられやすい。

○リユース容器で商品を購入するサービスの中では、「店舗近隣の商業・公共施設等に返却」、「同一店舗に返却する」といった方法は受け入れられやすく、4割以上の方が利用したいと回答している。

自然との共生について（回答者 369 人）

【調査の目的】

県では、人と自然が共生する社会（自然共生社会）（※1）づくりを進めています。そこで、行政だけではなく、県民の皆さんや、事業者、NPO・ボランティア等の多様な主体によって生物多様性（※2）の保全と持続可能な利用に関する施策を推進するため、令和4年3月に「福岡県生物多様性戦略 2022-2026」を策定しました。つきましては、県民の皆さんに、県の生物多様性保全の取組がどこまで浸透しているか、また、生物多様性保全についての考え方等をお聴きし、戦略推進の参考資料とさせていただきます。

※1 人と自然が共生する社会（自然共生社会）とは

人と自然（生きもの）が共に生き、自然からの恵みを持続的に受け続けることができる社会

※2 生物多様性とは

私たちの住む世界には、森林、草原、川、海など多様な自然があり、その中で、哺乳類、鳥、昆虫、魚など多種多様な生きものが、「食べる－食べられる」の関係をはじめ、様々な「つながり」を持って生きている状態

（環境部自然環境課）

問 1

生物多様性の認知度

項目	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代以上	合計	割合
内容をよく知っている	6	7	11	13	12	11	8	68	18.4%
内容を多少知っている	2	20	24	27	25	35	17	150	40.7%
言葉を聞いたことがある	0	11	14	19	16	18	11	89	24.1%
全く知らない	0	6	14	17	11	12	2	62	16.8%

<直近5年間の福岡県における生物多様性の認知度の推移> ※R4~6は回答項目が異なる

項目	2021 (R3) 年度		2022 (R4) 年度		2023 (R5) 年度		2024 (R6) 年度		2025 (R7) 年度	
	人	割合								
① 内容をよく知っている	29	8.1%	43	11.8%	22	5.9%	37	10.2%	68	18.4%
② 内容を多少(R6まで:ある程度)知っている	104	28.9%	86	23.6%	93	24.9%	75	20.7%	150	40.7%
③ 言葉を聞いたことがある(R4-6は項目を変更)	141	39.1%							89	24.1%
③ 言葉を聞いたことがあり、内容をイメージできる			106	29.0%	122	32.7%	107	29.6%		
④ 言葉を聞いたことはあるが、内容をイメージできない			65	17.8%	73	19.6%	69	19.1%		
⑤ 全く知らない	86	23.9%	65	17.8%	63	16.9%	74	20.4%	62	16.8%
合計	360	100.0%	365	100.0%	373	100.0%	362	100.0%	369	100.0%

<参考>

県政モニターアンケートによる生物多様性認知度の推移 (H23は生物多様性戦略策定時の数値)

調査年度	認知度合計	(内訳)	
		①	②
平成23年	33.0%	7.5%	25.5%
平成26年	39.3%	6.2%	33.1%
平成27年	43.4%	11.5%	31.9%
平成28年	39.5%	11.8%	27.7%
平成29年	38.1%	11.2%	26.9%
平成30年	32.0%	9.9%	22.1%
令和元年	37.5%	9.7%	27.8%
令和2年	39.0%	10.1%	28.9%
令和3年	37.0%	8.1%	28.9%
令和4年	35.4%	11.8%	23.6%
令和5年	30.8%	5.9%	24.9%
令和6年	30.9%	10.2%	20.7%
令和7年	59.1%	18.4%	40.7%

問2

生物多様性に配慮した行動として行っていること（3つまで回答可）

項目	件数	割合
旬のもの、地元のものを選んで購入する	251	68.0%
ゴミの分別や地域のゴミ拾いに参加するなど、ゴミ対策に取り組む	152	41.2%
生きものを最後まで責任を持って育てる	123	33.3%
節電やアイドリングストップなど地球温暖化対策に取り組む	120	32.5%
身近な生きものを観察したり、外に出て自然と積極的にふれあう	108	29.3%
自然や生きものについて、家族や友人と話し合う	55	14.9%
生物多様性に関わる観察・調査・保全・再生などの活動に参加する	31	8.4%
生物多様性や環境に配慮している企業の商品やサービスを優先的に選ぶ	30	8.1%
エコツアー(ガイドによる自然体験)に参加する	27	7.3%
特に行いたいとは思わない	6	1.6%
その他	4	1.1%

<特に行いたいと思わないを選んだ理由（抜粋）>

- ・内容を知らないため。
- ・生物多様性は、自然との調和という観点で重要だと思うが、上記の取組がそれに資するかどうか、よくわからず判断ができない。

<その他の回答>

- ・動物を飼わないこと。
- ・ゴミのポイ捨てをしないようにする。
- ・花、野菜を育てる。

問3

自然共生社会の実現を目指していく上で、県が重点的に取り組むべきこと
(3つまで回答可)

項目	件数	割合
身近な野生生物(ホタル、ツバメなど)や里地里山といった身近な自然の保全	215	58.3%
環境に配慮した公共工事の推進	144	39.0%
環境教育の充実	143	38.8%
希少な野生動植物やその生息地の保全・保護	131	35.5%
野生鳥獣(シカ、イノシシなど)や外来生物による被害の防止	110	29.8%
生物多様性に関する各種情報の発信・提供	71	19.2%
生物多様性の保全に取り組む民間団体への支援	60	16.3%
生物多様性保全の取組を進めるための科学的なデータの集積や調査・研究	51	13.8%
その他	10	2.7%

<その他の回答>

- ・教育機関への積極的な投資が必要。
- ・ソーラーパネルをむやみやたらに増やさないでほしい。
- ・市町村と協力した公園やため池周辺の草刈りに取り組んでいただきたい。
- ・自然や環境に最大限配慮した開発を行ってほしい。

問4

生物多様性の保全等について、地域での自主的な取組を推進するために、県はどのようなことを支援すればよいか

項目	件数	割合
多様な主体による活動に対して資金等を助成する	88	23.8%
市町村やNPO・事業者等に対して生物多様性保全活動への助言や技術指導を行う	82	22.2%
多様な主体による活動に対して生物多様性に精通した人材を紹介・派遣する	30	8.1%
生物多様性に精通した人材を育成するための研修会を開催する	38	10.3%
誰でも取り組めるような生物多様性保全活動のためのリーフレットや動画を作成し、周知・配布する	121	32.8%
その他	10	2.7%

<その他の回答（抜粋）>

- ・支援も必要だが、県民に伝わるようにまずは行政がしっかりとお手本になって大々的に動く必要があると思う。
- ・再エネ導入が生物多様性に与える影響を再検証すべき。
- ・学校教育の充実など、将来につながる支援に力を入れてほしい。

問5

生物多様性について、県から発信してもらいたい情報（3つまで回答可）

項目	件数	割合
生物多様性の啓発・学習資料(リーフレット、動画等)	137	37.1%
生物多様性に関する県の施策について(生物多様性戦略等)	132	35.8%
県内の希少種について	127	34.4%
イベント情報	98	26.6%
生物多様性に関する地図(生きものの分布図、保護区域等)	90	24.4%
県内の身近な生きものについて	89	24.1%
子ども向けの情報	85	23.0%
県内の外来種について	71	19.2%
自然観察・昆虫採集のコツや楽しみ方	50	13.6%
生物多様性に関する保全活動を行うNPO・企業等の情報	38	10.3%
生物多様性教育に関する人材派遣制度	36	9.8%
その他	3	0.8%

<その他の回答（抜粋）>

・県が主導して特定外来種の買い取り制度を導入すれば、住民参加型の駆除が進み、結果として地域全体での意識向上にもつながると思う。

問6

これまでの設問以外での御意見(計 95 人)

普及啓発・教育	35
開発・整備	10
野生生物関係	8
外来生物（特定外来生物含む）関係	4
環境問題	4
ペット・犬猫関係	2
その他（上記に区分できないもの）	32

<普及啓発・教育>

- ・情報発信としてのリーフレットなど印刷物製作は不要だと思う。資源、経費の無駄遣い。ゴミが増えるだけ。公共施設などで山積みの紙類を見るたびに思う。
- ・在来種や希少種の保全することがいかに国として大切なことなのかを、県民にしっかりと発信されるよう SNS 等を活用していくことが必要。
- ・ゴミの分別や二酸化炭素排出問題等、環境に関連していることが山積みなので、まずは身近なことを我々ができるようなことを示していくことが重要と思う。
- ・福岡県は都市部と自然が共存しており都市部からも比較的近い距離で自然に足を踏み入れることが出来ると思う。その特性を生かし自然と親しむイベント等を計画してはどうか。
- ・幅広い世代に届くような、情報発信や教育、イベントなどの活動を継続することが大切だと思います。
- ・教育機関への積極的な投資が必要です。「脱プラ」や「再エネ前提」といった特定の方向性を一律に押しつけるのではなく、多角的な視点から自由な研究ができる教育機関の環境を整えるべきです。プラスチックも可燃ごみとして燃料代替になるなどの利点もあります。また、太陽光パネルによる地域の気温上昇や、設置によって野山の生態系が損なわれていないかなど、環境に与える影響を総合的に評価すべきです。
- ・子どもたちに対して学校などで特別授業のような形で福岡県の自然(海、山、川、動物、植物など)について積極的に伝えていくことが良いのではないかと思います。子どもたちが直接自然に接する機会が昔と比べ余りにも減っているので、せめて情報を知る機会だけでも大人が提供しないといけないと思います。
- ・自然との共生について、県の生物多様性保全の取り組みがどこまで浸透しているのかは疑問です。生物多様性の保全が重要であることは広く認識されていますが、実際にどれだけの人々や企業、団体がその取り組みに参加し、効果的に実行されているのかは見えていません。地域ごとの実情に応じた具体的なアクションが求められている中で、その取り組みが広く浸透し、日常的に実践されているかどうかは不透明です。また、政策として掲げられた目標が実際の環境やコミュニティにどのように影響を与えているのか、定期的な評価や改善が行われているかも重要なポイントです。地域の住民や企業が積極的に関わり、自然との共生を実

現するための意識改革が必要だと感じています。そのためには、教育や啓発活動をさらに強化し、具体的な行動に移すための支援が不可欠だと思います。

- ・恥ずかしながらこのテーマに関しては全く知識がなかったので、もっと周知してもらえような対策を考えてほしい。特に学校などでの教育で取り上げてほしい。

- ・現在自宅にて熱帯魚＋水草水槽を所持しています。購入前に店舗やインターネット、YouTubeなどで自然に離すことは絶対しない、水草は可燃ごみに出すなどの注意喚起がありました。動物園でも野鳥の雛に対する注意ポスターを見かけます。日常のいろいろな場所で告知されていることはとてもありがたく子供と一緒に考える機会になりました。これからも行政による情報の告知をよろしくお願いいたします。

- ・まず認知を進めるところからだと思います。子どものイベントとして扱えばそこに親が集まるので、そうやって認識を広めていくのが無難かと思います。

- ・外来種駆除などをテーマにしてある YouTuber の動画をたまに見ます。面白いし分かりやすく動画にしてくれてるので、小学生でも分かりやすいと思います。そういった有名な YouTuber さんとのコラボ(福岡のスポットの提案など)で自然との共生についてみんなが触れる機会が増えればと思います。

- ・生物多様性はよく耳にする言葉だが、具体的にどのような行動がその保全に繋がるのかをよく知らないと感じた。大人も子供も取り組めることが多そうなので、県民の具体的なアクションに繋がるような提案をしてもらえるとみんなが認識を持って取り組めるのではないか。

- ・自然との共生を実現するためには、「知る機会を増やす」「参加のハードルを下げる」「世代を超えた継続的な活動」に重点を置くべきだと思います。身近な自然に触れるきっかけは、子どもの頃の体験が大きな影響を与えます。例えば、小学校や地域の公民館での昆虫観察や里山散策、干潟体験などを、親子や多世代で参加できるよう定期開催し、その活動を SNS や地域紙でも共有すれば、関心を持つ人が増えます。また、参加やお手伝いの方法が分かりにくいという課題もあるため、イベントや保全活動への参加募集を紙媒体とオンライン双方で周知し、「一回だけでも OK」な関わり方や、自分の得意分野(写真撮影、広報、デザイン、現場作業など)で貢献できる仕組みを整えると、若い世代や多忙な人も関わられます。さらに、外来種対策や希少種保護などの活動は、専門家だけでなく地域住民も協力できる方法を示すことが重要です。例えば、特定の時期に実施する外来植物の抜き取りやモニタリング調査に、事前研修を受ければ参加できるようにするなど、参加条件を明確化することが有効です。情報面では、県の「福岡生きものステーション」を活用し、希少種や外来種だけでなく、季節ごとの身近な生きものの観察ポイントや撮影のコツ、活動の事例紹介を充実させると、より身近に感じられます。また、少ない数かもしれませんが、「昆虫博士」や「生き物博士」と呼ばれたいお父さんやお母さん向けの自然観察会やオンライン勉強会を企画すれば、参加者は楽しみながら知識を深めると同時に、自ら周囲に多様性の大切さを広めてくれる存在になるはずです。観光や地域イベントと連動させることも効果的で、自然とのふれあいを特別ではなく日常的な体験にしていくことが、長期的な意識改革につながります。自然共生は「守る」だけでなく、「一緒に楽しむ」ことが継続の鍵だと考えます。

- ・自然に触れる機会は子供と一緒にいる時が多いので、子供と一緒に考えるきっかけになる記事や、県だよりの特集があると嬉しいです。
- ・家族(特に子ども)向けのイベントで出かける事が多いので、そういった催しものが多くあれば良いと思います。
- ・言葉が難しくなかなかテーマとして浮かび上がらない。発信をお願いしたい
- ・子どもを持たない大人にもこの情報が届き、自然観察やイベント参加など出来るようになると嬉しいです。
- ・生物多様性や共生は大事だと認識しているが、どうしても自身の生活との結びつきが想像できず、何かをすべきというアクションまではいかないし、取り組むべき項目としてもかなり劣後になるのが率直な感想
- ・地下鉄やバスなどに、地域の植物紹介など、近くの学校や地域の人達に、絵を書いてもらい、動物や植物、昆虫などの絵を、駅やバス停で紹介する。福岡の花壇などにも、その地域の事を紹介するような、デジタル看板や照明などがあると、昼以外にも夜明るく、治安も良くなるのではないかと思います。神戸は、街中に花壇も多く、信号機や街灯にも花があつたりと、明るい気持ちにさせてくれました。
- ・自然体験の機会の拡充、子どもや都市部の住民が、自然と直接ふれあう体験が少なくなっています。森林・河川・海などでの体験学習やキャンプ、農業体験など、自然の豊かさや厳しさを実感できる機会を増やすことで、自然との距離が縮まります。
- ・生物多様性情報総合プラットフォーム『福岡生きものステーション』を初めて知りました。まずは、そのホームページを知ってもらうのが良いと思います。
- ・私は「自然との共生」を実現するためには、人間も動物の一部であり、自然の循環の中で生きているという意識を持つことが大切だと考えています。自然が汚染され、破壊されれば、最終的には人間社会も持続できなくなります。そのため、行政や企業がより身近な自然環境に目を向け、積極的に保全へと取り組んでいただきたいと強く願います。

先日、台湾を訪れた際、街並みには大きな樹木が数多く残されており、真夏でも木陰のおかげで涼しく快適に過ごすことができました。公園でも樹木が育ち、自然な日陰が生まれることで、人や生き物が集まり、子どもたちも日中から外で元気に遊んでいました。都市の暮らしと自然環境が調和した良い事例だと感じました。一方、福岡では街路樹や公園樹木の剪定・伐採が過剰に行われており、痛々しいほど枝を切られている現状があります。本当に専門的な判断に基づいた管理なのか、疑問を持っています。単に管理作業を行うことが目的化してはいないでしょうか。樹木を都市環境に欠かせないインフラとして捉え、長期的かつ大局的な視点から取り扱っていただきたいと思います。また、「生物多様性」という言葉は広く使われていますが、実際の施策と結びついていない印象を受けます。例えば、一般の人々が容易に除草剤を購入できる現状にも疑問があります。除草剤は土壌を汚染し、最終的には河川や海へ流れ込み、生態系や人の健康に悪影響を及ぼす可能性があります。こうした身近なところからの改善こそが、生物多様性保全の第一歩になるのではないのでしょうか。以上の点を踏まえ、都市環境の緑を守り、自然と共生できるまちづくりに向けて、行政がリーダーシップを発揮されることを強く希望します。

- ・地域の自然探検を大人と子供と一緒に参加し、自分たちの住む地域の自然との共生について現在できていること、懸念されることを気づかせる取り組みが必要。
- ・身近にいる生物、植物でも、よく見ると魅力があることを伝えて欲しい。私は、今年トウモロコシの種を庭に蒔いたが、実の成る過程を初めて見て感動した。
- ・生き物や環境について、学びの場がなければなかなか知るよしもないと感じる。子どもには学校において、大人にはお祭りなどの場や買い物の場において、啓蒙活動をすると思う。
- ・生物多様性について教育等の機会を増やすべき
- ・動物とふれあうことで命の尊さを学び、人との接し方にも気を付けるようになればと思います。
- ・学校での社会科見学や、家族単位で参加するイベントや学習機会を設けてほしいと思います。また、地元の企業にも一緒に協賛してもらうことも必要かと思います。
- ・県内の身近な生き物や施設などもっと知る必要があるとは感じます。知る機会が減っているとも思います。
- ・ホテルのイベントや、博多湾の生物観察イベント、ブルーカーボンや港湾の藻場干潟造成などのイベントなどを県が開催すると、より親しみが湧いて環境教育に資すると考える。
- ・生物多様性に関する子供たちへの教育が一番有効だと考えます。
- ・自然との共生は、必要です。しかし、正しい認識を持っていないと、クマの駆除の問題のように、ただ騒ぎ立てるだけの一過性のものになってしまいます。人間の生活と自然との共生には、その対応において、どこかで線を引く明確なルールづくりが必ず必要になっていくと思います。例えば、福岡ではクマやシカ、イノシシの駆除等の問題を、学校教育の場で論議する活動を通じて、子どもたちへの関心や考えを深めさせたり、議会で討議し、市町村民や県民への意見を求める等、多くの考えをしっかりと出し合っていく中で、自然との共生の意識を高めていく機会を設けて行って欲しいです。これからの自然との共生のルールを皆で作って行って欲しいです。
- ・昨今、町中(郊外でも?)では自宅近くの公園や野原といった自然環境の中で主体的に遊ぶ子ども達が激減していると感じる。この気候変動も原因としてあると思うが、身近にいる昆虫にも接したことがない小中学生も多く、経験がない分だけ「自然との共生」に対する関心も知識もないのではないかと思う。親世代への啓発が大切ではあると思うが、「共生」を感じる・考えることのできる場の設定は、行政としても重要だと思う。
- ・巣から落ちて弱っているスズメに遭遇することがあり、助けたいけれどどうしたら良いのか分からず、ネットで色々調べたりしますが、これまで一度も助けることができていません。周りでもそんな話をよく聞くので、専門的な知識やアドバイスを広報誌などで掲載していただくと有難いです。

<開発・整備>

- ・上にも記載しましたが、公園や遊歩道についてです。まっすぐな道ではなく曲がりくねった道。歩きにくさが少しあってもかまわないので、ゆったりとした気持ちになれるような公園を増やして欲しいです。最近の公園は運動器具があったりランニングできるようになっていたり、それも必要かとも思いますが、木漏れ日の中をくねくねとゆっくり歩けるような場所も町中に整

備して欲しいです。町中にも緑が必要です。危険を回避するばかりでなく、危険を回避できる能力を身につけられる場所も整備してください。

・自然との共生を掲げながら、人間の経済活動を優先した公共事業が多いと感じる。経済が発展しないと県民が困窮してしまうが、無駄な開発や工事もあると思われる。既得権益を捨て、本気で取り組まないと、取り返しのつかないことになると思う。また、県民一人ひとりの意識も高めるような啓発もお願いしたい。

・現在、メガソーラー建設による環境破壊が問題となっている。県内においても山を切り開いたり、森林を伐採してメガソーラーが設置されているのを見かけることがある。また産業廃棄物の不法廃棄や盛り土の問題などもある。公共の土地ではない場所での制限や取り締まりは難しいと思うが、行政が積極的に関わり、指導や助言をしてほしい。近隣の住民や環境などにも配慮して進めて欲しい。大きな災害にもつながるようで怖い。

・特にないが、どんどんと都市化になる一方で自然が切り開かれといくのは悲しい。

・生き物を大切にすることとは、住処になっている山や森も大切にしないといけないということです。近年は森林を伐採しメガソーラーを大量に建設しているというニュースを目にします。そして、その影響で地面の保水力が弱まり土砂崩れが起きたり、また一番怖いのはメガソーラーの発火です。読んだ記事には、メガソーラーは電気機器なので発火しても放水にて鎮火すると感電の恐れがあるため自然鎮火するのを待つしかない。そうすると周りに残っている大切な木々たちにも火がうつり大災害になるし、そこを住処にしている動物たちにも大きな影響を与えます。日本は今異常な気温上昇で真夏は子どもたちが外で遊ぶこともできない状態ですので、メガソーラーよりも植林をし、緑を増やし、地面の温度を下げる、これが人にも他の動物たちにもそして地球にも必要なことだと思いますし、そういった知識の発信もしていくべきだと思います。

・環境を整える事が大事だと思う。最近目に付くのが外国人観光客だが、街中でも一般道でもゴミを平気で捨てたりタバコを吸っていたりする。マナーを厳格に守るよう周知して欲しい。経済面で潤うより環境、生態系を守る方が優先されるのは当然だと思う。

・公園の整備を進めて欲しい。近所の小さな公園はいつも荒れていて、子供一人では危ない。

・無理な開発や自然破壊を防ぐ未来の世代にも自然の恵みを残す

・身近な生物が生息するための、緑が多い公園の存在が少ないと思います。街中にもっと緑を多く植栽することで温暖化に対して少しでも対策となるような建物や施設に対して補助金を出す等の施策に対して積極的に取り組んで頂きたいと思います。

・メガソーラーが問題となっている。結局は環境破壊に繋がるし、野生生物が住む場所を奪うことになる。本末転倒である。本質を大事にし、環境保護、野生生物の元ある姿を守ることを大切にしてほしい。

<野生生物関係>

・早朝に小石原などに行くと鹿やイノシシなどたくさんの野生動物に遭遇します。現地の方たちは上手に共生されていると思います。(もしかしたら結構困られているのかも???)

ジビエもおいしいし、自然をこのまま残していけるようにしたいですね。

- ・最近、野生動物と人間のトラブルが多く報じられている。どうしたらゾーニングできて共生しながらも維持できるのかを考えていく必要があると思います。ただし、ゾーニングのためには、ある程度犠牲にしないといけないものがあるからです。例えば、ゾーニング境界線の部分の利用者は、境界線を下げる必要があると思います。最近、こんなところで「タヌキ」に出くわすという場面がありました。小学校の近くの側溝から出てきました。県でもタヌキなどの情報をサイトにアップできるとありましたが、すぐにスマートフォンで撮影できないと思いました。場所だけの情報も通知できるのでしょうか。(テレビで少し見かけたただけなので申し訳ありません)
- ・地域によっては、いわゆる害獣とされてしまっているイノシシやシカなどとの共生は難しいと思う。どうバランスをとるのか、課題だと思う。
- ・地元の猟師さんたちの活動も一定の個体数を維持するための立派な自然との共生事業だと思う。県内での鹿やイノシシなどのジビエ料理を出すお店などの情報も含め、保護することだけで無くそれを管理する視点も発信できたら良いのにはと思う。
- ・熊や鹿は殺傷して、御当地グルメとして、食べられる様にして売り出して欲しい。地域のグルメにするくらいしないと、地域活性化にならないし、保護だけしてもお金がかかるのなら、保護をやめて、経済が潤うような方法転換をして欲しい。
- ・鹿や猪等の害獣駆除をする人への報酬、駆除した害獣を調理提供する店舗や肉類の加工食品、ペット食品を販売する事業所に、福岡県の認定マークを貼ってもらい、福岡県が店舗や事業所を、SNS やホームページ等で紹介する。
- ・街に降りてきた鹿や熊、猿などは駆除することで人間と動物がより共生出来ると思う。
- ・中山間地域における害獣被害が多いため、資金的援助をしてほしいと思う。従前の農水省の中山間地域交付補助金の、県での拡充のほか、捕獲罠設置における市町村への補助や、耕作放棄地への新規就農の促進をはかることで、中山間地域を維持できるようにしてほしい。

<外来生物(特定外来生物含む)関係>

- ・自然保護からも我が国本来の生物植物を守り外来種排除すべきだ
- ・生きものの中には食用・害虫・天然記念物など、共生については考えがまとまらないでしょうが、すべての生命は尊重されるべきで、外来種でも害虫でも悪ではないと思います。
- ・外来種を駆除する取り組みを推進してほしい。ジャンボタニシなど、本当に多くて、生態系が壊れている。
- ・外来種と温暖化が生態系を変化させ続けている。変化していくのは仕方がないことかもしれないがホタルが見れなくなるのは寂しい。生態系バランスはとても難しい問題なので専門家による検討会が必要と考える。

<環境問題>

- ・ゴミ拾い活動など、子どもたちとしているが、もっと行政からの協力(支援など)があれば、多くの人の意識が高まると思います。活動している地区とそうでない地区の差が大きいです。
- ・最大の問題は、CO2を排出する人間の経済活動が増大しているのに、CO2を吸収する森林が減少していることだと思います。バランスがどんどん崩れていく地球の生物界の将来が危惧されます。

・昨今の温暖化や、熱暑、ゲリラ豪雨など自然の法も変化を遂げています。これからはよりその変化に即した対応が求められると思います。

・昆虫が目に見えて少なくなり、最近はそのエサにする小鳥も減っている。農薬もその一因と思うが、一方で山間地は農業の衰退でシカとイノシシがはびこっている。農家への支援と、その一環として有機農法や無農薬野菜を推進できないか。佐渡でのトキ保存に取り組んだ米農家の例など、参考になると思う。経済的にも一筋縄ではいかない難しい課題だが(佐渡も米の収穫量を減らしてなお努力を続けている)、農業支援・環境保全は県民全体で取り組むべき価値があると思う。

<ペット・犬猫関係>

・野良猫への対応について。野良犬は見ないが野良猫はまだまだかなりの数がいる。県をはじめとして各自治体の対応はどうなっているのか。

・自然との共生について犬猫の殺処分現状など、ペットを飼育しているからこそ増えている残酷な問題を知る機会を増やしてほしいです。SNS でインフルエンサーなどが発信している情報から知ることが多いから地方公共団体からそういった情報を見る機会がほとんどなく、ペットを飼っているのもそういった実情を知ると、何か協力できることはないかといつも思っています。

<その他>

・質問にある生物多様性に配慮した行動というものの意味がわからない。旬のものを買うこと、自然と触れあうことのどこが生物多様性に配慮しているのかわからない。あくまで自己満足でしかないことが選択肢に入っていることに違和感を覚える。

・住宅地都会の福岡市から、北九州市に嫁ぎました。自然豊かな八幡西区でエコに沿った生活は楽しい限りです。又さらに研鑽を深めて、自然と共存したいです。

・日頃個人的には関心が深くないので、あまり考えませんが、蛍がいなくなったこと、蛍を見たことのない子供たちが増えていることには寂しさを感じます。蛍を増やす運動を呼び掛けることだけでも、環境の改善につながるのではないのでしょうか。

・今後も地域のまちづくりに協力する。

・周りに自然があることが当たり前じゃないことを意識していきたいと思います。

・私に実家は下関の郊外にあります。上の部落に通じる道路を拡張することになりました。この道路には側溝があり、多くの生き物が住んでいました。小鮒、タニシ、メダカ、など多数。この拡張計画を知った友人の T さんは、工事が始まる前に網でこれらの小動物を掬い、毎日、毎日、近所の池に移しました。彼の善行によって多くの生き物の生命が救われました。その後、生き物の宝庫だった側溝はコンクリート製となり、生き物は全く生存しておりません。

・自然の保全については個人や私企業では限界があるので、公費投入を積極的に行う。

・共生という言葉はどうもピンとこないが、つぐない、だとまた少し違う事になりますかね。しかし大事な考えだと思うので努力をされている団体の方々をどんどん支援していただきたい。

・我が家に毎年ツバメが必ず来ます。優しく見守り、カラスなどの敵から守って巣立ちまで応援しています。

- ・私は天拝山などゴミ拾いボランティアしてるが、筑紫野市環境課はそのゴミを受け取らないばかりか、ボランティア支援しないと通告してきた。福岡県が発信しているワンヘルスに筑紫野市は協力できていない。これでは日本遺産「西の都」認定取消しになって当然であると考えている。
- ・全然知らなかった。勉強になった。
- ・種の減少の現状を周知する。明らかに減少につながる活動に対する罰則の規定
- ・管理はとても大変だと思います。なので市税から、団体へ助成があったりすると良いと思います。
- ・遠くの山や川にレジャーに行きづらい人もいます。私は近所の大きめの公園や、周囲に散歩コースのある大きめの池で自然を感じています。鳥や虫がいます。ぜひ身近な自然も守っていただきたいです。女性も1人で安心して過ごせるようなベンチや、見晴らしのいい植栽をお願いします。
- ・生物多様性に関する県の施策として、何を行い、そこにいくらの予算を使ったかを公表し、県民の理解を促す努力をして欲しい。
- ・この問題にはこれまであまり意識したことがありませんでした。
- ・県での取り組みには、もっと力を入れていただきたいと感じます。福岡県の自然共生をめぐるっては、都市の緑不足、中山間の荒廃化、沿岸生態系の劣化、が同時進行しており、基礎自治体の財政力・人員差が対応に響いてくるように感じました。そうしたなかで、県として、基準設定、資源配分、広域連結、を通じて状況改善に努めるにあたり、県 GIS で優先区域を可視化したり財政力指数に応じた傾斜配分を進めたりしつつ、基礎自治体を越えてまたがる生態系ネットワークを支える取り組みが重要になるように感じました。
- ・自然と共生については、私自身もこれまで特に意識していませんでした。今回の調査の目的を見て、意識が深まりました。
- ・蛍を見に行くバスツアーに来年こそ子供と行きたいと思っておりますが、今どこで蛍が見れるのか、等のマップや一覧がみられるものがあるといいなと思っています。
- ・正直、活動すら知りませんでした。
- ・これまで身近にいた生物や動物が見れなくなってきており、子どもたちも触れ合う機会が減っていると思います。環境保全に取り組みながら、子どもたちに日本らしい生物や動物を見せられたらと思います。
- ・福岡は自然と街のバランスが良い所なので、これからも共生できるようにしていきたい。
- ・自然との共生は大事だと思うし、保全していくべきだと思う。そのため、まずは外国人による土地の取得に制限、または禁止するべきだ。福岡県は条例等でまず率先して制限をかけてほしい。日本の美しい自然をしっかりと守ってほしい。
- ・多様性よりも福岡県民の子供ファーストでお金を投資してほしい
- ・自然を壊さない取り組みが必要
- ・他に大事な事はたくさんあるし県が行う本来の仕事ではないと思います
- ・身近なものにホテルがある。子供達にも残してあげたいです。

・県は国から言われてやっている感を出したいだけではないのか。ほんとうに重要だと思っていますか。

・生物多様性の保全を多様な主体と共に進めるためには、行政主導ではなく「県民・企業・教育機関・NPO・地域団体」がそれぞれ役割を持ち、連携しやすい環境を整える支援が重要です。まず、情報共有と学びの場の提供が不可欠です。県内の希少種や生態系の現状、保全事例、活動団体の情報を集約した「生物多様性ポータルサイト」を整備し、活動希望者が参加先や方法を探しやすくします。また、学校や地域での環境教育や体験型プログラム（里山保全、干潟観察など）を支援し、子どもの頃から自然と触れ合う機会を増やします。

次に、活動資源の支援として、小規模団体や個人でも応募できる助成金制度や物品提供（苗木、清掃用具など）を充実させます。特に企業 CSR やふるさと納税を活用した資金循環の仕組みを作ると、持続性が高まると思います。さらに、協働の場づくりとして、行政・企業・団体・市民が交流し、共同プロジェクトを立ち上げられるマッチングイベントやオンライン会議を定期開催します。これにより、専門性や人材、資金の不足を補い合えます。最後に、活動の見える化も重要です。参加者や成果を写真・動画・数値で公開し、社会的評価や参加意欲を高めます。県が「生物多様性貢献企業・団体認証制度」を設けることで、活動の魅力と意義を広く伝えられるでしょう。このように、情報・資源・協働・評価の 4 本柱で県が支援すれば、多様な主体の継続的な参画が促進されると思います。

・きちんと効果が見込める施策に、予算が使われて欲しい。

・鳥獣保護の名の下に、ハトの糞対策、人を攻撃するカラスの駆除やその数を減じることに取り組もうとしないことは、市民生活の安全や生活環境を侵害している行為と考えている。

令和7年度
県政モニターアンケート調査結果

テーマ:「ふくおか教育月間」について

教育庁教育総務部総務企画課

1.調査の目的

本県では、県民の皆さんに教育に対する関心と理解を一層深めていただくとともに、家庭、学校及び地域社会が連携して本県教育の充実と発展を図るため、毎年11月を「ふくおか教育月間」と定め、著名人による記念講演や児童生徒の発表などを行う記念イベントの開催や「ふくおか教育月間」のイメージキャラクター「ミライル」※を活用した啓発チラシの配布をしています。

皆さんの「ふくおか教育月間」の認知度等についてお聴かせいただき、今後の行政施策の参考とさせていただきます。

2.調査時期

令和7年8月7日～令和7年9月3日

※ イメージキャラクター「ミライル」とは

これからの社会にはばたく子どもたちの「翼」をイメージした妖精です。

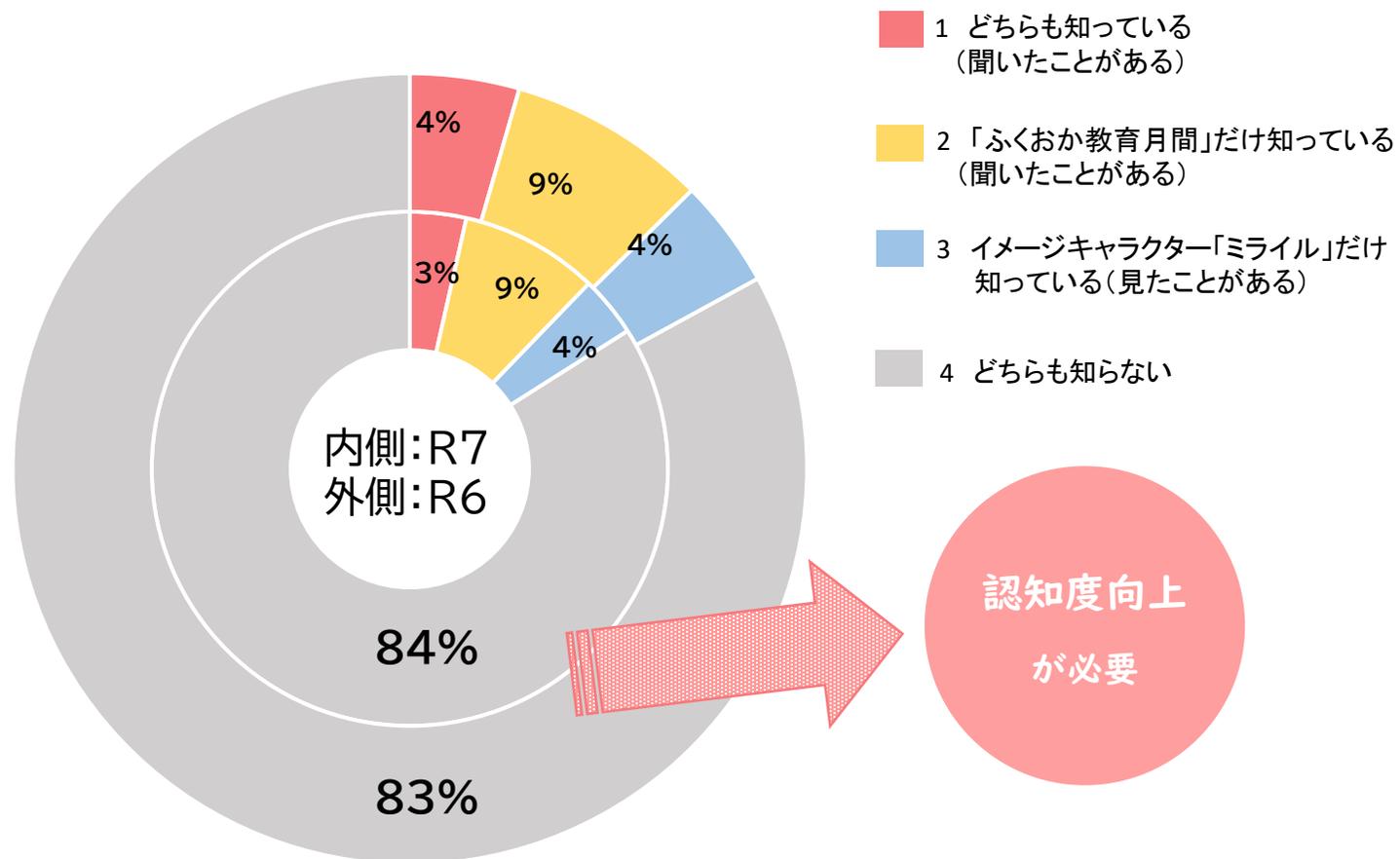
「ミライル」という名前には、笑顔(スマイル)が溢れる未来(ミライ)

に羽ばたいてほしいという願いが込められています。



問1 「ふくおか教育月間」やイメージキャラクター「ミライル」を知っていますか。

(n=369、選択は1つのみ)



選択肢	人数	割合
1 どちらも知っている (聞いたことがある)	13人	3%
2 「ふくおか教育月間」だけ知っている (聞いたことがある)	32人	9%
3 イメージキャラクター「ミライル」だけ知っている (見たことがある)	14人	4%
4 どちらも知らない	310人	84%

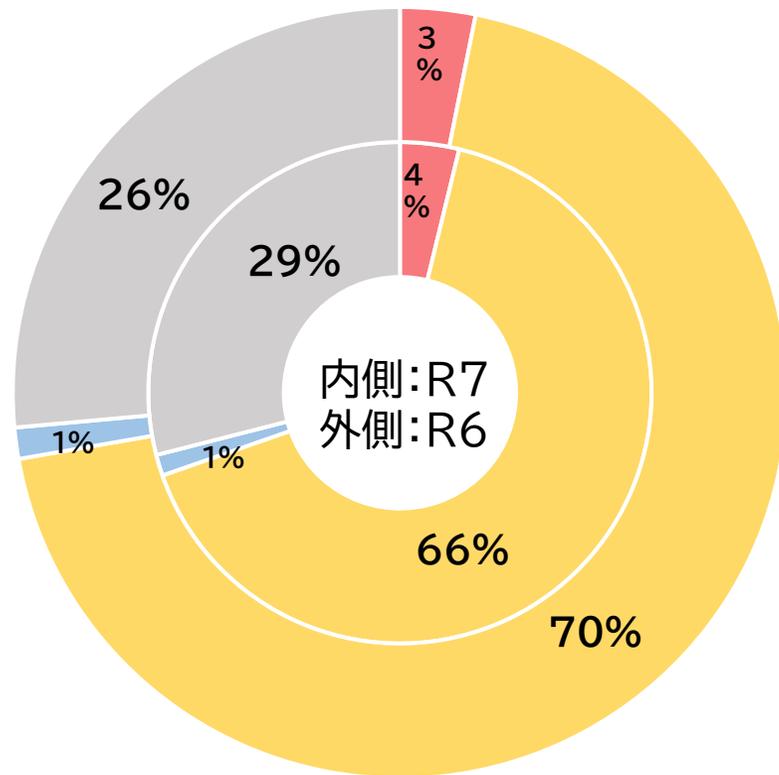
問2 どこで知りましたか。

(問1で[1][2][3]を選んだ場合、n=59、複数選択可)

福岡県のホームページ	34人
新聞広告	9人
WEB広告	10人
「ふくおか教育月間」記念行事のポスター・チラシ	17人
フリーペーパー	6人
学校からの案内	7人
家族・知人からの紹介	3人
その他	1人

問3 「ふくおか教育月間」記念イベントや、学校や地域における教育に関する行事等に参加したいと思いますか。

(n=369、選択は1つのみ)



- 1 参加したことがあるが、今後は参加したい
- 2 参加したことがないが、今後は参加してみたい
- 3 参加したことがあるが、今後は参加したくない
- 4 参加したことがなく、今後も参加したくない

選択肢	人数	割合
1 参加したことがあるが、今後は参加したい	14人	4%
2 参加したことがないが、今後は参加してみたい	243人	66%
3 参加したことがあるが、今後は参加したくない	5人	1%
4 参加したことがなく、今後も参加したくない	107人	29%

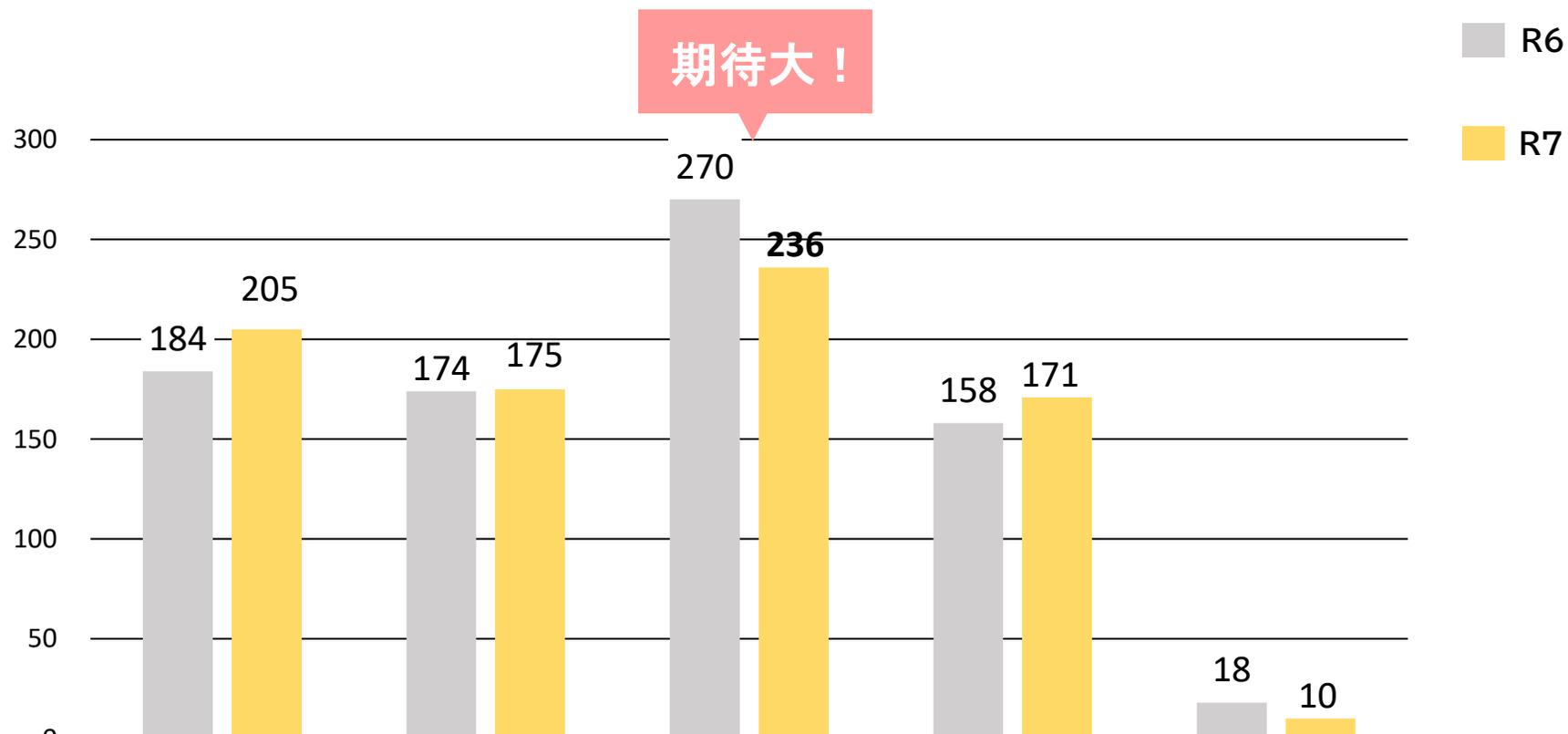
「ふくおか教育月間」記念イベント等に

約7割の方が

参加したい(してみたい)と回答しています

問4 教育に対する関心と理解を深めるために、県に対してどのような施策を期待しますか。 (または有効だと思いますか。)

(n=369、複数選択可)



	学校の取組や行事を紹介する広報誌等の充実	ポスター、チラシ、SNSなどを活用した広報宣伝活動	一般参加が可能なイベント等の開催	保護者以外の地域の方なども参加可能な学校行事の実施	その他
R6	184	174	270	158	18
R7	205	175	236	171	10

主な意見(抜粋)

- 地域の大人が授業やキャリア教育に参加できる仕組みづくり
- 教育コンテンツの充実

問6 「ふくおか教育月間」について、これまでの設問以外に意見はありますか。

(n=106)

「ふくおか教育月間」やイベントについて

- まだ子供が間もないことから、あまり理解をしていなかった。就学前から知っておきたい情報もあると思うし、逆に関わる事が無くなった世代でも学んで損はない取り組みだと感じました。
- 教育は年齢に関係なく必要だと思う。イベントを開催し有名人の講演会などを聞く機会を設ける事も良いと思うが、各地域でイベントを開きその企画や運営を地域の方をお願いすることで新たな学びが出来るのではないか。また、大学などとコラボして各大学の研究の公開や大学講師の講演などを企画してはどうか。
- 学校を開放して、地域と一体化出来るイベントを増やすのも良いと思う。
- 通年で気軽に参加出来るセミナーがあれば参加したい。有名な講師ではなく、県内の現役の教師、職員等の話は聞いてみたいと思う。
- 子どもたち自身が主役となる場づくり、子どもたちが自分たちの学びや思いを発信できるプレゼンテーションや展示会、動画発信などを取り入れることで、教育を「受けるもの」から「共につくるもの」へと意識が変わると思う。学校現場の課題(いじめ、不登校、ICT活用の遅れなど)にも焦点をあて、地域ぐるみで「よりよい教育環境とは何か」を考える機会として活用すべき。
- 教育と言うと、あまりに範囲が広いので、年ごとに具体的なテーマを決めたほうが良いと思う。また、保護者に関心を持たせる事が、最大のテーマと思う。
- 子どもがいない世帯にとっては関係ないと考えがちなので全世代に楽しんでもらえるイベントが各地域であったらよいと考える。

等

情報発信について

- ふくおか教育月間とミライルについて全く知りませんでした。今回初めてミライルを知りましたが、とても良い魅力的なキャラクターだと思います。ミライルをもっとSNSや動画サイトなどで積極的に活用していけば良いと思います。
- 周囲に「ふくおか教育月間」を知っている人が少ないので、今後の広報活動に期待したい。
- 我が家は0歳の子供がいます。今回初めてこのような取り組みが行われていることを知りましたが、子どものためにも、このような情報を早い段階で知っていきたく感じました。そのため、学校に通学している世代や家族だけでなく、未就学児やその家族に対して発信や触れる機会を設けてほしいと思いました。

等

その他

- 地域の連携やつながりが大切だと考えます。
- 少子化により、児童・生徒の絶対数が減少しているので、保護者家族だけでなく、地域で守り育てる意識を持つような呼びかけを行うとよい。
- 子どもの教育月間と同時に、福岡県内の教職員の支援や定着にも、力を入れてほしい。教職員がいなければ、子どもの教育は成り立たないから。
- 教育は子どもだけのものではないと思う。大人も日々アップデートしていかなければならない。よって、大人のための学校を開校すると多くの大人が通いたいと感じると思う。一般の会社に勤めていた人や農業従事者などを講師とし、人生の中からの学びを教えてください。
- 生まれ育ったところが田舎だったため、運動会などの行事は地域と一緒に行われていました。今のご時世では難しいとは思いますが、教育機関と地域が繋がることは今後より必要なのではと思います。
- 学校は業務量が増えすぎて職員は限界を超えて働いています。学校に任せるのではなく、行政主体でできることをやって下さい。
- 子どもたちの頑張る姿は本当に素敵です。高校生の部活動の姿など積極的に発信してほしい。小さな子たちの憧れにもなるし、大人も元気がもらえると思う。
- 保護者以外でも参加可能な学校行事を増やしてほしいと思います。

等

令和7年度第3回県政モニターアンケート

(回答者構成)

項目		計		北九州	福岡	筑豊	筑後
		人数(人)	構成比				
総数	人数	366		92	191	27	56
	構成比		100.0%	25.1%	52.2%	7.4%	15.3%
性別	女性	191	52.2%	49	101	12	29
	男性	172	47.0%	41	90	15	26
	その他	3	0.8%	2	0	0	1
年代別	20代以下	55	15.0%	13	30	3	9
	30代	60	16.4%	15	31	5	9
	40代	75	20.5%	18	39	6	12
	50代	63	17.2%	17	33	4	9
	60代	76	20.8%	21	34	8	13
	70代以上	37	10.1%	8	24	1	4

モニター数 399人

回答数 366人

回収率 91.73%

実施期間 R7.9.9～R7.10.5

【回答結果の注意点】

- ・ 集計は小数点以下第2位を四捨五入しているため、回答比率の合計は、必ずしも100%にならない場合がある。
- ・ 2以上の回答（複数回答）を要する設問の場合、その回答比率の合計は、100%を超える場合がある。

令和7年度 県政モニターアンケート調査

テーマ：ふくおか防災ナビ・まもるくんについて

福岡県総務部防災危機管理局防災企画課

1 調査の目的

近年、災害等の激甚化・頻発化により、災害への備えといざというときの適切な行動がますます重要になっている。

このような現状から、県では気象や避難情報等が容易に入手できるスマートフォンアプリ「ふくおか防災ナビ・まもるくん」を配信している。

今回の調査では、このアプリに対する皆様の満足度や機能ニーズを把握し、今後の施策の参考とするものである。

2 調査時期

令和7年9月9日～令和7年10月5日（第3回）

3 回答者の構成

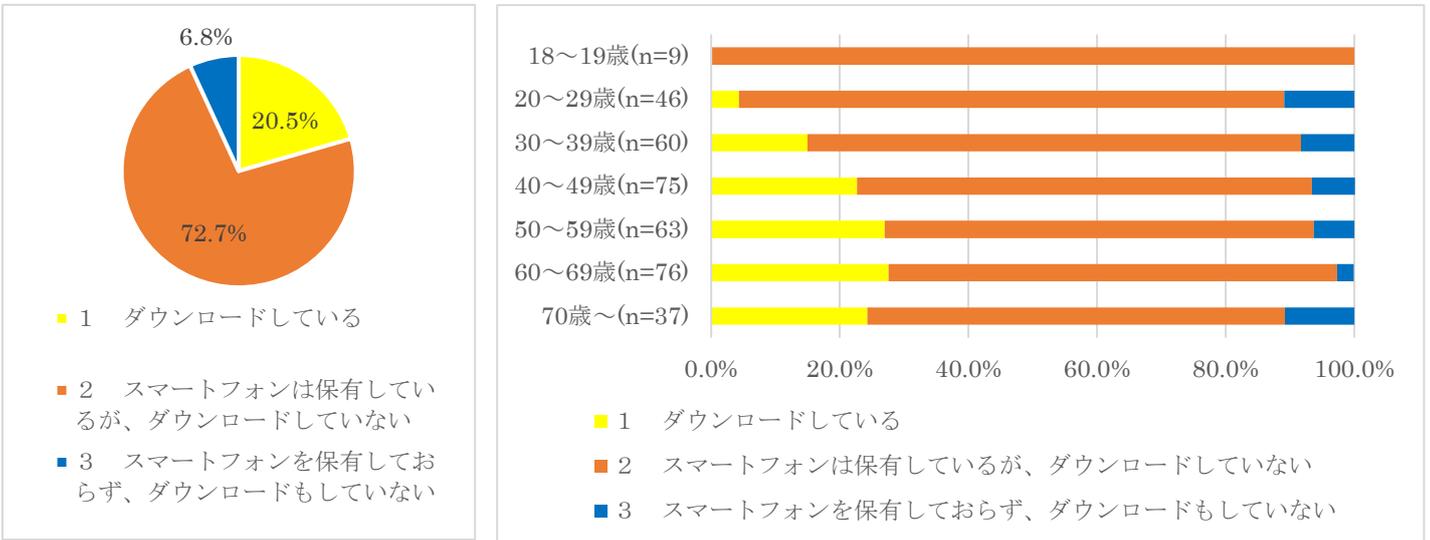
		計	北九州	福岡	筑豊	筑後
総数	-	366 (100%)	92 (25.1%)	191 (52.2%)	27 (7.4%)	56 (15.3%)
性別	女性	191 (52.2%)	49	101	12	29
	男性	172 (47.0%)	41	90	15	26
	その他	3 (0.8%)	2	0	0	1
年代別	20代以下	55 (15.0%)	13	30	3	9
	30代	60 (16.4%)	15	31	5	9
	40代	75 (20.5%)	18	39	6	12
	50代	63 (17.2%)	17	33	4	9
	60代	76 (20.8%)	21	34	8	13
	70代以上	37 (10.1%)	8	24	1	4

4 回答結果

問1 あなたは、県防災アプリ「ふくおか防災ナビ・まもるくん」をダウンロードしていますか。

【概要（回答数：366）】

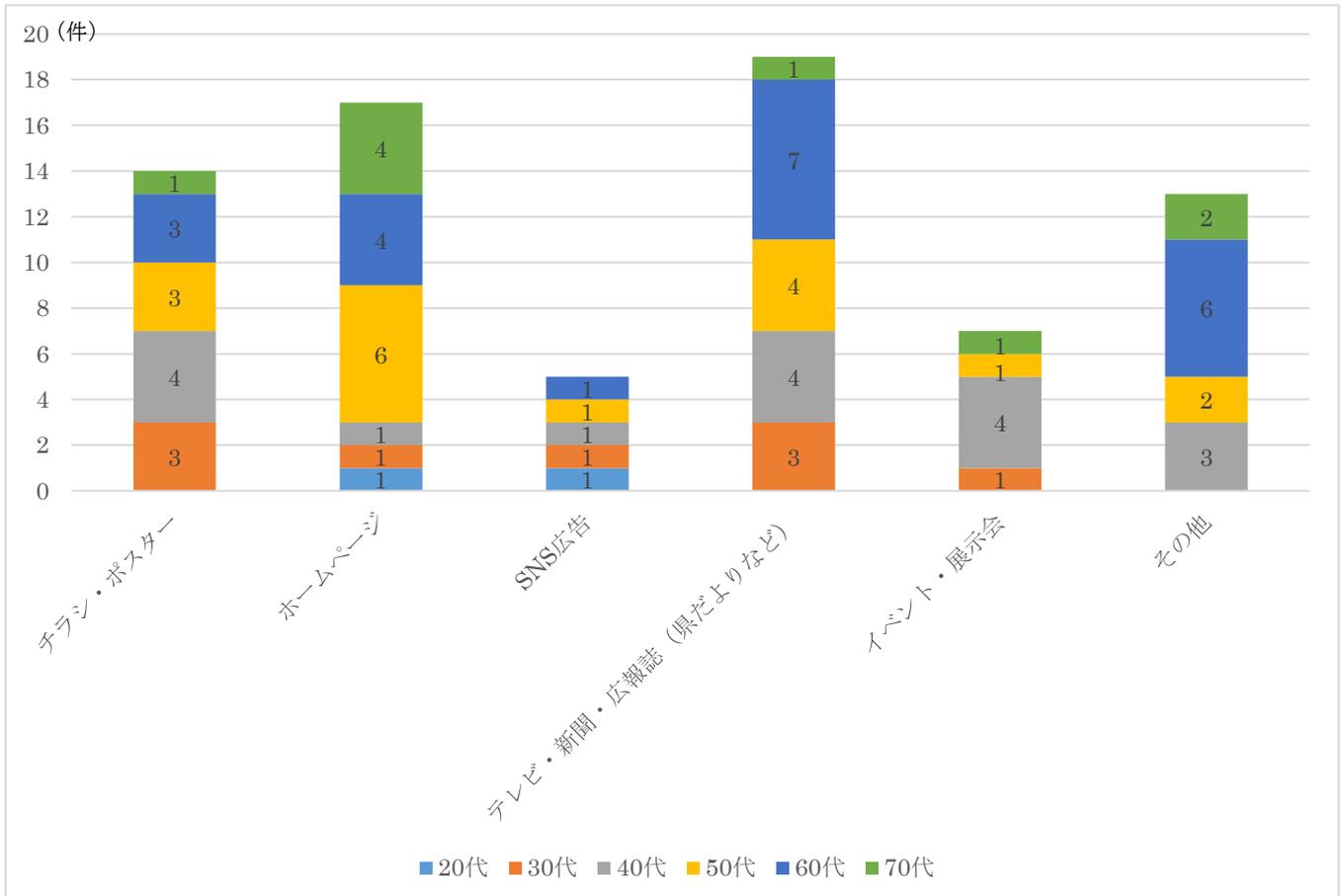
- ・ダウンロードしているのは全体の約20.5パーセント。
- ・年代別にみると、60～69歳世代の活用割合が最も高く、年齢層が高い方が活用割合が高い傾向がある。



問1-2 「ふくおか防災ナビ・まもるくん」ダウンロードのきっかけを教えてください。

【概要（回答数：75）】

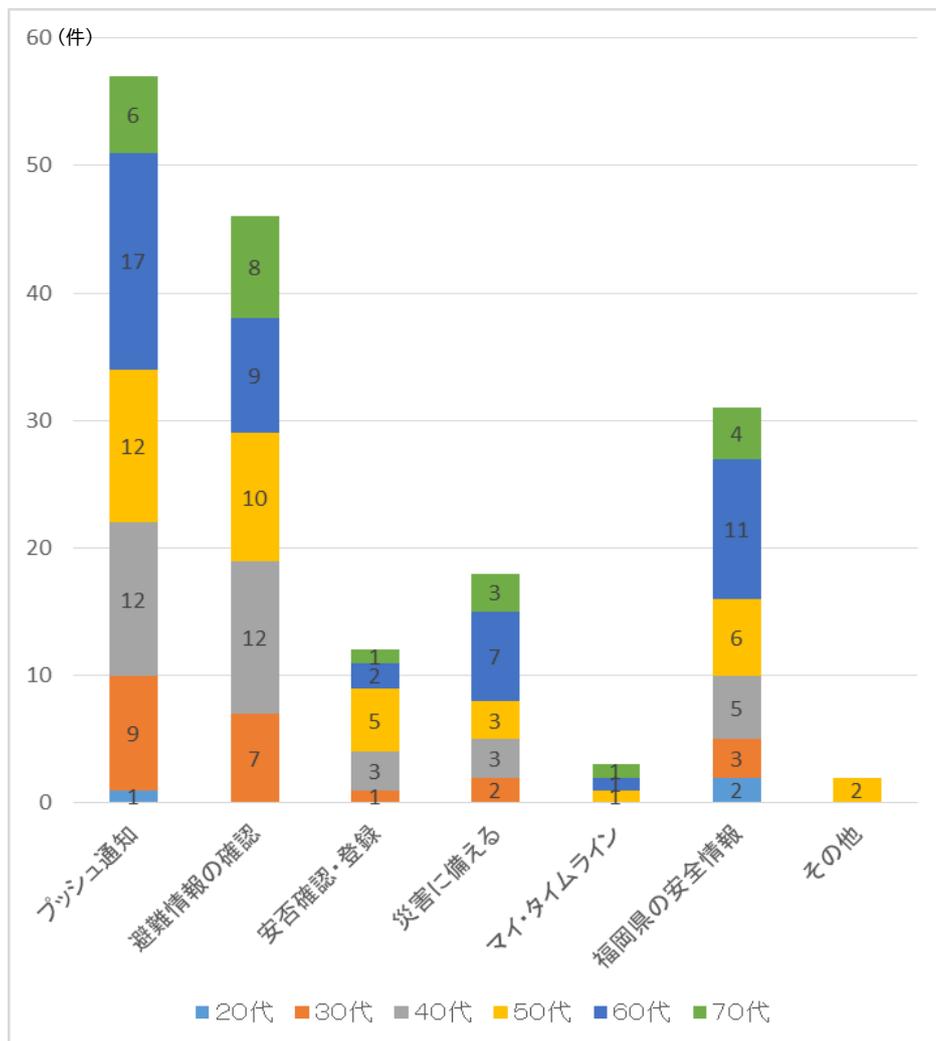
- ・50代以上の比較的高い世代層を中心に、「ホームページ」や「テレビ・新聞・広報誌」等の紙面での広報媒体を通じてダウンロードされている。



問1-3 「ふくおか防災ナビ・まもるくん」で活用したことがある機能をお答えください。(複数選択可)

【概要(回答数: 71)】

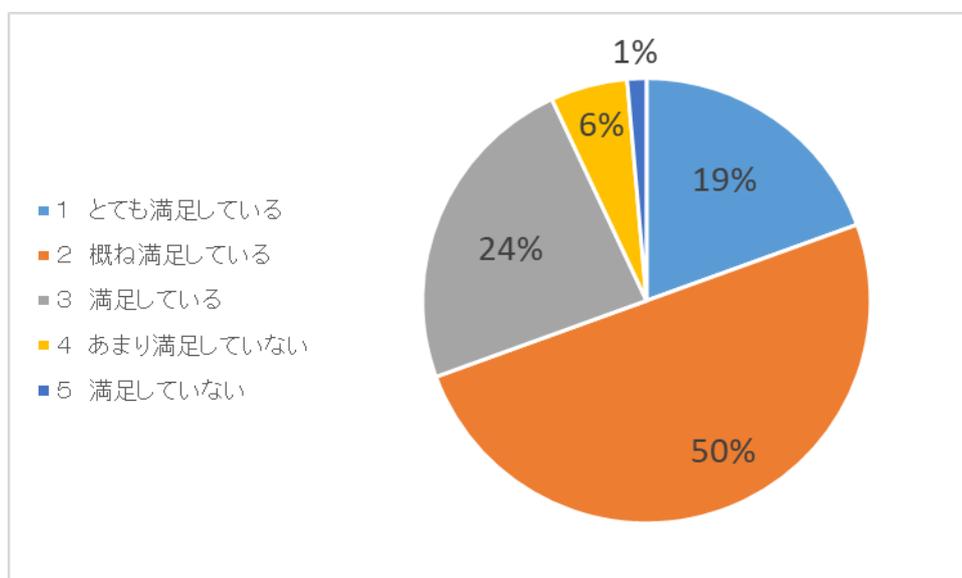
- ・「災害情報プッシュ通知」「避難情報の確認」「福岡県の安全情報」の3つの機能を中心に活用されている。
- ・「安否確認・登録」「マイタイムライン」の活用度合いは低い。



問1-4 「ふくおか防災ナビ・まもるくん」の利用満足度をお答えください。

【概要(回答数: 72)】

- ・利用者の内、約93パーセント(前回より8パーセント増)の方が「利用に満足している」と回答。



問2 昨年度、河川カメラの映像をリアルタイムで表示する機能を追加し、今後、県内の主要な活断層で想定される地震の「震度予測マップ」「液状化予測マップ」を表示する機能を「ふくおか防災ナビ・まもるくん」に追加する予定です。

その他、アプリに追加して欲しい機能があれば、その内容を具体的に記入してください。

【概要（主なものを抜粋）】

- ・リアルタイムで、地域別の現在避難している人数や割合
- ・公共交通機関（電車やバス）の運行情報や、通行の可否などの道路情報
- ・天気予報
- ・通行止めになっている場所や崖崩れが起きている場所がわかる機能
- ・冠水している道路やその付近の状況をリアルタイムで表示する機能
- ・緊急時のみ家族の居場所が一目でわかるような機能
- ・行政機関、自衛隊、消防、警察、の救援状況
- ・災害時の停電や外出先など、ネット環境が不安定なオフライン状態での利用方法についてわかりやすく知りたいです。
- ・避難先までの経路と最新の状況
- ・備蓄品の管理機能
- ・防災クイズ
- ・河川は長いのでカメラの台数を増やしてほしい。
- ・防災コラム等の有事に役立つもの。
- ・線状降水帯や台風の際に、同程度の威力で過去に起きた被害を可視化できる（あるいは想像できる）情報
- ・水没しやすい場所の動画
- ・家庭ごと（住居の形態や家族構成（人数・年齢））に合わせて事前準備品がより具体的にかつ簡単にわかる機能
- ・国道や県道の道路交通情報をタイムリーに教えて欲しい。
- ・自分の避難所となってる所が公民館になりますが、校区の皆様が避難してきた場合、本当に避難できるのか不安があるので、避難所ごとのキャパ等を記載してほしい。
- ・避難先で準備されているものや設置されている備品の情報
- ・同じアプリを使う家族の位置がGPSでわかるような機能
- ・停電や断水などライフラインの被害情報や、災害ボランティア募集情報を共有でき、多言語対応で外国人にも安心して利用できると良いです。
- ・自宅や会社、もしくは出先から避難先への経路が知りたいです。
- ・チャット機能の充実をお願いします。質問していても、的確な場所に案内してもらえなかったから。
- ・マップにコメントを追加する機能
- ・災害時の医療情報（機能している医療機関および診療科目）の提供もしくは窓口情報
- ・障害、難病がある人や家族が行ける避難所の情報を提供する機能
- ・AIによる「危険度可視化マップ」降雨量や河川水位、地震情報、避難状況などをもとに、リアルタイムで地域ごとの「危険度（リスク）」を色分け表示する機能
- ・津波のメートル毎の想定被害エリアや、避難の勧告
- ・雨雲レーダーで降雨予測してほしい
- ・障がい者用トイレの有無
- ・今までの災害の時に実際に役に立った防災グッズを教えて欲しい。
- ・以前は「まもるくん」をダウンロードして使用していましたが、情報量が多すぎて私には使いづらく感じました。そのため、項目数はそれほど多くなくてもよいと考えています。
- ・河川氾濫予測機能（この川が氾濫したらどこまでどのくらいの水が来るか）
- ・断水時の供給場所
- ・お年寄りができるようにテレビと電話にもつながって知らせる機能

問3 ふくおか防災ナビ・まもるくんについて、これまでの設問以外に意見はありますか。
ある場合は、その内容を具体的にしてください。

【概要（主なものを抜粋）】

- ・一応アプリはダウンロードしているが、北九州市の防災情報LINEを専ら活用しており、福岡県の方はあまり活用の機会がない。
- ・もっと広めて県民が周知するようにしてほしい。
- ・ホーム部分の設定した地域ごとの情報で、共通の部分はいちいち記載せずにまとめて書いてくれてもいいと思います。「災害に備える」の部分
- ・より詳細な、正確な情報を知りたい。こまめに更新されるとありがたい。
- ・防災に関係したものでスマートフォンに入っているアプリは、「ふくおか防災ナビ・まもるくん」、「ウェザーニューズ」、yahooの通知、LINEの通知が入っています。一度の災害の時に、それらからそれぞれ通知が来るので、かなりの数の通知が来ることとなります。なので、2つ位のアプリに絞ろうかと思っています。具体的な案ではなく申し訳ないのですが、私個人は上記のような状況なので、まもるくんが何かの特化してもらえると、使いやすいのかなと思いました。
- ・せっかくの防災アプリは、最近になって知った。もっと外におけるキャンペーン等を行い、告知強化に努めてもらいたい。博多駅、天神駅、小倉駅、久留米駅等
- ・多言語対応の強化です。外国人住民や観光客にとって、災害時の正確な情報は命に関わります。英語、中国語、韓国語など主要言語での情報提供が進めば、誰一人取り残さない防災につながると思います。
- ・災害ボランティア募集情報の共有機能です。発災後、復旧段階で「どこで人手を必要としているのか」が分かれば、県民が参加しやすくなります。ボランティア活動と被災者のニーズを結ぶプラットフォームとしても活用できるのではないのでしょうか。
- ・被災した際の役所での手続き、必要な準備などにすぐアクセスできると、事前から参考になり心強いです。
- ・避難場所の食料や寝れる人数など細かくしりたい。
- ・スマホの画面が小さいので地図を見るときは難儀する。
- ・河川カメラの表示を試みたが、河川カメラが地図上にどこにあるかわからなかった。
- ・災害に備えるための事前準備が必要なことは頭では分かっていますが、日ごろの生活に追われてなかなか行動に移すまでには至っていません。そのため、家族と一緒に準備をしに行くきっかけがあればとても助かります。例えば、イベントを駅やお店で行ったり、お店と一緒に探してくれたり、ミニ講義(日用品での代用・年齢ごとに必要なものの紹介等)があると、休日に楽しみがてら出かけて準備できるきっかけになるのではと思いました。
- ・老人向け画面、子供向け画面、など対象者別に分けられると良い。
- ・アプリを統合もしくはリンクしていけば活用度の高いものにできるのではないか。
- ・ふくおか防災ナビ・まもるくんについて知りませんでした。機能の充実と併せて、周知にも力を入れることを要望します。
- ・アプリではなくweb状が良い。アプリのダウンロードに躊躇するため。
- ・どんなに優れたアプリでも普及しなければ意味がありません。
- ・アプリ機能もすばらしく、このアンケートが終わってからすぐ入れてみようと思いました。
- ・現状の意見をリアルタイムで行政に届ける、やり取りが出来る機能
- ・初めて知りましたが、アプリの内容が必要な情報が既に情報がしっかり入っていると感じた。
- ・災害や不安に思うこと、疑問等に答えてくれるところがあれば助かります。
- ・NHKの防災アプリなどもあり、どれを使ったらよいのか迷ってしまう。

令和7年度 県政モニターアンケート調査

テーマ：災害時の備蓄について

福岡県総務部防災危機管理局防災企画課

1 調査の目的

災害時は、ライフラインへの影響（断水、停電、ガス停止など）に加え、流通機能の麻痺に伴い食料などの生活物資の入手が困難になる事態が想定される。

そのため福岡県では、日常の食料を多めに購入し、消費の都度買い足すことにより常に一定量の食材を保有する方法（ローリングストック法）を含め、飲料水、食料などの生活物資を3日以上備蓄に努めるようふくおか県政出前講座等で呼びかけている。

そこで現在の県民の備蓄意識、各家庭における食料などの備蓄の状況を把握し、今後の施策の参考とする。

2 調査時期

令和7年9月9日～令和7年10月5日（第3回）

3 回答者の構成

		計	北九州	福岡	筑豊	筑後
総数	-	366 (100%)	92 (25.1%)	191 (52.2%)	27 (7.4%)	56 (15.3%)
性別	女性	191 (52.2%)	49	101	12	29
	男性	172 (47.0%)	41	90	15	26
	その他	3 (0.8%)	2	0	0	1
年代別	20代以下	55 (15.0%)	13	30	3	9
	30代	60 (16.4%)	15	31	5	9
	40代	75 (20.5%)	18	39	6	12
	50代	63 (17.2%)	17	33	4	9
	60代	76 (20.8%)	21	34	8	13
	70代以上	37 (10.1%)	8	24	1	4

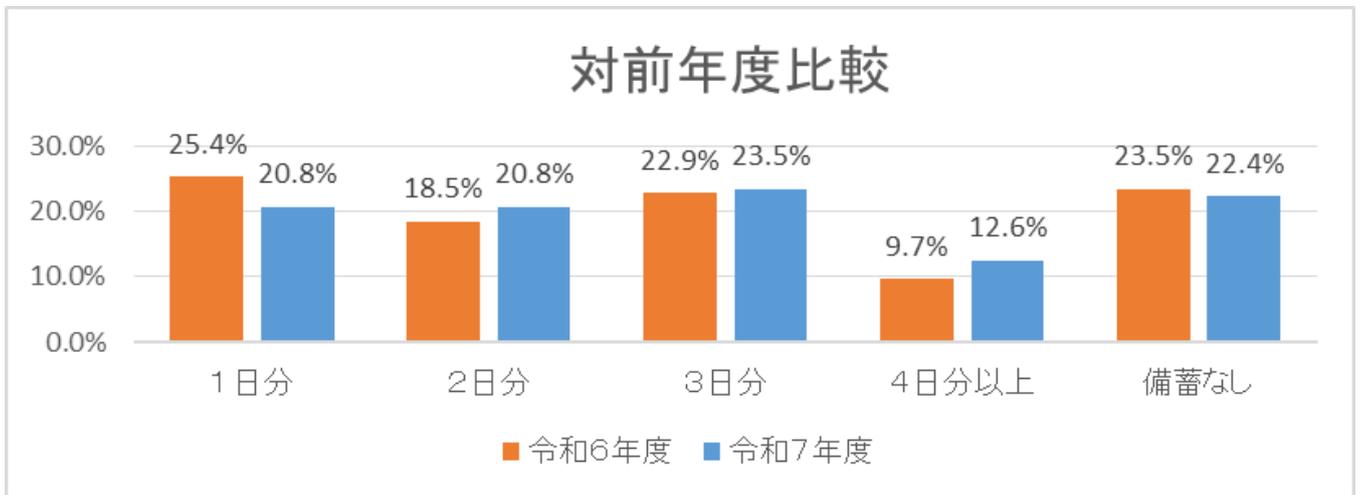
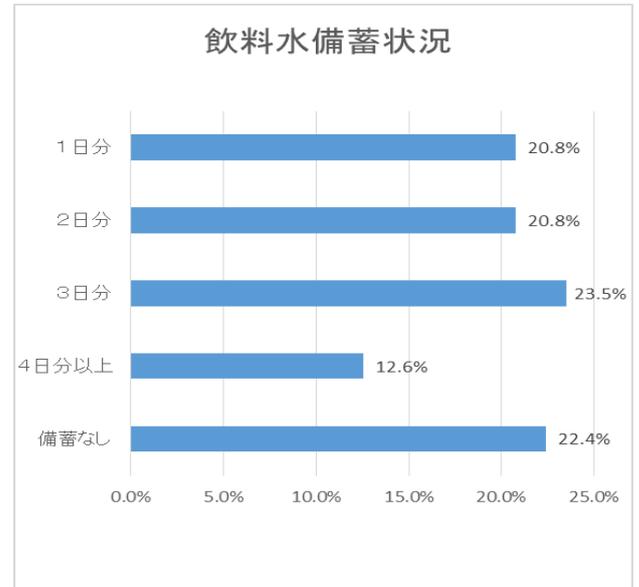
4 回答結果

問1 あなたは、飲料水を何日分備蓄（買い置き）していますか。（1つだけ）

- 1 1日分
- 2 2日分
- 3 3日分
- 4 4日分以上（何日分か具体的に）
- 5 飲料水は備蓄（買い置き）していない

回答

	令和7年度 合計	令和6年度 合計	対前年度 増減
回答者数	366	362	4
1日分	76	92	-16
	20.8%	25.4%	-4.6%
2日分	76	67	9
	20.8%	18.5%	2.3%
3日分	86	83	3
	23.5%	22.9%	0.6%
4日分 以上	46	35	11
	12.6%	9.7%	2.9%
備蓄なし	82	85	-3
	22.4%	23.5%	-1.1%



問1-2 4日以上は、何日分か具体的に。

回答 (抜粋)

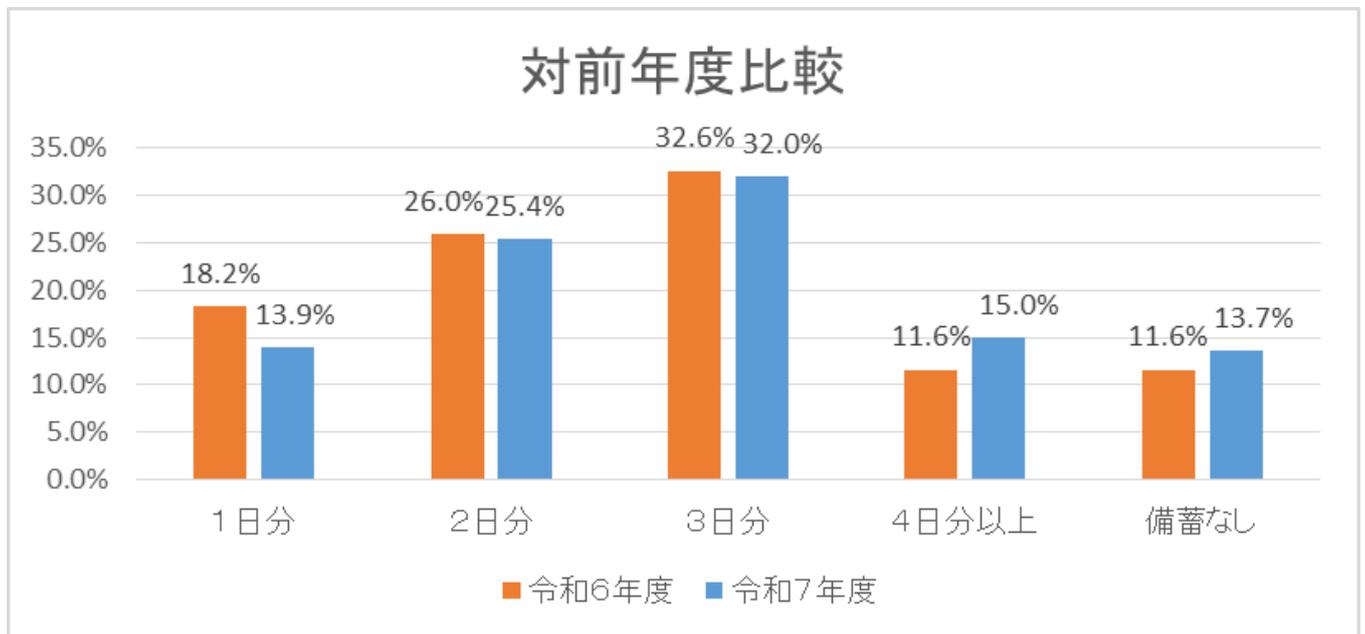
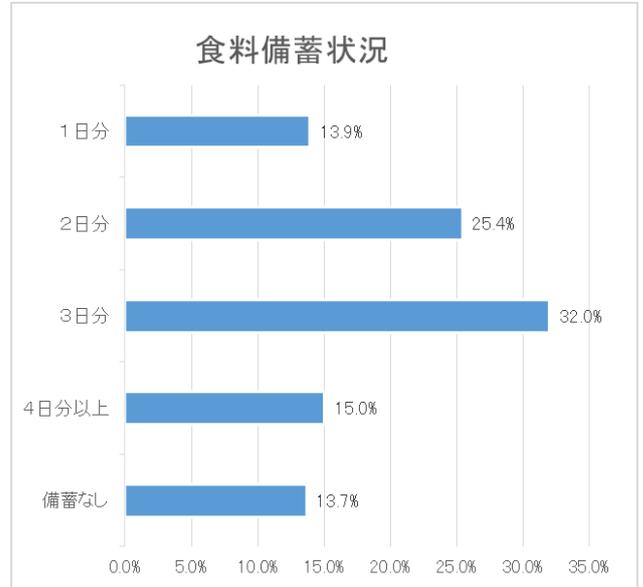
- ・ 4日分 6人
- ・ 4日以上～1週間 20人
- ・ 1週間～2週間 11人
- ・ 2週間以上 9人

問2 あなたは、食料を何日分備蓄（買い置き）していますか。（1つだけ）

- 1 1日分
- 2 2日分
- 3 3日分
- 4 4日分以上（何日分か具体的に）
- 5 食料は備蓄（買い置き）していない

回答

	令和7年度 合計	令和6年度 合計	対前年度 増減
回答者数	366	362	4
1日分	51	66	-15
	13.9%	18.2%	-4.3%
2日分	93	94	-1
	25.4%	26.0%	-0.6%
3日分	117	118	-1
	32.0%	32.6%	0.6%
4日分以上	55	42	13
	15.0%	11.6%	3.4%
備蓄なし	50	42	8
	13.7%	11.6%	2.1%



問2-2 4日以上は、何日分か具体的に。

回答（抜粋）※5人未回答

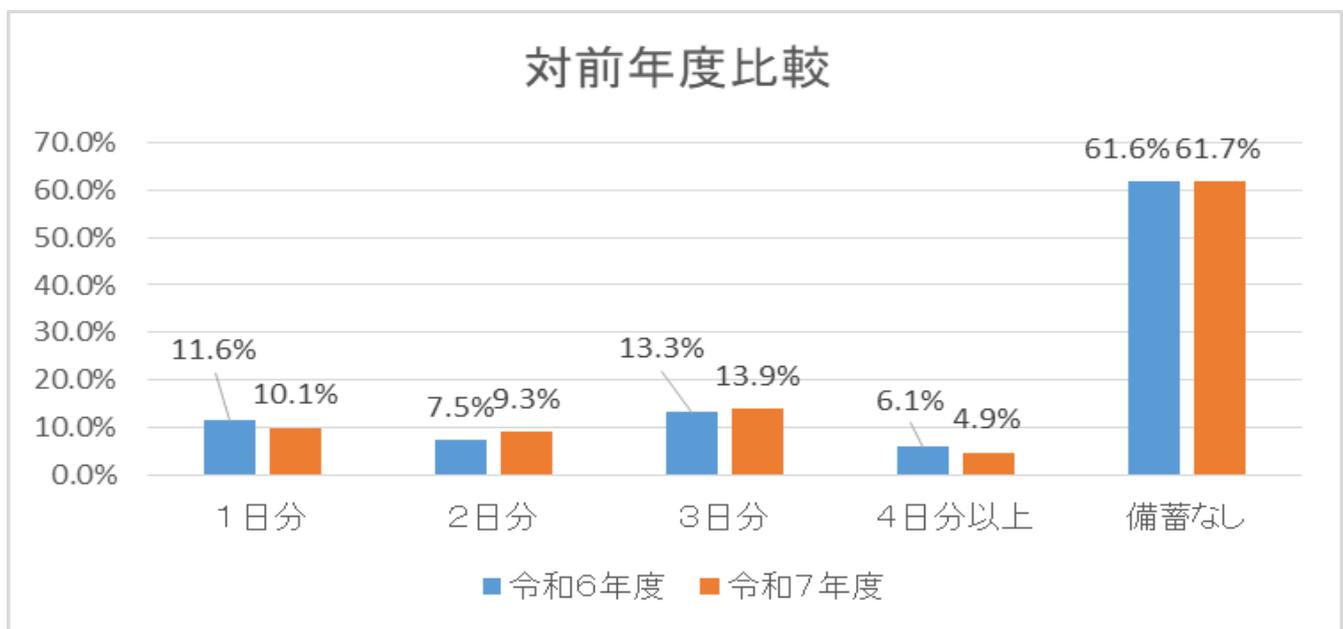
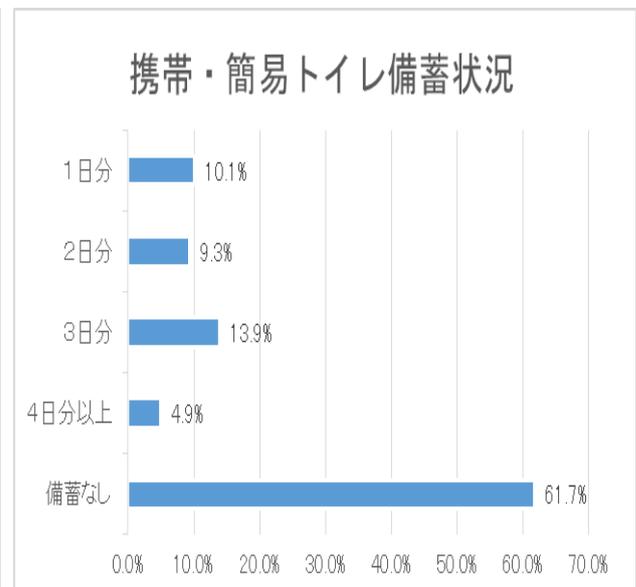
- ・ 4日分 2人
- ・ 4日以上～1週間 28人
- ・ 1週間～2週間 9人
- ・ 2週間以上 9人

問3 あなたは、携帯・簡易トイレを何日分備蓄（買い置き）していますか。（1つだけ）

- 1 1日分
- 2 2日分
- 3 3日分
- 4 4日分以上（何日分か具体的に）
- 5 携帯・簡易トイレは備蓄（買い置き）していない

回答

	令和7年度 合計	令和6年度 合計	対前年度 増減
回答者数	366	362	4
1日分	37	42	-5
	10.1%	11.6%	-1.5%
2日分	34	27	7
	9.3%	7.5%	1.8%
3日分	51	48	3
	13.9%	13.3%	0.6%
4日分以上	18	22	-4
	4.9%	6.1%	-1.2%
備蓄なし	226	223	3
	61.7%	61.6%	0.1%



問3-2 4日以上は、何日分か具体的に。

回答（抜粋）※1人未回答

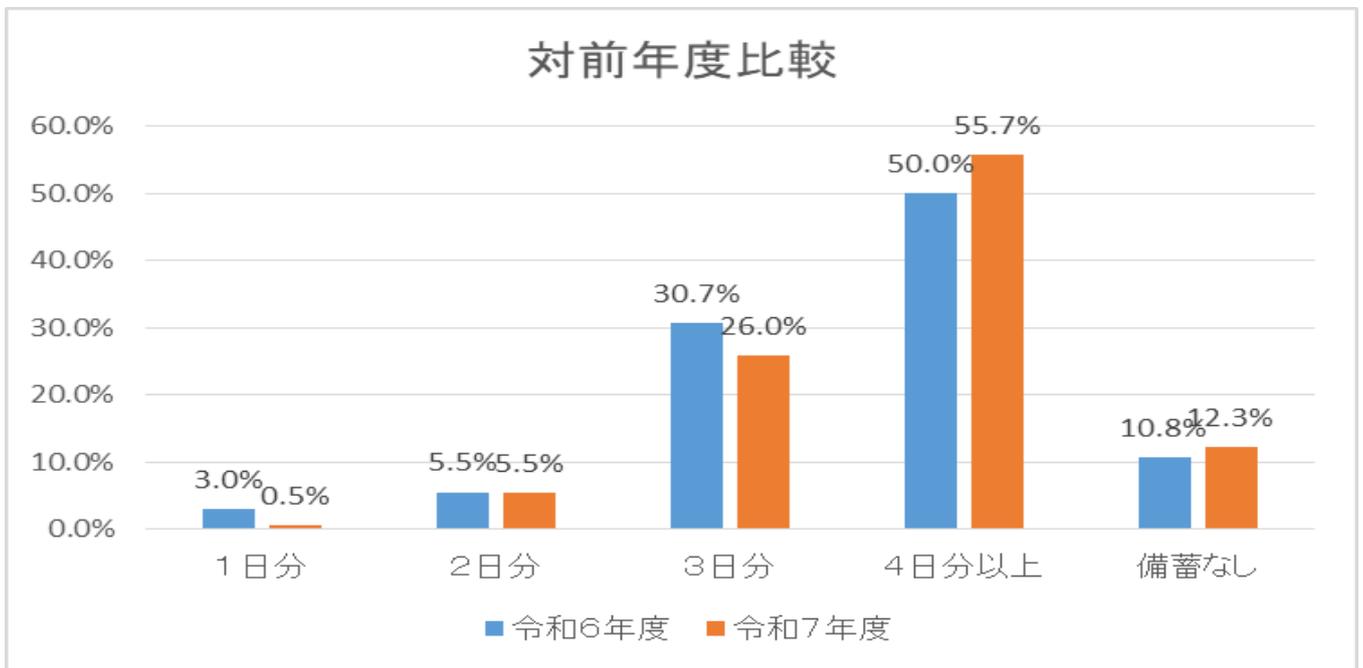
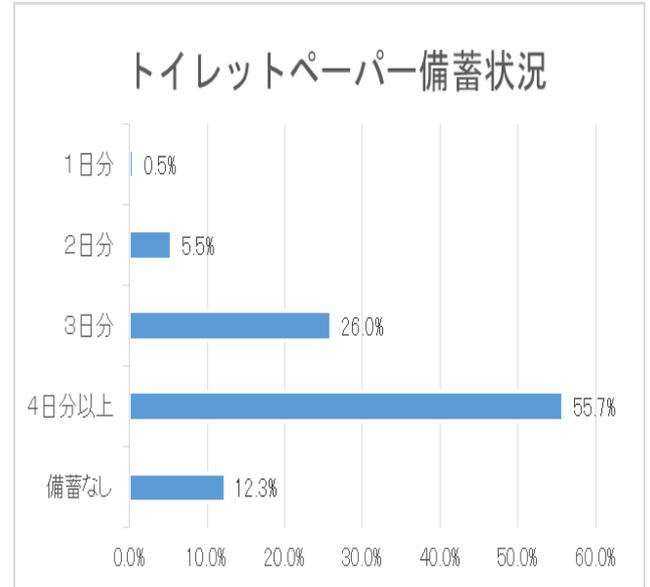
- ・ 4日分 1人
- ・ 4日以上～1週間 9人
- ・ 1週間～2週間 2人
- ・ 2週間以上 5人

問4 あなたは、トイレトペーパーを何日分備蓄（買い置き）していますか。（1つだけ）

- 1 1日分
- 2 2日分
- 3 3日分
- 4 4日分以上（何日分か具体的に）
- 5 トイレトペーパーは備蓄（買い置き）していない

回答

	令和7年度	令和6年度	対前年度
	合計	合計	増減
回答者数	366	362	4
1日分	2 0.5%	11 3.0%	-9 -2.5%
2日分	20 5.5%	20 5.5%	0 0%
3日分	95 26.0%	111 30.7%	-16 -4.7%
4日分以上	204 55.7%	181 50.0%	23 5.7%
備蓄なし	45 12.3%	39 10.8%	6 1.5%



問4-2 4日以上は、何日分か具体的に。

回答 (抜粋) ※ 5人未回答

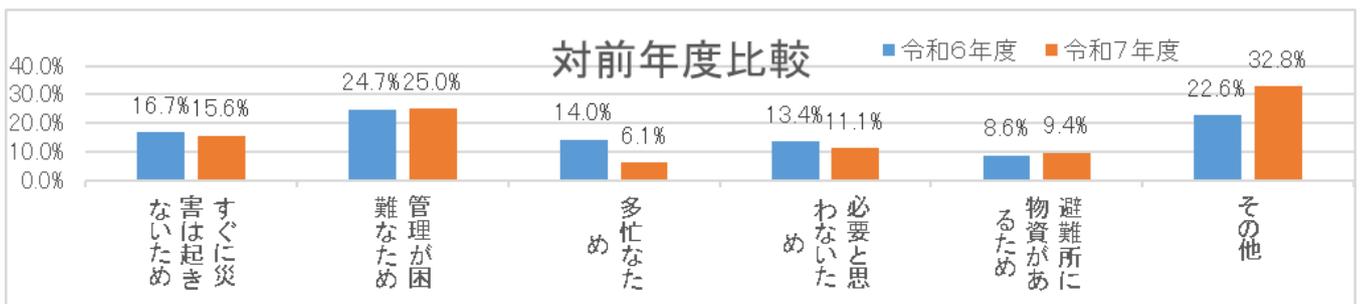
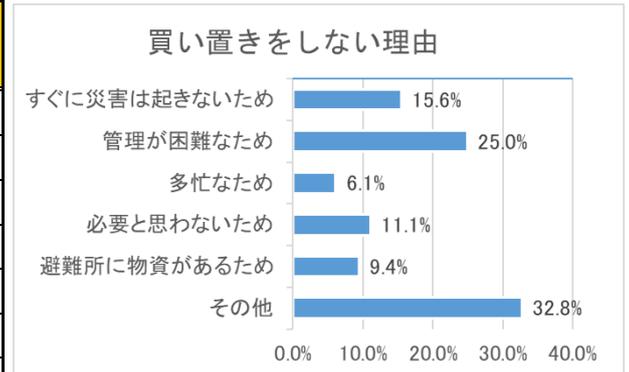
・ 4日分 7人 ・ 4日以上～1週間 31人 ・ 1週間～2週間 56人 ・ 2週間以上 105人

問5 問1～4のいずれかで「5（備蓄していない）」を選択された方にお尋ねします。
あなたが備蓄（買い置き）していないのはなぜですか。（1つだけ）

- 1 災害がすぐには起きないと思うから
- 2 消費期限等の管理が難しく、面倒だから
- 3 忙しく時間がないから
- 4 必要ないと思っているから
- 5 避難所に避難すれば必要な物資を供給してくれると思っているから
- 6 その他（具体的に）

回答

	令和7年度 合計	令和6年度 合計	対前年度 増減
回答者数	180	186	-6
1 すぐに災害 は起きないため	28 15.6%	31 16.7%	-3 -1.1%
2 管理が困難 なため	45 25.0%	46 24.7%	-1 0.3%
3 多忙なため	11 6.1%	26 14.0%	-15 -7.9%
4 必要と思わ ないため	20 11.1%	25 13.4%	-5 -2.3%
5 避難所に物 資があるため	17 9.4%	16 8.6%	1 0.8%
6 その他	59 32.8%	42 22.6%	17 10.2%



問5-2 その他（具体的に）

回答（抜粋）

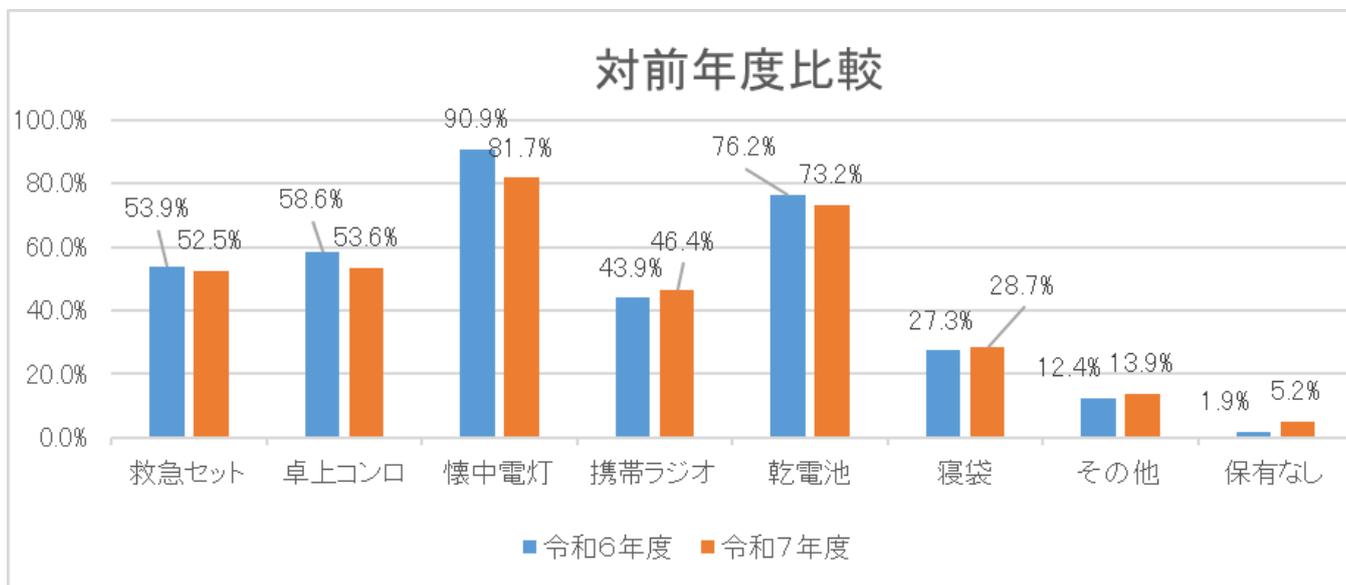
- ・備蓄を置いておくスペースを確保できないため。
- ・備蓄の必要量を知らないため。
- ・簡易トイレの備蓄に気が回らなかったため。
- ・福岡県に災害はないと思っているから。

問6 災害時に役立つ生活物資として、どのようなものを保有していますか。
該当するものをすべて選んでください。

- | | |
|---------------|------------------|
| 1 救急セット | 5 乾電池（買い置き分） |
| 2 卓上コンロ・ガスボンベ | 6 寝袋 |
| 3 懐中電灯 | 7 その他（具体的にいくつでも） |
| 4 携帯ラジオ | 8 特に保有していない |

回答

	令和7年度	令和6年度	対前年度		令和7年度	令和6年度	対前年度
回答者数	366	362	4	乾電池	268	276	-8
					73.2%	76.2%	-3.0%
救急セット	192	195	-3	寝袋	105	99	6
	52.5%	53.9%	-1.4%		28.7%	27.3%	1.4%
卓上コンロ・ ガスボンベ	196	212	-16	その他	51	45	6
	53.6%	58.6%	-5.0%		13.9%	12.4%	1.5%
懐中電灯	299	329	-30	保有なし	19	7	12
	81.7%	90.9%	-9.2%		5.2%	1.9%	3.3%
携帯ラジオ	170	159	11				
	46.4%	43.9%	2.5%				



問6-2 その他で備蓄しているもの

回答 (抜粋)

・生理用品 ・モバイルバッテリー ・除菌シート ・ティッシュ ・マッチ ・スリッパ ・使いす
て歯ブラシ ・タオル ・大人用おむつ ・軍手 ・マスク ・カイロ ・ビニールシート ・ビニール
袋 ・ライター ・ろうそく ・汗拭きマット ・防災用毛布 ・給水バッグ 等

問7 災害時の備蓄について、これまでの設問以外に意見はありますか。

(回答の要約)

- ・避難所の備蓄場所がわかると良い。
- ・備蓄物資を購入する費用の支援がほしい。
- ・行政が備蓄物資を配布してほしい。(年に1回)
- ・保管場所がないことが備蓄しない理由につながる。
- ・過去の災害から有効な備蓄物資を教えてほしい。
- ・避難情報を取得する方法を教えてほしい。
- ・賞味期限切れの食料品を処分するのに苦労し、それ以来備蓄をやめた。
- ・購入費用、保管場所がないため行政で用意してほしい。
- ・薬の備蓄が不安、病院に言っても最低限の量しかもらえない。
- ・生理用品、おむつが不足しないようにしてほしい。
- ・災害直後は備蓄しようと思うが、その時を過ぎると忘れてしまうのが現状。
- ・備蓄していても、浸水したら無駄になると思うと買わない。

〈生涯学習について〉

令和7年度(第3回)県政モニターアンケート集計結果

人づくり・県民生活部 私学振興・青少年育成局 青少年政策課

○調査の目的

近年、少子高齢化による労働力人口の減少、科学技術の高度化や経済のグローバル化など、社会や経済が大きく変化し、私たちがいきいきとした生活を営むためには、これまでの趣味・教養や知識の習得だけでなく、職業上の能力を経済的に高めていくことや地域社会の課題に地域で対応できる能力を身につけることが必要です。

このように、社会の変化にともなって生涯学習に求められるものも変わっていく中、更に生涯学習を推進していくための施策検討のため、生涯学習に関する皆さんの現状やご意見をお伺いし、参考とさせていただくものです。

○調査期間

令和7年9月9日～10月5日

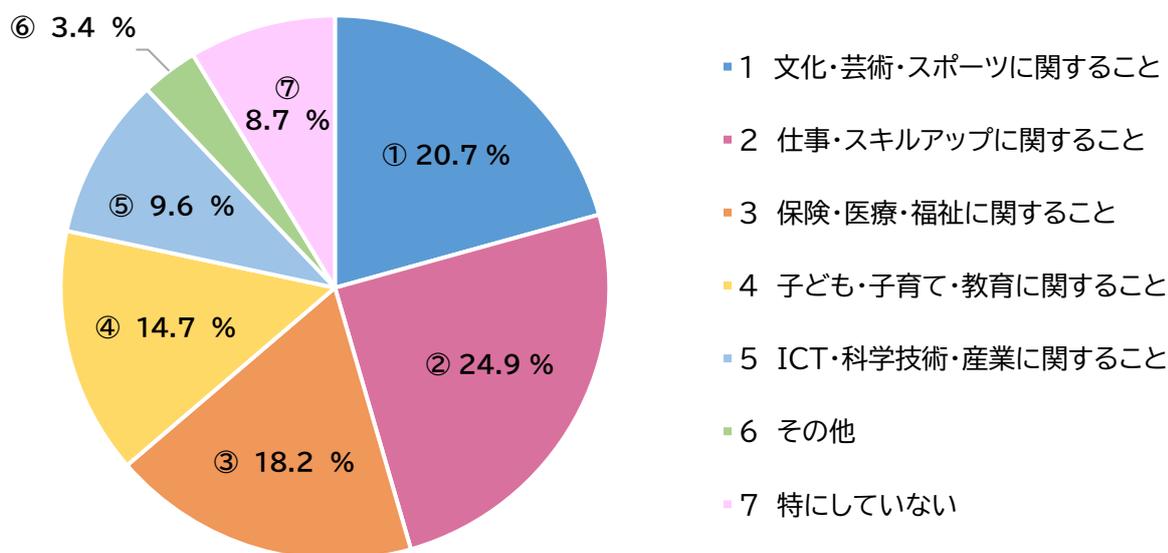
○調査人数

366人

※生涯学習とは、人々が自発的意思に基づいて、「自己の充実」、「生活の向上」、「職業能力の向上」のために、自ら学ぶ内容を選び取り、充実した人生を送ることを目指して生涯にわたって行う学習のことです。

※集計は小数点以下第2位を四捨五入しているため、回答比率の合計は、必ずしも100%にならない場合があります。

問1 この1年間に次のような学習をしたことがありますか。(複数回答可)



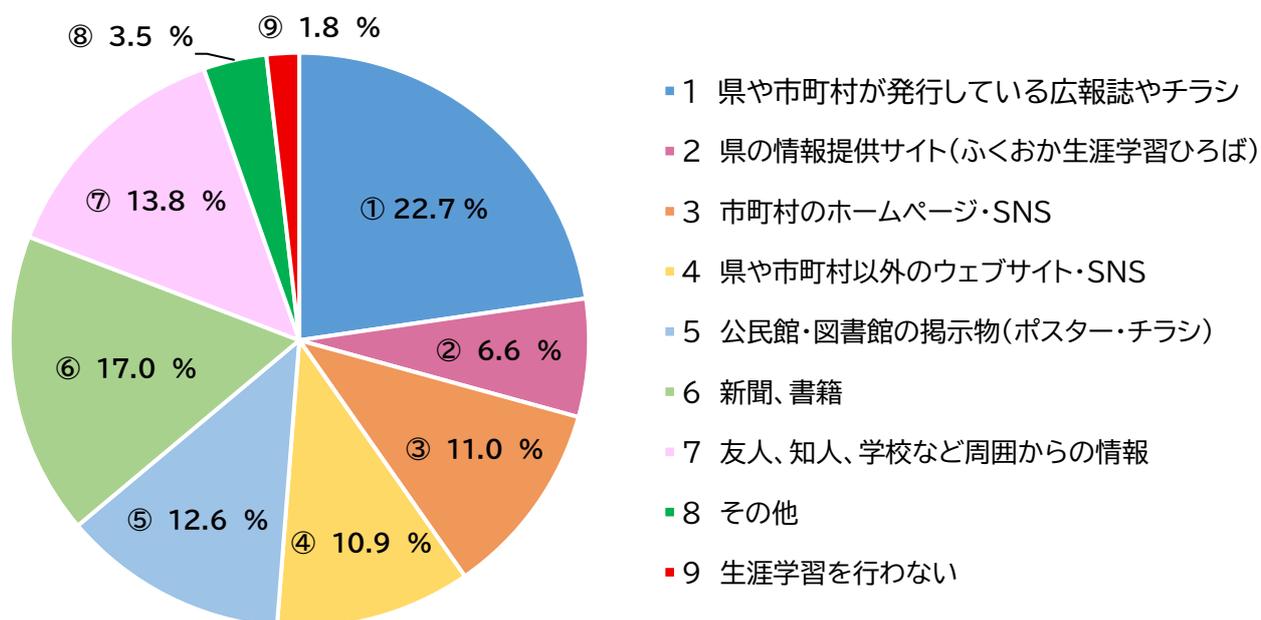
(n=716)

項目	回答数(件)	割合(%)
1 文化・芸術・スポーツに関すること	148	20.7
2 仕事・スキルアップに関すること	178	24.9
3 保険・医療・福祉に関すること	130	18.2
4 子ども・子育て・教育に関すること	105	14.7
5 ICT・科学技術・産業に関すること	69	9.6
6 その他	24	3.4
7 特にしていない	62	8.7

その他回答(抜粋)

- 金融・経済に関すること
- 手話の学習
- ジェンダーや対人コミュニケーションに関するもの
- 防災・減災・避難所運営・ジェンダーの視点・アドボカシー
- 英語 英会話
- 栄養について
- FX、資産運用に関すること
- 土地や建物に関する学習
- 心理学やコーチング
- 差別について

問 2 生涯学習を行う場合、どのように情報を入手していますか。(複数回答可)



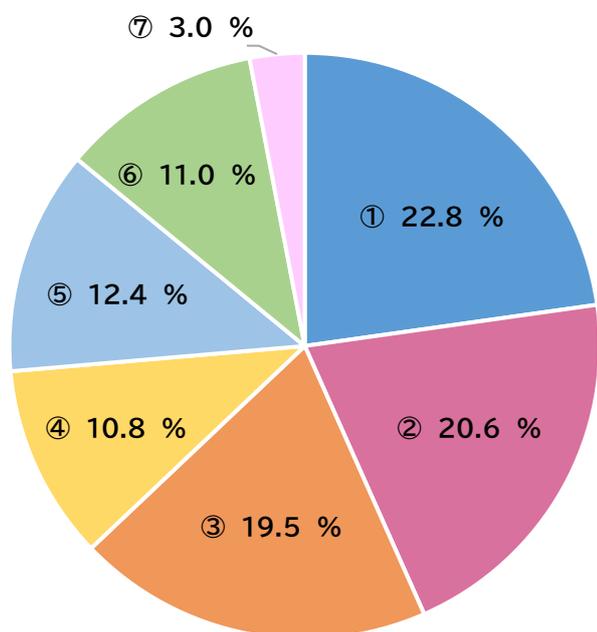
(n=935)

項目	回答数(件)	割合(%)
1 県や市町村が発行している広報誌やチラシ	212	22.7
2 県の情報提供サイト(ふくおか生涯学習ひろば)	62	6.6
3 市町村のホームページ・SNS	103	11.0
4 県や市町村以外のウェブサイト・SNS	102	10.9
5 公民館・図書館の掲示物(ポスター・チラシ)	118	12.6
6 新聞、書籍	159	17.0
7 友人、知人、学校など周囲からの情報	129	13.8
8 その他	33	3.5
9 生涯学習を行わない	17	1.8

その他回答(抜粋)

- NHK ラジオで興味のあるものを聴きつつ、テキストを購入することがある。
- 放送大学に在籍。幅広くいろいろなテーマで学習。

問3 今後学習を行う場合、どのような講座に参加したいと思いますか。(複数回答可)

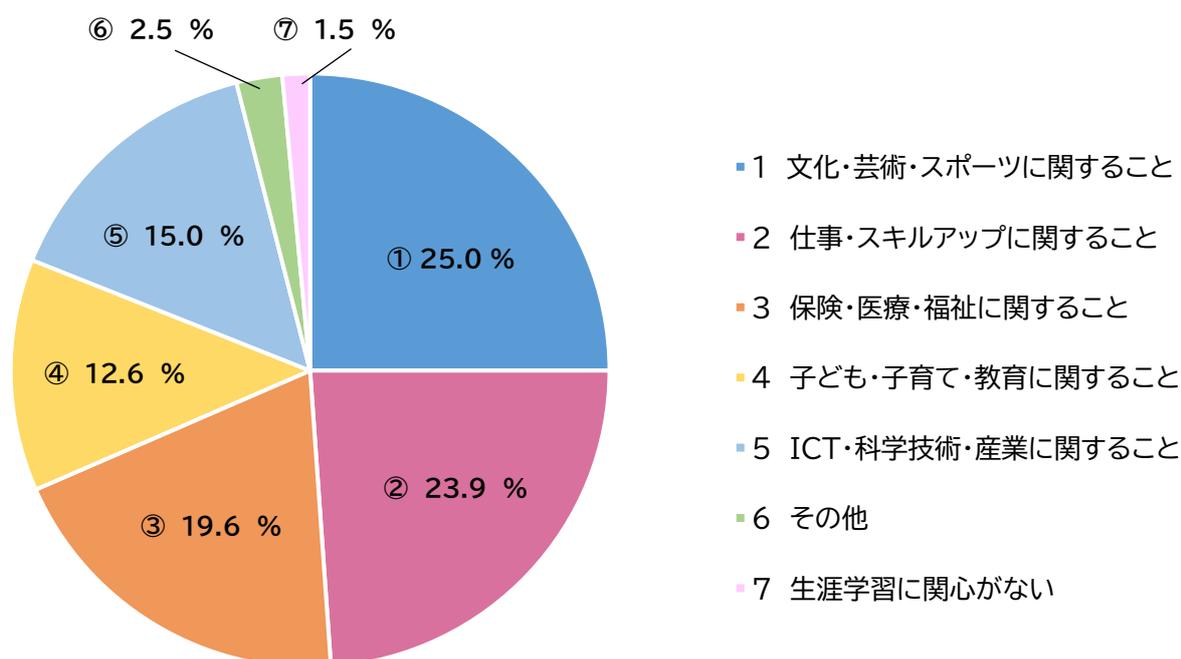


- 1 公民館など公的な機関が開催する講座
- 2 大学などの公開講座
- 3 工場見学・モノづくり体験など企業の専門性を生かした講座
- 4 NPO・ボランティア団体などが開催する講座や体験活動
- 5 民間のカルチャーセンターやスポーツクラブなどの講座、教室
- 6 通信教育や放送大学の講座
- 7 特に参加したいと思わない

(n=800)

項目	回答数(件)	割合(%)
1 公民館など公的な機関が開催する講座	182	22.8
2 大学などの公開講座	165	20.6
3 工場見学・モノづくり体験など企業の専門性を生かした講座	156	19.5
4 NPO・ボランティア団体などが開催する講座や体験活動	86	10.8
5 民間のカルチャーセンターやスポーツクラブなどの講座、教室	99	12.4
6 通信教育や放送大学の講座	88	11.0
7 特に参加したいと思わない	24	3.0

問4 今後学習を行う場合、どのようなことを学びたいと思いますか。(複数回答可)



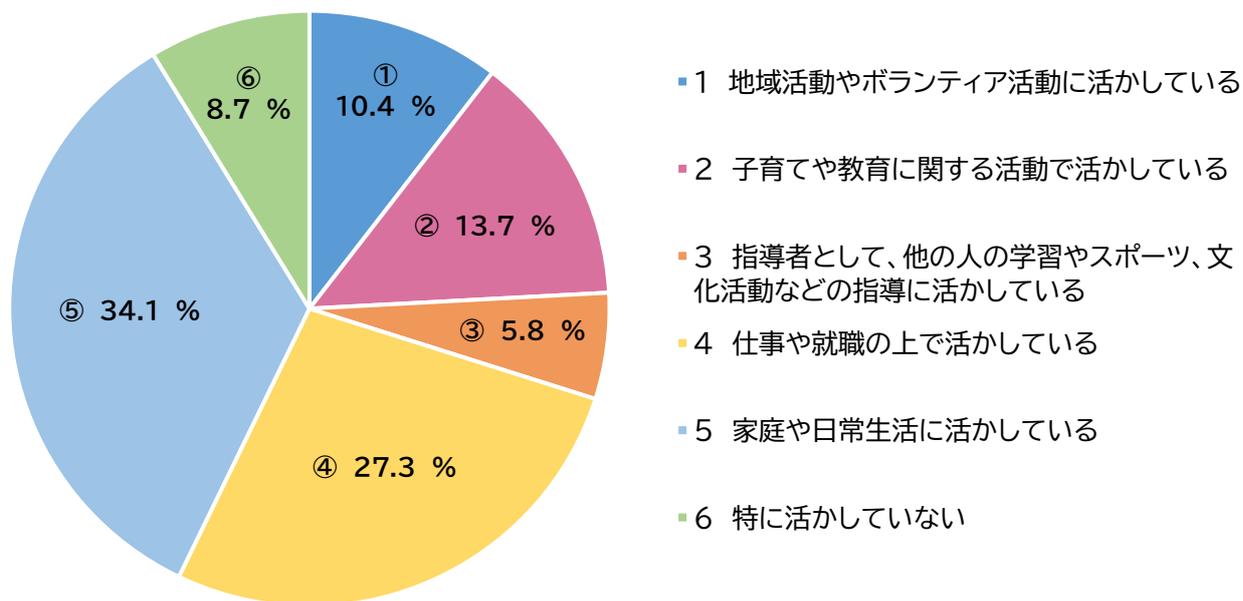
(n=808)

項目	回答数(件)	割合(%)
1 文化・芸術・スポーツに関すること	202	25.0
2 仕事・スキルアップに関すること	193	23.9
3 保険・医療・福祉に関すること	158	19.6
4 子ども・子育て・教育に関すること	102	12.6
5 ICT・科学技術・産業に関すること	121	15.0
6 その他	20	2.5
7 生涯学習に関心がない	12	1.5

その他回答(抜粋)

- 地域活動
- 語学
- 経済・金融に関すること
- ジェンダー、対人コミュニケーションなど
- 株や投資など資産運用に関すること
- 物理学、天文学、数学、宗教学、哲学
- 脳活、脳トレの認知症対策
- インターネット関係、パソコンの便利な使い方など

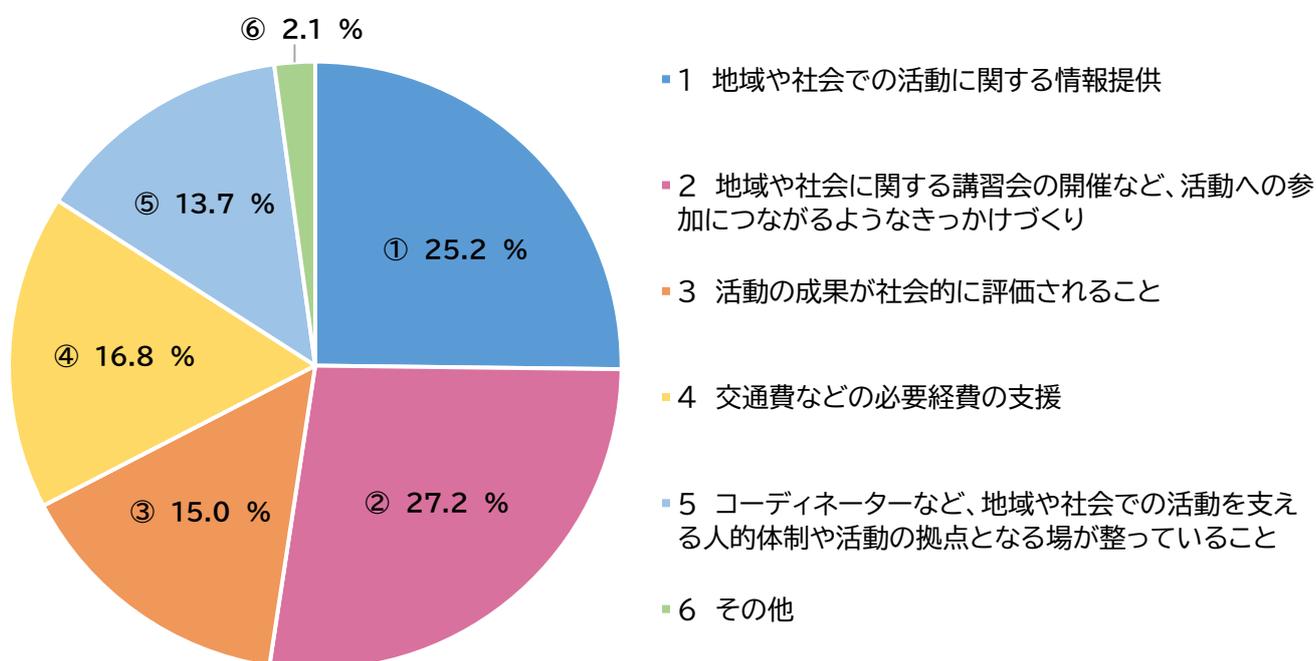
問 5 学習によって身につけた知識・技能や資格をどのように活かしていますか。(複数回答可)



(n=642)

項目	回答数(件)	割合(%)
1 地域活動やボランティア活動に活かしている	67	10.4
2 子育てや教育に関する活動で活かしている	88	13.7
3 指導者として、他の人の学習やスポーツ、文化活動などの指導に活かしている	37	5.8
4 仕事や就職の上で活かしている	175	27.3
5 家庭や日常生活に活かしている	219	34.1
6 特に活かしていない	56	8.7

問 6 多くの人が地域や社会への活動に参加するようになるためにはどのようなことが必要だと思いますか。(複数回答可)



(n=794)

項目	回答数(件)	割合(%)
1 地域や社会での活動に関する情報提供	200	25.2
2 地域や社会に関する講習会の開催など、活動への参加につながるようなきっかけづくり	216	27.2
3 活動の成果が社会的に評価されること	119	15.0
4 交通費などの必要経費の支援	133	16.8
5 コーディネーターなど、地域や社会での活動を支える人的体制や活動の拠点となる場が整っていること	109	13.7
6 その他	17	2.1

その他回答(抜粋)

- やっていて、楽しい、という気持ち
- オンラインで自宅でも参加できるとありがたい。
- 自治体職員が柔軟で協力的な資質であること
- 時間的・経済的な負担を軽減する工夫
- 子育て世帯や働き盛り世代でも参加しやすいよう、平日夜やオンラインでの学習・交流の場を設ける。託児サービスなど、参加へのハードルを下げる仕組みを整える。

- 働きやすい環境であることが何より大切だと考える。
- 子育てをしながら仕事や地域貢献にも取り組みたいと思っているが、希望する勤務時間と募集されている勤務時間との間に、常にミスマッチを感じている。
- 人と接するのが苦手なのでネットなどを介して何かできればいいと思う。
- 文字だけでなく、SNS や動画で場の雰囲気が伝わる情報が欲しい。
- 身近な人や信頼できる人からの声かけ。特にお年寄りは自分から情報を得ることが少ないと思うので、身近な人からのアプローチが必要だと思う。
- 気軽に参加できる場作り。友人と一緒にとこだったら参加しやすい。
- 実際に一人で講習会などに行くのは勇気があるため、街頭や公園でイベントのような形があると、多くの人に知ってもらうきっかけになるし、一歩目を踏み出しやすいと思う。
- 子育て世代は、託児サービスなどがあれば参加できる。
- 地域社会とのつながり

問 7 生涯学習について、これまでの設問以外に意見はありますか。

○地域貢献・地域社会との関わり

性別	年齢	回答
女性	50代	<p>生涯学習については、狭く考えれば趣味の延長の感覚です。仕事につながるものもあれば、生きがいづくりのようなものなのではないでしょうか。広い考えでは、社会に貢献できるものであるのがいいのかもしれませんが。退職してから思うことは、当初、パソコン教室でスキルをアップさせて、社会に置いて行かれないようにと考えていましたが、実際は、そのものをフルに使うこともないこと、交通費も収入があるわけではないので、自力で通える範囲だったり、自宅で学習できるものでいいと思うようになりました。他者とのかかわりは減少しています。</p> <p>また、年齢によって、生活様式自体が変わっていくので、必ずしも生涯学習といえるものを続けているのだろうかとも思っています。</p> <p>でも、大まかに見て、何かしら、世の中に関連するものを学習しているのだと、上記の質問で気が付きました。</p>
女性	50代	<p>地域や社会とのつながりがなくなることはどの世代にもマイナスでしかないと思っているので、楽しみながら生涯学習ができ、自然と社会や地域とのつながりがもてるような社会の仕組みにしてほしい。</p>
男性	30代	<p>生涯学習に興味を持つ県民同士の横のつながりが欲しいです。 (コミュニケーションの場の提供など)</p>
男性	40代	<p>大多数の高齢者が参加できる地域の取り組みが必要だと思う。 地域のつながりがなくなってきている。ラジオ体操がない地域もある。地域の運動会やお祭りなども縮小、無くなっているところもある。</p>
女性	60代	<p>生涯学習をしてみようと思える、地域の仲間や声をかけて一緒に学びたいと思える人材が大切だと思う。</p>
女性	40代	<p>公民館などの公共の施設をより充実させる。お年寄りだけでなく、子どもたちにも地域の人にも開かれた場所にする。 特に、公共の畑や大作業ができる場所を提供し、お年寄りのスキルを子供達や他の世代に伝えていくようなことをすれば、お年寄りの人材の活用、またお年寄りの認知機能、世代を超えた人との関わりが増え、各家族の子供達にもいい影響があるはず。</p>
女性	40代	<p>高齢になればなるほど生涯教育は大事。そういった、生活の中で関わる人が何人いるかは大事。</p>

○生涯学習機会・環境について

性別	年齢	回答
女性	30代	公民館での開催や市などの講座は、お年寄りが多い、少し堅苦しい、なんとなく暗いというか静かなイメージがあり、参加するのを躊躇うことがあります。また、市政だよりは興味が無いと目を通さないし、県や市の SNS もフォローしていない人が多いと思います。参加しやすい雰囲気や、もっと認知できる広告など発信があるといいかなと思います。
男性	50代	具体的にどういうことを学習できるのかを示してもらえれば、もっと意欲が湧いてくると思う。
女性	60代	公民館等で数年前まで受講していましたが、ほぼなくなり、低料金で受講できる講座をもっと増やして欲しいです。
男性	70代以上	生涯学習として図書館の存在は大きいと思いますが、交通機関の不便さ、駐車場があっても時間制限があったり、スペースも狭く不便を感じます。
男性	60代	やりたい気持ちはあるんだけど、年取ると学習することが億劫になってしまってます。気軽に手軽に取り組めればよいなあと思いました。
男性	60代	自分や家族に直結するような内容の講座を受けたいと思ってますが、中々見つけることができません。「あなたに合った内容はこれではないですか？」と自分に分かるようなツールを作って欲しい。
女性	30代	多くの人が地域や社会への活動に参加するようにするための提案ですが、お祭りやマルシェ等のトレンドの催し物で、地域住民(特に若い世代)の興味関心をひくことから始めるのが最初の一步だと思います。実際に、今年度から私達夫婦で町内会の役員を引き受け、0歳と2歳児を育てながらではあるものの、夏祭りを主催し近所の普通の公園にも関わらず900人をこえる来場者数を確保して成功させることができました。その中で、町内会活動をPRし、実際に活動に興味をもって今後もボランティアとして協力したいと申し出ていただいた方が想像以上に多く、さらには町内会に新規加入を検討したいと話して下さった方もいました。そのような成功体験を根拠に、この提案が効果的であることをお伝えしたく記載いたしました。
女性	60代	移動手段が主に車。 公共交通機関が、ないところは、歳を取ったら、そこがネックになると思う。
男性	50代	個人で好きにすれば良いと思う。 ただ、県の施設で色々なカルチャー教室があるのは、生活以外の人間関係を維持する上で意味があると思うので孤独死などを防ぐ意味では出来れば高齢者などが参加できるようなものが増えたら良いのかも知れない。

女性	60代	学びたい意欲はあるが、出かけて行くには交通の便が良くなかったり、夏は熱中症の危険があったりして申し込めない。オンライン講座にさせていただき、県内各地の講座に参加できれば嬉しいです。
男性	30代	大人になって「目の前の現実をどうにかしたい」という思いから、問題解決に向けて学習している人も私の周りにもいます。何をどうやって学んでいくのかの基本がある人となない人では差がついていく印象があるので、その人自身が今抱えている問題にアプローチできる学習スタイルの確立に向けて客観的なフィードバックを与えてくれるものがあるといいのではないかと。
女性	60代	無料講座を沢山開催してほしい。
男性	60代	マンションなどの集合住宅が増え、町内会や市民センター・公民館を基盤とした地域活動が行いにくい状況にあるので、新たな枠組みの新設や既存の枠組みに対する発想の転換が必要ではないでしょうか。
女性	50代	開催場所まで行くのに時間や費用がかかると、なかなか始められないので、オンラインで参加できるものが増えるとうれしい。
男性	50代	開催日が平日が多い。仕事を休んで行くことは難しい。
男性	40代	とにかくまだまだ「お母さん向け〇〇セミナー」や「ママさん向けマーケティング講座」などが多いです。もう令和なので、共働きが当たり前ですし、男性だって育休が取れる時代です。男性”も”参加できるようにもっともっと取り計らってください。
男性	40代	学ぶ意欲がある人はお金を払ってでも自ら探して継続している。問題は、経済的余裕がない人をどうやって参画させるかだと考える。
女性	50代	学習はしたいですけど、お金はそんなにかげられません。広報については、皆の目につくバス、地下鉄、スーパー、公民館などがいいかなと思います。
女性	60代	アミカス等公的機関で行きやすい場所でのワークショップの開催を希望します。

男性	40代	<p>子育てをしていると、「学びたい」「地域の活動に関わりたい」という気持ちはあっても、なかなか時間や環境の制約があって難しいのが現実です。だからこそ、生涯学習や地域活動に、子育て世代でも気軽に参加できる工夫があると嬉しいなと思います。</p> <p>例えば、子どもと一緒に参加できる講座や、活動の場にちょっとした「子どもスペース」があると安心ですし、地域の方が見守ってくださる仕組みがあると参加しやすくなります。オンラインや録画視聴など、すき間時間に学べる方法もとても助かります。</p> <p>また、学んだことを地域に活かせる場があると、学びが「自分のため」だけでなく「地域や子どものため」にもつながっていくのを実感できると思います。例えば、子育ての経験を活かして地域の子どもや保護者をサポートしたり、得意なことを小さな講座としてシェアできる機会があると嬉しいです。</p> <p>活動や学びの成果が地域の中で紹介されたり、感謝の声が届くと、「またやってみよう」と思えるきっかけになります。子どもにとっても、親が楽しそうに学んだり地域に関わったりする姿を見ることは、大きな学びになるはずですよ。</p> <p>子育て世代が無理なく小さな一歩を踏み出せる仕組みがあれば、もっとたくさんの人が自然に地域や社会とつながり、生涯学習を生活の中で楽しめると思います。</p>
男性	50代	<p>リスキリングに当たる学習と生涯学習に当たる学習との境目が曖昧になっている気がしており、生涯学習と思っていたイベントが、想像より専門性が高く、リスキリングを目指す受講者として扱われることで若干戸惑いを感じるような機会があると思います。講座内容のシラバス等、事前にどのような教育内容であるのかを開示することは、今後より重要になると考えられます。講師の質の保証についても、一定の水準を満たしているという表示等がないと、玉石混交の状況となり、生涯教育の提供側と需要側の認識ギャップが深刻化する可能性があると思います。</p>
女性	40代	<p>県民市民だよりに情報がありますが、平日が多く参加することができません。</p>
女性	60代	<p>複数回や年間通してでなく単発的な講座など参加しやすいよう工夫して欲しい。日常できないことが体験できるといいと思う。</p>
女性	60代	<p>気軽に参加できる会や講演会などがあると良い。</p>

男性	60代	<p>60歳の定年退職後、何もしないのもだめだと思い生涯学習に取り組んでいます。定期的なスケジュールに則って学習することで、規則正しい生活も続きますし、何より脳に刺激を与えていることがいいのではないかと感じています。</p> <p>もっと若い世代からより多くの学習の場を提供することで、のちに県に帰ってくると思います。そのためにはせっかくいろんな活動の場、活動団体等ありますので広報に力を入れてほしいと思います。(私自身は自らSNSで調べましたがもっと簡単に目にかかるような工夫があればいいと思います。TV、ネットでの県の広告等)</p>
女性	50代	<p>それほど興味が無くても、気軽に参加出来る場があれば良いと思います。</p>
女性	30代	<p>開催講座が基本的に平日で会社員だと興味があっても参加できないものが多い。全く対象にしていないのはどうかと思う。単発でも良いので土日開催を増やすべきだと思う。</p>
女性	50代	<p>コミュニティセンター等で興味のある講座が平日昼間開催のため、夜間や土日も選択肢があればいいなと思った事があります。</p>
男性	60代	<p>地域の生涯学習センターで言えば、利用者の年齢層が高齢層に偏りがちで、若年層や現役世代(子育て世代、勤労者)の利用が少ないと感じる。多様な世代のニーズに合ったプログラムの提供や、幅広い世代が参加しやすい時間設定(仕事や家事の合間に参加できる工夫)が必要だと思う。</p>
女性	50代	<p>時間やスペースの問題もあって、学びたい気持ちはあってもなかなか行動に移せないこともあります。もっと気軽に参加できるオンライン講座や、生活の中で自然に学べる仕組みが増えると嬉しいです。</p>
女性	60代	<p>学習しようと思っても具体的にどこで何をしてるかよくわからない。また、市や区によっても学べる場所の数にばらつきがある気がする。</p>
女性	40代	<p>平日昼間の開催が多すぎる。生涯学習の対象が全年代なのであれば、平日夕方や土日にも開催すべきである。</p>
女性	20代	<p>休日の参加しやすい日に開催する事が必要だと思う。</p>

女性	30代	生涯学習を行うことでのメリットが具体的に示されるとより興味を持ちやすかったり、身近に感じる事が出来るのではないかと思います。年齢や世代別、内容別などロールモデルがあると、より身近に感じる事が出来、興味をもつきっかけになるのではと思いました。また、家族と一緒に取り組めるような機会を設けてみると面白いと思います。例えば、親子で行う場合、子供の年齢が未就学児・小中学生と保護者や、高齢の親と成人の子供など様々な年齢や世代と一緒に参加したり取り組めることで、共通の内容を共有することで、生涯学習を行うことでもたらされる効果や意味合いを持つ事が出来るのではと思います。また、一人では無いく一緒に継続して参加や取り組みやすくなるのではないかと思います。
男性	40代	今の時代、学びたいものを、学びたいタイミングで自分の都合で学習がふえていると思います。通信教育や動画学習が増えたらいいと思います。
男性	20代	地域や社会での活動に関する情報提供は市報などを通じて見てはいるが、税金によって運営している市報や町報には「まちの掲示板」としての機能を付与してもよいように思う。市民の載せたい内容を投書として出したうえで、それが公序良俗に反しない限り、(時の政策批判であったとしても)掲載するべきであると思う。しかし紙面には限りがあるため、抽選などで掲載可否を決めるなどの方法はとっても良いと思う。 そうした言論空間の中で生涯学習や、地域での市民活動が醸成されるものとする。
女性	60代	県が行う講演会などを郡部でも開催してほしい。
女性	30代	語学を学びたいけど経済的に厳しいです。 外国人には日本語を学ぶ場が無料で提供されていたり、支援があるのに、多様性を強調するなら交流するためにも日本人に対してもっとそういう支援があってもいいと思う。
男性	40代	地域活動を積極的に行う人が高齢化していく中で、地元の若い世代のリーダー的な役割を担う人が圧倒的に少ない。私の住む嘉麻市でも地域活動の活発な地域とそうでない地域が分かれており、活発な地域であっても若年層のリーダー的役割の人が少ないように感じています。「日中は仕事がある」「自分の生活でいっぱい」「暇つぶい」など理由は考えられるが、地元への郷土愛が薄れていることなども一つの要因だと感じています。若年層が参加したいと思えるイベントを企画しながらその中で協力してもらえそうな人をピックアップできる仕組み作りなどが必要だと感じます。
女性	40代	地域食堂などの利用で公民館を利用される方が様々な年代でおられるので、そこで情報提供したり参加のお声かけをするのは効果があるのではないかと思います。

女性	40代	年をとっても、勉強したい時に勉強できる環境がほしい。安価で、誰でも大学の授業が受けられるとか、大学の先生が出前講座をしてくれるとか、地域のお医者様が公民館でお話ししてくれるなど、身近で勉強できる機会がほしい。講座がチラシや冊子になっていつでも見れたらいいなと思います。
女性	60代	アンケートをとるなどして、多くの人が望む講座を無料で設けていただけると有難いです。
男性	30代	宅建などのスキルを学ぶ場が欲しい。ないこともないが 例えば 18 時からとかでは働きながらの人は難しいので、19 時 30 分からとか、土日とかを検討してほしい。 地域の独居老人の交流の場は、認知機能維持などの面でも大切と思う。 老人は、こちらから出向いて情報提供しに行かないと、情報を自分からとりに行こうとかは思わない。 地域のスーパーに、やってきた老人を対象に説明するなどのきっかけが大切。

○生涯学習講座・イベント内容について

性別	年齢	回答
男性	60代	地域での歴史やイベントなど、関係したものが増えれば良いと思う。
男性	50代	自分の趣味や特技に関する学習内容だけでなく資格取得につながるような講座など幅広い内容がセッティングされていると良いと思う。
男性	70代以上	私立大学の通信教育部では、パソコンで講義を行う場合があり利用するのも面白いと感じている。公立大学でもあれば講義を聴きたい。
男性	70代以上	大学の生涯学習とか公民館でのサークルに参加したいと思うのですが、ピンとくるような学習がない。 参加してみないとその良さが解からないとも思うのですが一歩踏み込む事ができない自分があるのも確かなのですが。
女性	70代以上	魅力的な講座を開いてほしいです。

男性	70代以上	独居高齢者が増加しているので、とくに高齢男性向けの簡単料理教室が開催されると良いと思う。
女性	30代	高齢者向けのものが多いし若い主婦には参加しづらいものが多い。年代やターゲットをしぼったものの方が同じ感覚の人と一緒に活動できそうで参加しやすいです。
女性	50代	安価で資格取得が出来るような教室を推進してほしい。 楽しむことはとてもよいが、それだけで終わるのはもったいない。例えば、フラワーアレンジメントの資格取得など国や市町村からのたくさん助成があれば低所得の方々も社会でより活躍出来ると思う。

○関係機関との連携

性別	年齢	回答
女性	30代	大半の人が就労しているので、仕事に活かせるものや評価されるもの(履歴書に書けるような)で行政が主催共催されてるものが増えるといいなと思います。
男性	40代	市町村が生涯学習の環境を整えることは、住民の学び直しや趣味・交流の場を広げ、地域の活力や人とのつながりを生む点で非常に意義がある。特に福岡のように大学や文化施設が多く、歴史や伝統芸能に触れられる地域では、行政がその橋渡し役を担うことで学習機会がさらに広がり、地域の魅力や人材育成にもつながると思う。
男性	30代	漫画や映像作品等、多数のエンタメを紹介や利用してみてもどうか、経済や生涯学習の面から見てもコスパがよいのではと思います。福岡県出身の漫画家の紹介等。県政に対しても斬新で新しい試みかと思っています。

○学習成果の活用

性別	年齢	回答
女性	40代	様々な理由で仕事を持っていない人でも、学習や経験を続け、活かしたいと思っている人たちもいます。そのような人たちが直接でなくても、例えば直接的な活動している人たちに経験・知識・意見を伝えられる場があれば、みんなが活性化し地域に貢献でき、自信にもつながるかと思っています。
女性	60代	学んだ事をさらに活かせる場所を提供して欲しい。

女性	40代	仕事に繋げていけたらいいなと思います。
男性	60代	学習成果で地域や社会に貢献できる、即ち生涯現役のシナリオが描けていると、特に高齢者からの積極的な参加が期待できると思う。

○行政に望む施策・支援

性別	年齢	回答
女性	60代	参加しようとしても参加費用でくじけてしまう。一挙に無料にする度量を地方自治体にはもっていただきたい。
男性	30代	<p>学習や地域活動を促進するためには、まず市民に経済的・時間的な余裕を確保することが必要不可欠です。生涯学習は、本来ある程度の生活の豊かさの上に成り立つものであり、それは、“贅沢な行為”とも言えます。そのため、経済的に余裕のない人にも学びの機会をどう提供していくかが、大きな課題です。</p> <p>いくら学習意欲・成長意欲があっても、日々の生活に追われていては、学習や地域活動への参加は難しくなります。また、努力して学んだとしても、それが直ちに賃金上昇や生活改善につながるわけではないのが現実です。そんなに簡単なら勉強熱心で仕事の効率化を行ってきた日本だけが不景気になるわけがありません。社会全体の経済が冷え込んでいる中では、努力が報われにくいという構造的問題も無視できません。</p> <p>したがって、「学ぶことが生活の豊かさに直結する社会の実現」こそが、生涯学習推進の土台になるべきです。行政が取り組むべきは、県民が安心して学びに取り組めるよう、可処分所得の増加・労働時間の短縮などを通じて、金銭的・時間的余裕を創出する政策です。これに加え、経済の好循環を生む取り組みが必要であり、それなくして学習支援は形骸化してしまいます。</p> <p>もしこの本質を軽視すれば、学び意欲のある人材や、努力して技術を身につけた人たちは、他国に流出するリスクすらあります。それでは地域社会の衰退を招くだけです。生涯学習を本気で推進するのであれば、まず社会構造全体の改革とともに進めるべきです。</p>

女性	50代	地域に住む高齢者が多く活躍している、地域に住む外国人のための『日本語教室』で活動している。外国人の方々との交流は、高齢者の生きがい作りや地域の外国人に対する理解の促進など様々な利点がある一方、ボランティアの責務が重く、教材作りや交通費、ボランティア保険の負担など、全て持ち出しである。日々ボランティア間や外国人との間での学習を産む場でもあるので、こういった場に予算をつけて欲しい。
----	-----	--

○その他

性別	年齢	回答
男性	60代	いろんな人との交流で精神を活性化し、動くことで肉体的にも老化を防ぎ、それに加えて生きがいや楽しみにつながっていくことが理想と考える。
女性	40代	若い頃は年を取って時間が出来て楽しくするというイメージがありましたが、永年続けるのに今は年相応に必要性を感じました。
女性	20代	学習をするための気力を失っている人が多いと感じます。学習するための、時間・お金・体力などが大幅に不足しており、日々の可処分時間を惰性で過ごしている状態の人が多く肌で感じています。そもそもの豊かな社会づくりはもちろんですが、仕事や学校で学ぶもの以外の自由な分野での生涯学習の必要性や豊かさを学校や仕事の場でも認めていく。社会的に学習の時間を作るという取り組みが必要になってくるのではないのでしょうか？
男性	30代	私個人で、本業：機械設計・副業：動画制作(YouTube)をしております。 こういったスキルから、個人でスキルの活かせる副業をしております。 ですが、副業を探す際に求人などに載ってない、知人からの紹介などで仕事をもらったりします。 県としても、生涯学習で身につけたスキルが即活かせるように、求人紹介などあれば良いなと思います。
男性	40代	教える側の支援(謝礼等)も充実して欲しい。 そうすれば講座の質も上がってくる。
男性	40代	自己成長や社会参加を促す大切な活動だと思う。知識や技能を磨き続けることで、生活の質を高め、変化の多い時代にも柔軟に対応できると思います。

男性	60代	生涯学習は必要だと思うが、最初から成果を求めるとなかなか難しい。個人が知的好奇心や教養を深め、まず自らの成長を感じることができれば良しとした方がいいのではないかなと思う。そのような生涯学習を積み重ねることで、やがて成果を生かすようなことにつながっていくと思う。
男性	40代	学習は大事なのだが、学習の前に生活なので、それをやるための余暇や資金などのほうが問題になることが多いと感じる。機会こそ均等だとしても、余裕がある人しかできないものになってしまうのは良くないと感じる。
男性	30代	シニア層はある程度時間や経済的な余裕から生涯学習に取り組みやすい環境にあるかと思いますが、多くの人にはやはり時間的余裕、経済的余裕、社会的な安定感などある程度の心とカラダと暮らしの余裕がないと生涯学習へは意識が向かないと思います。 生涯学習が大事な取り組みであることは間違いないですが、もう少し社会の不安定さ不安感を取り除くことを優先した方が良いのではないのでしょうか。
男性	60代	幾つになっても学ぶことは大切であると考えています。
女性	40代	公民館など案内でもサークルや活動が具体期に知れるのは良いと思います。 やってみたい、気になるという気持ちが繋がっていくとよいなと思います。
女性	30代	興味を持つことは大切だと思う。学習をやめてしまったら、知能の低下、認知能力の低下にも繋がると思う。年配の方々に積極的に参加してもらいたいと思います。
女性	40代	自分のスキルを高めるための生涯学習はイメージしやすいが、地域の活動に活かすというのはどのようなことがあるのか具体例がよくわからない。職業としてなのか、ボランティアなのかによっても学習の取り組み方が違ってくると思う。
男性	40代	医療機関に勤めている為、医療関係、福祉関係の講座によく出席しています。市民向けにも様々な講座があっており、良いなと感じています。
男性	30代	生涯学習は、退職した年配の方がするイメージがあります。お金と時間に余裕がないと中々できないのが現実だと思います。社会人が仕事を休職等して大学院に進学しても給料も上がらないし、評価もされません。つまり、スキルアップしても活かす場が少ないのもまた現実です。副業禁止を禁止して、個々のスキルで稼ぎやすい社会を築くことが大切だと思います。

女性	50代	<p>生涯学習は、年齢問わず自分の関心に合わせて学び続けることができる大切な取り組みだと思います。学校教育が終わってからも、地域や社会の中で新しい知識や技術を身に着けることは、自己成長や生きがいにつながります。</p> <p>例えば、健康や防災、環境といった生活に直結する分野を学ぶことで、日常生活をより安心で豊かなものにできますし、趣味や文化活動を通じて仲間と交流し、なによりもつながりを深めることができると思います。また、オンライン学習の広がりにより、場所や時間にとらわれず、自分のペースで学べる環境が整いつつあり、誰もが参加しやすくなっていることも魅力の一つです。すべての人が無理なく、取り組める学びの場を充実させることが、社会全体の活力向上にもつながるといえるのではないのでしょうか。</p>
男性	60代	<p>自分で学ぼうとする気持ちが大切。人に教えてもらうという受け身では続かないと思うし、向上しない。ひとりで学べる仕組みが理想。</p>
女性	40代	<p>仕事や家事、育児、介護に追われて、生涯学習どころではない方が多いのではないだろうか。</p> <p>自分の生活にゆとりがないと生涯学習どころではない。時間、経済ともにゆとりがある生活ができている人が趣味を持ち、勉強を続ける事ができている。</p>
女性	30代	<p>県内にも各市町村でいくつか生涯学習センターを見かけるが、必要性の有無を問いたい。建設費用維持管理費含めて、本当に必要だろうか。</p>
男性	60代	<p>図書の閲覧等だけの場としての図書館でなく、集い、学び、過ごす場というコンセプトで運営していただきたいと思います。</p>
男性	30代	<p>学習の必要性を感じている人は年々感覚的に増えているが、フルで仕事をしている層はなかなか時間的余裕がないだろうと思う。</p>
女性	60代	<p>公民館での、健康料理教室に参加しているが、初めて会った人とも話など情報交換ができて良い経験になるし、食事にも気をつけてようと思う。</p>

女性	60代	<p>現在、年齢的なことを考えると、今後の私の関心のある学びは「文化・芸術・地域歴史」に関することです。仕事に直結する中身や何かの活動に生かせる中身は、あまり期待も関心もないかなと思います。自分自身の残りの時間を充実できることが、やはり最優先。その延長線上に「他者の役に立てれば」的な活動はあります。「孤独老人」にならないためにも、様々な所で「学習」できることは必要であり、行政が率先してその場を提供してくれることには賛成です。ただし、「ボランティアをしましょう」ありきの講座などは、二の足を踏むケースが多いように思います。</p>
女性	40代	<p>1.託児サービスや親子参加型プログラムの充実 小さな子どもを持つ親にとって、学びの機会があっても「子どもを預けられない」ことが大きな壁になっています。 会場に一時預かり保育を併設したり、親子で一緒に参加できるワークショップを企画することで、参加ハードルが下がります。</p> <p>2.オンライン・ハイブリッド形式の拡充 移動や時間の制約が大きい子育て世代には、自宅から参加できるオンライン講座が有効です。 特に録画配信やオンデマンド型を導入すれば、授乳や寝かしつけの合間などに柔軟に学べます。</p> <p>3.短時間・モジュール型プログラムの導入 長時間拘束される学習会は参加が難しいため、30分～1時間程度のミニ講座やシリーズ化した短期コースが望ましいです。</p> <p>4.テーマの多様化(子育て世代に直結する内容) 育児や教育、家計管理、キャリア形成、健康(心身のセルフケア)など、子育て世代のニーズに即したテーマを取り入れることが参加意欲につながります。</p> <p>5.地域交流と学びの融合 生涯学習を通じて、同世代の親同士がつながれるような仕組み(交流会、カフェ形式、SNSでのフォローアップ)を取り入れると、孤立感の解消にも寄与します。</p> <p>6.行政・企業・教育機関の連携 行政が主催するだけでなく、大学や地元企業、NPOなどと協力して幅広いプログラムを提供すれば、多彩な学びの場が広がります。</p>



「学び」の情報をお探しのあなたへ！

「ふくおか生涯学習ひろば」で 新たな学びをみつけてみませんか？

学びでつながる みんなの未来
ふくおか生涯学習ひろば
福岡県生涯学習情報提供サイト

初めて利用される方へ
情報発信！
学習情報の発信(登録・更新)はこちらから

音声読み上げ
文字サイズ 小 標準 大

サイト内検索 検索

HOME 学ぶ 活かす 活動レポート お役立ち情報 お知らせ

生涯学習マスコット「マナビィ」

NEW

最新!!
学びの最新情報

お知らせ NEWS [一覧はこちら >](#)

- 2026年1月7日
【福岡県立社会教育総合センター】子育てWEB講座「学童期編」（ふくおか子育てパーク）
- 2025年12月25日
福岡県内市町村の生涯学習推進体制等に関する情報を掲載しました。
- 2025年11月20日
【九州歴史資料館】令和7年度九歴講座（12月～3月）・九歴ゼミのご案内
- 2025年11月11日
【福岡県立社会教育総合センター】子育てWEB講座「乳幼児期編」（ふくおか子育てパーク）

条件を絞って検索できます！

学ぶ
LEARN

学びをさがす
SEARCH

最新！学びの最新情報

紹介コーナー（活動・講座）

NEW!

花育キッズ

2/14 (土)
12:30-15:00

開催日：2026年2月14日
【博多市民センター】花育キッズ

NEW!

福岡県アーバンスポーツ体験会

開催日：2026年2月15日
【飯塚市】福岡県アーバンスポーツ体験会

NEW!

あなたの研究成果を発表しませんか？
自主研究発表会

2月21日(土) 募集中!

開催日：2026年2月21日
【九州歴史資料館】ボランティア自主研究交流会

レポート

学ば

開催日：2025年5月11日
【（社）福岡県聴覚障害者協会災害対策部】

「ふくおか生涯学習ひろば」では、生涯学習に関するさまざまな情報をお届け！

○県内の大学や県の施設等が実施している学習情報

○様々な機関・団体のホームページとリンクして、リカレント教育(学び直し) やスキルアップ、大学の公開講座、ボランティア活動につながる情報



令和7年度 県政モニターアンケート調査

テーマ：福岡県内の世界遺産について

福岡県 人づくり・県民生活部 文化振興課

九州国立博物館・世界遺産室

1 調査の目的

世界遺産とは、「世界の文化遺産及び自然遺産の保護に関する条約(世界遺産条約)」に基づき、顕著な普遍的価値を有するものとして、世界遺産リストに記載された遺産である。「文化遺産」、「自然遺産」、両方を兼ね備えた「複合遺産」の3種類からなり、国や民族をこえて人類が共有するべき遺産とされている。

福岡県内には、「明治日本の産業革命遺産 製鉄・製鋼、造船、石炭産業」(平成27年7月登録)と『『神宿る島』宗像・沖ノ島と関連遺産群」(平成29年7月登録)の2つの世界文化遺産がある。

本アンケートは、福岡県内に所在する世界遺産の認知度を把握するとともに、世界遺産としての価値発信の在り方等について今後の事業の参考とする。

2 調査期間

令和7年9月9日(火)～10月5日(日)(第3回)

3 回答者の構成

項目		計		北九州	福岡	筑豊	筑後
		人数(人)	構成比				
総数	人数	366		92	191	27	56
	構成比		100.0%	25.1%	52.2%	7.4%	15.3%
性別	女性	191	52.2%	49	101	12	29
	男性	172	47.0%	41	90	15	26
	その他	3	0.8%	2	0	0	1
年代別	20代以下	55	15.0%	13	30	3	9
	30代	60	16.4%	15	31	5	9
	40代	75	20.5%	18	39	6	12
	50代	63	17.2%	17	33	4	9
	60代	76	20.8%	21	34	8	13
	70代以上	37	10.1%	8	24	1	4

モニター数 399人

回答数 366人

回収率 91.73%

実施期間 R7.9.9～R7.10.5

【回答結果の注意点】

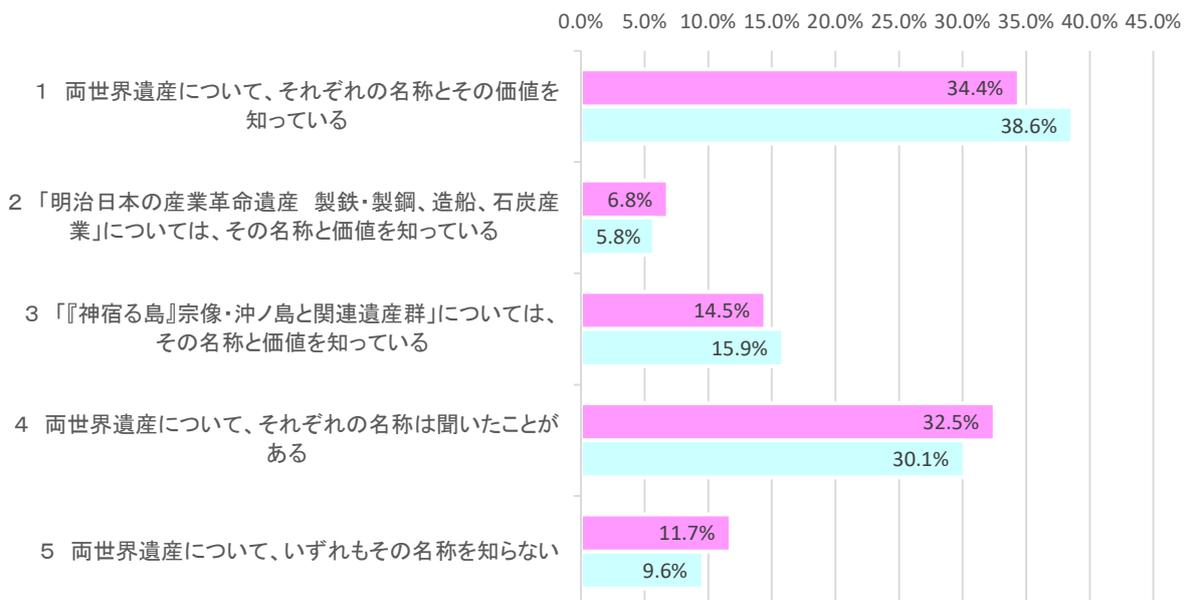
集計は小数点以下第2位を四捨五入しているため、回答比率の合計は、必ずしも100%にならない場合がある。

2以上の回答(複数回答)を要する設問の場合、その回答比率の合計は、100%を超える場合がある。

4 回答結果

問1 「明治日本の産業革命遺産 製鉄・製鋼、造船、石炭産業」及び「『神宿る島』宗像・沖ノ島と関連遺産群」についてそれぞれの名称とその価値について知っていますか。
次の中から当てはまるものを【1つだけ】選んでください。

	R7年度 (回答者数366人)		R6年度 (回答者数365人)	
	人数	割合	人数	割合
1 両世界遺産について、それぞれの名称とその価値を知っている	126 人	34.4%	141 人	38.6%
2 「明治日本の産業革命遺産 製鉄・製鋼、造船、石炭産業」については、その名称と価値を知っている	25 人	6.8%	21 人	5.8%
3 「『神宿る島』宗像・沖ノ島と関連遺産群」については、その名称と価値を知っている	53 人	14.5%	58 人	15.9%
4 両世界遺産について、それぞれの名称は聞いたことがある	119 人	32.5%	110 人	30.1%
5 両世界遺産について、いずれもその名称を知らない	43 人	11.7%	35 人	9.6%

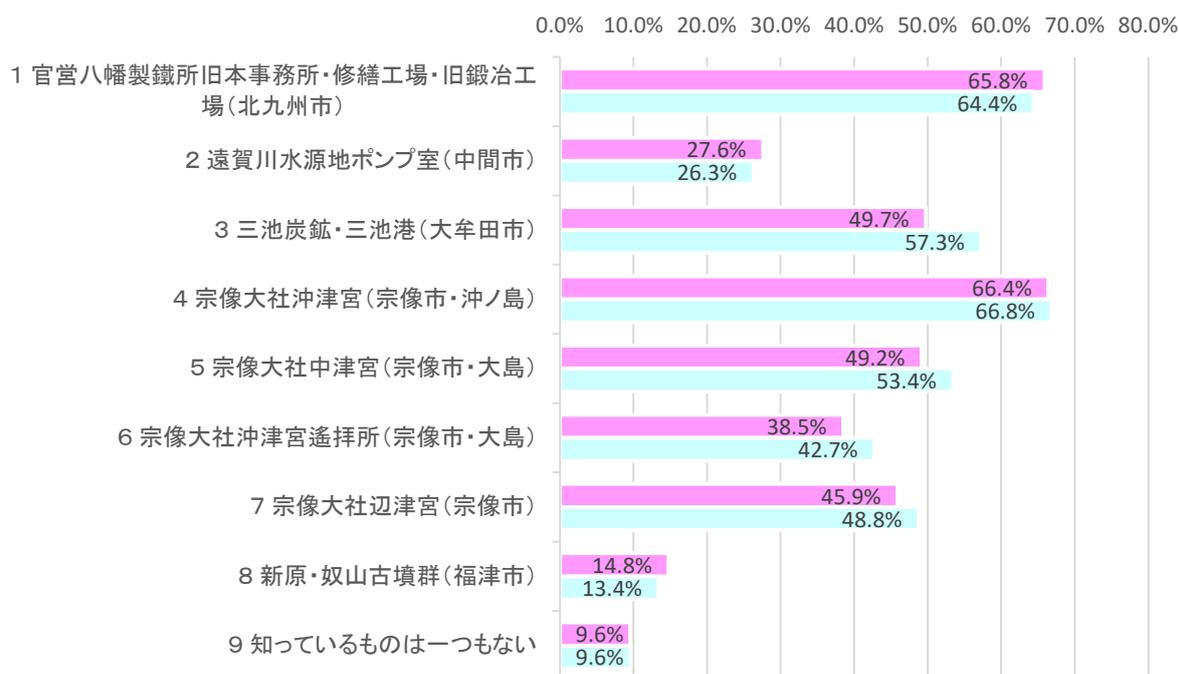


【問1の調査結果より】

・本県にある世界遺産について、少なくとも名称を知っている割合は、「明治日本の産業革命遺産 製鉄・製鋼、造船、石炭産業」(1、2及び4の合計)で73.7%(前年比▲0.8ポイント)、「『神宿る島』宗像・沖ノ島と関連遺産群」(1、3及び4の合計)では81.4%(前年比▲3.2ポイント)と認知度が低下している。
・また、「両世界遺産について、いずれもその名称を知らない」と回答した方の割合は11.7%(前年比+2.1ポイント)と増加している。

問2 「明治日本の産業革命遺産 製鉄・製鋼、造船、石炭産業」及び「『神宿る島』宗像・沖ノ島と関連遺産群」について知っている構成資産はありますか。
次の中から当てはまるものを【すべて】選んでください。

	R7年度 (回答者数366人)		R6年度 (回答者数365人)	
	人数	割合	人数	割合
1 官営八幡製鐵所旧本事務所・修繕工場・旧鍛冶工場(北九州市)	241人	65.8%	235人	64.4%
2 遠賀川水源地ポンプ室(中間市)	101人	27.6%	96人	26.3%
3 三池炭鉱・三池港(大牟田市)	182人	49.7%	209人	57.3%
4 宗像大社沖津宮(宗像市・沖ノ島)	243人	66.4%	244人	66.8%
5 宗像大社中津宮(宗像市・大島)	180人	49.2%	195人	53.4%
6 宗像大社沖津宮遙拝所(宗像市・大島)	141人	38.5%	156人	42.7%
7 宗像大社辺津宮(宗像市)	168人	45.9%	178人	48.8%
8 新原・奴山古墳群(福津市)	54人	14.8%	49人	13.4%
9 知っているものは一つもない	35人	9.6%	35人	9.6%



【問2の調査結果より】

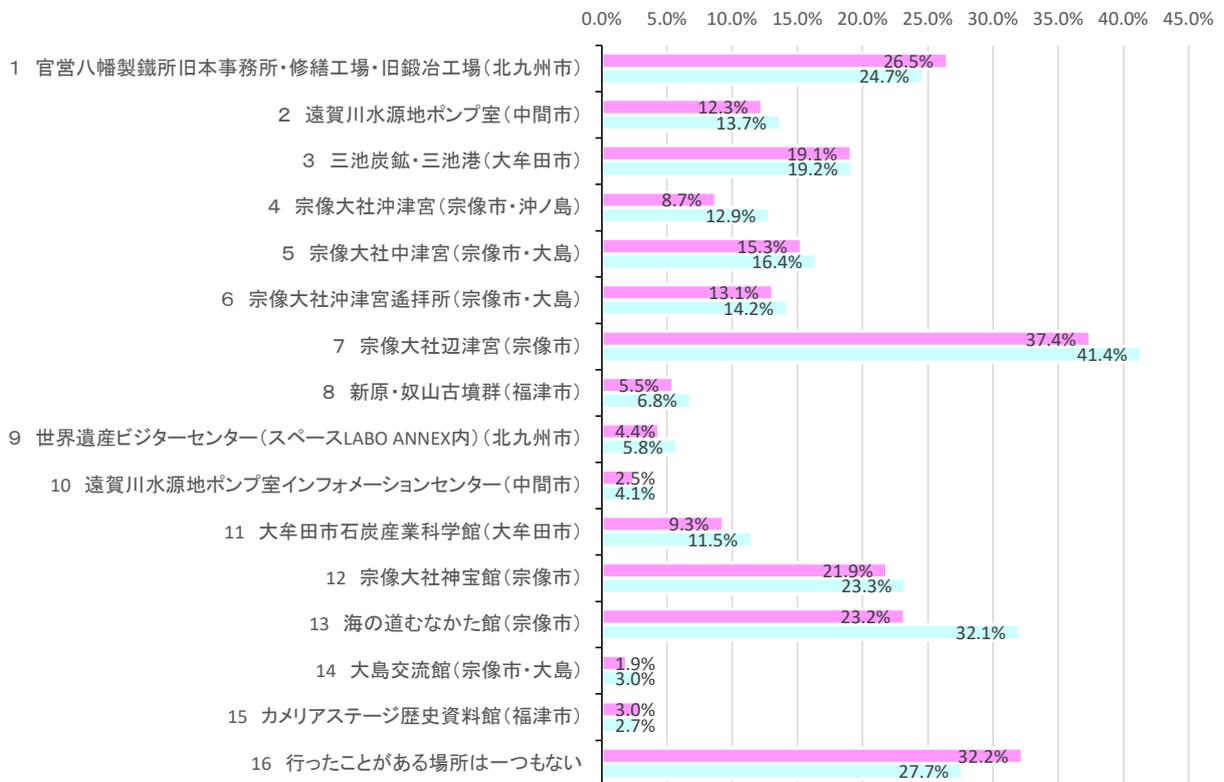
官営八幡製鐵所旧本事務所・修繕工場・旧鍛冶工場(北九州市)、遠賀川水源地ポンプ室(中間市)及び新原・奴山古墳群(福津市)は対前年度比で認知度が増加しているが、その他の場所は微減となっている。

問3 「明治日本の産業革命遺産 製鉄・製鋼、造船、石炭産業」及び『神宿る島』宗像・沖ノ島と関連遺産群」の構成資産や関連する展示施設のうち、行ったことがある場所はどこですか。

次の中から当てはまるものを【すべて】選んでください。

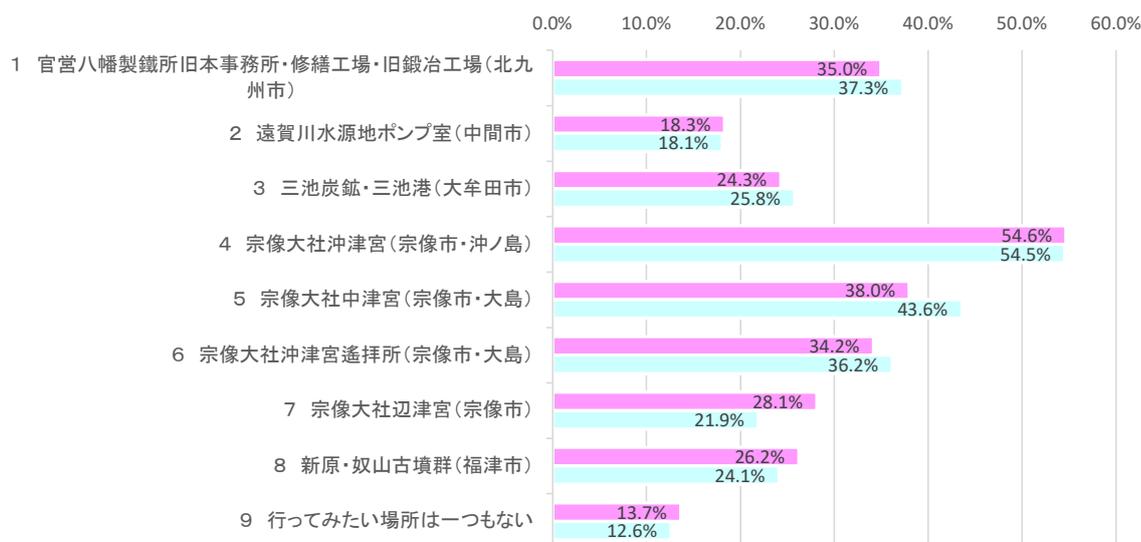
※選択肢1～8は構成資産、9～15は関連する展示施設です。

	R7年度 (回答者数366人)		R6年度 (回答者数365人)	
	人数	割合	人数	割合
1 官営八幡製鐵所旧本事務所・修繕工場・旧鍛冶工場(北九州市)	97人	26.5%	90人	24.7%
2 遠賀川水源地ポンプ室(中間市)	45人	12.3%	50人	13.7%
3 三池炭鉱・三池港(大牟田市)	70人	19.1%	70人	19.2%
4 宗像大社沖津宮(宗像市・沖ノ島)	32人	8.7%	47人	12.9%
5 宗像大社中津宮(宗像市・大島)	56人	15.3%	60人	16.4%
6 宗像大社沖津宮遙拝所(宗像市・大島)	48人	13.1%	52人	14.2%
7 宗像大社辺津宮(宗像市)	137人	37.4%	151人	41.4%
8 新原・奴山古墳群(福津市)	20人	5.5%	25人	6.8%
9 世界遺産ビジターセンター(スペースLABO ANNEX内)(北九州市)	16人	4.4%	21人	5.8%
10 遠賀川水源地ポンプ室インフォメーションセンター(中間市)	9人	2.5%	15人	4.1%
11 大牟田市石炭産業科学館(大牟田市)	34人	9.3%	42人	11.5%
12 宗像大社神宝館(宗像市)	80人	21.9%	85人	23.3%
13 海の道むなかた館(宗像市)	85人	23.2%	117人	32.1%
14 大島交流館(宗像市・大島)	7人	1.9%	11人	3.0%
15 カメラステージ歴史資料館(福津市)	11人	3.0%	10人	2.7%
16 行ったことがある場所は一つもない	118人	32.2%	101人	27.7%



問4「明治日本の産業革命遺産 製鉄・製鋼、造船、石炭産業」及び「『神宿る島』宗像・沖ノ島と関連遺産群」の構成資産のうち、今後行ってみたい場所はありますか。
次の中から当てはまるものを【すべて】選んでください。

	R7年度 (回答者数366人)		R6年度 (回答者数365人)	
	人数	割合	人数	割合
1 官営八幡製鐵所旧本事務所・修繕工場・旧鍛冶工場(北九州市)	128人	35.0%	136人	37.3%
2 遠賀川水源地ポンプ室(中間市)	67人	18.3%	66人	18.1%
3 三池炭鉱・三池港(大牟田市)	89人	24.3%	94人	25.8%
4 宗像大社沖津宮(宗像市・沖ノ島)	200人	54.6%	199人	54.5%
5 宗像大社中津宮(宗像市・大島)	139人	38.0%	159人	43.6%
6 宗像大社沖津宮遙拝所(宗像市・大島)	125人	34.2%	132人	36.2%
7 宗像大社辺津宮(宗像市)	103人	28.1%	80人	21.9%
8 新原・奴山古墳群(福津市)	96人	26.2%	88人	24.1%
9 行ってみたい場所はありません	50人	13.7%	46人	12.6%

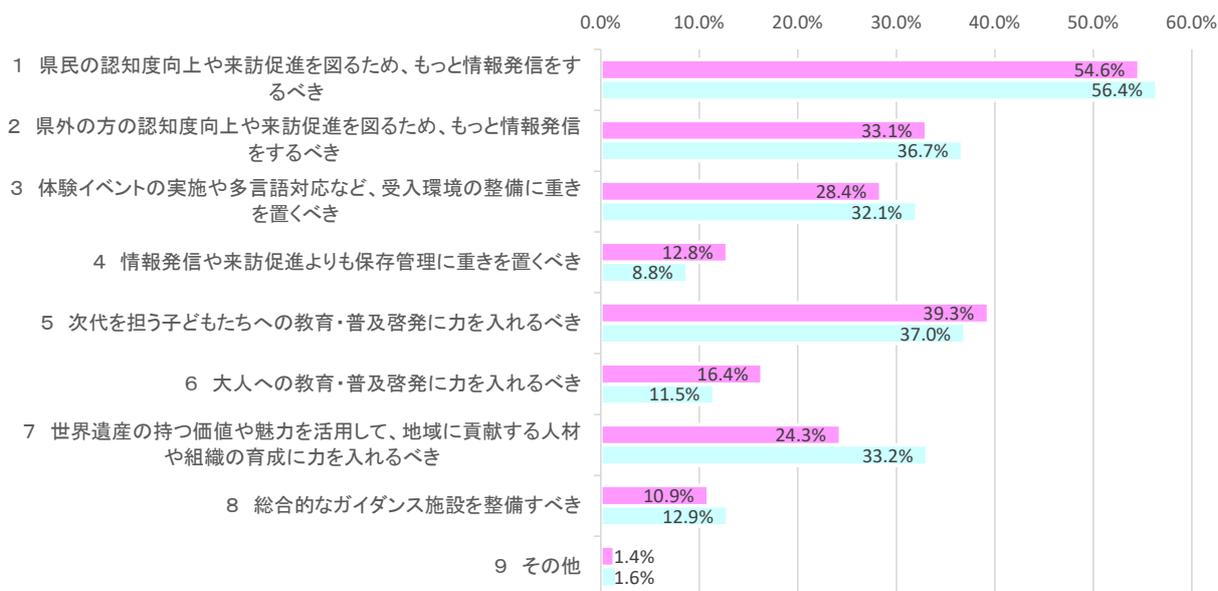


【問3、4の調査結果より】

- ・両世界遺産の構成資産や関連する展示施設に「行ったことがある場所は1つもない」という回答が前年度に引き続き約3割に上ることから、来訪促進を図る取組を継続していく必要がある。
- ・宗像市・大島の構成資産である宗像大社中津宮や沖津宮遙拝所について、「行ったことがある」方は2割に満たないのに対し、「行ってみたい」と回答した方は約4割となっており、潜在的な来訪ニーズが高いことが確認できる。また、上陸禁止である宗像大社沖津宮へ行ってみたいという回答は5割を超えており、関心の高さが明確となった。
- ・構成資産や関連する展示施設によって、来訪の有無の差が大きいことから、両世界遺産の構成資産や関連施設が連携する周遊促進イベントが有効であると考えられる。

問5 福岡県内の世界遺産について、優先的に取り組んで欲しいことは何ですか。
次の中から最も当てはまるものを【3つまで】選んでください。

	R7年度 (回答者数366人)		R6年度 (回答者数365人)	
	人数	割合	人数	割合
1 県民の認知度向上や来訪促進を図るため、もっと情報発信をするべき	200人	54.6%	206人	56.4%
2 県外の方の認知度向上や来訪促進を図るため、もっと情報発信をするべき	121人	33.1%	134人	36.7%
3 体験イベントの実施や多言語対応など、受入環境の整備に重きを置くべき	104人	28.4%	117人	32.1%
4 情報発信や来訪促進よりも保存管理に重きを置くべき	47人	12.8%	32人	8.8%
5 次代を担う子どもたちへの教育・普及啓発に力を入れるべき	144人	39.3%	135人	37.0%
6 大人への教育・普及啓発に力を入れるべき	60人	16.4%	42人	11.5%
7 世界遺産の持つ価値や魅力を活用して、地域に貢献する人材や組織の育成に力を入れるべき	89人	24.3%	121人	33.2%
8 総合的なガイダンス施設を整備すべき	40人	10.9%	47人	12.9%
9 その他	5人	1.4%	6人	1.6%



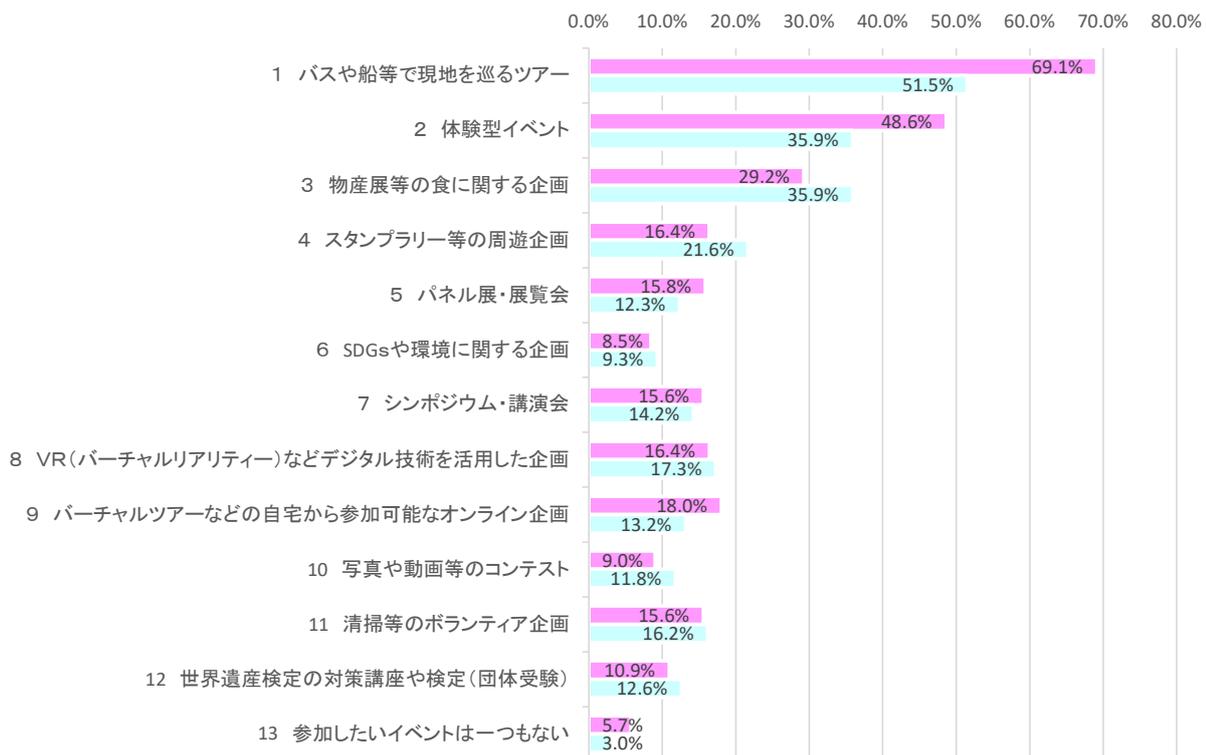
【問5の調査結果より】

- ・「認知度向上や来訪促進を図るため、もっと情報発信をするべき」との回答が多いことから、引き続き県内外に向けた情報発信が求められている。
- ・「次代を担う子どもたちへの教育・普及啓発に力を入れるべき」との回答が昨年に引き続き割合が高く、子どもが楽しみながら世界遺産について学ぶための取組を今後も継続していく必要がある。
- ・「大人への教育・普及啓発に力を入れるべき」との回答が昨年に比べ、増加していることから、大人向けの教育・普及啓発の取組みが求められている。

問6 今後世界遺産に関するイベント等が開催されたら参加したいものはありますか。

次の中から当てはまるものを【すべて】選んでください。

	R7年度 (回答者数366人)		R6年度 (回答者数365人)	
1 バスや船等で現地を巡るツアー	253 人	69.1%	188 人	51.5%
2 体験型イベント	178 人	48.6%	131 人	35.9%
3 物産展等の食に関する企画	107 人	29.2%	131 人	35.9%
4 スタンプラリー等の周遊企画	60 人	16.4%	79 人	21.6%
5 パネル展・展覧会	58 人	15.8%	45 人	12.3%
6 SDGsや環境に関する企画	31 人	8.5%	34 人	9.3%
7 シンポジウム・講演会	57 人	15.6%	52 人	14.2%
8 VR(バーチャルリアリティ)などデジタル技術を活用した企画	60 人	16.4%	63 人	17.3%
9 バーチャルツアーなどの自宅から参加可能なオンライン企画	66 人	18.0%	48 人	13.2%
10 写真や動画等のコンテスト	33 人	9.0%	43 人	11.8%
11 清掃等のボランティア企画	57 人	15.6%	59 人	16.2%
12 世界遺産検定の対策講座や検定(団体受験)	40 人	10.9%	46 人	12.6%
13 参加したいイベントは一つもない	21 人	5.7%	11 人	3.0%



【問6の調査結果より】

- ・ツアーや体験型イベント、物産展等の食に関する企画など、世界遺産を身近に感じられるイベントや企画への需要が大きい。
- ・VRなどのデジタル技術を活用した企画やオンライン企画に参加したいとの回答が2割程度あった。
- ・パネル展・展覧会、シンポジウム・講演会、検定など、世界遺産について学ぶ機会を提供する取組みの継続が求められている。

問7 福岡県内の世界遺産について、これまでの設問以外に意見はありますか。
ある場合は、その内容を具体的に入力してください。

【一部抜粋(回答者数104人)】

教育の推進
学校教育や地域イベントを通じて、子どもや若い世代に「自分たちの遺産」という意識を育むことが必要です。
世界遺産になるほどの歴史、背景があるはず。それを次代にしっかりと継承できるための教育が必要。
現地に行くのと行かないのでは、その後の興味の持ち方などが全然違ってきますので、出来れば子どもたちに、学校の社会見学や地域のイベントで足を運んで、子どもたちが興味を持つような教育をして欲しいです。
広報・啓発
せっかくの世界遺産なので、県の内外を問わずに多くの人に知ってもらい見てもらった方が良くと思います。人知れずひっそりとしているのは宝の持ち腐れで大変もったいないです。
世界遺産の指定の際にニュースや特集番組等をテレビで見た記憶はあるが、その後に世界遺産に関する話題を目にすることはめっきり減ったと感じている。定期的なイベントが行われる際に現場を知事が訪れる様子をぜひ目にしたいと思いました。そして、世界遺産に子供と一緒に掛ける際の推奨プランについても、調べてみたいと思いました。これまで、そのようなプラン提示は行われていると思いますが、定期的に何度かその告知を目にしたいと思います。「この世界遺産めぐりのプラン、前から気になっていたんよね、今度の休みに行ってみよう」というきっかけになるには、何らかの媒体で何度か目にしないと達成できない気がしています。
もう少し、認知度を高めるために広報の頻度や工夫をしてほしい。
世界遺産であることを もっと全国にPRして欲しい。
県民が世界遺産について知る機会が増えるようにした方がいい。例えば小学生とか中学生のときに触れる機会をつくるか。私はずっと福岡にいたけど全然知らないです、、、。
現在、世界遺産の紹介や保全を目的として、どういう事業を行い、それにどれくらいの予算を使ったかを公開(宣伝)して欲しい。そして今後については、世界遺産に関してどんなイベントや事業を計画しているかを予算付きで公開し、人気投票を行ったうえで、人気の高いものについてはクラウドファンディングなども活用して予算を集めて、実現して欲しい。
イベント・ツアーの企画・開催
世界遺産に関するイベントをする目的や根拠を明確にすべきと思う。
バスツアーも無料にして、昼ランチも美味しいものを提供して広めたり普及するように積極的に展開していく。すると、その方々の口コミやSNSで知らされる。
せっかくの世界遺産でも、整備の仕方などによって違いがあるのはもったいないように感じる。無理やりまとめて世界遺産にした感はないので、離れているのは仕方がないけれど、まとめて訪れることができるツアーなどがあると参加してみたいと思う。
アクセスや紹介方法についても、点在していることを逆手にとった“周遊型デジタルガイド”や“地域別の深堀型イベント”などがあれば、より親しみやすくなると思います。
日本はアニメ大国なのでアニメや漫画とコラボさせるのがいいと思います。例えば今ですと名探偵コナンや鬼滅の刃、ちいかわなど、老若男女問わず人気の作品であれば、県内だけでなく県外、海外からの訪問も見込めます。
デジタル技術を活用した情報発信VR(仮想現実)やAR(拡張現実)などのデジタル技術の活用をおこない、実際に現地に行きたくするような取り組みや行けない人への支援。
子どもにとって、難しい歴史の話や専門用語は理解が難しいので、もっと身近に感じられる工夫が必要だと思います。例えば、キャラクターを使った解説パンフレットや、親子で参加できるクイズラリー、スマホをかざすと遺産の昔の姿が見えるAR体験などがあれば、遊びながら自然と理解が深まります。また、学校と連携して授業の一環で訪問できたり、オンラインで学べる教材や動画が整備されれば、家庭や学校で世界遺産を身近に感じられると思います。
スタンプラリー形式で四季を味わう、特典のあるツアーに行きたい。
福岡県内の世界遺産も魅力的なものは複数あるがそれぞれが点として存在しているイメージがあるため福岡県下の世界遺産を線や面で結ぶような企画や取り組みをおこなうとよいのではないかと。
特別支援学校に通う生徒など、普段外出が難しい子ども達に、オンラインで世界遺産を観せてほしい。
教養としてというよりも体験型イベントを通じて、身近な存在となるような企画を期待します。
認知を広げる為に子供達に学んでもらえる場づくりをお願いしたいです(遠足などで)大人も知らないもので、バスツアー(難しいかもしれませんが、無償もしくは格安で)を行ってもらえると嬉しいです。
インフラ整備
車がないので公共交通機関で行くためのお得なパスや交通費の補助などあればいきやすい。また行き方のガイド、バス電車などの時刻表などあれば行きやすい。
世界遺産は素晴らしい物だと思います。しかし、とにかく交通の便が悪すぎます。PRしてもレンタカー借りないと回れない、行きにくいので何とかして欲しい。
交通事情が整い、行きたいときに行かれるようになると嬉しい。
交通の便が良くなればもっと行きやすくなる。休日に博多や天神からの直行バスなどがあればもっと行きやすくなる。
天神や博多に行くと、国際会議場や福岡タワー、PayPayドーム、太宰府直行バスは見かけますが、世界遺産までの直行バスをあまり見かけません。交通の便がよくなれば、行きたい人も増えると思います。あと、その周辺の食のスポットももっと紹介してほしいです。糸島に習うことが多いと思います。
もっと世界遺産のところは整備して名所にしたい方がいいと思う。
世界遺産として登録することにより、観光客が増える等のメリットはあると思いますが、それによるデメリット(交通渋滞、ごみ問題等)があるので、PRする際は、それらの対策とセットで行うべきと考えます。

管理・保全
世界遺産になると沢山の人が関心を持ち現地に来てくれると思いますが、最近の世の中のニュースを見ていると不審者やマナーの守れない人たちがいることに頭が痛くなります。知ってほしいと思う反面、セキュリティや保存についても気になる場所です。 管理に莫大な年月と費用がかかりますが、荒らされるぐらいなら現地現物は守りに徹し、バーチャル機能を使うことも必要なのではと思います。 お手間はかかりますが、時期や人数を制限し見学のルールをしっかりと守れると制約できる方に案内することもやむを得ないのでは。 ただ保管保存のみでは関心が広がらないかもしれないので難しい所だと思います。
世界遺産の保全に力を入れて欲しい。また、世界遺産への迷惑行為に対する罰則を強化してほしい。
世界遺産として保存するのに地元の負担が過大にならないようにしてほしい。
歴史ある建築物や特産物は日本と福岡を象徴する物なので、しっかり保存管理をしてほしいのは当たり前として、最近では外国人(移民・旅行者)の手によって意図的に傷つけられたり壊されたりといったニュースを耳にするのでしっかりした対策と、もしそのような事件が起きてしまった場合には相応の処分を下せるような条例などの整備をお願いしたいです。
世界遺産を認知していただくのは良い事だとは思いますが、オーバーツーリズムになり、せつかくの遺産の景観などが荒らされる懸念もあります。それをどのように守っていくかが課題となると思います。
県内に世界遺産があることは県民として誇らしいと思います。ぜひその保護に力を入れていただき、いたづらに人集めをしてしまって周辺地域含めてごみ、騒音問題等が起きることが内容に取り組んでいただきたいと思っています。
世界遺産は、人類が長い歴史の中で気づき守ってきた文化や自然の貴重な財産であり、未来へ受け継ぐべき大切な遺産と考えます。歴史を学ぶ場であり、重要な役割を果たしている。
世界遺産として保存するのに地元の負担が過大にならないようにしてほしい。観光だけでは保存は無理だろう。
世界遺産認定に関する意見
世界遺産がおおすぎで！世界遺産になることのメリットを教えてもらえたら、もっと協力を得られるのではないかな。
世界遺産に登録されることでその場所が観光地化され、最初は多くの観光客が訪れて賑わうが、その賑わいは長くは続かないことも多い。長く県民に愛され大切にされる施設とするためには派手さだけでなく地道な地域を巻き込んだ取り組みが必要だと思う。
世界遺産になったことで維持管理費がかなり膨れ上がったと思う。 正直マイナスな面がかなり大きいと思うので、これ以上世界遺産登録を増やすメリットがあまり無いのではないかな。
複数で構成しているので名称含めわかりにくい。具体的にイメージが湧きにくい。
全国でも県内でも世界遺産が多く価値が失われている気がするし、管理などの負担も増えるので、もう少し再検討して減らしたほうが良いと思います。
その他
門司港駅の遺跡保存のように、平地の少ない地域での公共施設の建設を妨げないこと、国連などを巻き込んでの遺跡保存は良くない。お互いの意見で調和と妥協が必要だと思います。
世界遺産に対する県の立ち位置は来訪者アップか保存かどちらでしょうか。世界遺産として保存をしていくためには資金が必要になる。そのために来訪者を増やして地域の活性化に繋げることは一つの策だが、各地で起こっているようなオーバーツーリズムの問題が生じてくるのでまずはどちらの立場であるかを県民に知らせることが大切だと思う。
主要な福岡県内観光地(太宰府天満宮や門司港レトロ地区など)と比べると、世界遺産は認知度が低いと思う。
県内には、世界遺産以外にも魅力ある歴史的・産業的・自然的な施設や場所はたくさんあります。世界遺産を発信する機会に、それらも併せて伝えていただければ、とても参考になるのでは、と思います。
今まで行ったことのない場所が多くあり、興味を持ちました。福岡に住んでいても知らないことがたくさんあるため、普及活動にもう少し力を入れていただけたら、周知につながると感じました。
福岡の貴重な観光資源として活かしてほしい。
テレビで福岡県内の世界遺産が特集されれば見るようにしている。小中高等学校の授業の時間に学習されれば、感想を家族と共有してりで、世界遺産への関心が高まるのではないのでしょうか。
せつかく福岡検定もあるので、検定を持っている方にボランティアでガイドを依頼するなど、できることはあると思う。
世界遺産をレジャーとして観光地化するのではなく、各場所の歴史、意義、重要性などを、県民が学ぶことができる、やや堅めの施策を検討いただきたい。
そんなに貴重な場所がたくさんある事を知らなかった。気持ちが高まりました。出来る限り見てまわりたいと思います。
私個人は最近福岡に居住始めたので福岡の世界遺産については殆ど知らない事ばかりでした。「なぜ行ったことないのか？」と設問で聞いてもよいのではないのでしょうか？ 私の場合は、知らなかったのが大きな理由ですが、行き方が分からないというのもあると思います。もっと広報して県内外にアピールすると、新たな観光産業につながるのではないかと思います。

【「明治日本の産業革命遺産 製鉄・鉄鋼、造船、石炭産業」について】

広報・啓発

八幡製鐵所に行ってみたが現役の工場ということもあり、あまり中を見れなかった。見学できる場所を増やしてほしい。

世界遺産の認定までは各所の努力もあって成果が出ているし、大牟田などは公共交通機関の利用が一時的であったが増加した。中間については少し寂しい。なかなか難しいと思うが、継続的な情報発信と足を向かせるきっかけづくり、認知度向上が大切ではないかと思います。

遠賀川水源地ポンプ室へ行った際に、ボランティアガイドの方がめっちゃ熱心に説明して頂きました。自分一人だったら、見て、写真撮って終わりだったと思うけど説明あるといろんなことが知れて、興味持つことにもなり本当に良かったです。

世界遺産というのは「箔がつく」というような場合の意味で「箔」に過ぎないと思っています。あくまで観光名所としてどのようにプロデュースするかが大事で「世界遺産」というのはいち説得材料にすぎません。ときおり、「世界遺産」推しばかりをアピールする名所を見かけることがありますが、大事なのは「世界遺産」というラベルではなくその中身の魅力です。「世界遺産である」という権威性をアピールすることはもちろん大事ですが、そもそもどのような魅力があるかを理解し伝えることを優先させるべきだと思います。例にあげると、中間市にある「世界遺産のある街中間市」という看板の前をよく通りますが、どんな世界遺産があるのか全然知りません。

遠賀川水源地ポンプ室については外観だけの観光となると弱いです。中を見学できるようにして頂きたいです。

その他

中間市の遠賀川水源地ポンプ室は近くにあり、よく前を通るが観光客はいない事が多い。市役所も近いので、ガイドや説明をしてくれるスタッフががいればいいのと思う。

【『神宿る島』宗像・沖ノ島と関連遺産群』について】

広報・啓発

沖ノ島には関心があるので、以前から写真集を見たりしている。せっかく「海の正倉院」と呼ばれる場所が福岡にあるのだから、身近に感じられるような展示(沖ノ島展のような)があれば良いと思う。

今年宗像大社にお参りしたが、大変よい経験になった。福岡の世界遺産についてはもっともっと情報発信してほしい。

宗像大社の島については、知ってほしいですが、宮司さん以外は入れない場所があると思います。入島禁止のところは、観光化して欲しくありません。儀式を含む伝統を維持できる形での紹介であれば歓迎します。観光できる場所の境界をはっきりさせた方が、地域と観光を守ることになると思います。

宗像大社沖津宮に関しては、是非島の訪問、若しくは周辺の海遊などを企画してほしい。

清掃ボランティアは、いいと思います。

以前から宗像大社に行ってみたいと思っていますが、遠いのでなかなか行くことができません。紹介動画を作って魅力をアピールしてはどうでしょうか。

インフラ整備

宗像大社は行きましたが、閑散としていたように感じます。福岡空港からのアクセスや広報が弱いのでは。

【問7の調査結果より】

- ・世界遺産に関する取り組みについて様々な意見が得られた。
- ・特に、世界遺産としての広報・啓発やイベント・ツアーの企画・開催に関する意見が多く、より広く世界遺産についての情報発信を行っていくことや、魅力的なイベントやツアーの開催を求める要望が多く寄せられた。
- ・そのほか、子どもたちへの教育の推進、インフラ整備や管理・保全を求める意見もあった。
- ・これらの意見を踏まえ、世界遺産の保存・活用の取り組みを今後も継続・発信していく必要がある。

<運動習慣について>

【調査の目的】

県では、県民の皆様の健康寿命を延ばすため、「ふくおか健康づくり県民運動」(※)を推進しており、健(検)診受診率の向上、食生活の改善、運動習慣の定着の3つを取組の柱として活動を行っています。

今回、柱の一つである「運動習慣の定着」について、事業成果の確認を行うため、県民の皆様の運動習慣に関する状況をお聞かせいただき、今後の事業実施の参考とさせていただきたいと思います。

(保健医療介護部健康増進課)

※ ふくおか健康づくり県民運動とは

県民の健康寿命の更なる延伸を目指し、保健、医療関係団体、経済団体、企業、大学、マスコミ、地域団体、行政など、様々な分野の関係団体が一体となって、県民の自主的な健康づくりを県民運動として展開しているものです。

【調査時期】

令和7年9月9日～10月5日(第3回)

【回答者構成】

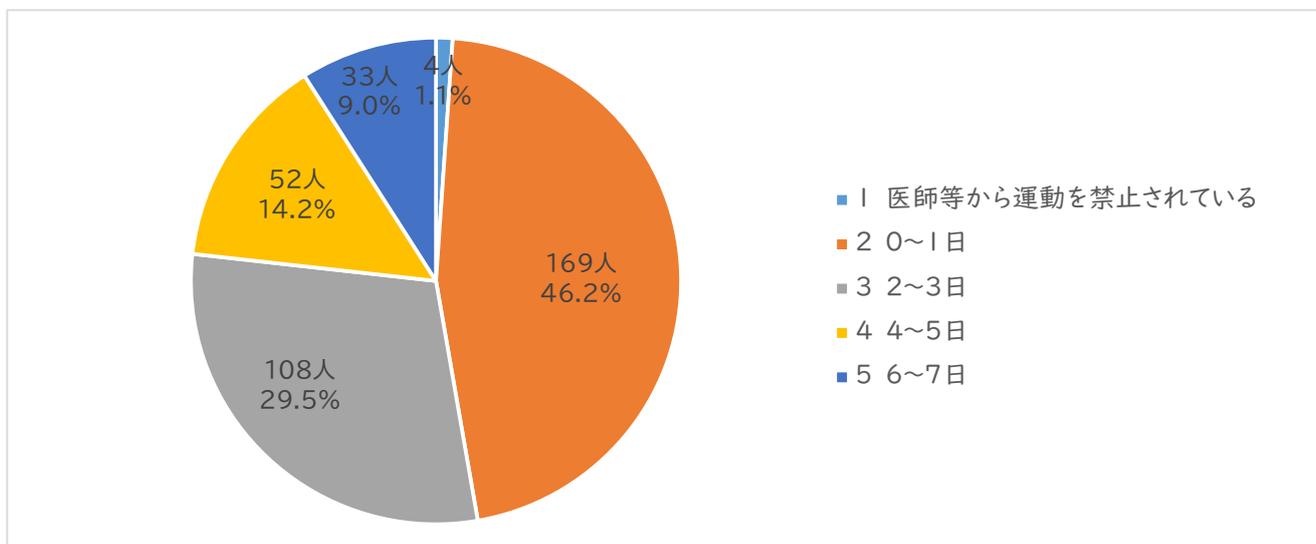
総数 366人

- ・ 女性 191人(52.2%)、男性 172人(47.0%)、その他 3人(0.8%)
- ・ 20代以下 55人(15.0%)、30代 60人(16.4%)、40代 75人(20.5%)、50代 63人(17.2%)、60代 76人(20.8%)、70代以上 37人(10.1%)

問1 | 1週間の運動日数についてお伺いします。1回30分以上の運動を1週間に何日行っていますか。【1つだけ選択】

(n=366)

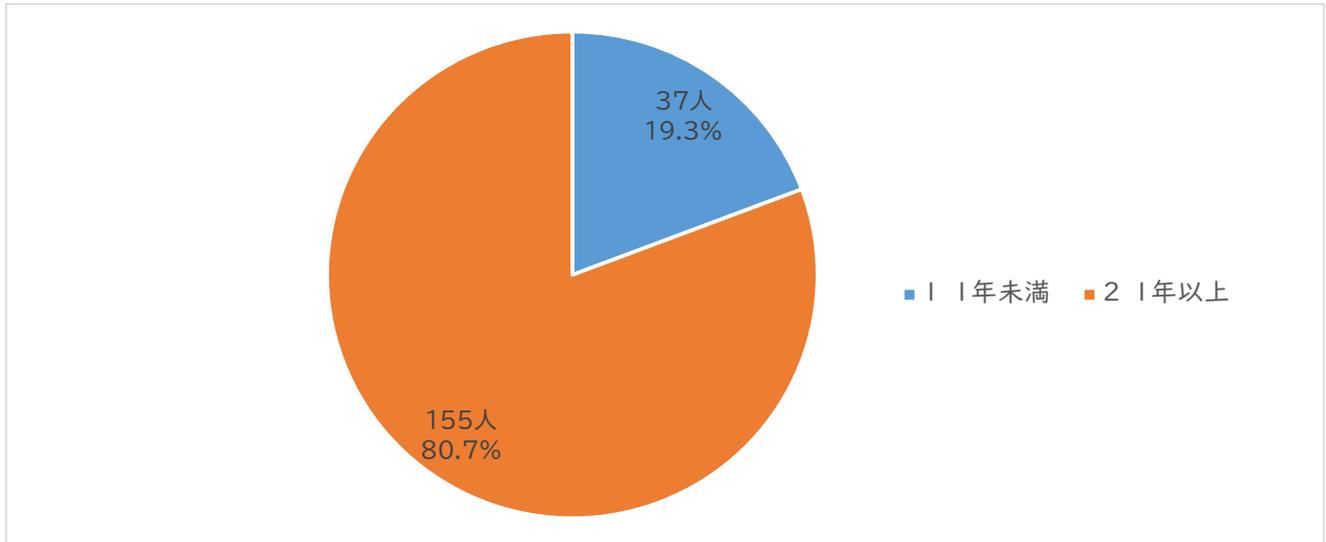
1 医師等から運動を禁止されている	1.1%	(4人)
2 0~1日	46.2%	(169人)
3 2~3日	29.5%	(108人)
4 4~5日	14.2%	(52人)
5 6~7日	9.0%	(33人)



問2（問1で「3」～「5」のいずれかを選択された方）運動の継続年数についてお伺いします。1回30分以上の運動を週2日以上行うという状況はどの程度継続していますか。【1つだけ選択】

(n=192)

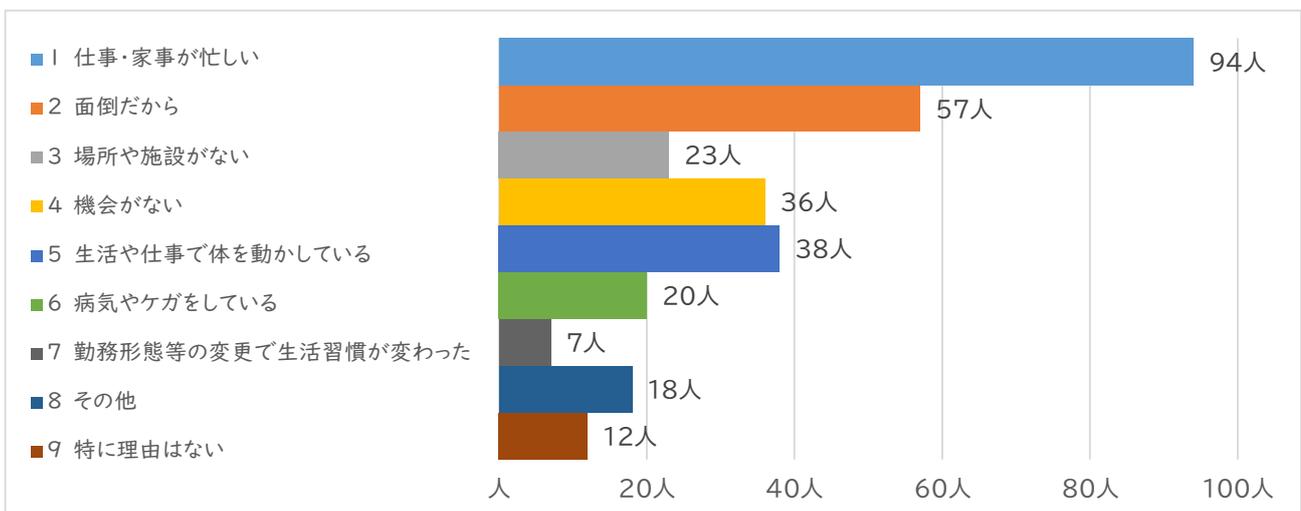
1 1年未満	19.3%	(37人)
2 1年以上	80.7%	(155人)



問3（問1で「2」を選択された方）運動を定期的に行わない理由について、当てはまるものを【すべて】選んでください。

(回答数=305件、複数選択可)

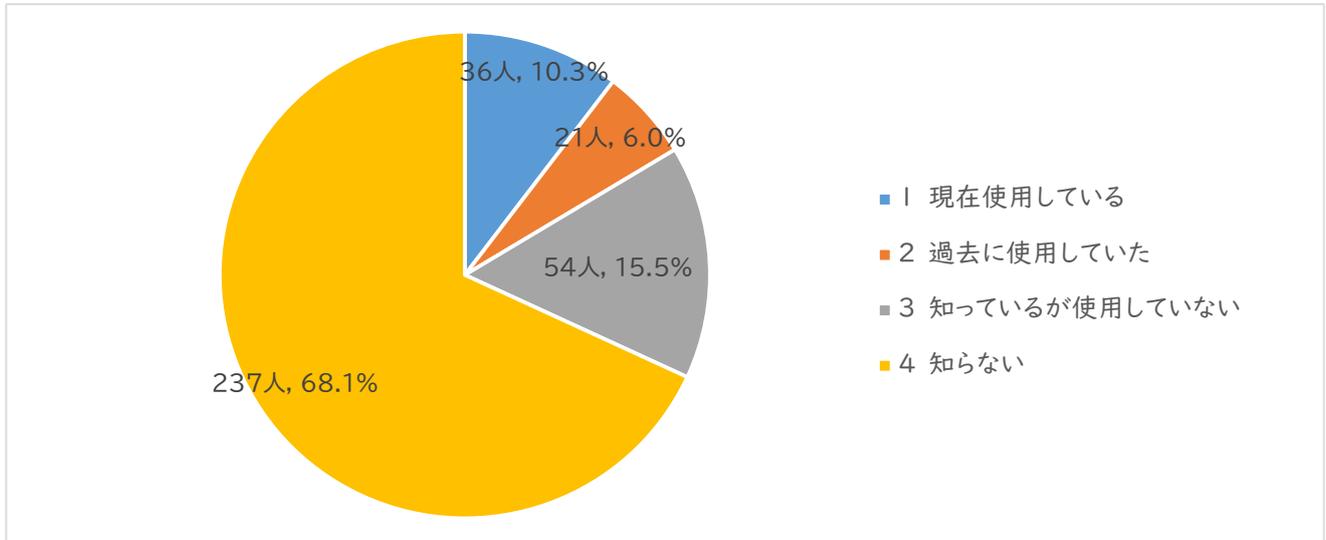
1 仕事・家事が忙しい	30.8%	(94人)
2 面倒だから	18.7%	(57人)
3 場所や施設がない	7.5%	(23人)
4 機会がない	11.8%	(36人)
5 生活や仕事で体を動かしている	12.5%	(38人)
6 病気やケガをしている	6.6%	(20人)
7 勤務形態等の変更で生活習慣が変わった	2.3%	(7人)
8 その他	5.9%	(18人)
9 特に理由はない	3.9%	(12人)



問4 (問1で「2」～「5」のいずれかを選択された方)福岡県が運用している健康アプリ「ふくおか健康ポイントアプリ」について知っていますか。【1つだけ選択】

(n=348)

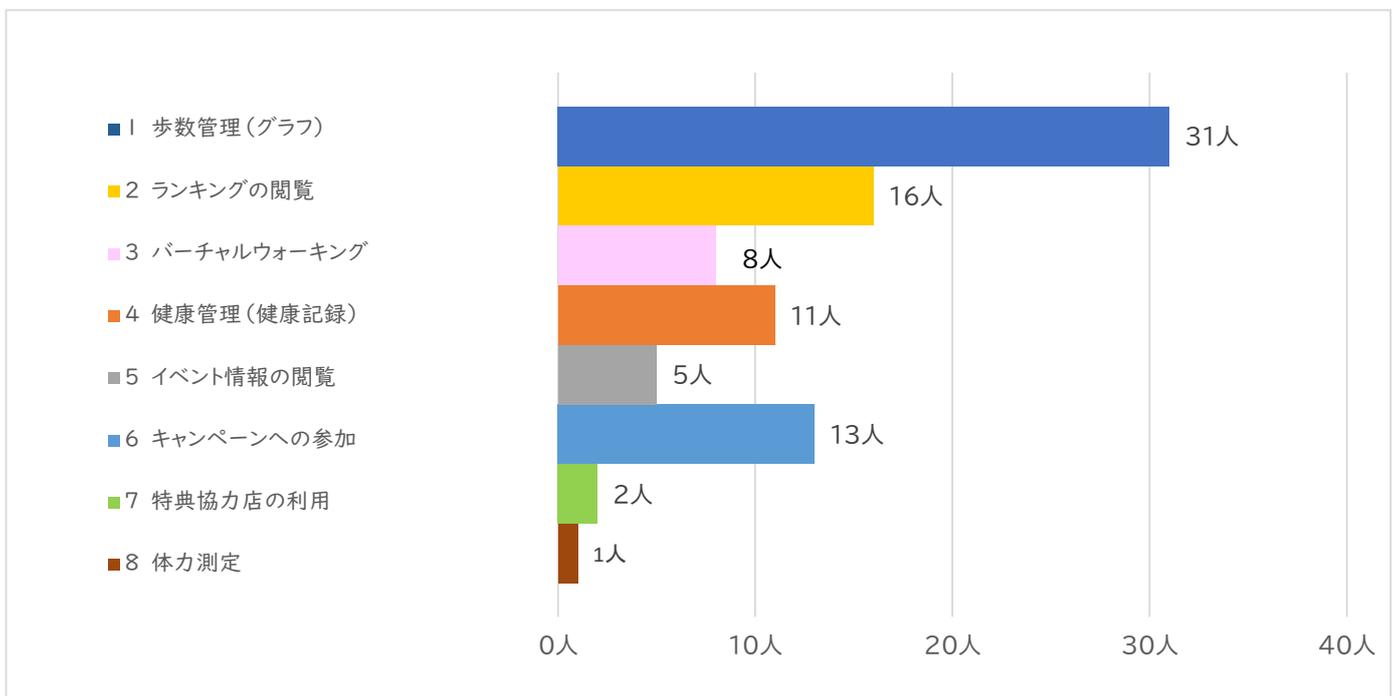
1 現在使用している	10.3%	(36人)
2 過去に使用していた	6.0%	(21人)
3 知っているが使用していない	15.5%	(54人)
4 知らない	68.1%	(237人)



問5 (問4で「1」を選択された方)利用している機能について当てはまるものを【すべて】選んでください。

(回答数=87 複数選択可)

1 歩数管理(グラフ)	35.6%	(31人)
2 ランキングの閲覧	18.4%	(16人)
3 バーチャルウォーキング	9.2%	(8人)
4 健康管理(健康記録)	12.6%	(11人)
5 イベント情報の閲覧	5.7%	(5人)
6 キャンペーンへの参加	14.9%	(13人)
7 特典協力店の利用	2.3%	(2人)
8 体力測定	1.1%	(1人)



問6（問1で「2」～「5」のいずれかを選択された方）自身の運動習慣の定着のため、「ふくおか健康ポイントアプリ」にあったらいいと思う機能はありますか。具体的に入力してください。

【主な意見（抜粋）】

（アプリの機能に関すること）

- ・現在地からのウォーキングルートを距離別に提案してくれる機能がほしい。
- ・睡眠の記録ができる機能がほしい。
- ・世代ごとの運動の目安や比較した値を知りたい。
- ・ゲーム要素を追加してほしい。
- ・歩数以外の項目（体重、血圧等）も連携してほしい。

（特典等に関すること）

- ・特典協力店が地域によってはとても少ない。
- ・ポイントを他社のポイントに変換できるようにしてほしい。
- ・ポイントをギフト券や健康食品、県産品などと交換できるようにしてほしい。
- ・1日ごとに運動に関する小さなミッションを設定してポイント付与してほしい。
- ・公共の体育施設利用の際にポイント付与してほしい。
- ・キャンペーンやイベントを増やしてほしい。
- ・健康診断や予防接種等にポイントを利用できるようにしてほしい。

問7 運動習慣について、これまでの設問以外に意見はありますか。具体的に入力してください。

【主な意見（抜粋）】

（イベントに関すること）

- ・小さな子どもと一緒に参加できるイベントを開催してほしい。
- ・市町村単位で各種スポーツ団体等を周知してほしい。
- ・ラジオ体操を毎週行える環境を作してほしい。
- ・後期高齢者が参加しやすいイベントを開催してほしい。

（環境整備に関すること）

- ・年々夏の気温も高くなっているため、室内の運動環境整備が必要。
- ・身近な場所に自然豊かで景観のいいウォーキングコースを整備してほしい。
- ・室内で子ども連れでも運動できるような施設を設置してほしい。
- ・運動器具を無料貸出する施設等を設置してほしい。
- ・公共の運動施設の利用料金を値下げしてほしい。

（その他）

- ・ふくおか健康ポイントアプリの周知が不十分である。
- ・年代別の運動方法や実践結果が分かる機会があると取り組みやすい。
- ・民間のジムを利用する際の補助金があると利用しやすい。
- ・有料で公共のプール等への送迎があると通いやすい。
- ・運動を習慣化できた事例等の紹介をしてほしい。
- ・民間のジムと提携して高齢者の健康維持に取組みばよい。

「TRY!スマソる？」プロジェクトの認知度等に係る県政モニターアンケート結果
(令和7年度第3回県政モニターアンケート結果)

【調査目的】

本県では県民の約2人に1人が高血圧であること、県民一人あたりの食塩摂取量が全国平均を上回っていることなどの状況を踏まえ、R5年度からタレントの平野レミ氏、パラシュート部隊を起用して、スマートにソルトを使う減塩プロジェクト「TRY!スマソる？」を実施しています。

そこで、本事業の認知度や食塩の適正摂取に対する意識、中食、外食での減塩の需要等、皆さんの御意見をお聴かせいただき、今後の事業の参考とさせていただくため調査を行いました。

(保健医療介護部健康増進課)

【調査時期】

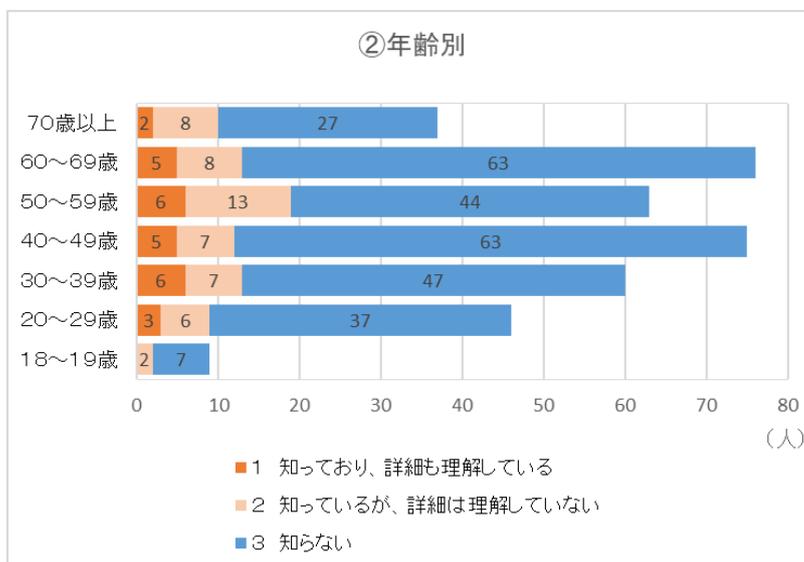
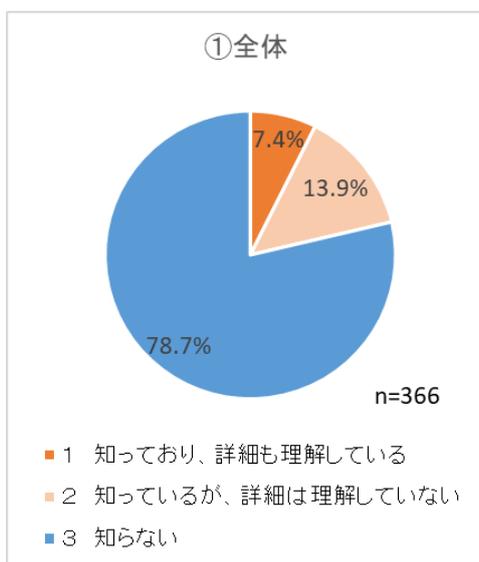
令和7年9月9日～10月5日

【回答者数】

366人

「TRY!スマソる？」プロジェクトの認知度

問1 スマートにソルトを使う減塩プロジェクト「TRY!スマソる？」プロジェクトを知っていますか。



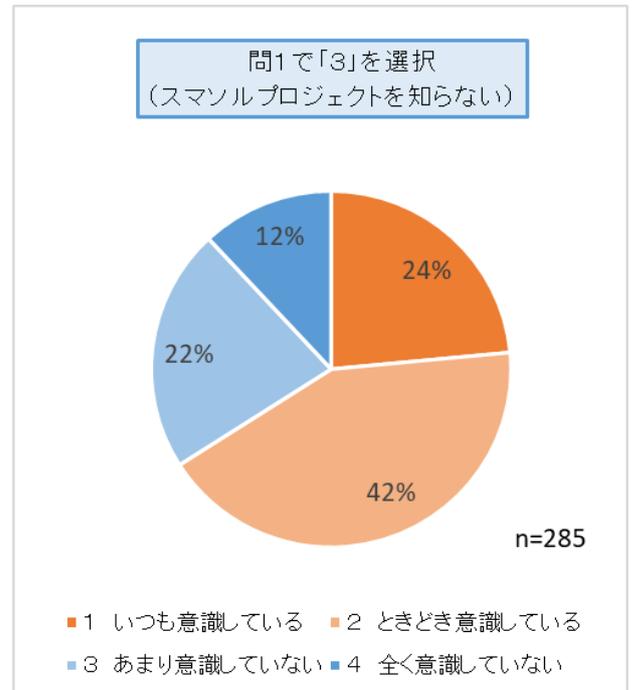
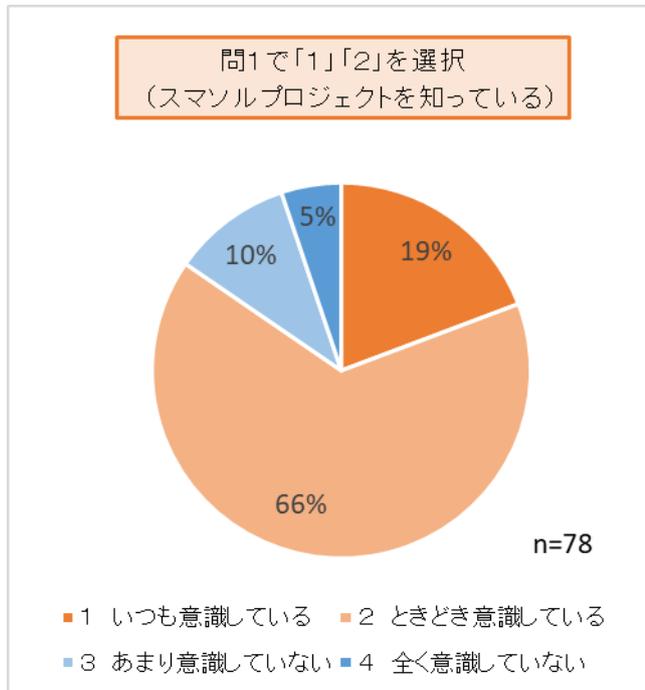
【回答内容】

- ・全体では、「知っており、詳細も理解している」と「知っているが、詳細は理解していない」の割合は21.3% (78人) となっている。
- ・年齢別で見ると、認知度が最も高かったのは50～59歳であり、最も低かったのは18～19歳であった。

「食塩の適正摂取」への意識

問2、4 普段の食生活において「食塩の適正摂取」(※)をどれくらい意識して食事や食品を選択していますか。

(※) 調味料をかけ過ぎない、麺類の汁を残す、減塩商品を選ぶ など



【回答内容】

・問1で「1」、「2」を選択した者(スマソルプロジェクトを知っている)のうち、普段の食生活において「食塩の適正摂取」を、「いつも意識している」、「ときどき意識している」者は、合わせると**8割程度**であった。

一方で、問1で「3」を選択した者(スマソルプロジェクトを知らない)のうち、普段の食生活において「食塩の適正摂取」を「いつも意識している」、「ときどき意識している」者は、合わせると**6割程度**であった。

・スマソルプロジェクトの認知の有無にかかわらず、食塩の適正摂取を意識している者の割合は意識していない者の割合より高い結果となった。

「TRY!スマソる？」を知ったきっかけ

問3 (問1で「1」「2」を選択された方にお尋ねします。)

スマートにソルトを使う減塩プロジェクト「TRY!スマソる？」を知ったきっかけとなった情報手源として、該当するものを【3つまで】お選びください。

1	自治体広報誌・公式ホームページ（県・市町村広報誌、公式ホームページなど）	33%
2	テレビ番組（情報番組・ニュース、県広報番組など）	28%
3	店頭啓発（スーパー・ドラッグストア、外食店舗等に設置されたポスター、チラシなど）	10%
4	雑誌・新聞記事（インターネットニュース含む）	9%
5	公共施設（役所、図書館、公民館に設置されたポスター、チラシなど）	7%
6	自治体イベント（市民公開講座、市町村健康イベントなど）	5%
7	「TRY!スマソる？」特設サイト	3%
8	その他	3%
9	家族、友人、知人の口コミ	2%
10	SNS（X、Instagram、Facebook など）	1%

【回答内容】

・プロジェクトを知ったきっかけとなった情報手源として最も割合が高かったのは、「自治体広報誌・公式ホームページ（県・市町村広報誌、公式ホームページなど）」で33%、次いで「テレビ番組（情報番組・ニュース、県広報番組など）」で28%、「店頭啓発（スーパー・ドラッグストア、外食店舗等に設置されたポスター、チラシなど）」で10%であった。

減塩に取り組みやすい環境

問5 減塩（＝「食塩の適正摂取」）により取り組みやすい環境として、特にどのような環境があったら良いと考えますか。

次の中から該当するものを【3つまで】選んでください。

1	減塩食品の価格が通常品と同等又は安価であること	19%
2	スーパー・ドラッグストア等で減塩食品の数、種類がより充実していること	18%
3	減塩に関する情報（※）がサイトに集約されていること	12%
4	外食店舗での減塩対応メニュー（塩分控えめ等のオプションのあるもの）が提供されていること	11%
5	SNS等で、減塩に関する情報（※）が定期的に発信されていること	10%
6	スーパー・ドラッグストア等で減塩食品が集約されたコーナーが設置されていること	10%
7	職場や学校などで減塩に関する学習機会があること	9%
8	医療機関や自治体で減塩のアドバイスを受けることができること	9%
9	その他	2%

（※）減塩のコツ、栄養成分表示の見方、食塩の過剰摂取が体に及ぼす影響、減塩食品一覧など

【回答内容】

・減塩（＝「食塩の適正摂取」）により取り組みやすい環境として最も割合が高かったのは、「減塩食品の価格が通常品と同等又は安価であること」で19%、次いで「スーパー・ドラッグストア等で減塩食品の数、種類がより充実していること」で18%、「減塩に関する情報（※）がサイトに集約されていること」で12%であった。